

令和 6 年度

神奈川県子ども生活状況調査

調査結果報告書

令和 7 年 2 月

神奈川県 次世代育成課

目次

I 調査概要	1
1. 調査目的.....	1
2. 調査対象.....	1
3. 調査方法.....	1
4. 調査期間.....	1
5. 回収結果.....	2
(1) 令和6年度実施調査.....	2
(2) (参考) 令和5年度実施調査.....	2
6. 注意事項.....	2
7. 調査項目.....	3
(1) 保護者票.....	3
(2) 子ども票.....	4
8. 調査結果の概要.....	5
(1) 保護者の生活の状況：暮らしの状況.....	6
(2) 保護者の生活の状況：子どもとの関係等.....	6
(3) 保護者の生活の状況：頼れる人の有無・心理的な状況.....	7
(4) 保護者の生活の状況：支援の利用状況等.....	7
(5) 子どもの生活の状況：学習の状況、進学希望.....	8
(6) 子どもの生活の状況：部活動等への参加状況、アルバイト等の状況.....	9
(7) 子どもの生活の状況：日常的な生活の状況.....	9
(8) 子どもの生活の状況：心理的な状況、逆境体験、ケアラーの状況.....	10
(9) 子どもの生活の状況：支援の利用状況等.....	10
II 回答者の属性	12
1. 保護者.....	12
(1) 子どもとの続柄.....	12
(2) 居住地区.....	12
(3) 世帯人員とその構成.....	13
(4) 親の年齢.....	16
(5) 単身赴任の有無.....	17
(6) 親の婚姻の状況.....	17
(7) 家庭で使用している言語.....	18
(8) 親の学歴.....	19
2. 子ども.....	20
(1) 性別.....	20
(2) 学校の在籍状況、就業の状況.....	20

III 分析結果	21
1. 保護者の生活の状況	21
1-1. 経済的な状況、暮らしの状況	21
(1) 世帯全体の年間収入、等価世帯収入	21
(2) 暮らしの状況についての認識	24
(3) 食料が買えなかった経験	27
(4) 衣服が買えなかった経験	30
(5) 公共料金における未払いの経験	33
(6) ひとり親の養育費受取状況	36
(7) 生活満足度	37
1-2. 就労の状況	41
(1) 母親・父親の就労状況	41
(2) 就労していない理由	43
1-3. 保育の状況	44
(1) 子どもが0～2歳の間に通っていた教育・保育施設等	44
(2) 子どもが3～5歳の間に通っていた教育・保育施設等	44
1-4. 子どもとの関わり方	45
(1) テレビ等のルールについて	45
(2) 本や新聞を読むことについて	47
(3) 絵本の読み聞かせについて	49
(4) 勉強や成績のことについて	51
1-5. 学校との関わり・参加	53
(1) 学校行事への参加	53
(2) PTA 活動等への参加	55
1-6. 進学期待・展望	57
(1) 子どもの進学段階に関する希望・展望	57
(2) 進学段階に関する希望・展望についてそう考える理由	59
1-7. 頼れる人の有無・相手	61
(1) 子育てに関する相談	61
(2) 重要な事柄の相談	63
(3) いざという時のお金の援助	65
1-8. 保護者の心理的な状態	67

2. 子どもの生活状況、「貧困の連鎖」リスクの発生状況.....	70
2-1. 学習の状況	70
(1) ふだんの勉強の仕方	70
(2) 1日あたりの勉強時間	74
(3) クラスの中での成績	78
(4) 授業の理解状況	80
(5) 勉強がわからなくなった時期	82
2-2. 進学希望	84
(1) 進学したいと思う教育段階	84
(2) 進学希望・展望について子どもと保護者の考えの対比	86
(3) 進学希望の教育段階についてそう考える理由	88
2-3. 部活動等への参加状況、アルバイト等の状況.....	91
(1) 部活動等への参加状況	91
(2) 部活動等に参加していない理由	93
(3) アルバイト等の状況	96
(4) アルバイト等をしている理由	97
2-4. 日常的な生活の状況	98
(1) 食事の状況	98
(2) 就寝時間	101
(3) 相談できると思う相手	103
(4) 生活満足度	107
2-5. 子どもの心理的な状況	111
(1) 情緒の問題	111
(2) 仲間関係の問題	114
(3) 向社会性	117
2-6. 逆境体験、ケアラーの状況	120
(1) 保護者の状況と逆境体験	120
(2) ケアラーの状況	122

3. 支援の利用状況や効果等.....	127
3-1. 保護者の状況	127
(1) 支援制度の利用状況、制度を利用していない理由	127
(2) 希望する行政支援	131
(3) 希望する行政支援（自由記述回答）	135
3-2. 子どもの状況	140
(1) 居場所等に関する子どもの利用状況	140
(2) 居場所等の利用による変化	146
(3) 希望する行政支援	150
(4) 希望する行政支援（自由記述回答）	154

IV 資料

1. 調査票
2. 集計表

I 調査概要

1. 調査目的

令和6年度に、神奈川県内全域の小学5年生又は高校2年生年齢相当(以下「16歳・17歳」という。)とその保護者を対象に調査を実施し、子どもの貧困の実態と課題について把握した。

令和5年度に同様の目的で実施した中学2年生とその保護者を対象にした調査結果も踏まえて、子どもに関する計画の策定及び施策の検討のための基礎資料とすることを目的とし、本報告書を作成した。

2. 調査対象

住民基本台帳から層化無作為抽出法により抽出した小学5年生又は16歳・17歳及びその保護者各5,000組の合計10,000組

※各市町村からの抽出数が30件以上になるように抽出(各市町村の抽出対象者が30名未満の場合は、全抽出対象者を抽出)した。

【(参考)令和5年度実施の中学2年生・保護者対象調査】

住民基本台帳から層化無作為抽出法により抽出した中学2年生とその保護者4,320組

3. 調査方法

郵送配付(郵送回収又はオンライン回答)

※調査票は調査対象に郵送し、回答方法は調査票に同封する返信用封筒にて返信する方法、もしくは調査依頼時に明示するオンライン調査システムへリンクされたURLから回答する方法のいずれかを、回答者が選ぶことができるようにした。

4. 調査期間

令和6年7月19日～8月9日

【(参考)令和5年度実施の中学2年生・保護者対象調査】

令和5年8月21日～9月25日

5. 回収結果

(1) 令和6年度実施調査

	配布件数	有効回答件数	有効回答率
小学5年生保護者票	5,000 件	2,076 件	41.5%
小学5年生票	5,000 件	1,993 件	39.9%
うち、マッチング票		1,949 組	39.0%
	配布件数	有効回答件数	有効回答率
16歳・17歳保護者票	5,000 件	1,801 件	36.0%
16歳・17歳票	5,000 件	1,730 件	34.6%
うち、マッチング票		1,599 組	32.0%

(2) (参考) 令和5年度実施調査

	配布件数	有効回答件数	有効回答率
中学2年生保護者票	4,320 件	1,715 件	39.7%
中学2年生票	4,320 件	1,585 件	36.7%
うち、マッチング票		1,547 組	35.8%

6. 注意事項

- 図表中に「n=XXX」という形で表記される数字は、設問に対する回答者の総数を示しており、回答者の構成比(%)を算出するための基数となる。
- 図表中の構成比は、小数点以下第2位を四捨五入している。
- 回答が2つ以上ありうる場合(複数回答)は、合計が100%を超えることがある。
- 原則として無回答を含めて集計している。
- 設問文の末尾に示した「SA」は単一回答形式(Single Answer)、「MA」は複数回答形式(Multiple Answer)を示している。
- マッチング票とは、親子関係等にある小学5年生保護者票と小学5年生票、あるいは16歳・17歳保護者票と16歳・17歳票をIDで紐づけたものである。子どもの調査結果分析で使用する保護者のクロス集計軸は、マッチング票結果を用いているため、子ども調査の全体数と分母が異なり、各項目の割合も異なる。
- クロス集計の結果について、一部集計対象件数が少ない分類がある点には留意が必要である。
- 本報告書では、令和6年度に実施した調査結果に加えて、令和5年度に実施した中学2年生・保護者を対象にした調査の結果も示しているが、調査時期が異なるなどの点には留意が必要である。

7. 調査項目

(1) 保護者票

No.	小学5年生保護者票、16歳・17歳保護者票 (令和6年度実施)	中学2年生保護者票 (令和5年度実施)
1	回答者の続柄	回答者の続柄
2	居住地区	居住地区
3	世帯人数	世帯人数
4	親の年齢	親の年齢
5	単身赴任の有無	単身赴任の有無
6	親の婚姻状況	親の婚姻状況
7	ひとり親の養育費受取状況	ひとり親の養育費受取状況
8	家庭で使用している言語	家庭で使用している言語
9	親の学歴	親の学歴
10	親の就労状況	親の就労状況
11	就労していない理由	就労していない理由
12	幼児期の教育(0～2歳)	幼児期の教育(0～2歳)
13	幼児期の教育(3～5歳)	幼児期の教育(3～5歳)
14	保護者の関わり方	保護者の関わり方
15	学校行事への参加	学校行事への参加
16	進学の見通し	進学の見通し
17	想定する進学先の理由	想定する進学先の理由
18	暮らし向き(主観)	暮らし向き(主観)
19	保護者の頼れる相手	保護者の頼れる相手
20	世帯収入	アフターコロナの生活の変化
21	滞納・欠乏経験(食料)	世帯収入
22	滞納・欠乏経験(衣服)	滞納・欠乏経験(食料)
23	滞納・欠乏経験(公共料金)	滞納・欠乏経験(衣服)
24	精神状態	滞納・欠乏経験(公共料金)
25	支援の利用状況	精神状態
26	主観的幸福感(生活満足度)	主観的幸福感(生活満足度)
27	希望の行政支援	支援の利用状況
28		希望の行政支援

※調査事項は同一でも、学校・年齢段階に応じて設定している回答選択肢の文言が異なる項目がある。

(2) 子ども票

No.	小学5年生票 (令和6年度実施)	16歳・17歳票 (令和6年度実施)	中学2年生票 (令和5年度実施)
1	性別	性別	性別
2	学習環境	学校の在籍状況	学習環境
3	学習習慣	就業の状況	学習習慣
4	学習成績	アルバイト等の状況	学習成績
5	授業の理解度	アルバイト等をしている理由	授業の理解度
6	授業についていけなくなった時期	学習環境	授業についていけなくなった時期
7	進学希望	学習習慣	進学希望
8	進学希望(理由)	学習成績	進学希望(理由)
9	地域でのクラブ活動等の状況	授業の理解度	部活動等の状況
10	クラブ活動等を行わない理由	授業についていけなくなった時期	部活動等を行わない理由
11	食事の頻度	進学希望	食事の頻度
12	就寝時間の規則性	進学希望(理由)	就寝時間の規則性
13	信頼できる大人・友人	部活動等の状況	信頼できる大人・友人
14	主観的幸福感(生活満足度)	部活動等を行わない理由	主観的幸福感(生活満足度)
15	精神状態	食事の頻度	精神状態
16	逆境体験	就寝時間の規則性	アフターコロナの生活の変化
17	支援の利用状況	信頼できる大人・友人	逆境体験
18	支援の効果	主観的幸福感(生活満足度)	支援の利用状況
19	ケアラーについて	精神状態	支援の効果
20	希望の行政支援	逆境体験	ケアラーについて
21		支援の利用状況	希望の行政支援
22		支援の効果	
23		ケアラーについて	
24		希望の行政支援	

※調査事項は同一でも、学校・年齢段階に応じて設定している回答選択肢の文言が異なる項目がある。

8. 調査結果の概要

- 本報告書では、神奈川県内の保護者・子どもの生活状況について、令和6年度に実施した小学5年生と高校2年生年齢相当(16歳・17歳)を対象とした調査、及び、令和5年度に実施した中学2年生を対象とした調査から、各学校・年齢段階での実態を把握するとともに、それぞれについて、「等価世帯収入」の水準別の比較分析等を行った。
- 各段階別の結果を比較すると、例えば暮らしの状況について、保護者が「苦しい」又は「大変苦しい」と回答した割合は、子どもの学校・年齢段階が高いほうが値が高い傾向にあった。希望する行政支援に関して自由記述により得られた回答では、「金銭的支援・無償化等」に関する内容の回答件数が最も多くなっており、特に16歳・17歳保護者の回答でその結果が顕著であった。これらから、教育費や生活費の負担等は、子どもの学校・年齢段階が上がるにつれて高まっていく状況にあるものと考えられる。
- 等価世帯収入の水準別の比較分析結果からは、等価世帯収入の水準が低いほど、暮らしの状況が「苦しい」と回答する割合が高く、生活満足度の水準が低く、頼れる人がいない割合が高く、精神的健康度が良くないという傾向になっており、さらに、これらの保護者・家庭の生活状況の違いによって、子どもの学習・生活・心理など様々な面が影響を受けていることが示された。
- 例えば子どもの学習面における課題として、等価世帯収入の水準が低いほど、学校の授業がわからないことがあると回答された割合がより高い傾向にあり、わからなくなった時期の回答として、より低学年での回答割合が高い傾向にあった。
- また、子どもの生活面や心理面における課題として、等価世帯収入の水準が低い場合には、地域のスポーツクラブや文化クラブ、学校の部活動に参加していない割合が高く、朝食を毎日摂取していない割合が高く、就寝時間が不規則である割合が高くなっている。等価世帯収入の水準が低いほど子ども自身の生活満足度も低い傾向がみられ、「情緒の問題」や「仲間関係の問題」を抱えやすい傾向にあることも明らかになった。
- このほか、等価世帯収入の水準の違いは保護者の婚姻状況や、「ケアラー」の状況(家族の中に子どもがお世話をしている人がいるか)とも関連があり、婚姻状況については「離婚」、「死別」、「未婚」の場合(ひとり親世帯の場合)に各種の課題が生じやすいという分析結果が得られた。様々な課題は収入の多寡だけでなく、世帯・家族の状況等を背景に生じているという状況がうかがえる。

(1) 保護者の生活の状況：暮らしの状況

- 世帯の年間収入の回答と世帯の人数の回答をもとに「等価世帯収入」を算出し、その中央値の値を基準として等価世帯収入の水準を「中央値以上」、「中央値の2分の1以上」、「中央値の2分の1未満」の3つの分類で把握した。等価世帯収入の水準は地域性や婚姻状況、世帯の人数の違いによって差異がみられ、例えば婚姻状況に関しては、いずれの調査でも「離婚」等の場合（「離婚」、「死別」、「未婚」の場合を指す）に、等価世帯収入の水準が「中央値の2分の1未満」に該当する割合が高い傾向にある。（p.22,p.23）
- 現在の暮らしの状況について「苦しい」又は「大変苦しい」と回答された割合は、小学5年生保護者調査では 20.7%、中学2年生保護者調査では 25.9%、16歳・17歳保護者調査では 28.7%となっており、子どもの学校・年齢段階が高いほうが値が高い傾向にある。この値を等価世帯収入の水準別にみると、いずれの調査でも、等価世帯収入の水準が低いほど値が高い傾向にある。「苦しい」又は「大変苦しい」と回答された割合は、等価世帯収入の水準が「中央値の2分の1未満」に該当する場合には、小学5年生保護者調査では 59.7%、中学2年生保護者調査では 67.0%、16歳・17歳保護者調査では 65.9%となっている。等価世帯収入の水準が「中央値の2分の1以上中央値未満」に該当する場合には、その割合は小学5年生保護者調査で 26.8%、中学2年生保護者調査で 36.2%、16歳・17歳保護者調査では 37.4%となっている。（p.24,p.25）
- 等価世帯収入の水準が低い世帯やひとり親世帯では、「食料が買えなかった経験」や「衣服が買えなかった経験」、「公共料金の未払い」が生じている割合が高い傾向にある。例えば、必要とする食料が買えないことがあった経験について「よくあった」、「ときどきあった」、「まれにあった」のいずれかに該当する割合は、等価世帯収入の水準が「中央値の2分の1未満」に該当する場合には、小学5年生保護者調査では 34.2%、中学2年生保護者調査では 52.0%、16歳・17歳保護者調査では 37.9%となっている。また、等価世帯収入の水準が「中央値の2分の1以上中央値未満」に該当する場合には、その割合は小学5年生保護者調査で 11.6%、中学2年生保護者調査で 19.5%、16歳・17歳保護者調査では 14.5%となっている。（p.28,p.29）
- 生活満足度（「0」～「10」の 11 段階による回答で、数字が大きいほど満足度が高い）について、「7」～「10」の回答を合計した割合を等価世帯収入の水準別にみると、いずれの調査でも等価世帯収入の水準が低いほど値が低い傾向にある。（p.38～p.40）

(2) 保護者の生活の状況：子どもとの関係等

- 例えば子どもに本や新聞を読むように勧めているかについて「あてはまる」又は「どちらかといえば、あてはまる」と回答された割合は、小学5年生保護者調査では 70.8%、中学2年生保護者調査では 59.7%、16歳・17歳保護者調査では 49.9%となっており、学校・年齢段階が低いほうが値が高い傾

向にある。この割合を等価世帯収入の水準別にみると、いずれの調査でも等価世帯収入の水準が低いほど値が低い傾向にある。(p.47,p.48)

- 等価世帯収入の水準別にみられるこのような傾向は、テレビ・ゲーム・インターネット等の視聴時間等のルールを決めているか、子どもが小さいころ絵本の読み聞かせをしたか、子どもから勉強や成績のことについて話をしてくれるか、のいずれについても同様にみられる。(p.46,p.50,p.52)
- また、「授業参観や運動会などの学校行事」、あるいは「体育祭や文化祭などの学校行事」にどの程度参加しているかや、PTA 活動や保護者会、放課後学習支援等のボランティアなどにどの程度参加しているかという点についても差異がみられ、「よく参加している」又は「ときどき参加している」と回答された割合は、特に中学2年生保護者調査と16歳・17歳保護者調査では、等価世帯収入の水準が低いほど値が低い傾向にある。(p.54,p.56)
- 子どもの進学段階に関する希望・展望の回答としては、「大学」又は「大学院」と回答された割合を等価世帯収入の水準別にみると、いずれの調査でも等価世帯収入の水準が低いほど値が低い傾向にある。また、子どもの進学段階に関する希望・展望に関してなぜそのように考えるかについて「家庭の経済的な状況から考えて」と回答された割合を等価世帯収入の水準別にみると、いずれの調査でも等価世帯収入の水準が「中央値の2分の1未満」に該当する場合に値が高い傾向にある。(p.58,p.60)

(3) 保護者の生活の状況：頼れる人の有無・心理的な状況

- 等価世帯収入の水準が低いほど、「子育てに関する相談」、「重要な事柄の相談」、「いざという時のお金の援助」のいずれについても、相談相手が「いない」と回答された割合が高い傾向にある。(p.62,p.64,p.66)
- 保護者の心理的な状況について、精神的健康度を0点～24点の尺度(点数が高いほど精神的健康度の度合いが悪い傾向)で把握すると、精神的健康度に関する平均値は、いずれの調査でも等価世帯収入の水準が低いほど高い傾向にある。(p.69)

(4) 保護者の生活の状況：支援の利用状況等

- 「就学援助」に関して、「現在利用している」、あるいは「現在利用していないが、以前利用したことがある」と回答された割合を等価世帯収入の水準別にみると、等価世帯収入の水準が「中央値の2分の1未満」に該当する場合、その割合は小学5年生保護者調査では54.9%、中学2年生保護者調査では63.6%、16歳・17歳保護者調査では62.6%となっている。(p.129,p.130)

- 困難な状況にあるときにどのような支援が必要だと考えるかについては、いずれの調査でも「学校にかかるお金の支援(奨学金制度や学校教育にかかる費用の免除・助成)」の回答割合が最も高くなっている。(p.131,p.132)
- 希望する行政支援に関して自由記述により得られた回答を内容別に分類し、件数をカウントすると、小学5年生保護者調査では「金銭的支援・無償化等」に関する内容の回答件数が最も多く、次いで「居場所」、「教育制度・学習支援」、「遊び場・体験の機会」、「相談窓口」に関する内容の回答件数が多くなっている。16歳・17歳保護者調査では、「金銭的支援・無償化等」に関する内容の回答件数が最も多く、次いで「教育制度・学習支援」、「相談窓口」、「遊び場・体験の機会」、「発達障害等の障害への支援」に関する内容の回答件数が多くなっている。(p.135～p.139)

(5) 子どもの生活の状況：学習の状況、進学希望

- ふだん学校の授業以外でどのように勉強をしているかについては、いずれの調査でも、「塾で勉強する」と回答された割合は等価世帯収入の水準が低いほど値が低い傾向にある。また、「家の人に教えてもらう」と回答された割合は、小学5年生調査で等価世帯収入の水準が「中央値の2分の1未満」に該当する場合に値が低くなっている。(p.71～p.73)
- 1日あたりの勉強時間については、いずれの調査でも、また、学校がある日・ない日ともに、等価世帯収入の水準が低いほど「まったくしない」など、勉強時間が短い回答の割合が高い傾向にある。(p.75,p.76)
- クラスの中での成績について「下のほう」と回答された割合は、小学5年生調査と中学2年生調査では、等価世帯収入の水準が低いほど値が高い傾向にある。(p.79)
- 学校の授業がわからないことがあるかについて、「教科によってはわからないことがある」、「わからないことが多い」、「ほとんどわからない」のいずれかに該当する割合は、小学5年生調査では36.2%、中学2年生調査では48.3%、16歳・17歳調査では57.4%となっている。この割合は、いずれの調査でも等価世帯収入の水準が低いほど値が高い傾向にある。(p.80,p.81)
- 勉強がわからなくなった時期については、いずれの調査でも、等価世帯収入の水準が「中央値の2分の1未満」に該当する場合には、より低学年での回答割合が高い傾向にある。(p.83)
- 進学したいと思う教育段階について、「大学」又は「大学院」(「大学またはそれ以上」)と回答された割合は、いずれの調査でも、等価世帯収入の水準が低いほど値が低い傾向にある。(p.85)
- 進学したいと思う教育段階の理由として「家にお金がないと思うから」と回答された割合は、いずれの調査でも、等価世帯収入の水準が低いほど値が高い傾向にある。また、「早く働く必要があるから」と回答された割合についても、いずれの調査でも等価世帯収入の水準が低いほど値が高い傾向にある。(p.89,p.90)

(6) 子どもの生活の状況：部活動等への参加状況、アルバイト等の状況

- 地域のスポーツクラブや文化クラブ、学校の部活動の参加の状況について、「参加している」の回答割合は、小学5年生調査では46.6%、中学2年生調査では87.0%、16歳・17歳調査では63.3%となっている。「参加している」と回答された割合は、いずれの調査でも、等価世帯収入の水準が「中央値の2分の1未満」に該当する場合に値が低い傾向にある。(p.91,p.92)
- 部活動等に参加していない理由として「費用がかかるから」と回答された割合は、小学5年生調査と16歳・17歳調査では、等価世帯収入の水準が低いほど値が高い傾向にある。(p.95)
- 16歳・17歳調査に関して、学生のうち学業と両立してアルバイトなどで「働いている」と回答された割合は26.7%となっている。この回答割合は、等価世帯収入の水準が低いほど高い傾向にある。また、アルバイトなどを行っている場合の理由を等価世帯収入の水準別にみると、「今の自分の生活や学費のため」、「家族の家計を支えるため」、「自身の将来のため(将来の学費・就職に係る出費など)」の回答割合は、等価世帯収入の水準が低いほど高い傾向にある。(p.96,p.97)

(7) 子どもの生活の状況：日常的な生活の状況

- 小学5年生調査の食事の状況について、「毎日食べる(週7日)」の回答割合は、「朝食」が88.1%、「夕食」が97.1%、「夏休みや冬休みなどの期間の昼食」が93.2%となっている。中学2年生調査では、「毎日食べる(週7日)」の回答割合は、「朝食」が82.2%、「夕食」が97.2%、「夏休みや冬休みなどの期間の昼食」が87.6%となっている。16歳・17歳調査では、「毎日食べる(週7日)」の回答割合は、「朝食」が71.2%、「昼食」が90.4%、「夕食」が94.4%となっている。(p.98,p.99)
- 朝食を「毎日食べる(週7日)」と回答された割合は、いずれの調査でも、等価世帯収入の水準が低いほど値が低い傾向にある(p.100)。
- ふだんほぼ同じ時間に寝ているかについて「どちらかといえばそうではない」又は「そうではない」と回答された割合は、いずれの調査でも、等価世帯収入の水準が「中央値以上」に該当する場合には値が低い傾向にある。(p.102)
- 困っていることや悩みごとがあるときに相談できると思う人については、小学5年生調査では「親」や「学校の友だち」、「学校外の友だち」などについて、等価世帯収入の水準が「中央値の2分の1未満」に該当する場合に回答割合が低い傾向にある。中学2年生調査では「学校の先生」、「学校の友達」、「学校外の友達」などについて、等価世帯収入の水準が「中央値の2分の1未満」に該当する場合に回答割合が低い傾向にある。また、「だれにも相談できない、相談したくない」と回答された割合は、いずれの調査でも等価世帯収入の水準が低いほど値が高い傾向にある。(p.105,p.106)

- 子どもの生活満足度(「0」～「10」の 11 段階による回答で、数字が大きいほど満足度が高い)について、「7」～「10」の回答を合計した割合を等価世帯収入の水準別にみると、いずれの調査でも等価世帯収入の水準が「中央値の2分の1未満」に該当する場合に値が低い傾向にある。(p.108～p.110)

(8) 子どもの生活の状況：心理的な状況、逆境体験、ケアラーの状況

- 「情緒の問題」の度合いを 0～10 点の尺度で把握した(点数が高いほど、問題の度合いが高い傾向)。「情緒の問題」の度合いに関する尺度の平均値は、小学5年生調査と中学2年生調査では等価世帯収入の水準が低いほど値が高い傾向にある。また、「仲間関係の問題」の度合いを 0～10 点の尺度で把握した(点数が高いほど、問題の度合いが高い傾向)ところ、尺度の平均値は、小学5年生調査と中学2年生調査では等価世帯収入の水準が低いほど値が高い傾向にある。(p.112,p.116)
- 保護者の状況と逆境体験に関して、8つの項目のうち該当する項目数については、いずれの調査でも「ひとつもあてはまらない(0 個)」の回答割合が最も高く、小学5年生調査では 82.0%、中学2年生調査では 75.9%、16歳・17歳調査では 75.4%となっている。「ひとつもあてはまらない(0 個)」の回答割合は、いずれの調査でも等価世帯収入の水準が低いほど値が低い傾向にある。(p.120,p.121)
- 家族の中にお世話をしている人がいるかについて、「いる」と回答された割合は、小学5年生調査では 10.6%、中学2年生調査では 6.5%、16歳・17歳調査では 7.4%となっている。家族の中にお世話をしている人が「いる」と回答された割合は、いずれの調査でも、等価世帯収入の水準が低いほど値が高い傾向にある。(p.122,p.123)

(9) 子どもの生活の状況：支援の利用状況等

- 居場所等に関する子どもの利用状況について、「利用したことがある」の回答割合が最も高いのは、いずれの調査でも「平日の夜や休日を過ごすことができる場所」であった。(p.140,p.141)
- 「勉強を無料でみてくれる場所」や「何でも相談できる場所」について「利用したことがある」又は「利用したことはない_あれば利用したいと思う」と回答された割合は、中学2年生調査と16歳・17歳調査では等価世帯収入の水準が低いほど値が高い傾向にある。(p.144,p.145)
- 居場所等を利用したことでのどのような変化があったかについては、小学5年生調査では「友だちが増えた」の回答割合が最も高く、次いで「生活の中で楽しみなことが増えた」の回答割合が高くなっている。中学2年生調査では「特に変化はない」の回答割合が最も高いが、次いで「友だちが増えた」の回答割合が高くなっている。16歳・17歳調査では「とくに変化はない」の回答割合が最も高いが、次いで「勉強する時間が増えた」の回答割合が高くなっている。(p.146,p.147)

- 居場所等を利用したことでのどのような変化があったかについて等価世帯収入の水準別にみると、小学5年生調査では「勉強がわかるようになった」や「勉強する時間が増えた」について、等価世帯収入の水準が「中央値の2分の1未満」に該当する場合に回答割合が高い傾向にある。中学2年生調査では「友だちが増えた」や「気軽に話せる大人が増えた」、「ほっとできる時間が増えた」、「勉強がわかるようになった」、「勉強する時間が増えた」について、等価世帯収入の水準が「中央値の2分の1未満」に該当する場合に回答割合が高い傾向にある。16歳・17歳調査では「生活の中で楽しみなことが増えた」や「勉強がわかるようになった」について、等価世帯収入の水準が「中央値の2分の1未満」に該当する場合に回答割合が高い傾向となっている。(p.148,p.149)
- 困難な状況にあるときにどのような支援が必要だと考えるかについて、小学5年生調査では、「普段は経験できないようなイベントやスポーツ、遊びなどを、無料で体験できる機会」の回答割合が最も高く、次いで「中学校や高校、大学・専門学校への進学について相談できる窓口」の回答割合が高くなっている。中学2年生調査では、「高校や大学・専門学校への進学についてお金のことも含めて相談できる窓口」の回答割合が最も高く、次いで「学校での放課後などの居場所の提供(放課後に立ち寄れる場所、校内カフェなど)」の回答割合が高くなっている。16歳・17歳調査では、「大学・専門学校への進学について相談できる窓口」の回答割合が最も高く、次いで「学校にかかるお金の支援(奨学金制度や学校教育にかかる費用の免除・助成)」の回答割合が高くなっている。(p.150,p.151)
- 希望する行政支援に関して自由記述により得られた回答を内容別に分類し、件数をカウントすると、小学5年生調査では「遊び場」に関する内容の回答件数が最も多く、次いで「居場所」、「相談」、「体験・経験の機会」に関する内容の回答件数が多くなっている。16歳・17歳調査では、「金銭的支援・無償化等」に関する内容の回答件数が最も多く、次いで「相談」、「教育制度・学習支援」、「居場所」に関する内容の回答件数が多くなっている。(p.154~p.156)

II 回答者の属性

1. 保護者

(1) 子どもとの続柄

【保護者票】

お子さんとあなたとの関係は、次のどれにあたりますか。お子さんからみた続柄でお答えください。(SA)

回答者の子どもの続柄	小学5年生保護者 (令和6年度実施)		中学2年生保護者 (令和5年度実施)		16歳・17歳保護者 (令和6年度実施)	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合
母親	1,740	83.8%	1,403	81.8%	1,513	84.0%
父親	320	15.4%	306	17.8%	279	15.5%
祖父母	4	0.2%	3	0.2%	3	0.2%
その他	6	0.3%	2	0.1%	2	0.1%
無回答	6	0.3%	1	0.1%	4	0.2%
合計	2,076	100.0%	1,715	100.0	1,801	100.0

(2) 居住地区

【保護者票】

あなたがお住まいの地区を教えてください。(SA)

居住地区	小学5年生保護者 (令和6年度実施)		中学2年生保護者 (令和5年度実施)		16歳・17歳保護者 (令和6年度実施)	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合
横浜地域	766	36.9%	605	35.3%	718	39.9%
川崎地域	355	17.1%	279	16.3%	272	15.1%
横須賀三浦地域	141	6.8%	135	7.9%	152	8.4%
県央地域	325	15.7%	284	16.6%	278	15.4%
湘南地域	335	16.1%	274	16.0%	244	13.5%
県西地域	151	7.3%	136	7.9%	136	7.6%
無回答	3	0.1%	2	0.1%	1	0.1%
合計	2,076	100.0%	1,715	100.0%	1,801	100.0%

(3) 世帯人員とその構成

【保護者票】

お子さんと同居し、生計を同一にしているご家族の構成と人数をお答えください。単身赴任中の方や学業のために世帯を離れているお子さんがいる場合には、ご家族の人数に含めて教えてください。(SA)

世帯人数合計	小学5年生保護者 (令和6年度実施)		中学2年生保護者 (令和5年度実施)		16歳・17歳保護者 (令和6年度実施)	
	件数	割合	件数	件数	割合	件数
2人	38	1.8%	37	2.2%	61	3.4%
3人	332	16.0%	283	16.5%	330	18.3%
4人	1,054	50.8%	834	48.6%	885	49.1%
5人	436	21.0%	390	22.7%	366	20.3%
6人	115	5.5%	83	4.8%	76	4.2%
7人	27	1.3%	31	1.8%	26	1.4%
8人	7	0.3%	13	0.8%	7	0.4%
9人	2	0.1%	3	0.2%	2	0.1%
10人以上	5	0.2%	1	0.1%	0	0.0%
無回答	60	2.9%	40	2.3%	48	2.7%
合計	2,076	100.0%	1,715	100.0%	1,801	100.0%

祖母	小学5年生保護者 (令和6年度実施)		中学2年生保護者 (令和5年度実施)		16歳・17歳保護者 (令和6年度実施)	
	件数	割合	件数	件数	割合	件数
いない	1,638	78.9%	1332	77.7%	1,431	79.5%
1人	156	7.5%	157	9.2%	154	8.6%
2人	22	1.1%	5	0.3%	10	0.6%
無回答	260	12.5%	221	12.9%	206	11.4%
合計	2,076	100.0%	1,715	100.0%	1,801	100.0%

祖父	小学5年生保護者 (令和6年度実施)		中学2年生保護者 (令和5年度実施)		16歳・17歳保護者 (令和6年度実施)	
	件数	割合	件数	件数	割合	件数
いない	1,687	81.3%	1402	81.7%	1,486	82.5%
1人	96	4.6%	80	4.7%	87	4.8%
2人	14	0.7%	2	0.1%	4	0.2%
無回答	279	13.4%	231	13.5%	224	12.4%
合計	2,076	100.0%	1,715	100.0%	1,801	100.0%

母親	小学5年生保護者 (令和6年度実施)		中学2年生保護者 (令和5年度実施)		16歳・17歳保護者 (令和6年度実施)	
	件数	割合	件数	件数	割合	件数
いない	34	1.6%	33	1.9%	43	2.4%
1人	1,992	96.0%	1637	95.5%	1,727	95.9%
無回答	50	2.4%	45	2.6%	31	1.7%
合計	2,076	100.0%	1,715	100.0%	1,801	100.0%

父親	小学5年生保護者 (令和6年度実施)		中学2年生保護者 (令和5年度実施)		16歳・17歳保護者 (令和6年度実施)	
	件数	割合	件数	件数	割合	件数
いない	90	4.3%	141	8.2%	160	8.9%
1人	1,935	93.2%	1529	89.2%	1,595	88.6%
無回答	51	2.5%	45	2.6%	46	2.6%
合計	2,076	100.0%	1,715	100.0%	1,801	100.0%

姉・兄	小学5年生保護者 (令和6年度実施)		中学2年生保護者 (令和5年度実施)		16歳・17歳保護者 (令和6年度実施)	
	件数	割合	件数	件数	割合	件数
いない	869	41.9%	773	45.1%	796	44.2%
1人	814	39.2%	637	37.1%	683	37.9%
2人	156	7.5%	140	8.2%	123	6.8%
3人	24	1.2%	13	0.8%	8	0.4%
4人以上	10	0.5%	3	0.2%	1	0.1%
無回答	203	9.8%	149	8.7%	190	10.5%
合計	2,076	100.0%	1,715	100.0%	1,801	100.0%

妹・弟	小学5年生保護者 (令和6年度実施)		中学2年生保護者 (令和5年度実施)		16歳・17歳保護者 (令和6年度実施)	
	件数	割合	件数	件数	割合	件数
いない	952	45.9%	722	42.1%	823	45.7%
1人	744	35.8%	633	36.9%	632	35.1%
2人	133	6.4%	149	8.7%	137	7.6%
3人	23	1.1%	21	1.2%	23	1.3%
4人以上	6	0.3%	5	0.3%	3	0.2%
無回答	218	10.5%	185	10.8%	183	10.2%
合計	2,076	100.0%	1,715	100.0%	1,801	100.0%

その他	小学5年生保護者 (令和6年度実施)		中学2年生保護者 (令和5年度実施)		16歳・17歳保護者 (令和6年度実施)	
	件数	割合	件数	件数	割合	件数
いない	1,552	74.8%	1104	64.4%	1,315	73.0%
1人	20	1.0%	22	1.3%	27	1.5%
2人	8	0.4%	14	0.8%	7	0.4%
3人	18	0.9%	50	2.9%	22	1.2%
4人以上	42	2.0%	160	9.3%	46	2.6%
無回答	436	21.0%	365	21.3%	384	21.3%
合計	2,076	100.0%	1,715	100.0%	1,801	100.0%

(4) 親の年齢

【保護者票】

お子さんの親の現在の年齢についてお答えください。母親・父親にかわる保護者の方がいる場合には、その方のことについてお答えください。(数字回答)

母親の年代	小学5年生保護者 (令和6年度実施)		中学2年生保護者 (令和5年度実施)		16歳・17歳保護者 (令和6年度実施)	
	件数	割合	件数	件数	割合	件数
20歳代以下	4	0.2%	18	1.0%	0	0.0%
30歳代	401	19.3%	141	8.2%	42	2.3%
40歳代	1,425	68.6%	1188	69.3%	961	53.4%
50歳代	208	10.0%	344	20.1%	752	41.8%
60歳代以上	1	0.0%	1	0.1%	7	0.4%
いない、わからない	16	0.8%	-	-	14	0.8%
無回答	21	1.0%	23	1.3%	25	1.4%
合計	2,076	100.0%	1,715	100.0%	1,801	100.0%

父親の年代	小学5年生保護者 (令和6年度実施)		中学2年生保護者 (令和5年度実施)		16歳・17歳保護者 (令和6年度実施)	
	件数	割合	件数	件数	割合	件数
20歳代以下	3	0.1%	1	0.1%	0	0.0%
30歳代	245	11.8%	67	3.9%	26	1.4%
40歳代	1,334	64.3%	979	57.1%	707	39.3%
50歳代	376	18.1%	517	30.1%	819	45.5%
60歳代以上	28	1.3%	32	1.8%	85	4.7%
いない、わからない	52	2.5%	-	-	93	5.2%
無回答	38	1.8%	119	6.9%	71	3.9%
合計	2,076	100.0%	1,715	100.0%	1,801	100.0%

母親・父親にかわる保護者の年代	小学5年生保護者 (令和6年度実施)		中学2年生保護者 (令和5年度実施)		16歳・17歳保護者 (令和6年度実施)	
	件数	割合	件数	件数	割合	件数
20歳代以下	12	0.6%	28	1.7%	9	0.5%
30歳代	2	0.1%	3	0.2%	2	0.1%
40歳代	4	0.2%	24	1.4%	2	0.1%
50歳代	6	0.3%	9	0.5%	3	0.2%
60歳代以上	71	3.4%	63	3.6%	6	0.3%
いない、わからない	756	36.4%	-	-	632	35.1%
無回答	1,225	59.0%	1588	92.6%	1,147	63.7%
合計	2,076	100.0%	1,715	100.0%	1,801	100.0%

(5) 単身赴任の有無

【保護者票】

お子さんのご家族のうち、現在単身赴任中の方はいらっしゃいますか。(MA)

単身赴任の有無	小学5年生保護者 (令和6年度実施)		中学2年生保護者 (令和5年度実施)		16歳・17歳保護者 (令和6年度実施)	
	件数	割合	件数	件数	割合	件数
お子さんの母親が単身赴任中	2	0.1%	3	0.2%	2	0.1%
お子さんの父親が単身赴任中	76	3.7%	92	5.4%	94	5.2%
その他	14	0.7%	14	0.8%	27	1.5%
単身赴任中の者はいない	1,963	94.6%	1,579	92.1%	1,659	92.1%
無回答	21	1.0%	28	1.6%	21	1.2%
合計	2,076	-	1,715	-	1,801	-

(6) 親の婚姻の状況

【保護者票】

「お子さんと同居し、生計を同一にしている親」の婚姻状況を教えてください。(SA)

「離婚」、「死別」、「未婚」を合わせた割合は、小学5年生保護者調査では 5.1%、中学2年生保護者調査では 8.7%、16歳・17歳保護者調査では 10.4%となっている。

これらに該当する場合は「ひとり親世帯」と考えられる。また、調査回答者の子どもとの続柄に関する回答から、「母子世帯」であるか「父子世帯」であるかを判別すると、ひとり親世帯の内訳として母子世帯の割合は、小学5年生保護者調査では 80.4%、中学2年生保護者調査では 88.1%、16歳・17歳保護者調査では 85.0%となっている。同様に、父子世帯の割合は、小学5年生保護者調査では 17.8%、中学2年生保護者調査では 9.9%、16歳・17歳保護者調査では 13.4%となっている。

親の婚姻の状況	小学5年生保護者 (令和6年度実施)		中学2年生保護者 (令和5年度実施)		16歳・17歳保護者 (令和6年度実施)	
	件数	割合	件数	件数	割合	件数
結婚している (再婚や事実婚を含む。)	1,936	93.3%	1,538	89.7%	1,572	87.3%
離婚	91	4.4%	126	7.3%	145	8.1%
死別	11	0.5%	14	0.8%	24	1.3%
未婚	5	0.2%	11	0.6%	18	1.0%
わからない	4	0.2%	1	0.1%	7	0.4%
いない	21	1.0%	22	1.3%	30	1.7%
無回答	8	0.4%	3	0.2%	5	0.3%
合計	2,076	100.0%	1,715	100.0%	1,801	100.0%

ひとり親世帯の内訳	小学5年生保護者 (令和6年度実施)		中学2年生保護者 (令和5年度実施)		16歳・17歳保護者 (令和6年度実施)	
	件数	割合	件数	件数	割合	件数
母子世帯	86	80.4%	133	88.1%	159	85.0%
父子世帯	19	17.8%	15	9.9%	25	13.4%
無回答	2	1.9%	3	2.0%	3	1.6%
合計	107	100.0%	151	100.0%	187	100.0%

(7) 家庭で使用している言語

【保護者票】

ご家庭ではどれくらい、日本語以外の言語を使用していますか。(SA)

家庭で使用している言語	小学5年生保護者 (令和6年度実施)		中学2年生保護者 (令和5年度実施)		16歳・17歳保護者 (令和6年度実施)	
	件数	割合	件数	件数	割合	件数
日本語のみを使用している	1,993	96.0%	1,659	96.7%	1,739	96.6%
日本語以外の言語も使用しているが、日本語の方が多い	68	3.3%	39	2.3%	52	2.9%
日本語以外の言語を使うことが多い	3	0.1%	11	0.6%	5	0.3%
無回答	12	0.6%	6	0.3%	5	0.3%
合計	2,076	100.0%	1,715	100.0%	1,801	100.0%

(8) 親の学歴

【保護者票】

お子さんの親(保護者)が卒業・修了した学校をお答えください。(SA)

母親	小学5年生保護者 (令和6年度実施)		中学2年生保護者 (令和5年度実施)		16歳・17歳保護者 (令和6年度実施)	
	件数	割合	件数	件数	割合	件数
中学	47	2.3%	36	2.1%	35	1.9%
中学、高校	256	12.3%	319	18.6%	332	18.4%
中学、高校、専門学校	411	19.8%	336	19.6%	349	19.4%
中学、5年制の高等専門学校	8	0.4%	6	0.3%	9	0.5%
中学、高校、短期大学	388	18.7%	413	24.1%	455	25.3%
中学、高校(または5年制の高等専門学校)、大学	777	37.4%	445	25.9%	503	27.9%
中学、高校(または5年制の高等専門学校)、大学、大学院	152	7.3%	134	7.8%	84	4.7%
その他	10	0.5%	3	0.2%	3	0.2%
わからない	2	0.1%	1	0.1%	7	0.4%
いない	5	0.2%	7	0.4%	9	0.5%
無回答	20	1.0%	15	0.9%	15	0.8%
合計	2,076	100.0%	1,715	100.0%	1,801	100.0%

父親	小学5年生保護者 (令和6年度実施)		中学2年生保護者 (令和5年度実施)		16歳・17歳保護者 (令和6年度実施)	
	件数	割合	件数	件数	割合	件数
中学	59	2.8%	43	2.5%	48	2.7%
中学、高校	279	13.4%	298	17.4%	308	17.1%
中学、高校、専門学校	265	12.8%	261	15.2%	254	14.1%
中学、5年制の高等専門学校	22	1.1%	13	0.8%	18	1.0%
中学、高校、短期大学	64	3.1%	55	3.2%	37	2.1%
中学、高校(または5年制の高等専門学校)、大学	944	45.5%	684	39.9%	783	43.5%
中学、高校(または5年制の高等専門学校)、大学、大学院	356	17.1%	262	15.3%	218	12.1%
その他	10	0.5%	1	0.1%	6	0.3%
わからない	7	0.3%	5	0.3%	7	0.4%
いない	18	0.9%	37	2.2%	56	3.1%
無回答	52	2.5%	56	3.3%	66	3.7%
合計	2,076	100.0%	1,715	100.0%	1,801	100.0%

2. 子ども

(1) 性別

【子ども票】

あなたの性別を教えてください。

性別	小学5年生 (令和6年度実施)		中学2年生 (令和5年度実施)		16歳・17歳 (令和6年度実施)	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合
男	990	49.7%	784	49.5%	851	49.2%
女	973	48.8%	753	47.5%	841	48.6%
その他・答えたくない	25	1.3%	41	2.6%	30	1.7%
無回答	5	0.3%	7	0.4%	8	0.5%
合計	1,993	100.0%	1,585	100.0%	1,730	100.0%

(2) 学校の在籍状況、就業の状況

【子ども票(16歳・17歳票)】

あなたは、現在学校に在籍していますか。

【子ども票(16歳・17歳票)】

(学校に在籍していない場合)あなたは現在働いていますか。

※ 学生をしながらアルバイトをしている方は該当しません。

学校の在籍状況	16歳・17歳 (令和6年度実施)		就業の状況 (学校に在籍していない者)	16歳・17歳 (令和6年度実施)	
	件数	割合		件数	割合
高等学校(全日制)に在籍	1,556	89.9	働いている(アルバイト・パートタイム・派遣・日雇い・正規雇用)	2	25.0%
高等学校(定時制)に在籍	20	1.2			
高等学校(通信制)に在籍	99	5.7	家業の従業員として働いている	0	0.0%
特別支援学校に在籍	27	1.6			
高等専門学校に在籍	7	0.4	職業訓練中	0	0.0%
専修学校(高等課程)に在籍	7	0.4	就職活動中	0	0.0%
いずれかの学校に在籍していたが中途退学した	7	0.4	その他	0	0.0%
いずれの学校にも在籍したことがない	1	0.1	働いていない	6	75.0%
無回答	6	0.3	無回答	0	0.0%
合計	1,730	100.0	合計	8	100.0%

III 分析結果

1. 保護者の生活の状況

1-1. 経済的な状況、暮らしの状況

(1) 世帯全体の年間収入、等価世帯収入

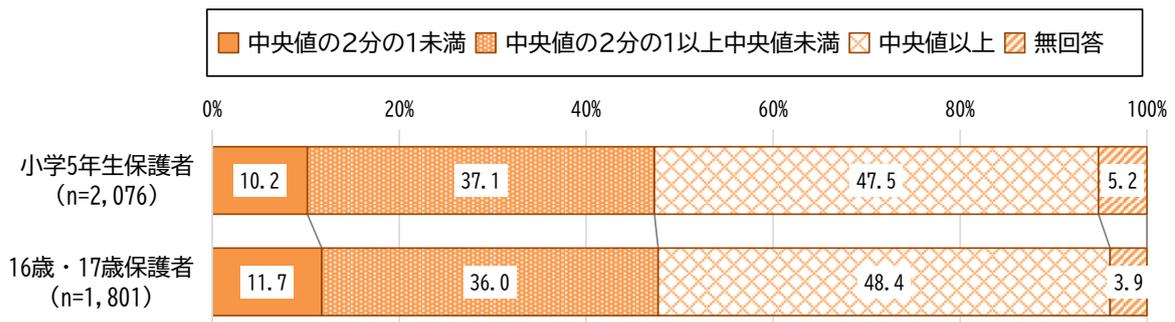
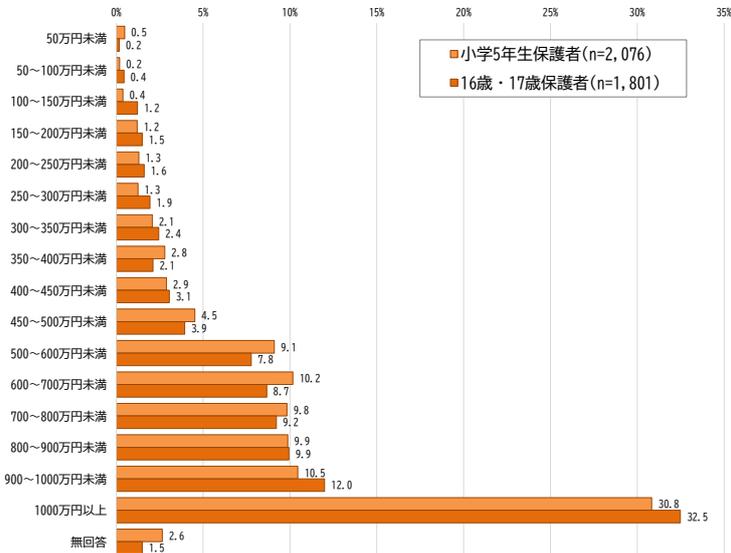
【保護者票】

世帯全体のおおよその年間収入(税込)はいくらですか。(SA)

世帯全体の年間収入は、「1000万円以上」の回答割合が最も高くなっている。一方で、「300万円未満」に該当する割合も小学5年生保護者調査で4.9%、16歳・17歳保護者調査で6.8%であり、収入の水準が低い世帯があることも把握される。

世帯の年間収入の回答と世帯の人数の回答をもとに等価世帯収入を算出したところ、等価世帯収入の中央値は、小学5年生保護者調査では396.9万円、16歳・17歳保護者調査では425.0万円であった。これらの中央値を基準とすると、「中央値の2分の1未満」の水準に該当する割合は、小学5年生保護者調査では10.2%、16歳・17歳保護者調査では11.7%となっている。

なお、令和5年度に実施した中学2年生保護者調査においては、等価世帯収入の中央値は375.0万円、「中央値の2分の1未満」の水準に該当する割合は10.1%であった。



<等価世帯収入に関するクロス集計>

等価世帯収入の水準が「中央値の2分の1未満」に該当する割合を地域別にみると、いずれの調査でも「横浜地域」や「川崎地域」については値が低い傾向にあり、「横須賀三浦地域」や「県西地域」では値が高い傾向にある。

また、婚姻状況別にみると、いずれの調査でも「離婚」等の場合（「離婚」、「死別」、「未婚」の場合を指す。以下同様）に、等価世帯収入の水準が「中央値の2分の1未満」に該当する割合が高い傾向にある。

世帯の人数別では、世帯人数が「2人」の場合（ひとり親世帯の場合）に等価世帯収入の水準が「中央値の2分の1未満」に該当する割合が高いほか、世帯人数が「6人」や「7人以上」というように、人数が多い場合に「中央値の2分の1未満」に該当する割合が高い傾向にある。

等価世帯収入の水準が	小学5年生保護者 (令和6年度実施)		中学2年生保護者 (令和5年度実施)		16歳・17歳保護者 (令和6年度実施)	
	集計対象	該当割合	集計対象	該当割合	集計対象	該当割合
「中央値の2分の1未満」						
横浜地域	n=766	7.7%	n=605	8.9%	n=718	9.1%
川崎地域	n=355	6.8%	n=279	6.5%	n=272	9.9%
横須賀三浦地域	n=141	14.9%	n=135	17.0%	n=152	21.1%
県央地域	n=325	12.3%	n=284	11.6%	n=278	11.5%
湘南地域	n=335	11.9%	n=274	8.0%	n=244	10.7%
県西地域	n=151	17.9%	n=136	16.2%	n=136	21.3%
全体	n=2,076	10.2%	n=1,715	10.1%	n=1,801	11.7%

等価世帯収入の水準が	小学5年生保護者 (令和6年度実施)		中学2年生保護者 (令和5年度実施)		16歳・17歳保護者 (令和6年度実施)	
	集計対象	該当割合	集計対象	該当割合	集計対象	該当割合
「中央値の2分の1未満」						
結婚している (再婚や事実婚を含む。)	n=1,936	7.4%	n=1,538	6.2%	n=1,572	6.6%
離婚	n=91	60.4%	n=126	50.0%	n=145	55.2%
死別	n=11	45.5%	n=14	35.7%	n=24	54.2%
未婚	n=5	60.0%	n=11	45.5%	n=18	44.4%
わからない	n=4	25.0%	n=1	100.0%	n=7	0.0%
いない	n=21	9.5%	n=22	9.1%	n=30	16.7%
全体	n=2,076	10.2%	n=1,715	10.1%	n=1,801	11.7%

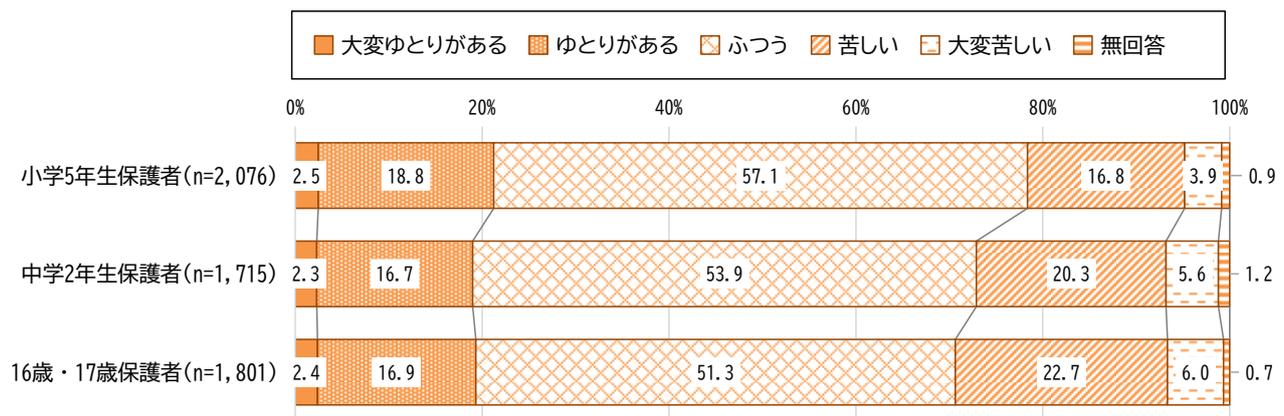
等価世帯収入の水準が 「中央値の2分の1未満」	小学5年生保護者 (令和6年度実施)		中学2年生保護者 (令和5年度実施)		16歳・17歳保護者 (令和6年度実施)	
	集計対象	該当割合	集計対象	該当割合	集計対象	該当割合
世帯人数:2人	n=38	42.1%	n=37	45.9%	n=61	44.3%
世帯人数:3人	n=332	11.1%	n=283	15.5%	n=330	14.5%
世帯人数:4人	n=1,054	6.7%	n=834	6.1%	n=885	7.2%
世帯人数:5人	n=436	11.0%	n=390	9.7%	n=366	13.4%
世帯人数:6人	n=115	21.7%	n=83	14.5%	n=76	19.7%
世帯人数:7人以上	n=41	34.1%	n=48	22.9%	n=35	22.9%
全体	n=2,076	10.2%	n=1,715	10.1%	n=1,801	11.7%

(2) 暮らしの状況についての認識

【保護者票】

あなたは、現在の暮らしの状況をどのように感じていますか。(SA)

暮らしの状況についての認識は、いずれの調査でも「ふつう」の回答割合が最も高くなっている。
 「苦しい」又は「大変苦しい」と回答された割合は、小学5年生保護者調査では 20.7%、中学2年生保護者調査では 25.9%、16歳・17歳保護者調査では 28.7%となっており、子どもの学校・年齢段階が高いほうが値が高い傾向にある。



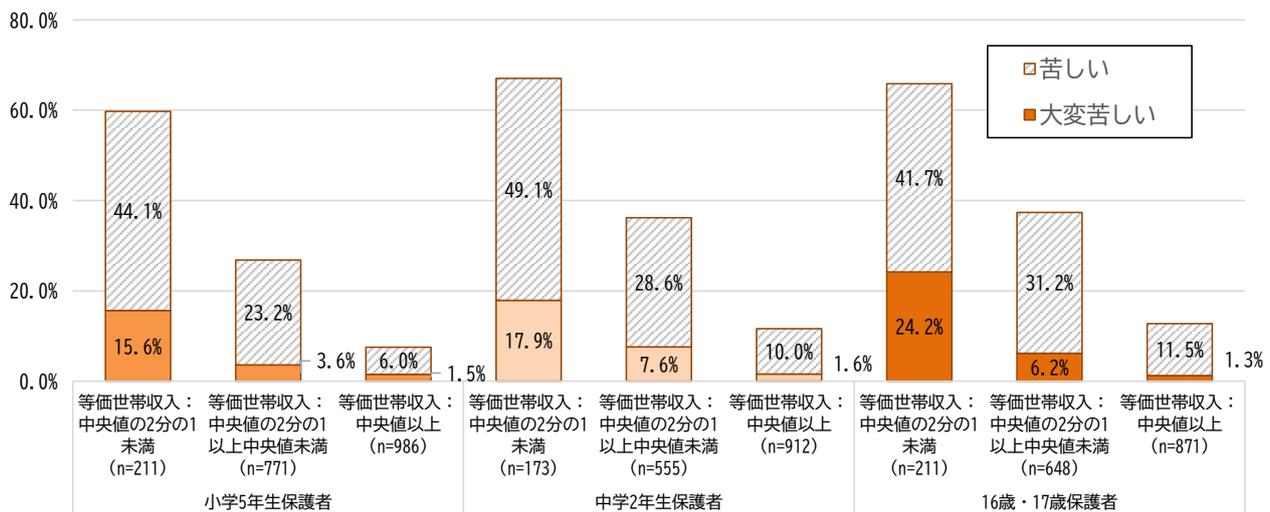
※小学5年生保護者調査と16歳・17歳保護者調査は令和6年度実施、中学2年生保護者調査は令和5年度実施。

<暮らしの状況に関するクロス集計>

暮らしの状況について「苦しい」又は「大変苦しい」と回答された割合を等価世帯収入の水準別にみると、いずれの調査でも、等価世帯収入の水準が低いほど値が高い傾向にある。「苦しい」又は「大変苦しい」と回答された割合は、等価世帯収入の水準が「中央値の2分の1未満」に該当する場合には、小学5年生保護者調査では 59.7%、中学2年生保護者調査では 67.0%、16歳・17歳保護者調査では 65.9%となっている。等価世帯収入の水準が「中央値の2分の1以上中央値未満」に該当する場合には、その割合は小学5年生保護者調査で 26.8%、中学2年生保護者調査で 36.2%、16歳・17歳保護者調査では 37.4%となっている。

婚姻状況別にみると、「苦しい」又は「大変苦しい」と回答された割合は、いずれの調査でも「離婚」等の場合に「結婚している」の場合よりも値が高い傾向にある。

世帯の人数別では、いずれの調査でも世帯人数が「2人」の場合（ひとり親世帯の場合）に暮らしの状況について「苦しい」又は「大変苦しい」と回答された割合が高いほか、小学5年生保護者調査や16歳・17歳保護者調査では、世帯人数が「7人以上」の場合に「苦しい」又は「大変苦しい」と回答された割合が高い傾向にある。



※小学5年生保護者調査と16歳・17歳保護者調査は令和6年度実施、中学2年生保護者調査は令和5年度実施。

暮らしの状況	小学5年生保護者 (令和6年度実施)		中学2年生保護者 (令和5年度実施)		16歳・17歳保護者 (令和6年度実施)	
	集計対象	該当割合	集計対象	該当割合	集計対象	該当割合
「苦しい」・「大変苦しい」						
収入:中央値の2分の1未満	n=211	59.7%	n=173	67.0%	n=211	65.9%
収入:中央値の2分の1以上中央値未満	n=771	26.8%	n=555	36.2%	n=648	37.4%
収入:中央値以上	n=986	7.5%	n=912	11.6%	n=871	12.8%
全体	n=2,076	20.7%	n=1,715	25.9%	n=1,801	28.7%

暮らしの状況	小学5年生保護者 (令和6年度実施)		中学2年生保護者 (令和5年度実施)		16歳・17歳保護者 (令和6年度実施)	
	集計対象	該当割合	集計対象	該当割合	集計対象	該当割合
「苦しい」・「大変苦しい」						
横浜地域	n=766	18.2%	n=605	22.8%	n=718	26.4%
川崎地域	n=355	18.9%	n=279	24.4%	n=272	24.7%
横須賀三浦地域	n=141	20.6%	n=135	28.1%	n=152	36.2%
県央地域	n=325	21.5%	n=284	28.5%	n=278	32.4%
湘南地域	n=335	25.4%	n=274	26.2%	n=244	29.9%
県西地域	n=151	27.2%	n=136	34.6%	n=136	30.9%
全体	n=2,076	20.7%	n=1,715	25.9%	n=1,801	28.7%

暮らしの状況	小学5年生保護者 (令和6年度実施)		中学2年生保護者 (令和5年度実施)		16歳・17歳保護者 (令和6年度実施)	
	集計対象	該当割合	集計対象	該当割合	集計対象	該当割合
「苦しい」・「大変苦しい」						
結婚している (再婚や事実婚を含む。)	n=1,936	19.0%	n=1,538	22.7%	n=1,572	25.6%
離婚	n=91	56.1%	n=126	56.4%	n=145	58.6%
死別	n=11	72.7%	n=14	57.1%	n=24	29.2%
未婚	n=5	40.0%	n=11	72.7%	n=18	38.9%
わからない	n=4	0.0%	n=1	100.0%	n=7	57.2%
いない	n=21	4.8%	n=22	18.2%	n=30	33.4%
全体	n=2,076	20.7%	n=1,715	25.9%	n=1,801	28.7%

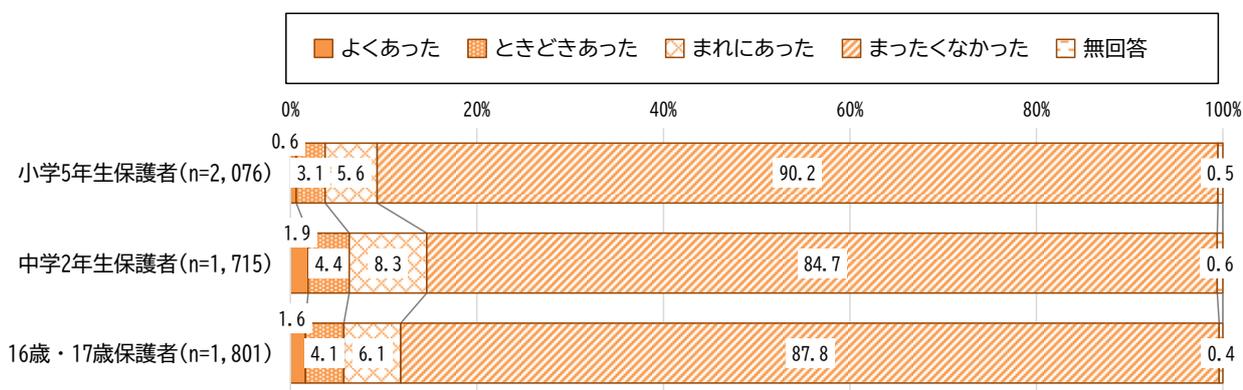
暮らしの状況	小学5年生保護者 (令和6年度実施)		中学2年生保護者 (令和5年度実施)		16歳・17歳保護者 (令和6年度実施)	
	集計対象	該当割合	集計対象	該当割合	集計対象	該当割合
「苦しい」・「大変苦しい」						
世帯人数:2人	n=38	34.2%	n=37	43.2%	n=61	45.9%
世帯人数:3人	n=332	19.9%	n=283	27.2%	n=330	26.7%
世帯人数:4人	n=1,054	18.0%	n=834	20.1%	n=885	24.1%
世帯人数:5人	n=436	22.9%	n=390	31.8%	n=366	35.8%
世帯人数:6人	n=115	24.4%	n=83	37.3%	n=76	32.8%
世帯人数:7人以上	n=41	51.2%	n=48	31.3%	n=35	40.0%
全体	n=2,076	20.7%	n=1,715	25.9%	n=1,801	28.7%

(3) 食料が買えなかった経験

【保護者票】

あなたの世帯では、過去1年の間に、お金が足りなくて、家族が必要とする食料が買えないことがありましたか。ただし、嗜好品は含みません。(SA)

必要とする食料が買えないことがあった経験については、いずれの調査でも「まったくなかった」の回答割合が最も高くなっている一方で、「よくあった」、「ときどきあった」、「まれにあった」のいずれかに該当する割合は、小学5年生保護者調査では 9.3%、中学2年生保護者調査では 14.6%、16歳・17歳保護者調査では 11.8%となっている。



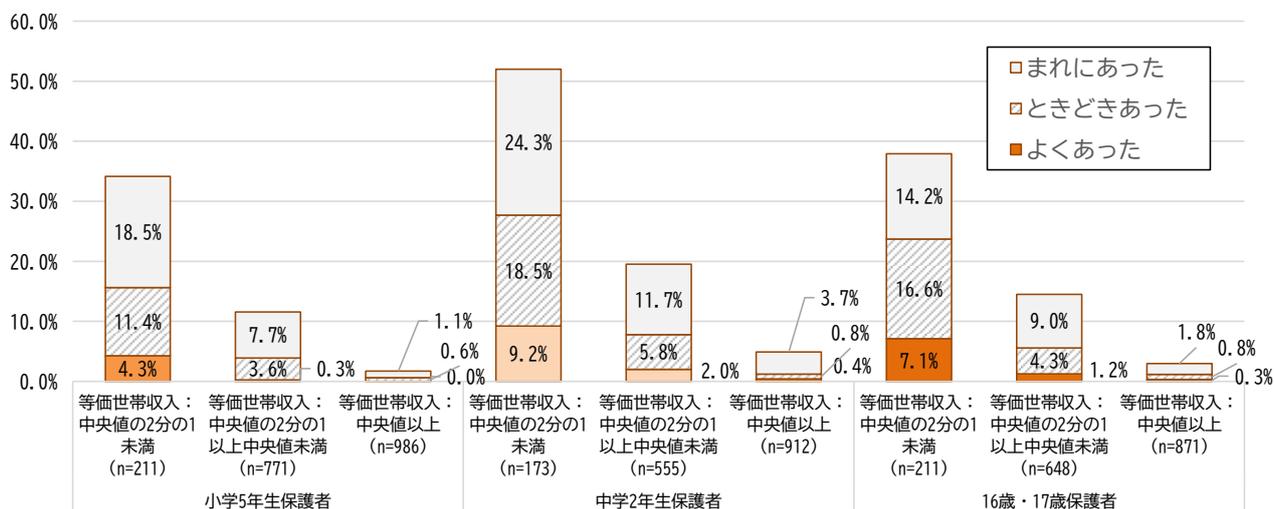
※小学5年生保護者調査と16歳・17歳保護者調査は令和6年度実施、中学2年生保護者調査は令和5年度実施。

<食料が買えなかった経験に関するクロス集計>

必要とする食料が買えないことがあった経験について「よくあった」、「ときどきあった」、「まれにあった」のいずれかに該当する割合を等価世帯収入の水準別にみると、いずれの調査でも等価世帯収入の水準が低いほど値が高い傾向にある。「よくあった」、「ときどきあった」、「まれにあった」のいずれかに該当する割合は、等価世帯収入の水準が「中央値の2分の1未満」に該当する場合には、小学5年生保護者調査では34.2%、中学2年生保護者調査では52.0%、16歳・17歳保護者調査では37.9%となっている。等価世帯収入の水準が「中央値の2分の1以上中央値未満」に該当する場合には、その割合は小学5年生保護者調査で11.6%、中学2年生保護者調査で19.5%、16歳・17歳保護者調査では14.5%となっている。

婚姻状況別にみると、「よくあった」、「ときどきあった」、「まれにあった」のいずれかに該当する割合は、いずれの調査でも「離婚」等の場合に「結婚している」の場合よりも値が高い傾向にある。

世帯の人数別では、いずれの調査でも世帯人数が「2人」の場合(ひとり親世帯の場合)に「よくあった」、「ときどきあった」、「まれにあった」のいずれかに該当する割合が高いほか、世帯人数が「7人以上」の場合に「よくあった」、「ときどきあった」、「まれにあった」のいずれかに該当する割合が高い傾向にある。



※小学5年生保護者調査と16歳・17歳保護者調査は令和6年度実施、中学2年生保護者調査は令和5年度実施。

食料が買えなかった経験	小学5年生保護者 (令和6年度実施)		中学2年生保護者 (令和5年度実施)		16歳・17歳保護者 (令和6年度実施)	
	集計対象	該当割合	集計対象	該当割合	集計対象	該当割合
「よくあった」、「ときどきあった」、「まれにあった」						
収入:中央値の2分の1未満	n=211	34.2%	n=173	52.0%	n=211	37.9%
収入:中央値の2分の1以上中央値未満	n=771	11.6%	n=555	19.5%	n=648	14.5%
収入:中央値以上	n=986	1.7%	n=912	4.9%	n=871	2.9%
全体	n=2,076	9.3%	n=1,715	14.6%	n=1,801	11.8%

食料が買えなかった経験 「よくあった」、「ときどきあった」、「まれにあった」	小学5年生保護者 (令和6年度実施)		中学2年生保護者 (令和5年度実施)		16歳・17歳保護者 (令和6年度実施)	
	集計対象	該当割合	集計対象	該当割合	集計対象	該当割合
横浜地域	n=766	8.7%	n=605	12.2%	n=718	10.1%
川崎地域	n=355	5.9%	n=279	10.3%	n=272	10.6%
横須賀三浦地域	n=141	7.8%	n=135	25.2%	n=152	17.8%
県央地域	n=325	11.1%	n=284	13.8%	n=278	15.1%
湘南地域	n=335	12.9%	n=274	15.7%	n=244	8.6%
県西地域	n=151	9.2%	n=136	23.5%	n=136	15.4%
全体	n=2,076	9.3%	n=1,715	14.6%	n=1,801	11.8%

食料が買えなかった経験 「よくあった」、「ときどきあった」、「まれにあった」	小学5年生保護者 (令和6年度実施)		中学2年生保護者 (令和5年度実施)		16歳・17歳保護者 (令和6年度実施)	
	集計対象	該当割合	集計対象	該当割合	集計対象	該当割合
結婚している (再婚や事実婚を含む。)	n=1,936	8.3%	n=1,538	12.2%	n=1,572	9.7%
離婚	n=91	29.7%	n=126	40.5%	n=145	32.4%
死別	n=11	27.3%	n=14	14.2%	n=24	16.6%
未婚	n=5	20.0%	n=11	36.4%	n=18	27.8%
わからない	n=4	0.0%	n=1	100.0%	n=7	0.0%
いない	n=21	9.6%	n=22	13.6%	n=30	13.4%
全体	n=2,076	9.3%	n=1,715	14.6%	n=1,801	11.8%

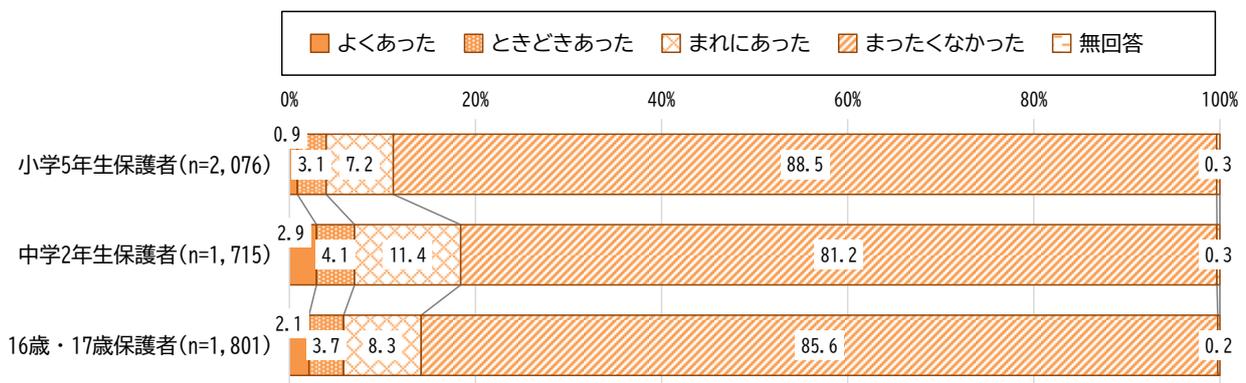
食料が買えなかった経験 「よくあった」、「ときどきあった」、「まれにあった」	小学5年生保護者 (令和6年度実施)		中学2年生保護者 (令和5年度実施)		16歳・17歳保護者 (令和6年度実施)	
	集計対象	該当割合	集計対象	該当割合	集計対象	該当割合
世帯人数:2人	n=38	18.5%	n=37	32.4%	n=61	24.6%
世帯人数:3人	n=332	6.9%	n=283	17.3%	n=330	13.1%
世帯人数:4人	n=1,054	7.6%	n=834	9.4%	n=885	8.7%
世帯人数:5人	n=436	11.7%	n=390	20.8%	n=366	13.4%
世帯人数:6人	n=115	11.4%	n=83	15.6%	n=76	15.8%
世帯人数:7人以上	n=41	21.9%	n=48	22.9%	n=35	17.2%
全体	n=2,076	9.3%	n=1,715	14.6%	n=1,801	11.8%

(4) 衣服が買えなかった経験

【保護者票】

あなたの世帯では、過去1年の間に、お金が足りなくて、家族が必要とする衣服が買えないことがありましたか。ただし、高価な衣服や貴金属・宝飾品は含みません。(SA)

必要とする衣服が買えないことがあった経験については、いずれの調査でも「まったくなかった」の回答割合が最も高くなっている一方で、「よくあった」、「ときどきあった」、「まれにあった」のいずれかに該当する割合は、小学5年生保護者調査では 11.2%、中学2年生保護者調査では 18.4%、16歳・17歳保護者調査では 14.1%となっている。



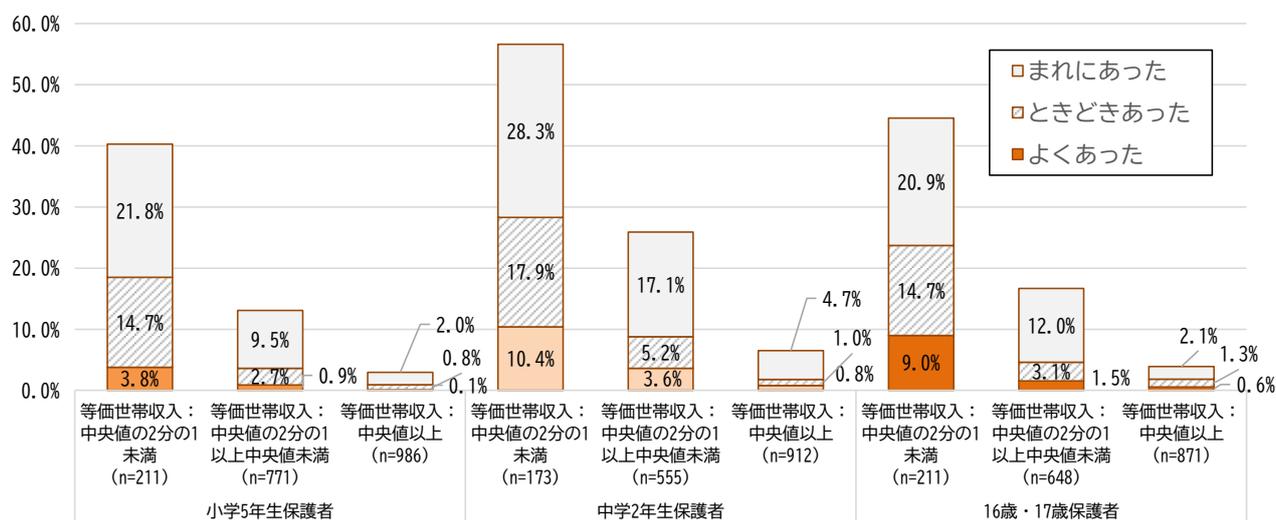
※小学5年生保護者調査と16歳・17歳保護者調査は令和6年度実施、中学2年生保護者調査は令和5年度実施。

<衣服が買えなかった経験に関するクロス集計>

必要とする衣服が買えないことがあった経験について「よくあった」、「ときどきあった」、「まれにあった」のいずれかに該当する割合を等価世帯収入の水準別にみると、いずれの調査でも等価世帯収入の水準が低いほど値が高い傾向にある。「よくあった」、「ときどきあった」、「まれにあった」のいずれかに該当する割合は、等価世帯収入の水準が「中央値の2分の1未満」に該当する場合には、小学5年生保護者調査では40.3%、中学2年生保護者調査では56.6%、16歳・17歳保護者調査では44.6%となっている。等価世帯収入の水準が「中央値の2分の1以上中央値未満」に該当する場合には、その割合は小学5年生保護者調査で13.1%、中学2年生保護者調査で25.9%、16歳・17歳保護者調査では16.6%となっている。

婚姻状況別にみると、「よくあった」、「ときどきあった」、「まれにあった」のいずれかに該当する割合は、いずれの調査でも「離婚」等の場合に「結婚している」の場合よりも値が高い傾向にある。

世帯の人数別では、いずれの調査でも世帯人数が「2人」の場合(ひとり親世帯の場合)に「よくあった」、「ときどきあった」、「まれにあった」のいずれかに該当する割合が高いほか、世帯人数が「7人以上」の場合に「よくあった」、「ときどきあった」、「まれにあった」のいずれかに該当する割合が高い傾向にある。



※小学5年生保護者調査と16歳・17歳保護者調査は令和6年度実施、中学2年生保護者調査は令和5年度実施。

衣服が買えなかった経験	小学5年生保護者 (令和6年度実施)		中学2年生保護者 (令和5年度実施)		16歳・17歳保護者 (令和6年度実施)	
	集計対象	該当割合	集計対象	該当割合	集計対象	該当割合
「よくあった」、「ときどきあった」、「まれにあった」						
収入:中央値の2分の1未満	n=211	40.3%	n=173	56.6%	n=211	44.6%
収入:中央値の2分の1以上中央値未満	n=771	13.1%	n=555	25.9%	n=648	16.6%
収入:中央値以上	n=986	2.9%	n=912	6.5%	n=871	4.0%
全体	n=2,076	11.2%	n=1,715	18.4%	n=1,801	14.1%

衣服が買えなかった経験 「よくあった」、「ときどきあった」、「まれにあった」	小学5年生保護者 (令和6年度実施)		中学2年生保護者 (令和5年度実施)		16歳・17歳保護者 (令和6年度実施)	
	集計対象	該当割合	集計対象	該当割合	集計対象	該当割合
横浜地域	n=766	9.4%	n=605	16.1%	n=718	12.2%
川崎地域	n=355	9.3%	n=279	14.7%	n=272	14.4%
横須賀三浦地域	n=141	10.7%	n=135	25.2%	n=152	15.1%
県央地域	n=325	11.7%	n=284	20.8%	n=278	17.2%
湘南地域	n=335	14.4%	n=274	18.5%	n=244	14.3%
県西地域	n=151	16.6%	n=136	25.7%	n=136	16.2%
全体	n=2,076	11.2%	n=1,715	18.4%	n=1,801	14.1%

衣服が買えなかった経験 「よくあった」、「ときどきあった」、「まれにあった」	小学5年生保護者 (令和6年度実施)		中学2年生保護者 (令和5年度実施)		16歳・17歳保護者 (令和6年度実施)	
	集計対象	該当割合	集計対象	該当割合	集計対象	該当割合
結婚している (再婚や事実婚を含む。)	n=1,936	10.0%	n=1,538	15.8%	n=1,572	11.7%
離婚	n=91	34.1%	n=126	44.4%	n=145	38.0%
死別	n=11	27.3%	n=14	21.4%	n=24	25.0%
未婚	n=5	20.0%	n=11	54.5%	n=18	27.9%
わからない	n=4	0.0%	n=1	100.0%	n=7	14.3%
いない	n=21	9.6%	n=22	9.1%	n=30	10.0%
全体	n=2,076	11.2%	n=1,715	18.4%	n=1,801	14.1%

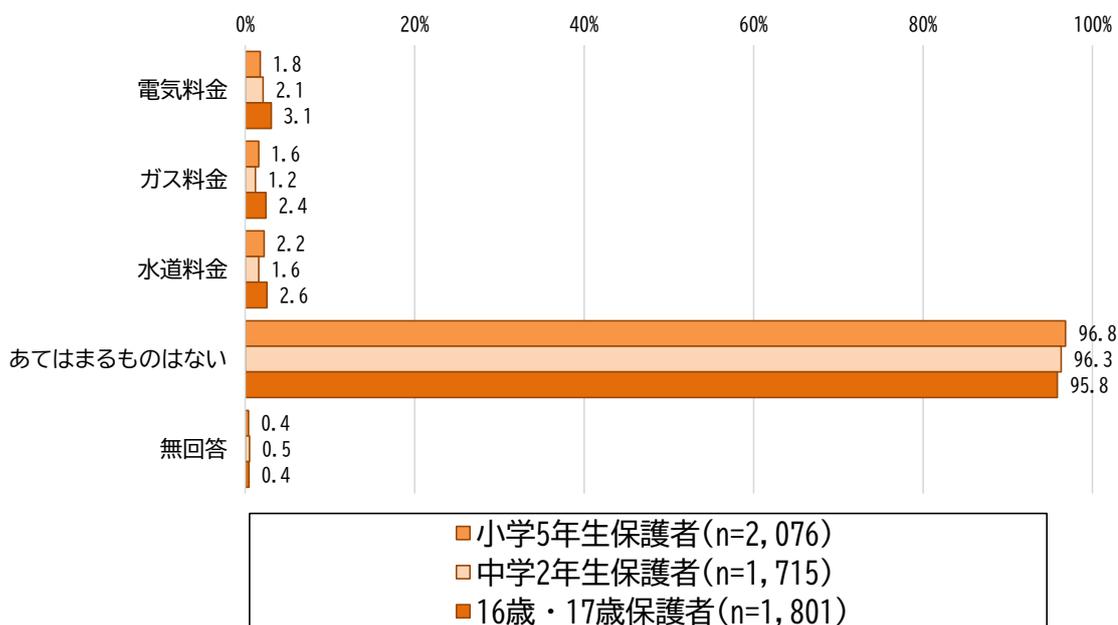
衣服が買えなかった経験 「よくあった」、「ときどきあった」、「まれにあった」	小学5年生保護者 (令和6年度実施)		中学2年生保護者 (令和5年度実施)		16歳・17歳保護者 (令和6年度実施)	
	集計対象	該当割合	集計対象	該当割合	集計対象	該当割合
世帯人数:2人	n=38	18.4%	n=37	43.2%	n=61	36.0%
世帯人数:3人	n=332	9.9%	n=283	21.2%	n=330	13.9%
世帯人数:4人	n=1,054	9.1%	n=834	13.6%	n=885	10.5%
世帯人数:5人	n=436	13.7%	n=390	22.8%	n=366	16.1%
世帯人数:6人	n=115	15.6%	n=83	18.0%	n=76	15.7%
世帯人数:7人以上	n=41	21.9%	n=48	31.3%	n=35	25.7%
全体	n=2,076	11.2%	n=1,715	18.4%	n=1,801	14.1%

(5) 公共料金における未払いの経験

【保護者票】

あなたの世帯では、過去1年の間に、以下の料金について、経済的な理由で未払いになったことがありますか。(MA)

公共料金における未払いの経験について、「あてはまるものはない」の回答割合は、小学5年生保護者調査では 96.8%、中学2年生保護者調査では 96.3%、16歳・17歳保護者調査では 95.8%となっている一方で、電気料金・ガス料金・水道料金のいずれかで未払いの経験がある割合は、小学5年生保護者調査では 2.8%、中学2年生保護者調査では 3.2%、16歳・17歳保護者調査では 3.8%となっている。



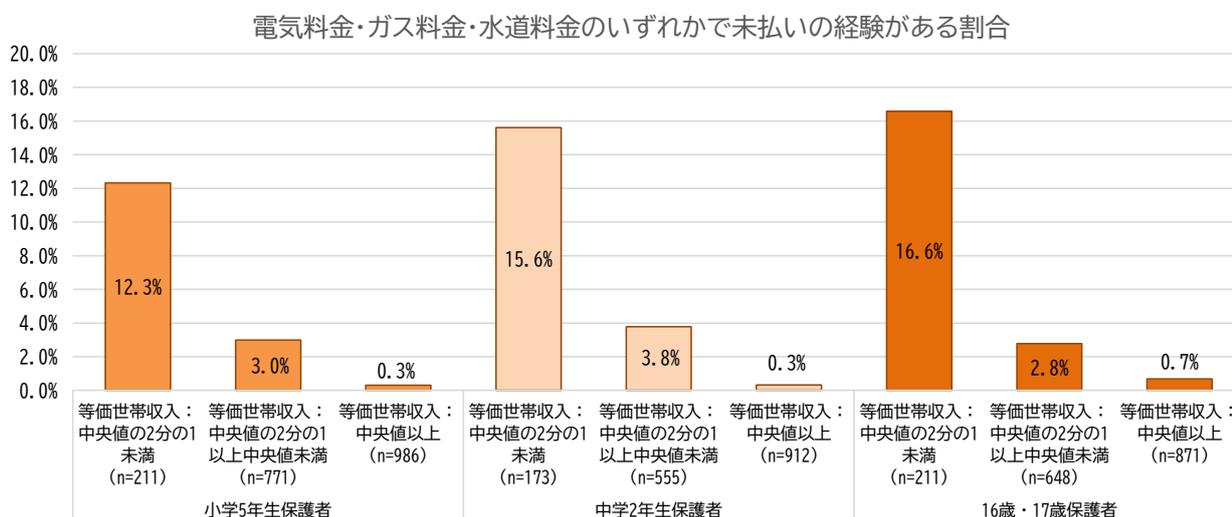
※小学5年生保護者調査と16歳・17歳保護者調査は令和6年度実施、中学2年生保護者調査は令和5年度実施。

<公共料金における未払いの経験に関するクロス集計>

公共料金における未払いの経験について電気料金・ガス料金・水道料金のいずれかで未払いの経験がある割合を等価世帯収入の水準別にみると、いずれの調査でも等価世帯収入の水準が低いほど値が高い傾向にある。電気料金・ガス料金・水道料金のいずれかで未払いの経験がある割合は、等価世帯収入の水準が「中央値の2分の1未満」に該当する場合には、小学5年生保護者調査では12.3%、中学2年生保護者調査では15.6%、16歳・17歳保護者調査では16.6%となっている。等価世帯収入の水準が「中央値の2分の1以上中央値未満」に該当する場合には、その割合は小学5年生保護者調査で3.0%、中学2年生保護者調査で3.8%、16歳・17歳保護者調査では2.8%となっている。

婚姻状況別にみると、電気料金・ガス料金・水道料金のいずれかで未払いの経験がある割合は、いずれの調査でも「離婚」等の場合に「結婚している」の場合よりも値が高い傾向にある。

世帯の人数別では、いずれの調査でも世帯人数が「2人」の場合(ひとり親世帯の場合)に電気料金・ガス料金・水道料金のいずれかで未払いの経験がある割合が高いほか、小学5年生保護者調査と中学2年生保護者調査では、世帯人数が「7人以上」の場合に割合が高くなっている。



※小学5年生保護者調査と16歳・17歳保護者調査は令和6年度実施、中学2年生保護者調査は令和5年度実施。

公共料金の未払いの経験 電気料金・ガス料金・水道料金のいずれかで該当	小学5年生保護者 (令和6年度実施)		中学2年生保護者 (令和5年度実施)		16歳・17歳保護者 (令和6年度実施)	
	集計対象	該当割合	集計対象	該当割合	集計対象	該当割合
収入：中央値の2分の1未満	n=211	12.3%	n=173	15.6%	n=211	16.6%
収入：中央値の2分の1以上中央値未満	n=771	3.0%	n=555	3.8%	n=648	2.8%
収入：中央値以上	n=986	0.3%	n=912	0.3%	n=871	0.7%
全体	n=2,076	2.8%	n=1,715	3.2%	n=1,801	3.8%

公共料金の未払いの経験 電気料金・ガス料金・水道料金のいずれかで該当	小学5年生保護者 (令和6年度実施)		中学2年生保護者 (令和5年度実施)		16歳・17歳保護者 (令和6年度実施)	
	集計対象	該当割合	集計対象	該当割合	集計対象	該当割合
横浜地域	n=766	2.0%	n=605	1.8%	n=718	3.1%
川崎地域	n=355	2.2%	n=279	3.2%	n=272	4.0%
横須賀三浦地域	n=141	3.5%	n=135	8.9%	n=152	7.9%
県央地域	n=325	3.7%	n=284	2.8%	n=278	5.0%
湘南地域	n=335	3.6%	n=274	2.9%	n=244	2.1%
県西地域	n=151	3.4%	n=136	5.1%	n=136	2.2%
全体	n=2,076	2.8%	n=1,715	3.2%	n=1,801	3.8%

公共料金の未払いの経験 電気料金・ガス料金・水道料金のいずれかで該当	小学5年生保護者 (令和6年度実施)		中学2年生保護者 (令和5年度実施)		16歳・17歳保護者 (令和6年度実施)	
	集計対象	該当割合	集計対象	該当割合	集計対象	該当割合
結婚している (再婚や事実婚を含む。)	n=1,936	2.2%	n=1,538	2.5%	n=1,572	2.7%
離婚	n=91	14.3%	n=126	9.5%	n=145	12.4%
死別	n=11	0.0%	n=14	7.1%	n=24	0.0%
未婚	n=5	20.0%	n=11	9.1%	n=18	22.2%
わからない	n=4	0.0%	n=1	0.0%	n=7	14.3%
いない	n=21	4.8%	n=22	9.1%	n=30	0.0%
全体	n=2,076	2.8%	n=1,715	3.2%	n=1,801	3.8%

公共料金の未払いの経験 電気料金・ガス料金・水道料金のいずれかで該当	小学5年生保護者 (令和6年度実施)		中学2年生保護者 (令和5年度実施)		16歳・17歳保護者 (令和6年度実施)	
	集計対象	該当割合	集計対象	該当割合	集計対象	該当割合
世帯人数:2人	n=38	7.9%	n=37	10.8%	n=61	13.1%
世帯人数:3人	n=332	2.4%	n=283	4.6%	n=330	3.0%
世帯人数:4人	n=1,054	2.0%	n=834	1.7%	n=885	2.0%
世帯人数:5人	n=436	2.6%	n=390	3.3%	n=366	5.2%
世帯人数:6人	n=115	3.4%	n=83	3.6%	n=76	5.3%
世帯人数:7人以上	n=41	14.6%	n=48	10.4%	n=35	5.7%
全体	n=2,076	2.8%	n=1,715	3.2%	n=1,801	3.8%

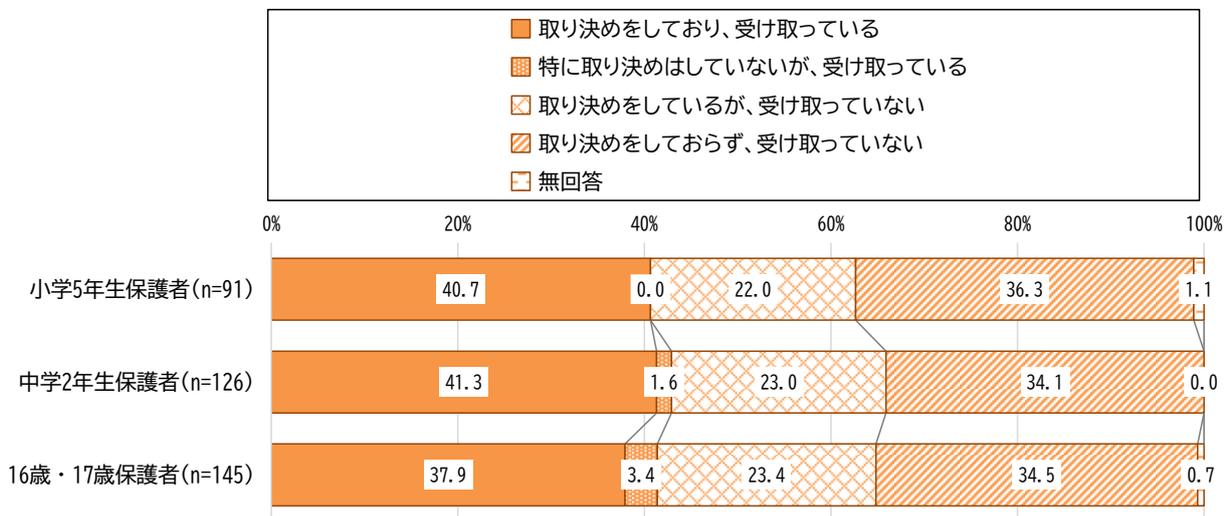
(6) ひとり親の養育費受取状況

【保護者票】

離婚相手と子どもの養育費の取り決めをしていますか。また養育費を現在受け取っていますか。(SA)

婚姻状況について「離婚」と回答した場合に、養育費の取り決め・受け取りの状況として「取り決めをしており、受け取っている」と回答された割合は、小学5年生保護者調査では 40.7%、中学2年生保護者調査では 41.3%、16歳・17歳保護者調査では 37.9%となっている。

また、「取り決めをしているが、受け取っていない」の回答割合は、小学5年生保護者調査では 22.0%、中学2年生保護者調査では 23.0%、16歳・17歳保護者調査では 23.4%となっている。「取り決めをしておらず、受け取っていない」の回答割合は、小学5年生保護者調査では 36.3%、中学2年生保護者調査では 34.1%、16歳・17歳保護者調査では 34.5%となっている。



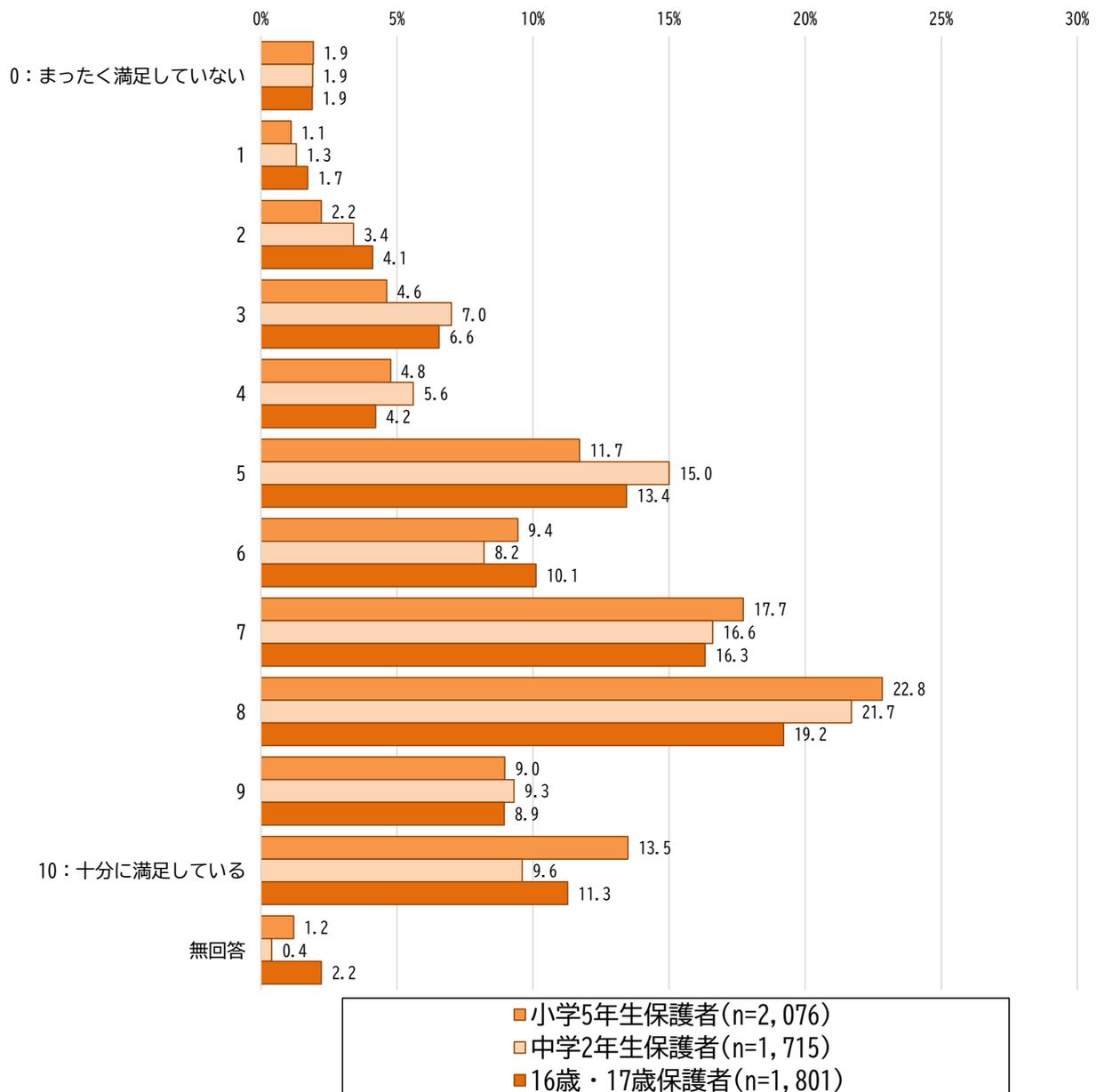
※小学5年生保護者調査と16歳・17歳保護者調査は令和6年度実施、中学2年生保護者調査は令和5年度実施。

(7) 生活満足度

【保護者票】

全体として、あなたは最近の生活に、どのくらい満足していますか。「0」(まったく満足していない)から「10」(十分に満足している)の数字で教えてください。(SA)

生活満足度について、「0」(まったく満足していない)から「10」(十分に満足している)の11段階による回答においては、いずれの調査でも「8」の回答割合が最も高く、次いで「7」の回答割合が高くなっている。



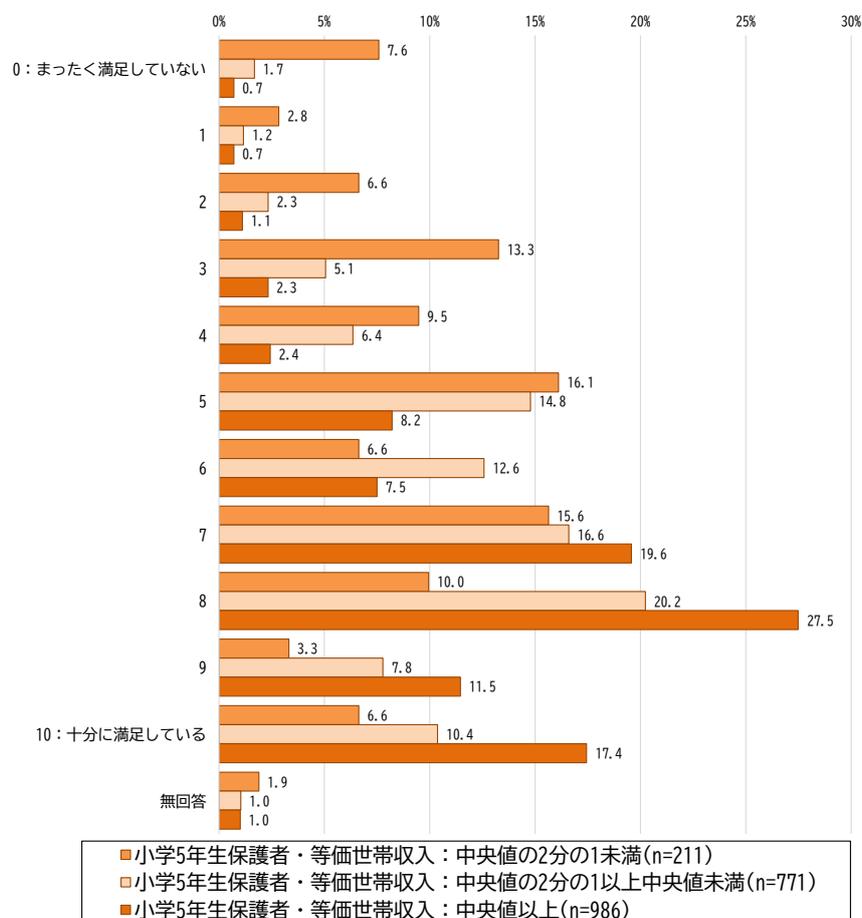
※小学5年生保護者調査と16歳・17歳保護者調査は令和6年度実施、中学2年生保護者調査は令和5年度実施。

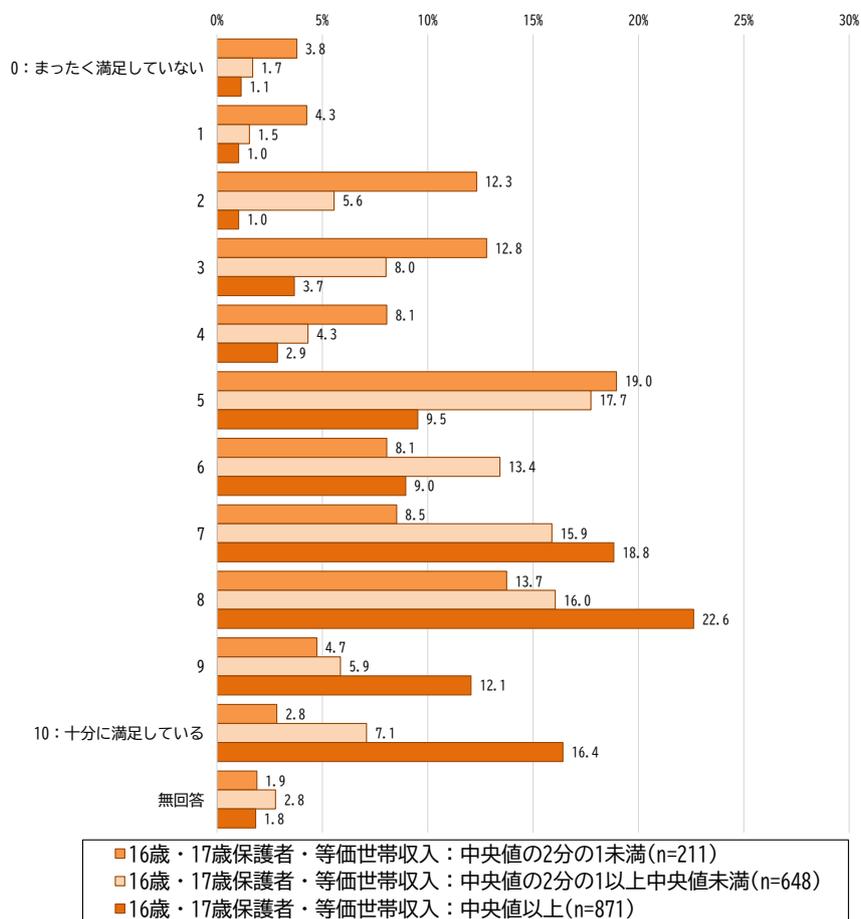
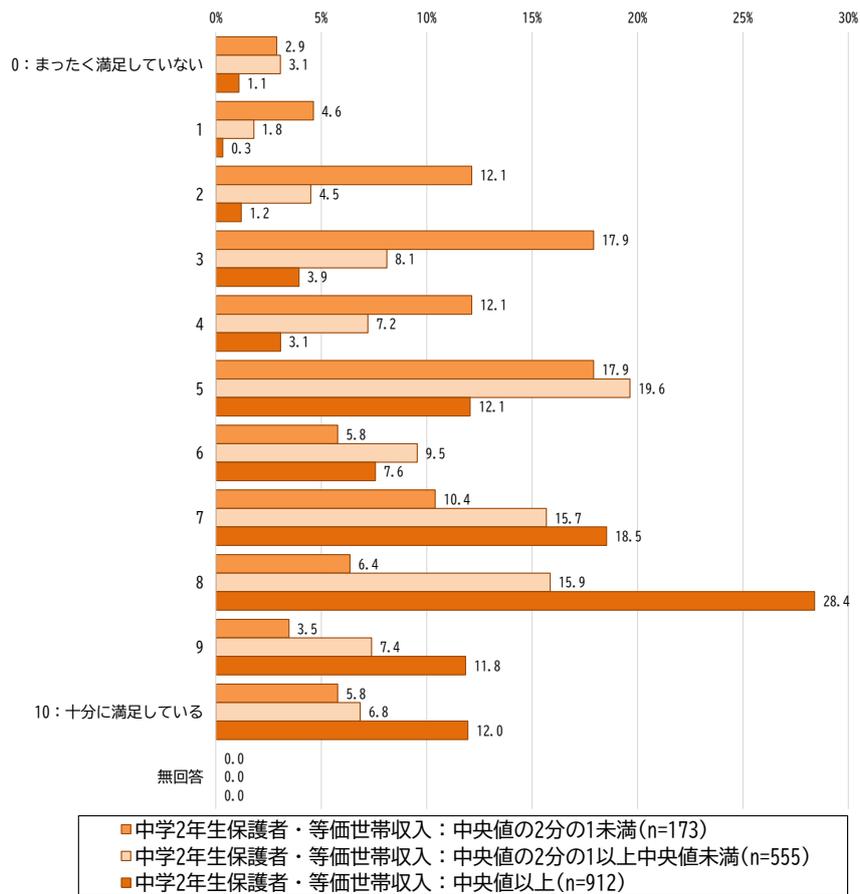
<生活満足度に関するクロス集計>

生活満足度について等価世帯収入の水準別にみると、いずれの調査でも「中央値の2分の1未満」に該当する場合には生活満足度が低い傾向にある。また、生活満足度について「7」～「10」の回答を合計した割合を等価世帯収入の水準別にみると、いずれの調査でも等価世帯収入の水準が低いほど値が低い傾向にある。

婚姻状況別にみると、生活満足度について「7」～「10」の回答を合計した割合は、いずれの調査でも「離婚」等の場合に「結婚している」の場合よりも値が低い傾向にある。

世帯の人数別では、いずれの調査でも世帯人数が「2人」の場合(ひとり親世帯の場合)に生活満足度について「7」～「10」の回答を合計した割合が低い傾向にある。





生活満足度 「7」「8」「9」「10」	小学5年生保護者 (令和6年度実施)		中学2年生保護者 (令和5年度実施)		16歳・17歳保護者 (令和6年度実施)	
	集計対象	該当割合	集計対象	該当割合	集計対象	該当割合
収入:中央値の2分の1未満	n=211	35.5%	n=173	26.1%	n=211	29.7%
収入:中央値の2分の1以上 中央値未満	n=771	55.0%	n=555	45.8%	n=648	44.9%
収入:中央値以上	n=986	76.0%	n=912	70.7%	n=871	69.9%
全体	n=2,076	63.0%	n=1,715	57.2%	n=1,801	55.7%

生活満足度 「7」「8」「9」「10」	小学5年生保護者 (令和6年度実施)		中学2年生保護者 (令和5年度実施)		16歳・17歳保護者 (令和6年度実施)	
	集計対象	該当割合	集計対象	該当割合	集計対象	該当割合
横浜地域	n=766	64.1%	n=605	61.4%	n=718	58.5%
川崎地域	n=355	65.9%	n=279	57.4%	n=272	61.8%
横須賀三浦地域	n=141	66.6%	n=135	56.3%	n=152	48.0%
県央地域	n=325	61.0%	n=284	55.7%	n=278	49.6%
湘南地域	n=335	60.9%	n=274	56.2%	n=244	52.0%
県西地域	n=151	56.3%	n=136	44.1%	n=136	56.6%
全体	n=2,076	63.0%	n=1,715	57.2%	n=1,801	55.7%

生活満足度 「7」「8」「9」「10」	小学5年生保護者 (令和6年度実施)		中学2年生保護者 (令和5年度実施)		16歳・17歳保護者 (令和6年度実施)	
	集計対象	該当割合	集計対象	該当割合	集計対象	該当割合
結婚している (再婚や事実婚を含む。)	n=1,936	64.8%	n=1,538	59.7%	n=1,572	58.1%
離婚	n=91	35.2%	n=126	30.8%	n=145	37.1%
死別	n=11	0.0%	n=14	42.8%	n=24	41.7%
未婚	n=5	80.0%	n=11	27.3%	n=18	50.0%
わからない	n=4	50.0%	n=1	0.0%	n=7	14.3%
いない	n=21	61.9%	n=22	63.5%	n=30	43.3%
全体	n=2,076	63.0%	n=1,715	57.2%	n=1,801	55.7%

生活満足度 「7」「8」「9」「10」	小学5年生保護者 (令和6年度実施)		中学2年生保護者 (令和5年度実施)		16歳・17歳保護者 (令和6年度実施)	
	集計対象	該当割合	集計対象	該当割合	集計対象	該当割合
世帯人数:2人	n=38	50.0%	n=37	35.1%	n=61	36.1%
世帯人数:3人	n=332	59.9%	n=283	48.7%	n=330	56.1%
世帯人数:4人	n=1,054	64.3%	n=834	62.2%	n=885	58.5%
世帯人数:5人	n=436	66.3%	n=390	56.2%	n=366	54.6%
世帯人数:6人	n=115	57.4%	n=83	51.8%	n=76	47.3%
世帯人数:7人以上	n=41	51.2%	n=48	60.5%	n=35	51.5%
全体	n=2,076	63.0%	n=1,715	57.2%	n=1,801	55.7%

1-2. 就労の状況

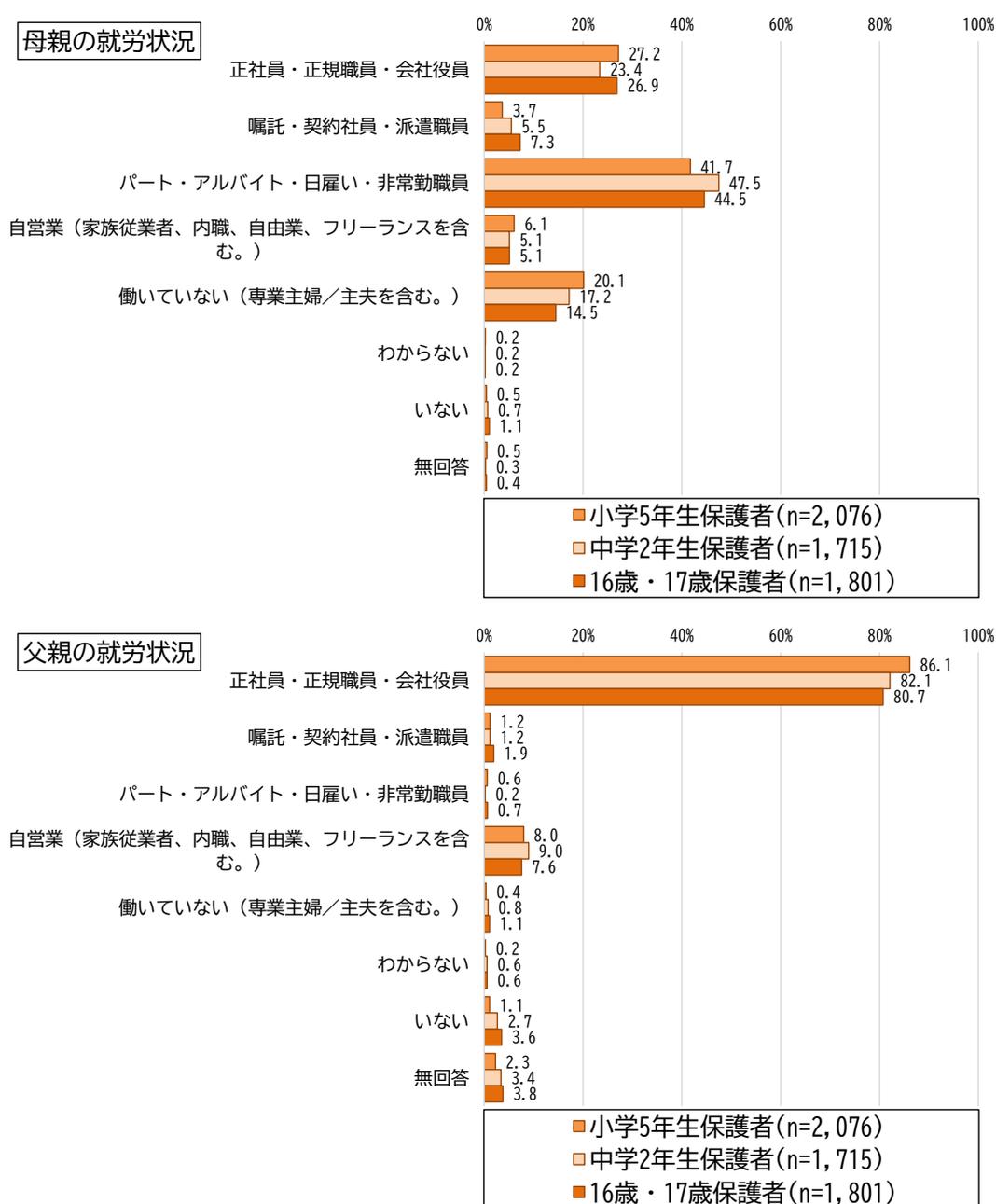
(1) 母親・父親の就労状況

【保護者票】

お子さんの親(保護者)の就労状況について、あてはまるものを回答してください。(SA)

母親の就労状況については、いずれの調査も「パート・アルバイト・日雇い・非常勤職員」の回答割合が最も高くなっている。「正社員・正規職員・会社役員」の回答割合は、小学5年生保護者調査では27.2%、中学2年生保護者調査では23.4%、16歳・17歳保護者調査では26.9%となっている。

父親の就労状況については、「正社員・正規職員・会社役員」の回答割合が最も高く、小学5年生保護者調査では86.1%、中学2年生保護者調査では82.1%、16歳・17歳保護者調査では80.7%となっている。

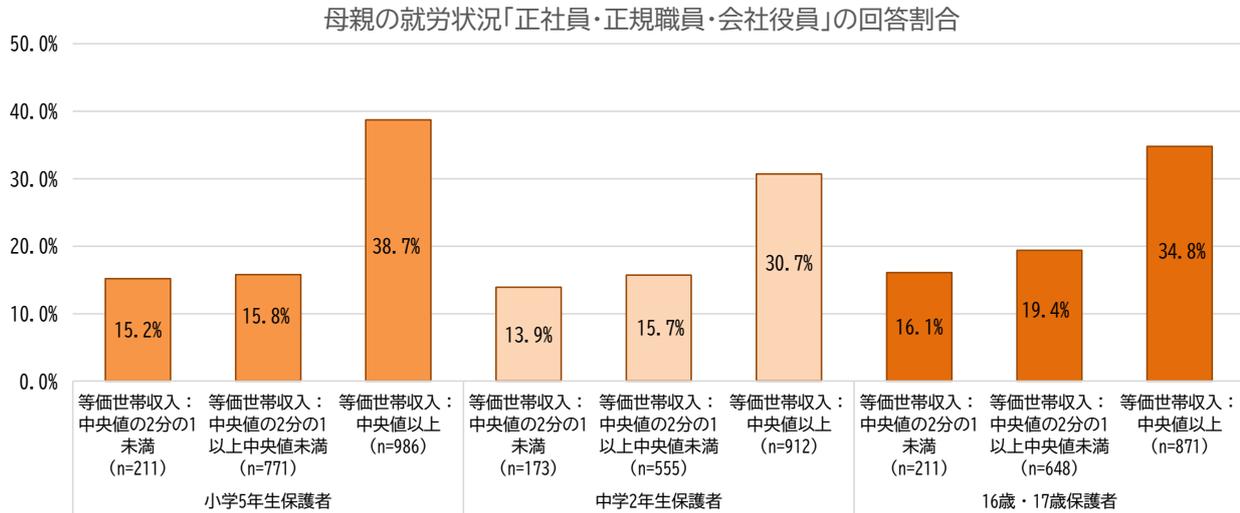


※小学5年生保護者調査と16歳・17歳保護者調査は令和6年度実施、中学2年生保護者調査は令和5年度実施。

<母親の就労状況に関するクロス集計>

母親の就労状況について「正社員・正規職員・会社役員」の回答割合を等価世帯収入の水準別にみると、いずれの調査でも等価世帯収入の水準が「中央値以上」に該当する場合に値が高く、「中央値の2分の1未満」及び「中央値の2分の1以上中央値未満」に該当する場合に値が低い傾向にある。

また、婚姻状況別にみると、母親の就労状況について「正社員・正規職員・会社役員」の回答割合は、いずれの調査でも「離婚」等の場合に「結婚している」の場合よりも値が高い傾向にある。



※小学5年生保護者調査と16歳・17歳保護者調査は令和6年度実施、中学2年生保護者調査は令和5年度実施。

母親の就労状況	小学5年生保護者 (令和6年度実施)		中学2年生保護者 (令和5年度実施)		16歳・17歳保護者 (令和6年度実施)	
	集計対象	該当割合	集計対象	該当割合	集計対象	該当割合
「正社員・正規職員・会社役員」						
収入:中央値の2分の1未満	n=211	15.2%	n=173	13.9%	n=211	16.1%
収入:中央値の2分の1以上中央値未満	n=771	15.8%	n=555	15.7%	n=648	19.4%
収入:中央値以上	n=986	38.7%	n=912	30.7%	n=871	34.8%
全体	n=2,076	27.2%	n=1,715	23.4%	n=1,801	26.9%

母親の就労状況	小学5年生保護者 (令和6年度実施)		中学2年生保護者 (令和5年度実施)		16歳・17歳保護者 (令和6年度実施)	
	集計対象	該当割合	集計対象	該当割合	集計対象	該当割合
「正社員・正規職員・会社役員」						
結婚している (再婚や事実婚を含む。)	n=1,936	27.0%	n=1,538	22.2%	n=1,572	25.8%
離婚	n=91	34.1%	n=126	34.9%	n=145	41.4%
死別	n=11	0.0%	n=14	28.6%	n=24	12.5%
未婚	n=5	60.0%	n=11	54.5%	n=18	33.3%
わからない	n=4	50.0%	n=1	0.0%	n=7	57.1%
いない	n=21	28.6%	n=22	27.3%	n=30	20.0%
全体	n=2,076	27.2%	n=1,715	23.4%	n=1,801	26.9%

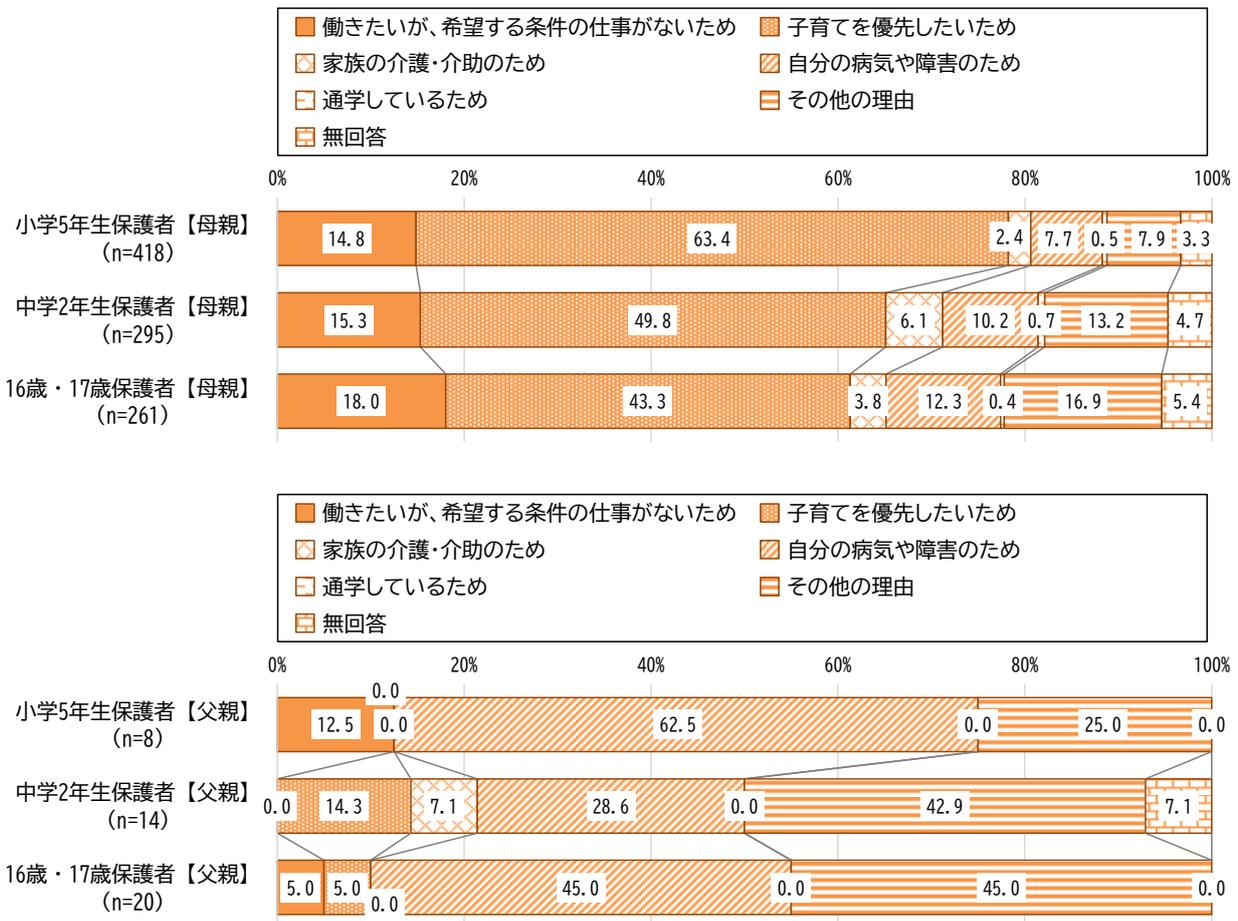
(2) 就労していない理由

【保護者票】

働いていない最も主な理由を教えてください。(SA)

母親が働いていない主な理由については、いずれの調査でも、「子育てを優先したいため」の回答割合が高くなっている。その割合は、小学5年生保護者調査では 63.4%、中学2年生保護者調査では 49.8%、16歳・17歳保護者調査では 43.3%となっており、学校・年齢段階が高いほうが値が低い傾向にある。

父親が働いていない理由については、いずれの調査でも、「自分の病気や障害のため」や「その他の理由」の回答割合が高くなっている。



※小学5年生保護者調査と16歳・17歳保護者調査は令和6年度実施、中学2年生保護者調査は令和5年度実施。

1-3. 保育の状況

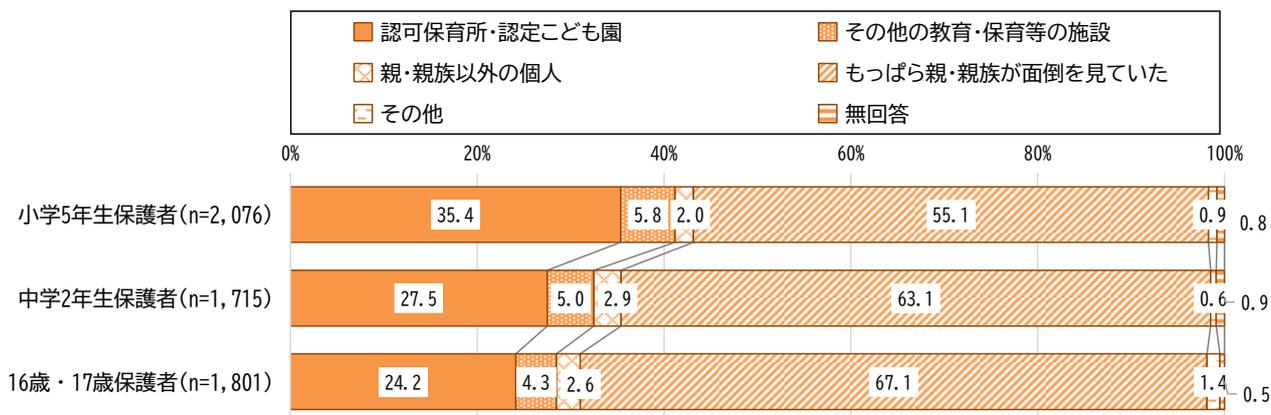
(1) 子どもが0～2歳の間に通っていた教育・保育施設等

【保護者票】

お子さんが0～2歳の間に通っていた教育・保育施設等で最も主なもの(期間が長いもの)をお答えください。(SA)

子どもが0～2歳の間に通っていた教育・保育施設等で最も主なもの(期間が長いもの)については、いずれの調査も、「もっぱら親・親族が面倒を見ていた」の回答割合が最も高くなっている。

その割合は、小学5年生保護者調査では55.1%、中学2年生保護者調査では63.1%、16歳・17歳保護者調査では67.1%となっており、学校・年齢段階が高いほうが値が高い傾向にある。



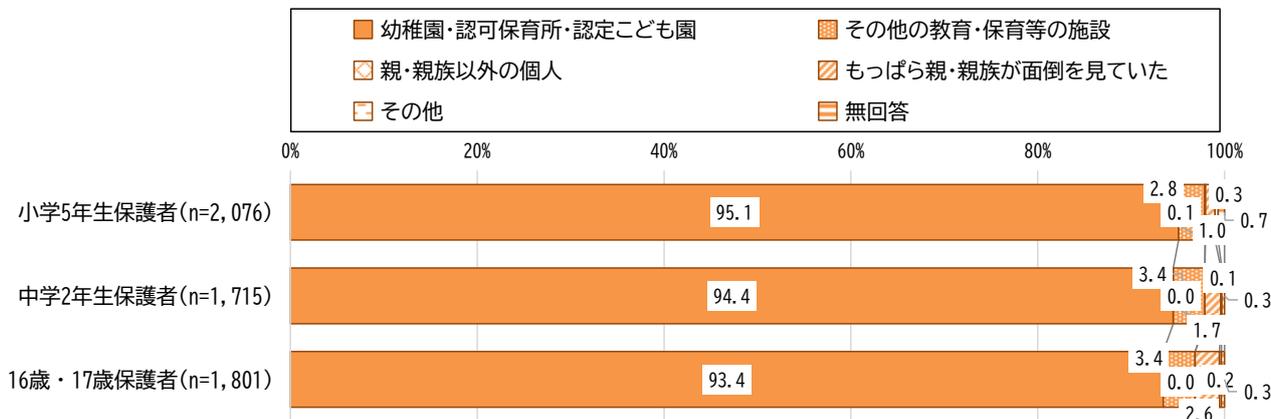
※小学5年生保護者調査と16歳・17歳保護者調査は令和6年度実施、中学2年生保護者調査は令和5年度実施。

(2) 子どもが3～5歳の間に通っていた教育・保育施設等

【保護者票】

お子さんが3～5歳の間に通っていた教育・保育施設等で最も主なもの(期間が長いもの)をお答えください。(SA)

子どもが3～5歳の間に通っていた教育・保育施設等で最も主なもの(期間が長いもの)については、いずれの調査でも、「幼稚園・認可保育所・認定こども園」の回答割合が最も高くなっている。



※小学5年生保護者調査と16歳・17歳保護者調査は令和6年度実施、中学2年生保護者調査は令和5年度実施。

1-4. 子どもとの関わり方

(1) テレビ等のルールについて

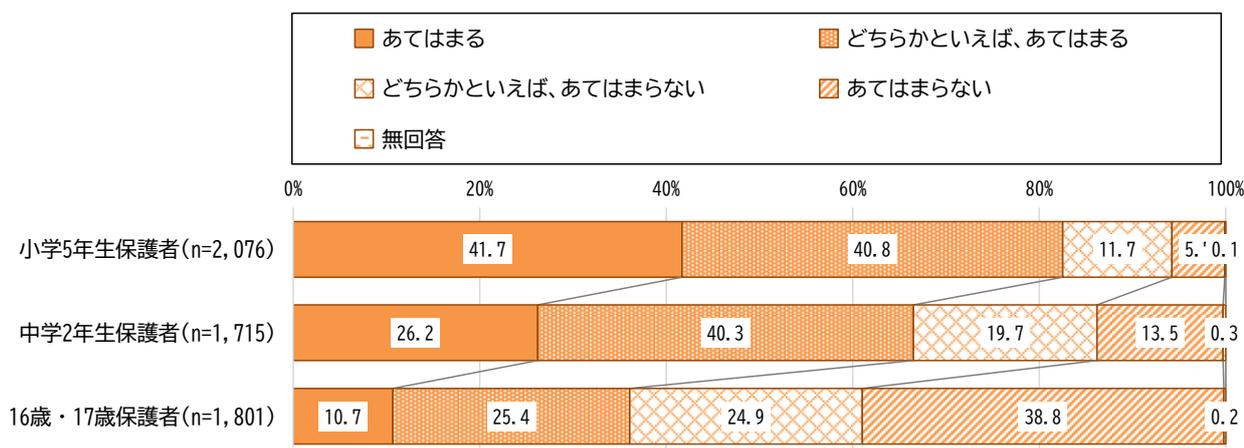
【保護者票】

あなたとお子さんの関わり方について、次のようなことにどれくらいあてはまりますか。(SA)

a) テレビ・ゲーム・インターネット等の視聴時間等のルールを決めている

テレビ・ゲーム・インターネット等の視聴時間等のルールを決めているかについて、小学5年生保護者調査では「あてはまる」の回答割合が最も高く、中学2年生保護者調査では「どちらかといえば、あてはまる」が、16歳・17歳保護者調査では「あてはまらない」の回答割合が最も高くなっている。

「あてはまる」又は「どちらかといえば、あてはまる」と回答された割合は、小学5年生保護者調査では82.5%、中学2年生保護者調査では66.5%、16歳・17歳保護者調査では36.1%となっており、学校・年齢段階が低いほうが値が高い傾向にある。

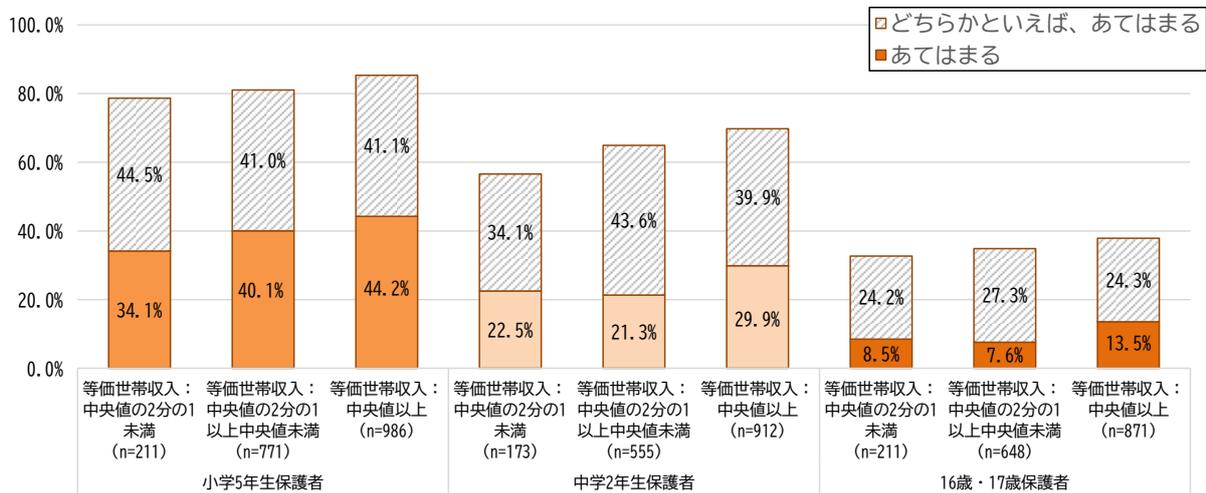


※小学5年生保護者調査と16歳・17歳保護者調査は令和6年度実施、中学2年生保護者調査は令和5年度実施。

<テレビ等のルールに関するクロス集計>

テレビ・ゲーム・インターネット等の視聴時間等のルールを決めているかについて「あてはまる」又は「どちらかといえば、あてはまる」と回答された割合を等価世帯収入の水準別にみると、いずれの調査でも等価世帯収入の水準が低いほど値が低い傾向にある。

また、婚姻状況別にみると、「あてはまる」又は「どちらかといえば、あてはまる」と回答された割合は、いずれの調査でも「離婚」等の場合に「結婚している」の場合よりも値が低い傾向にある。



※小学5年生保護者調査と16歳・17歳保護者調査は令和6年度実施、中学2年生保護者調査は令和5年度実施。

視聴時間等のルールを決めている 「あてはまる」「どちらかといえば、あてはまる」	小学5年生保護者 (令和6年度実施)		中学2年生保護者 (令和5年度実施)		16歳・17歳保護者 (令和6年度実施)	
	集計対象	該当割合	集計対象	該当割合	集計対象	該当割合
収入:中央値の2分の1未満	n=211	78.6%	n=173	56.6%	n=211	32.7%
収入:中央値の2分の1以上中央値未満	n=771	81.1%	n=555	64.9%	n=648	34.9%
収入:中央値以上	n=986	85.3%	n=912	69.8%	n=871	37.8%
全体	n=2,076	82.5%	n=1,715	66.5%	n=1,801	36.1%

視聴時間等のルールを決めている 「あてはまる」「どちらかといえば、あてはまる」	小学5年生保護者 (令和6年度実施)		中学2年生保護者 (令和5年度実施)		16歳・17歳保護者 (令和6年度実施)	
	集計対象	該当割合	集計対象	該当割合	集計対象	該当割合
結婚している (再婚や事実婚を含む。)	n=1,936	83.0%	n=1,538	68.0%	n=1,572	37.0%
離婚	n=91	75.9%	n=126	52.4%	n=145	29.0%
死別	n=11	54.6%	n=14	64.3%	n=24	29.2%
未婚	n=5	80.0%	n=11	54.6%	n=18	27.8%
わからない	n=4	50.0%	n=1	0.0%	n=7	0.0%
いない	n=21	80.9%	n=22	59.1%	n=30	36.7%
全体	n=2,076	82.5%	n=1,715	66.5%	n=1,801	36.1%

(2) 本や新聞を読むことについて

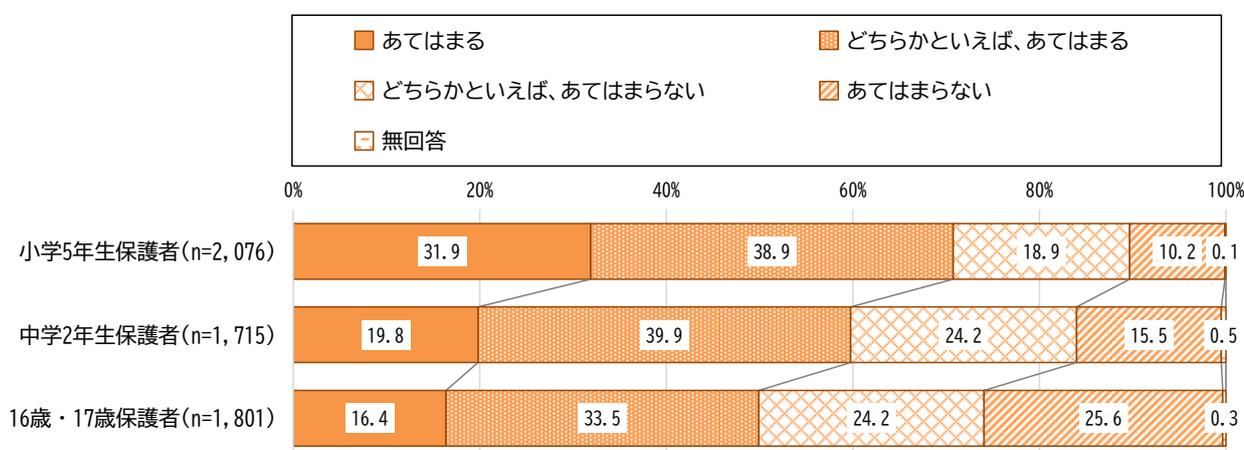
【保護者票】

あなたとお子さんの関わり方について、次のようなことにどれくらいあてはまりますか。(SA)

b) お子さんに本や新聞を読むように勧めている

子どもに本や新聞を読むように勧めているかについては、いずれの調査でも「どちらかといえば、あてはまる」の回答割合が最も高くなっている。

「あてはまる」又は「どちらかといえば、あてはまる」と回答された割合は、小学5年生保護者調査では70.8%、中学2年生保護者調査では59.7%、16歳・17歳保護者調査では49.9%となっており、学校・年齢段階が低いほうが値が高い傾向にある。

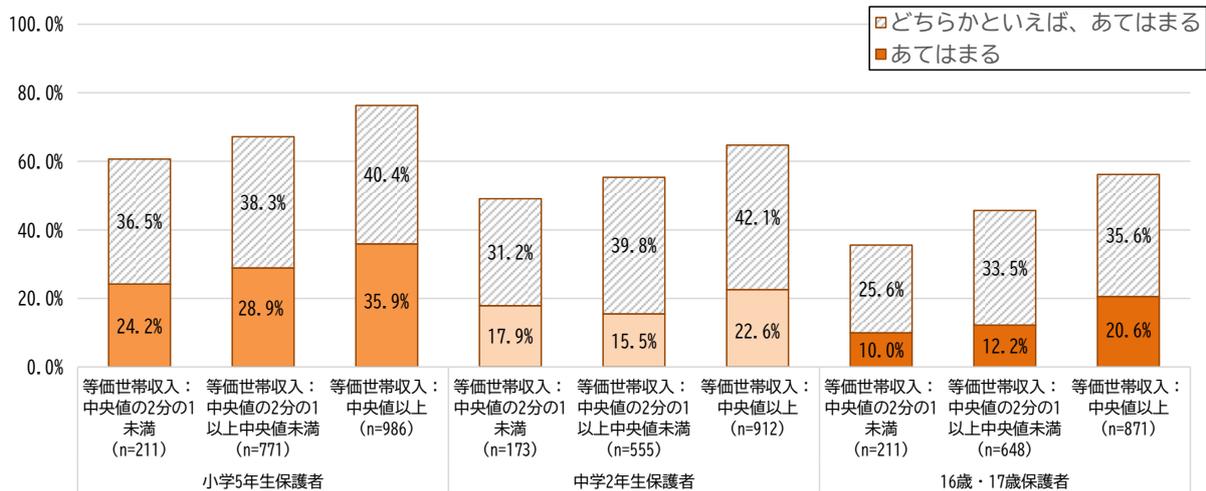


※小学5年生保護者調査と16歳・17歳保護者調査は令和6年度実施、中学2年生保護者調査は令和5年度実施。

<本や新聞を読むことに関するクロス集計>

子どもに本や新聞を読むように勧めているかについて「あてはまる」又は「どちらかといえば、あてはまる」と回答された割合を等価世帯収入の水準別にみると、いずれの調査でも等価世帯収入の水準が低いほど値が低い傾向にある。

また、婚姻状況別にみると、「あてはまる」又は「どちらかといえば、あてはまる」と回答された割合は、いずれの調査でも「離婚」等の場合に「結婚している」の場合よりも値が低い傾向にある。



※小学5年生保護者調査と16歳・17歳保護者調査は令和6年度実施、中学2年生保護者調査は令和5年度実施。

本や新聞を読むように勧めている 「あてはまる」「どちらかといえば、あてはまる」	小学5年生保護者 (令和6年度実施)		中学2年生保護者 (令和5年度実施)		16歳・17歳保護者 (令和6年度実施)	
	集計対象	該当割合	集計対象	該当割合	集計対象	該当割合
収入:中央値の2分の1未満	n=211	60.7%	n=173	49.1%	n=211	35.6%
収入:中央値の2分の1以上中央値未満	n=771	67.2%	n=555	55.3%	n=648	45.7%
収入:中央値以上	n=986	76.3%	n=912	64.7%	n=871	56.2%
全体	n=2,076	70.8%	n=1,715	59.7%	n=1,801	49.9%

本や新聞を読むように勧めている 「あてはまる」「どちらかといえば、あてはまる」	小学5年生保護者 (令和6年度実施)		中学2年生保護者 (令和5年度実施)		16歳・17歳保護者 (令和6年度実施)	
	集計対象	該当割合	集計対象	該当割合	集計対象	該当割合
結婚している (再婚や事実婚を含む。)	n=1,936	71.7%	n=1,538	61.0%	n=1,572	51.6%
離婚	n=91	56.1%	n=126	43.6%	n=145	35.8%
死別	n=11	72.7%	n=14	71.5%	n=24	37.5%
未婚	n=5	40.0%	n=11	54.6%	n=18	44.4%
わからない	n=4	50.0%	n=1	0.0%	n=7	28.6%
いない	n=21	61.9%	n=22	31.8%	n=30	50.0%
全体	n=2,076	70.8%	n=1,715	59.7%	n=1,801	49.9%

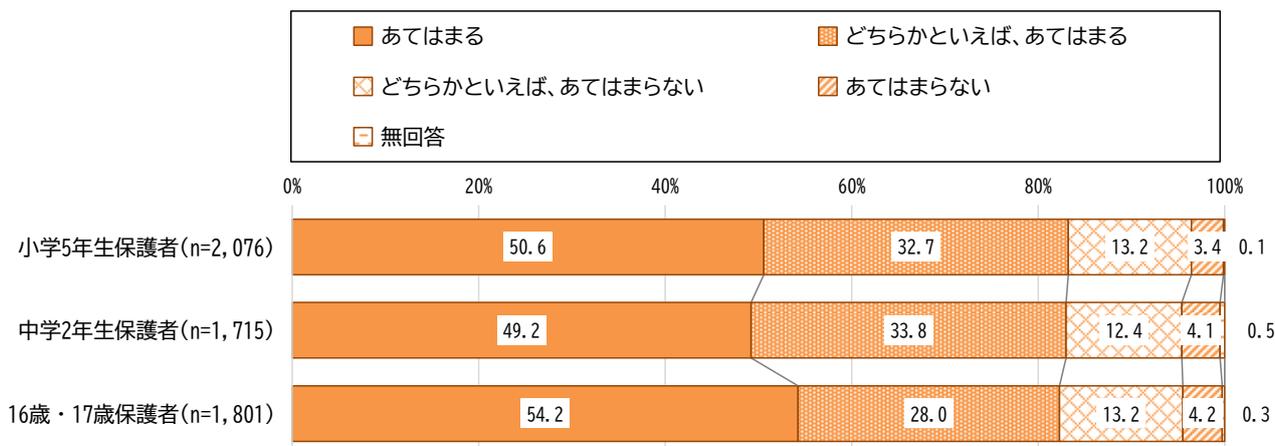
(3) 絵本の読み聞かせについて

【保護者票】

あなたとお子さんの関わり方について、次のようなことにどれくらいあてはまりますか。(SA)

c) お子さんが小さいころ、絵本の読み聞かせをしていた

子どもが小さいころ、絵本の読み聞かせをしたかについては、いずれの調査でも「あてはまる」の回答割合が最も高くなっている。
 「あてはまる」又は「どちらかといえば、あてはまる」と回答された割合は、小学5年生保護者調査では83.3%、中学2年生保護者調査では83.0%、16歳・17歳保護者調査では82.2%となっている。

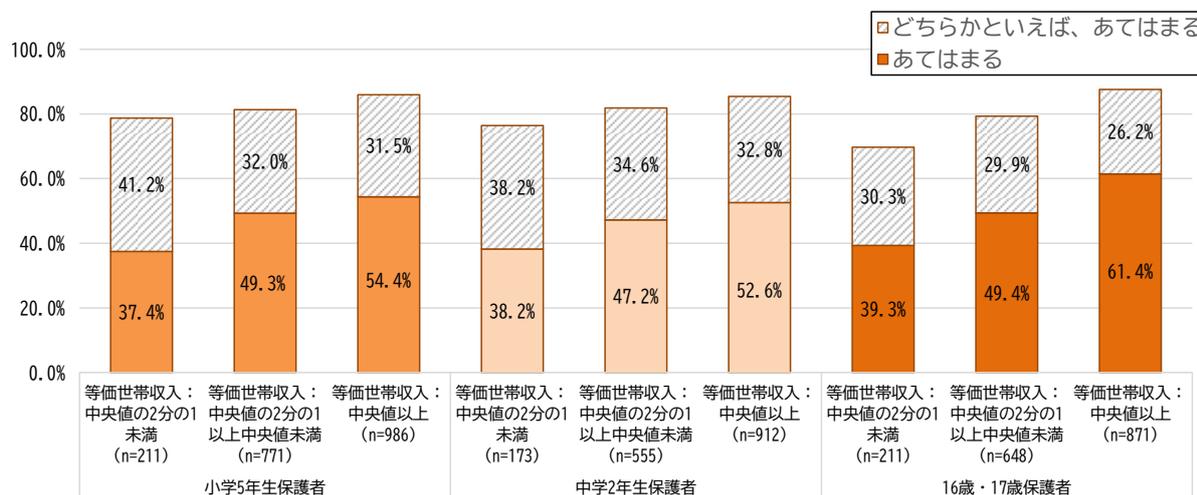


※小学5年生保護者調査と16歳・17歳保護者調査は令和6年度実施、中学2年生保護者調査は令和5年度実施。

<絵本の読み聞かせに関するクロス集計>

子どもが小さいころ、絵本の読み聞かせをしたかについて「あてはまる」又は「どちらかといえば、あてはまる」と回答された割合を等価世帯収入の水準別にみると、いずれの調査でも等価世帯収入の水準が低いほど値が低い傾向にある。

また、婚姻状況別にみると、「あてはまる」又は「どちらかといえば、あてはまる」と回答された割合は、いずれの調査でも「離婚」等の場合に「結婚している」の場合よりも値が低い傾向にある。



※小学5年生保護者調査と16歳・17歳保護者調査は令和6年度実施、中学2年生保護者調査は令和5年度実施。

絵本の読み聞かせをしたか	小学5年生保護者 (令和6年度実施)		中学2年生保護者 (令和5年度実施)		16歳・17歳保護者 (令和6年度実施)	
	集計対象	該当割合	集計対象	該当割合	集計対象	該当割合
「あてはまる」「どちらかといえば、あてはまる」						
収入:中央値の2分の1未満	n=211	78.6%	n=173	76.4%	n=211	69.6%
収入:中央値の2分の1以上中央値未満	n=771	81.3%	n=555	81.8%	n=648	79.3%
収入:中央値以上	n=986	85.9%	n=912	85.4%	n=871	87.6%
全体	n=2,076	83.3%	n=1,715	83.0%	n=1,801	82.2%

絵本の読み聞かせをしたか	小学5年生保護者 (令和6年度実施)		中学2年生保護者 (令和5年度実施)		16歳・17歳保護者 (令和6年度実施)	
	集計対象	該当割合	集計対象	該当割合	集計対象	該当割合
「あてはまる」「どちらかといえば、あてはまる」						
結婚している (再婚や事実婚を含む。)	n=1,936	83.8%	n=1,538	83.8%	n=1,572	83.9%
離婚	n=91	75.9%	n=126	77.0%	n=145	68.2%
死別	n=11	72.8%	n=14	85.7%	n=24	91.7%
未婚	n=5	80.0%	n=11	72.8%	n=18	83.3%
わからない	n=4	75.0%	n=1	100.0%	n=7	71.4%
いない	n=21	90.4%	n=22	77.3%	n=30	63.3%
全体	n=2,076	83.3%	n=1,715	83.0%	n=1,801	82.2%

(4) 勉強や成績のことについて

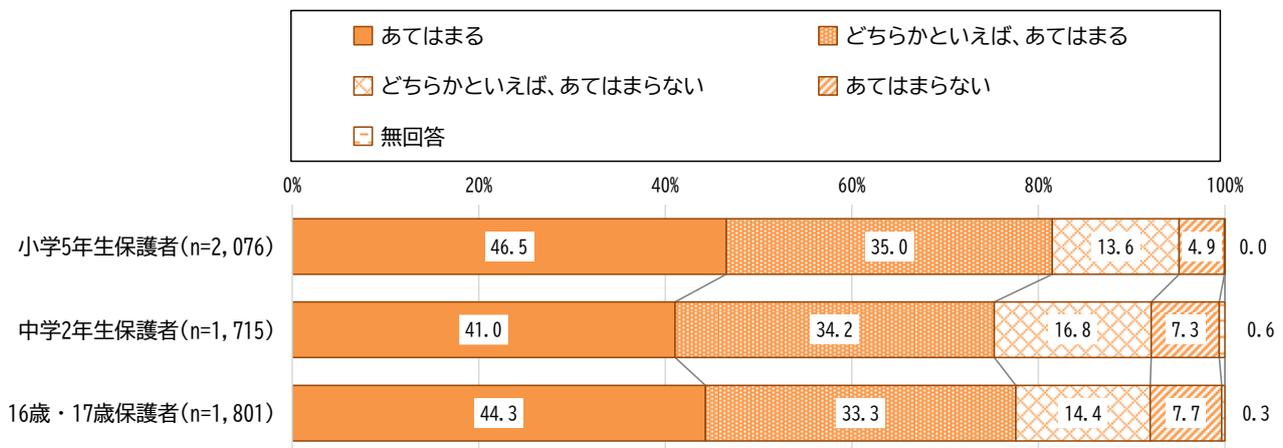
【保護者票】

あなたとお子さんの関わり方について、次のようなことにどれくらいあてはまりますか。(SA)

d)お子さんから、勉強や成績のことについて話をしてくれる

子どもから勉強や成績のことについて話をしてくれるかについては、いずれの調査でも「あてはまる」の回答割合が最も高くなっている。

「あてはまる」又は「どちらかといえば、あてはまる」と回答された割合は、小学5年生保護者調査では81.5%、中学2年生保護者調査では75.2%、16歳・17歳保護者調査では77.6%となっている。

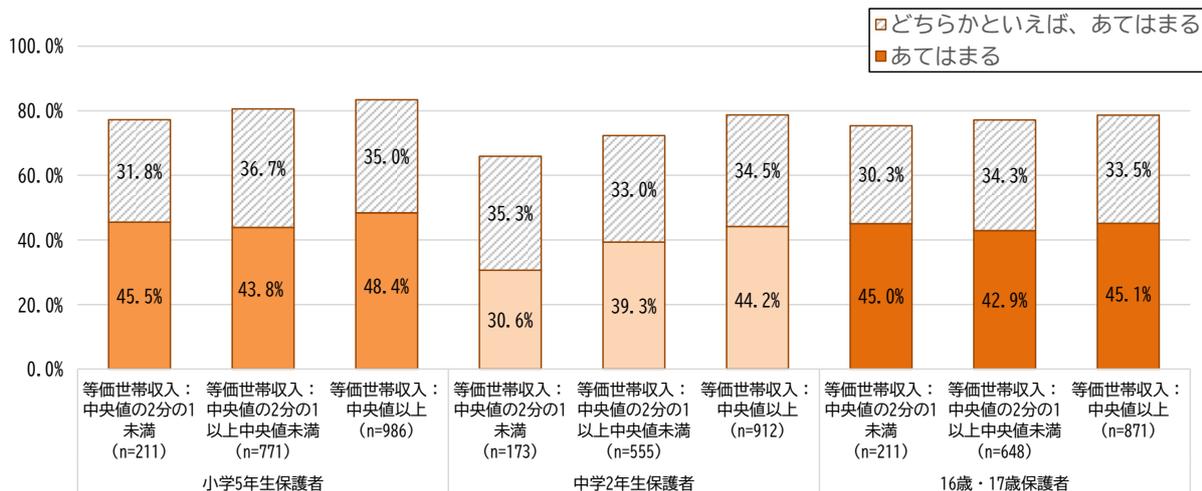


※小学5年生保護者調査と16歳・17歳保護者調査は令和6年度実施、中学2年生保護者調査は令和5年度実施。

<勉強や成績のことにに関するクロス集計>

子どもから勉強や成績のことに話をしてもらえるかについて「あてはまる」又は「どちらかといえば、あてはまる」と回答された割合を等価世帯収入の水準別にみると、いずれの調査でも等価世帯収入の水準が低いほど値が低い傾向にある。(ただし、「あてはまる」の回答割合のみでは、小学5年生保護者調査と16歳・17歳調査について必ずしもそのような傾向にはなっていない。)

また、婚姻状況別にみると、「あてはまる」又は「どちらかといえば、あてはまる」と回答された割合は、いずれの調査でも「離婚」等の場合に「結婚している」の場合よりも値が低い傾向にある。



※小学5年生保護者調査と16歳・17歳保護者調査は令和6年度実施、中学2年生保護者調査は令和5年度実施。

勉強や成績のことを話してくれる 「あてはまる」「どちらかといえば、あてはまる」	小学5年生保護者 (令和6年度実施)		中学2年生保護者 (令和5年度実施)		16歳・17歳保護者 (令和6年度実施)	
	集計対象	該当割合	集計対象	該当割合	集計対象	該当割合
収入:中央値の2分の1未満	n=211	77.3%	n=173	65.9%	n=211	75.3%
収入:中央値の2分の1以上中央値未満	n=771	80.5%	n=555	72.3%	n=648	77.2%
収入:中央値以上	n=986	83.4%	n=912	78.7%	n=871	78.6%
全体	n=2,076	81.5%	n=1,715	75.2%	n=1,801	77.6%

勉強や成績のことを話してくれる 「あてはまる」「どちらかといえば、あてはまる」	小学5年生保護者 (令和6年度実施)		中学2年生保護者 (令和5年度実施)		16歳・17歳保護者 (令和6年度実施)	
	集計対象	該当割合	集計対象	該当割合	集計対象	該当割合
結婚している (再婚や事実婚を含む。)	n=1,936	81.9%	n=1,538	76.0%	n=1,572	77.8%
離婚	n=91	77.0%	n=126	66.6%	n=145	75.1%
死別	n=11	72.8%	n=14	85.7%	n=24	75.0%
未婚	n=5	100.0%	n=11	63.7%	n=18	72.3%
わからない	n=4	75.0%	n=1	100.0%	n=7	85.8%
いない	n=21	66.7%	n=22	77.3%	n=30	83.3%
全体	n=2,076	81.5%	n=1,715	75.2%	n=1,801	77.6%

1-5. 学校との関わり・参加

(1) 学校行事への参加

【保護者票(小学5年生保護者票・中学2年生保護者票)】

あなたは、次のようなことをどの程度していますか。(SA)

a) 授業参観や運動会などの学校行事への参加

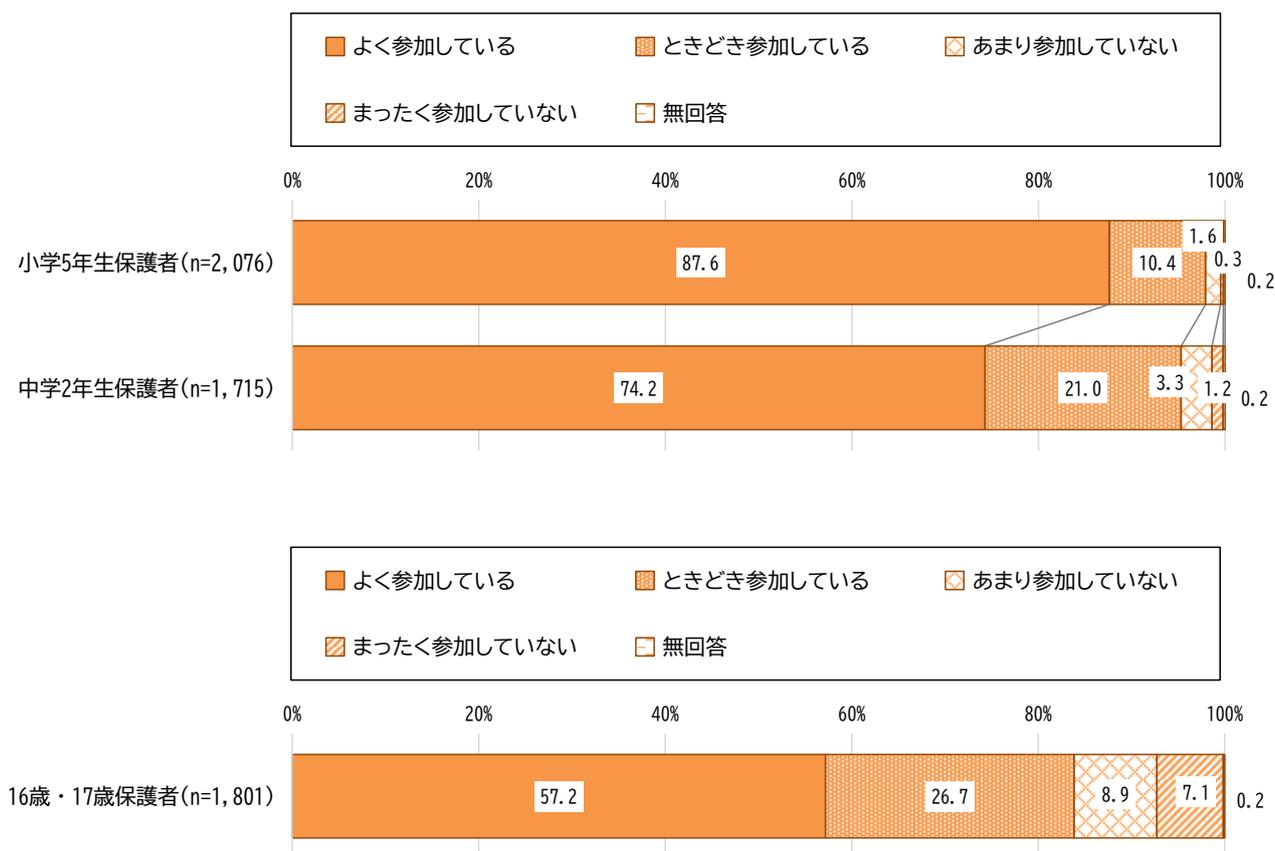
【保護者票(16歳・17歳保護者票)】

あなたは、次のようなことをどの程度していますか。(SA)

a) 体育祭や文化祭などの学校行事への参加

「授業参観や運動会などの学校行事」、あるいは「体育祭や文化祭などの学校行事」にどの程度参加しているかについては、いずれの調査でも「よく参加している」の回答割合が最も高くなっている。

「よく参加している」と回答された割合は、小学5年生保護者調査では87.6%、中学2年生保護者調査では74.2%、16歳・17歳保護者調査では57.2%となっている。

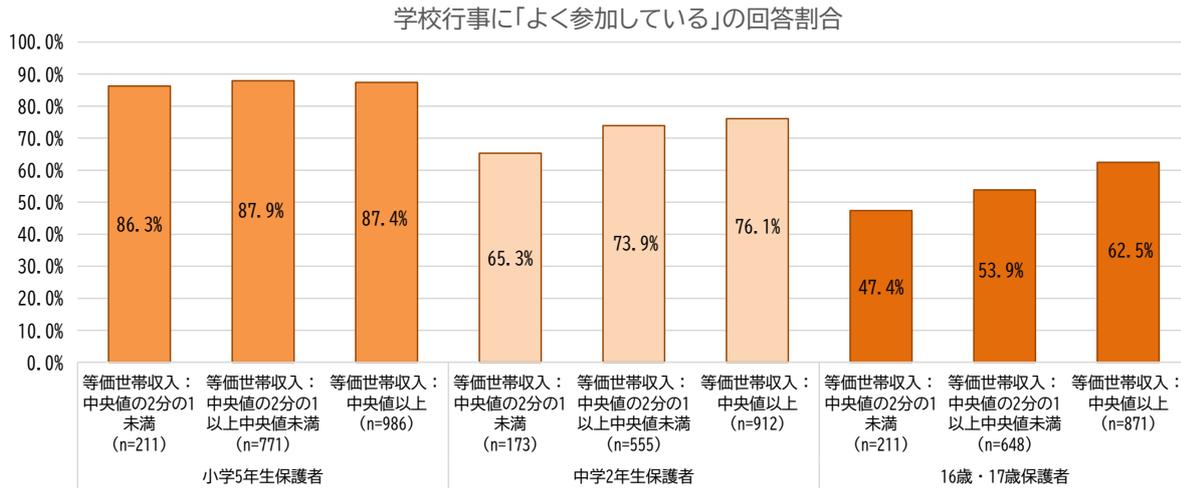


※小学5年生保護者調査と16歳・17歳保護者調査は令和6年度実施、中学2年生保護者調査は令和5年度実施。

<学校行事への参加に関するクロス集計>

「授業参観や運動会などの学校行事」、あるいは「体育祭や文化祭などの学校行事」にどの程度参加しているかについて「よく参加している」と回答された割合を等価世帯収入の水準別にみると、中学2年生保護者調査と16歳・17歳保護者調査では、等価世帯収入の水準が「中央値以上」に該当する場合に値が高く、「中央値の2分の1未満」に該当する場合に値が低い傾向にある。

また、婚姻状況別にみると、「よく参加している」と回答された割合は、いずれの調査でも「離婚」等の場合に「結婚している」の場合よりも値が低い傾向にある。



※小学5年生保護者調査と16歳・17歳保護者調査は令和6年度実施、中学2年生保護者調査は令和5年度実施。

学校行事への参加状況	小学5年生保護者 (令和6年度実施)		中学2年生保護者 (令和5年度実施)		16歳・17歳保護者 (令和6年度実施)	
	集計対象	該当割合	集計対象	該当割合	集計対象	該当割合
「よく参加している」						
収入：中央値の2分の1未満	n=211	86.3%	n=173	65.3%	n=211	47.4%
収入：中央値の2分の1以上中央値未満	n=771	87.9%	n=555	73.9%	n=648	53.9%
収入：中央値以上	n=986	87.4%	n=912	76.1%	n=871	62.5%
全体	n=2,076	87.6%	n=1,715	74.2%	n=1,801	57.2%

学校行事への参加状況	小学5年生保護者 (令和6年度実施)		中学2年生保護者 (令和5年度実施)		16歳・17歳保護者 (令和6年度実施)	
	集計対象	該当割合	集計対象	該当割合	集計対象	該当割合
「よく参加している」						
結婚している (再婚や事実婚を含む。)	n=1,936	87.8%	n=1,538	75.6%	n=1,572	58.7%
離婚	n=91	81.3%	n=126	57.1%	n=145	42.8%
死別	n=11	81.8%	n=14	71.4%	n=24	62.5%
未婚	n=5	100.0%	n=11	54.5%	n=18	50.0%
わからない	n=4	75.0%	n=1	0.0%	n=7	28.6%
いない	n=21	90.5%	n=22	90.9%	n=30	53.3%
全体	n=2,076	87.6%	n=1,715	74.2%	n=1,801	57.2%

(2) PTA 活動等への参加

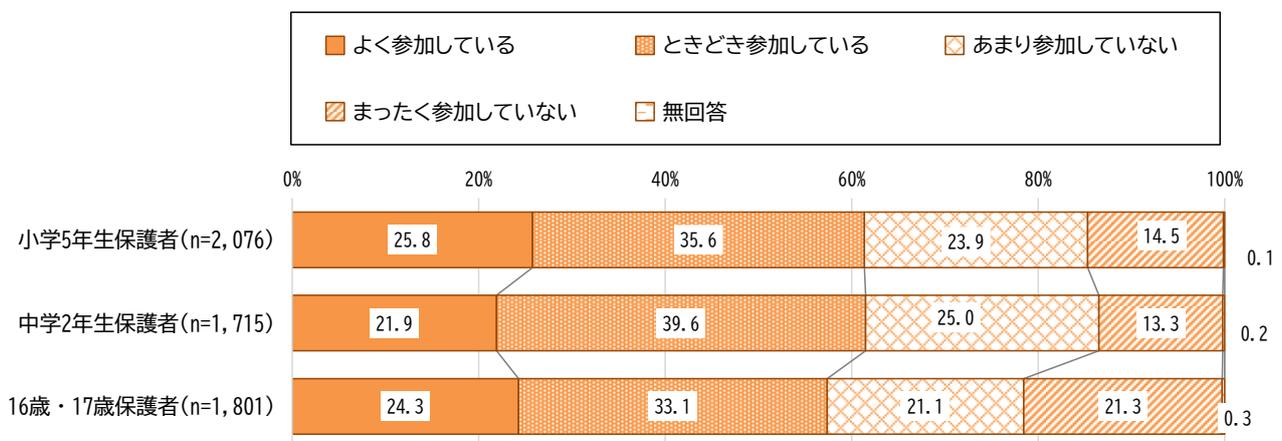
【保護者票】

あなたは、次のようなことをどの程度していますか。(SA)

b)PTA 活動や保護者会、放課後学習支援等のボランティアなどへの参加

PTA 活動や保護者会、放課後学習支援等のボランティアなどにどの程度参加しているかについては、いずれの調査でも「ときどき参加している」の回答割合が最も高くなっている。

「よく参加している」又は「ときどき参加している」と回答された割合は、小学5年生保護者調査では61.4%、中学2年生保護者調査では61.5%、16歳・17歳保護者調査では57.4%となっている。

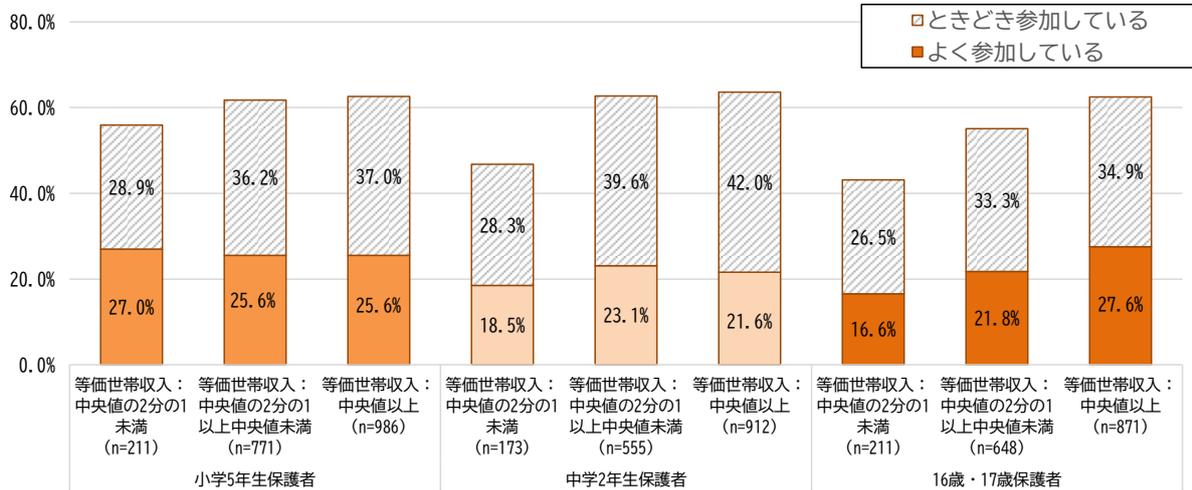


※小学5年生保護者調査と16歳・17歳保護者調査は令和6年度実施、中学2年生保護者調査は令和5年度実施。

<PTA 活動等への参加に関するクロス集計>

PTA 活動や保護者会、放課後学習支援等のボランティアなどにどの程度参加しているかについて「よく参加している」又は「ときどき参加している」と回答された割合を等価世帯収入の水準別にみると、いずれの調査でも等価世帯収入の水準が低いほど値が低い傾向にある。

また、婚姻状況別にみると、「よく参加している」又は「ときどき参加している」と回答された割合は、いずれの調査でも「離婚」等の場合に「結婚している」の場合よりも値が低い傾向にある。



※小学5年生保護者調査と16歳・17歳保護者調査は令和6年度実施、中学2年生保護者調査は令和5年度実施。

PTA 活動等への参加状況	小学5年生保護者 (令和6年度実施)		中学2年生保護者 (令和5年度実施)		16歳・17歳保護者 (令和6年度実施)	
	集計対象	該当割合	集計対象	該当割合	集計対象	該当割合
「よく参加している」「ときどき参加している」						
収入:中央値の2分の1未満	n=211	55.9%	n=173	46.8%	n=211	43.1%
収入:中央値の2分の1以上中央値未満	n=771	61.8%	n=555	62.7%	n=648	55.1%
収入:中央値以上	n=986	62.6%	n=912	63.6%	n=871	62.5%
全体	n=2,076	61.4%	n=1,715	61.5%	n=1,801	57.4%

PTA 活動等への参加状況	小学5年生保護者 (令和6年度実施)		中学2年生保護者 (令和5年度実施)		16歳・17歳保護者 (令和6年度実施)	
	集計対象	該当割合	集計対象	該当割合	集計対象	該当割合
「よく参加している」「ときどき参加している」						
結婚している (再婚や事実婚を含む。)	n=1,936	62.8%	n=1,538	63.7%	n=1,572	59.7%
離婚	n=91	34.1%	n=126	38.1%	n=145	35.8%
死別	n=11	45.5%	n=14	42.9%	n=24	62.5%
未婚	n=5	60.0%	n=11	45.5%	n=18	38.9%
わからない	n=4	75.0%	n=1	0.0%	n=7	42.9%
いない	n=21	47.6%	n=22	59.1%	n=30	53.3%
全体	n=2,076	61.4%	n=1,715	61.5%	n=1,801	57.4%

1-6. 進学期待・展望

(1) 子どもの進学段階に関する希望・展望

【保護者票(小学5年生保護者調査)】

お子さんは将来、現実的に見てどの学校まで進学すると思いますか。(SA)

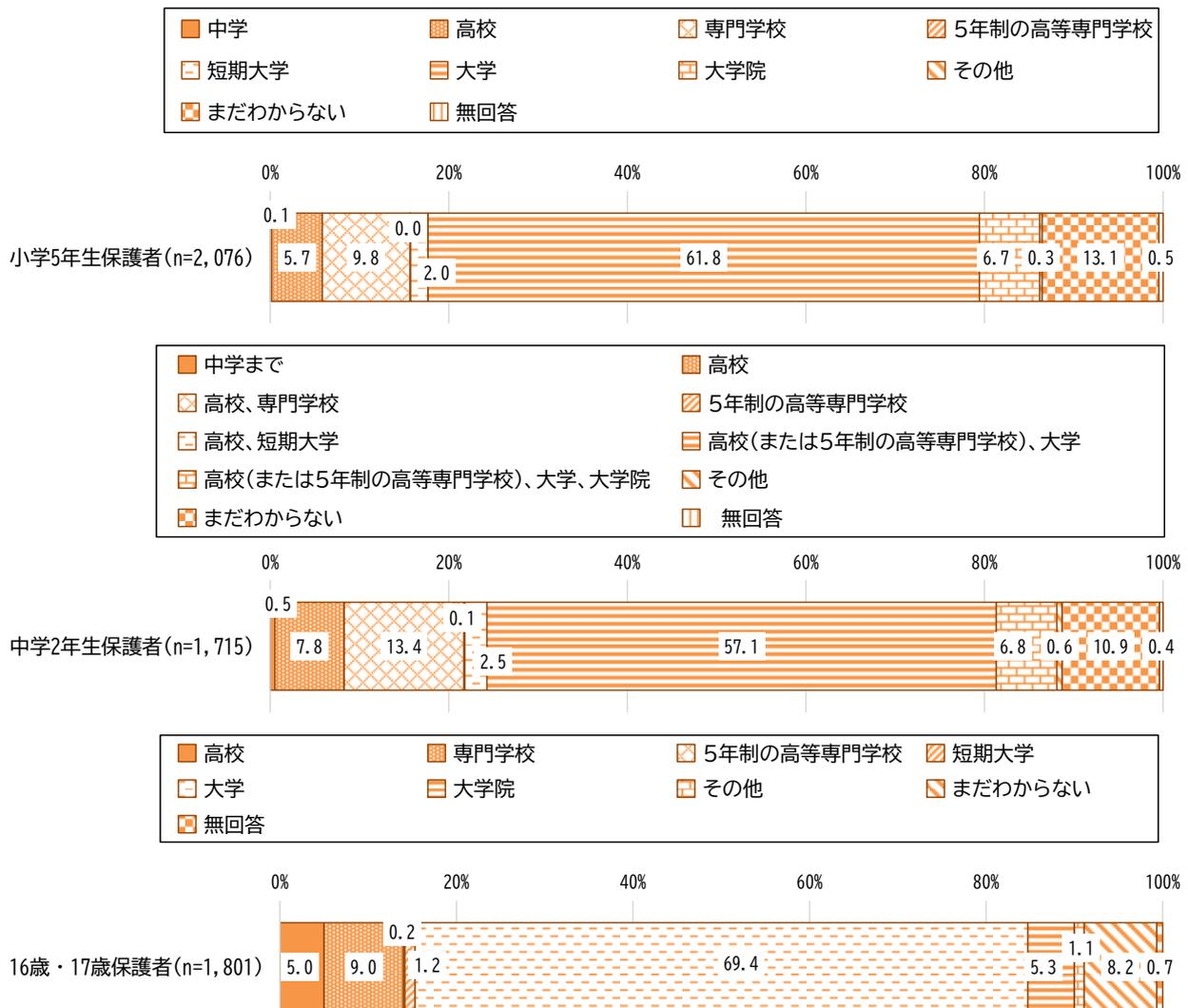
【保護者票(中学2年生保護者調査)】

お子さんは将来、現実的に見てどの学校に進学すると思いますか。(SA)

【保護者票(16歳・17歳保護者調査)】

お子さんは将来、現実的に見てどの学校まで在学・進学すると思いますか。(SA)

子どもが将来どの学校まで進学すると思うかについて、小学5年生保護者調査では「大学」が61.8%、「まだわからない」が13.1%、「専門学校」が9.8%となっている。中学2年生保護者調査では「高校(または5年制の高等専門学校)、大学」が57.1%、「高校、専門学校」が13.4%、「まだわからない」が10.9%となっている。16歳・17歳保護者調査では、「大学」が69.4%、「専門学校」が9.0%、「まだわからない」が8.2%となっている。

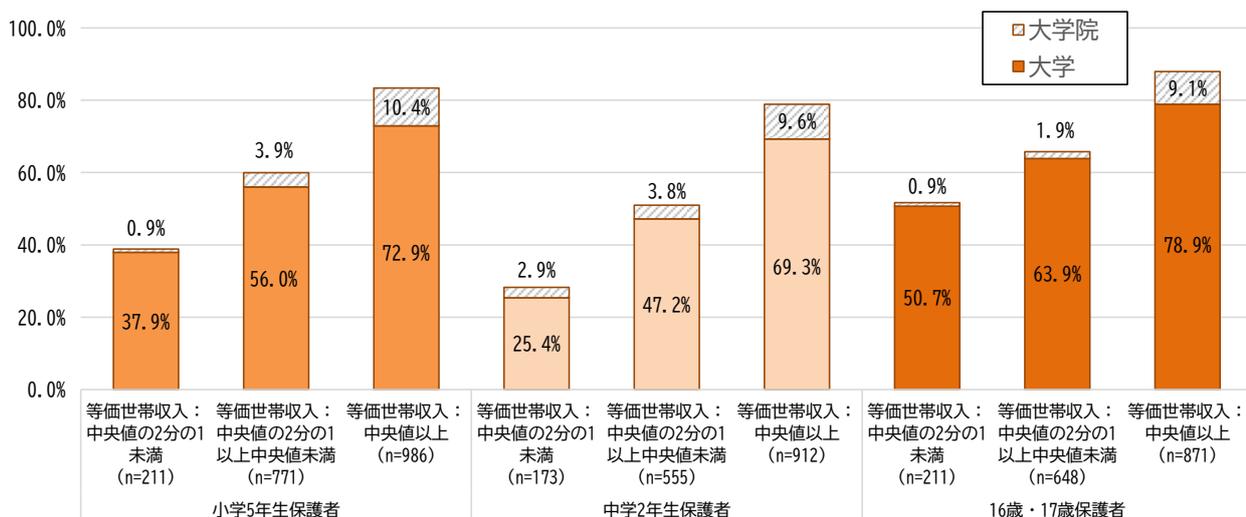


※小学5年生保護者調査と16歳・17歳保護者調査は令和6年度実施、中学2年生保護者調査は令和5年度実施。

<子どもの進学段階に関する希望・展望に関するクロス集計>

子どもが将来どの学校まで進学すると思うかについて「大学」又は「大学院」と回答された割合を等価世帯収入の水準別にみると、いずれの調査でも等価世帯収入の水準が低いほど値が低い傾向にある。なお、いずれの調査でも、等価世帯収入の水準が「中央値以上」に該当する場合には、「大学院」の回答割合も高い傾向にある。

また、婚姻状況別にみると、「大学」又は「大学院」と回答された割合は、いずれの調査でも「離婚」等の場合に「結婚している」の場合よりも値が低い傾向にある。



※小学5年生保護者調査と16歳・17歳保護者調査は令和6年度実施、中学2年生保護者調査は令和5年度実施。

子どもが将来どの学校まで進学すると思うか	小学5年生保護者 (令和6年度実施)		中学2年生保護者 (令和5年度実施)		16歳・17歳保護者 (令和6年度実施)	
	集計対象	該当割合	集計対象	該当割合	集計対象	該当割合
「大学」「大学院」						
収入:中央値の2分の1未満	n=211	38.8%	n=173	28.3%	n=211	51.6%
収入:中央値の2分の1以上中央値未満	n=771	59.9%	n=555	51.0%	n=648	65.8%
収入:中央値以上	n=986	83.3%	n=912	78.9%	n=871	88.0%
全体	n=2,076	68.5%	n=1,715	63.9%	n=1,801	74.7%

子どもが将来どの学校まで進学すると思うか	小学5年生保護者 (令和6年度実施)		中学2年生保護者 (令和5年度実施)		16歳・17歳保護者 (令和6年度実施)	
	集計対象	該当割合	集計対象	該当割合	集計対象	該当割合
「大学」「大学院」						
結婚している (再婚や事実婚を含む。)	n=1,936	70.6%	n=1,538	66.9%	n=1,572	77.3%
離婚	n=91	34.1%	n=126	34.1%	n=145	51.8%
死別	n=11	63.6%	n=14	64.3%	n=24	79.2%
未婚	n=5	40.0%	n=11	27.3%	n=18	50.0%
わからない	n=4	25.0%	n=1	0.0%	n=7	71.4%
いない	n=21	47.6%	n=22	59.1%	n=30	60.0%
全体	n=2,076	68.5%	n=1,715	63.9%	n=1,801	74.7%

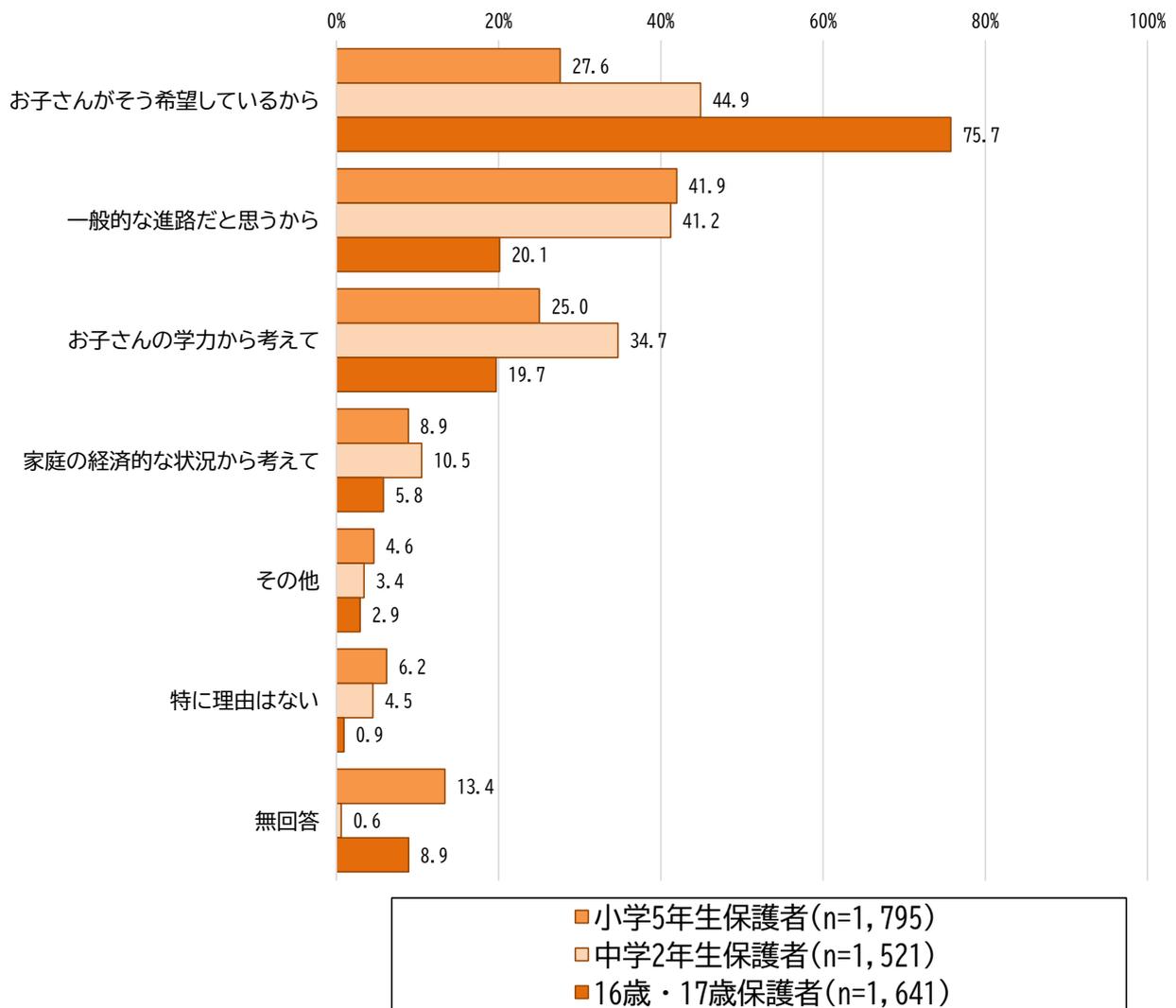
(2) 進学段階に関する希望・展望についてそう考える理由

【保護者票】

(進学段階に関する希望・展望について)その理由は何ですか。(MA)

子どもの進学段階に関する希望・展望に関してなぜそのように考えるかについて、小学5年生保護者調査では「一般的な進路だと思うから」の回答割合が最も高くなっている。中学2年生保護者調査と16歳・17歳保護者調査では、「お子さんがそう希望しているから」の回答割合が最も高くなっている。

「家庭の経済的な状況から考えて」の回答割合は、小学5年生保護者調査では 8.9%、中学2年生保護者調査では 10.5%、16歳・17歳保護者調査では 5.8%となっている。

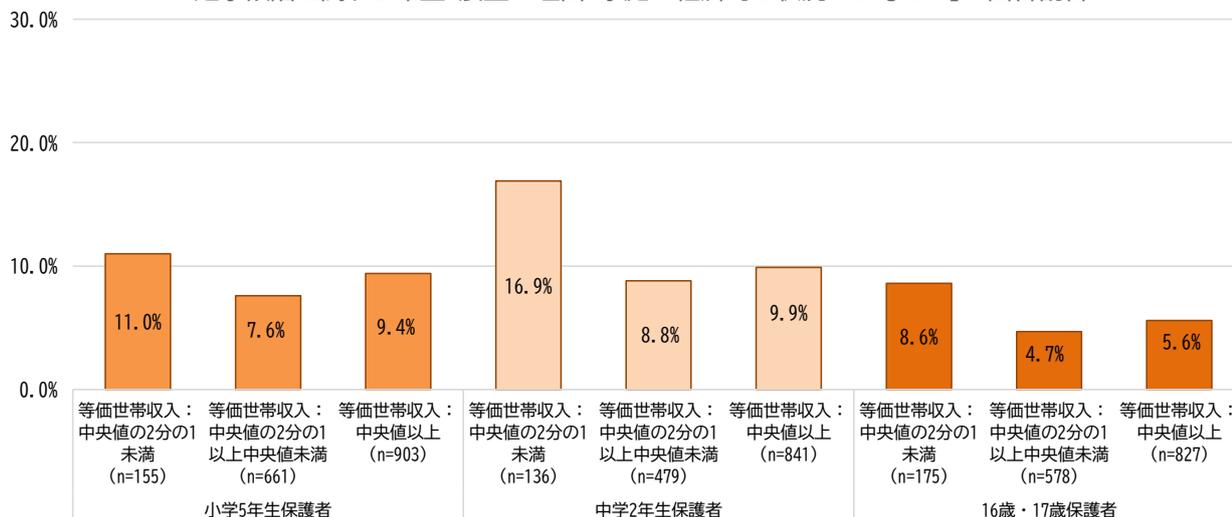


※小学5年生保護者調査と16歳・17歳保護者調査は令和6年度実施、中学2年生保護者調査は令和5年度実施。

<進学段階に関する希望・展望の理由に関するクロス集計>

子どもの進学段階に関する希望・展望に関してなぜそのように考えるかについて「家庭の経済的な状況から考えて」と回答された割合を等価世帯収入の水準別にみると、いずれの調査でも等価世帯収入の水準が「中央値の2分の1未満」に該当する場合に値が高い傾向にあり、小学5年生保護者調査では 11.0%、中学2年生保護者調査では 16.9%、16歳・17歳保護者調査では 8.6%となっている。

進学段階に関する希望・展望の理由「家庭の経済的な状況から考えて」の回答割合



※小学5年生保護者調査と16歳・17歳保護者調査は令和6年度実施、中学2年生保護者調査は令和5年度実施。

進学段階に関してなぜそのように考えるか	小学5年生保護者 (令和6年度実施)		中学2年生保護者 (令和5年度実施)		16歳・17歳保護者 (令和6年度実施)	
	集計対象	該当割合	集計対象	該当割合	集計対象	該当割合
「家庭の経済的な状況から考えて」						
収入：中央値の2分の1未満	n=155	11.0%	n=136	16.9%	n=175	8.6%
収入：中央値の2分の1以上中央値未満	n=661	7.6%	n=479	8.8%	n=578	4.7%
収入：中央値以上	n=903	9.4%	n=841	9.9%	n=827	5.6%
全体	n=1,795	8.9%	n=1,521	10.5%	n=1,641	5.8%

進学段階に関してなぜそのように考えるか	小学5年生保護者 (令和6年度実施)		中学2年生保護者 (令和5年度実施)		16歳・17歳保護者 (令和6年度実施)	
	集計対象	該当割合	集計対象	該当割合	集計対象	該当割合
「家庭の経済的な状況から考えて」						
結婚している (再婚や事実婚を含む。)	n=1,689	8.8%	n=1,378	9.6%	n=1,445	6.0%
離婚	n=67	13.4%	n=98	18.4%	n=121	5.0%
死別	n=10	10.0%	n=13	7.7%	n=22	4.5%
未婚	n=4	0.0%	n=10	50.0%	n=16	6.3%
わからない	n=3	0.0%	n=1	100.0%	n=6	0.0%
いない	n=18	5.6%	n=19	10.5%	n=26	0.0%
全体	n=1,795	8.9%	n=1,521	10.5%	n=1,641	5.8%

1-7. 頼れる人の有無・相手

(1) 子育てに関する相談

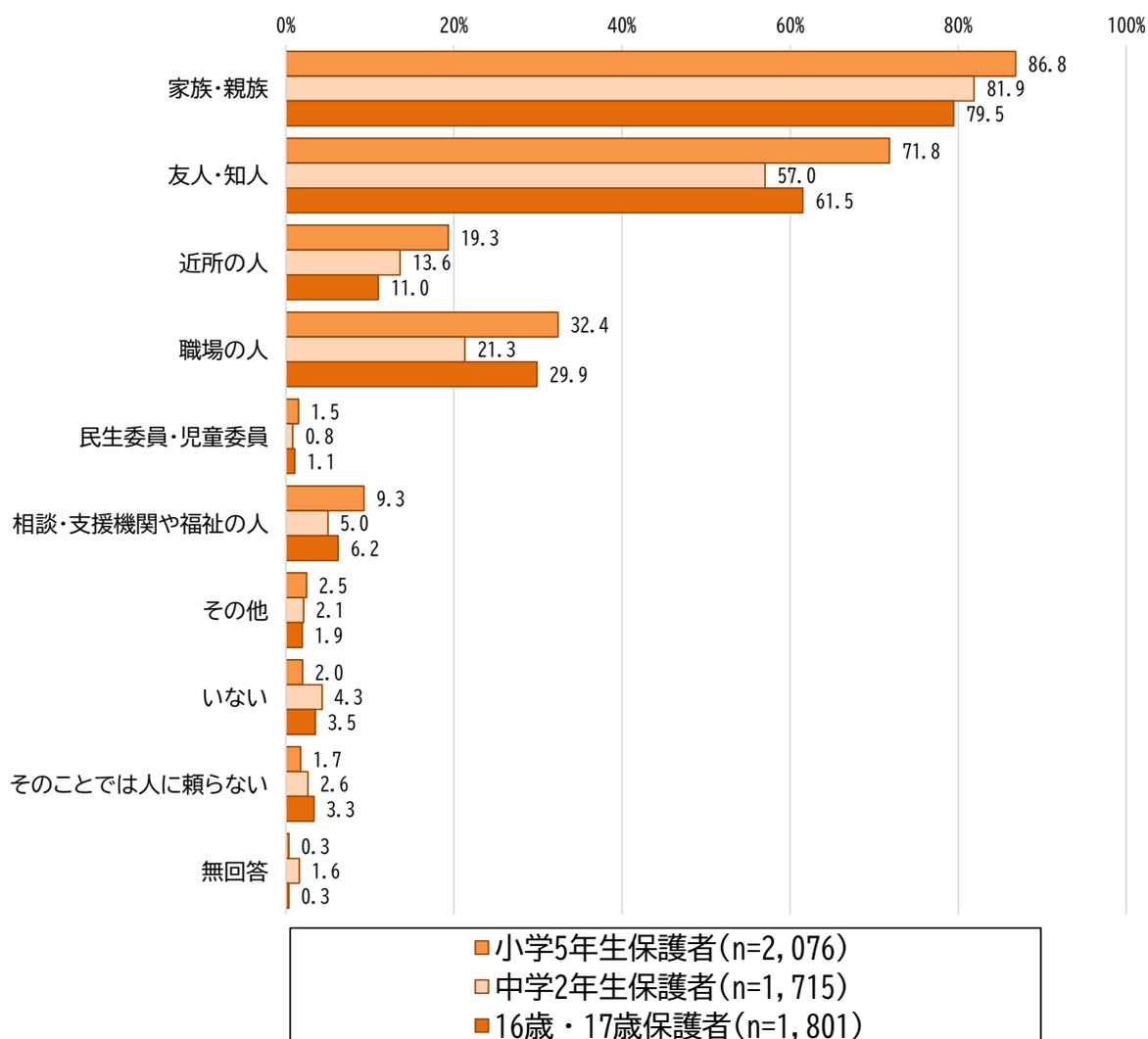
【保護者票】

あなたは次に挙げる事柄で頼れる人はいますか。

a) 子育てに関する相談(MA)

子育てに関する相談について頼れる人がいるか、また、頼れる人がいる場合にその相手が誰であるかに関しては、いずれの調査でも頼れる人として「家族・親族」の回答割合が最も高く、次いで「友人・知人」の回答割合が高くなっている。

「いない」と回答された割合は、小学5年生保護者調査では 2.0%、中学2年生保護者調査では 4.3%、16歳・17歳保護者調査では 3.5%となっている。

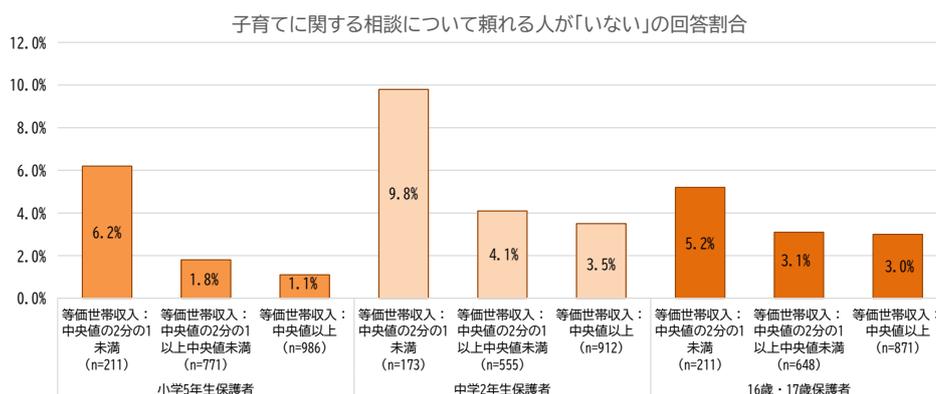


※小学5年生保護者調査と16歳・17歳保護者調査は令和6年度実施、中学2年生保護者調査は令和5年度実施。

<子育てに関する相談相手に関するクロス集計>

子育てに関する相談について頼れる人がいるかについて「いない」と回答された割合を等価世帯収入の水準別にみると、いずれの調査でも等価世帯収入の水準が低いほど値が高い傾向にある。その割合は、等価世帯収入の水準が「中央値の2分の1未満」に該当する場合には、小学5年生保護者調査では 6.2%、中学2年生保護者調査では 9.8%、16歳・17歳保護者調査では 5.2%となっている。等価世帯収入の水準が「中央値の2分の1以上中央値未満」に該当する場合には、その割合は小学5年生保護者調査で 1.8%、中学2年生保護者調査で 4.1%、16歳・17歳保護者調査では 3.1%となっている。

また、婚姻状況別にみると、子育てに関する相談について頼れる人が「いない」と回答された割合は、いずれの調査でも「離婚」等の場合に「結婚している」の場合よりも値が高い傾向にある。



※小学5年生保護者調査と16歳・17歳保護者調査は令和6年度実施、中学2年生保護者調査は令和5年度実施。

子育てに関する相談について頼れる人がいるか	小学5年生保護者 (令和6年度実施)		中学2年生保護者 (令和5年度実施)		16歳・17歳保護者 (令和6年度実施)	
	集計対象	該当割合	集計対象	該当割合	集計対象	該当割合
「いない」						
収入:中央値の2分の1未満	n=211	6.2%	n=173	9.8%	n=211	5.2%
収入:中央値の2分の1以上中央値未満	n=771	1.8%	n=555	4.1%	n=648	3.1%
収入:中央値以上	n=986	1.1%	n=912	3.5%	n=871	3.0%
全体	n=2,076	2.0%	n=1,715	4.3%	n=1,801	3.5%
子育てに関する相談について頼れる人がいるか	小学5年生保護者 (令和6年度実施)		中学2年生保護者 (令和5年度実施)		16歳・17歳保護者 (令和6年度実施)	
「いない」	集計対象	該当割合	集計対象	該当割合	集計対象	該当割合
結婚している (再婚や事実婚を含む。)	n=1,936	1.4%	n=1,538	3.9%	n=1,572	2.9%
離婚	n=91	11.0%	n=126	8.7%	n=145	7.6%
死別	n=11	18.2%	n=14	0.0%	n=24	8.3%
未婚	n=5	20.0%	n=11	0.0%	n=18	11.1%
わからない	n=4	0.0%	n=1	100.0%	n=7	14.3%
いない	n=21	0.0%	n=22	9.1%	n=30	0.0%
全体	n=2,076	2.0%	n=1,715	4.3%	n=1,801	3.5%

(2) 重要な事柄の相談

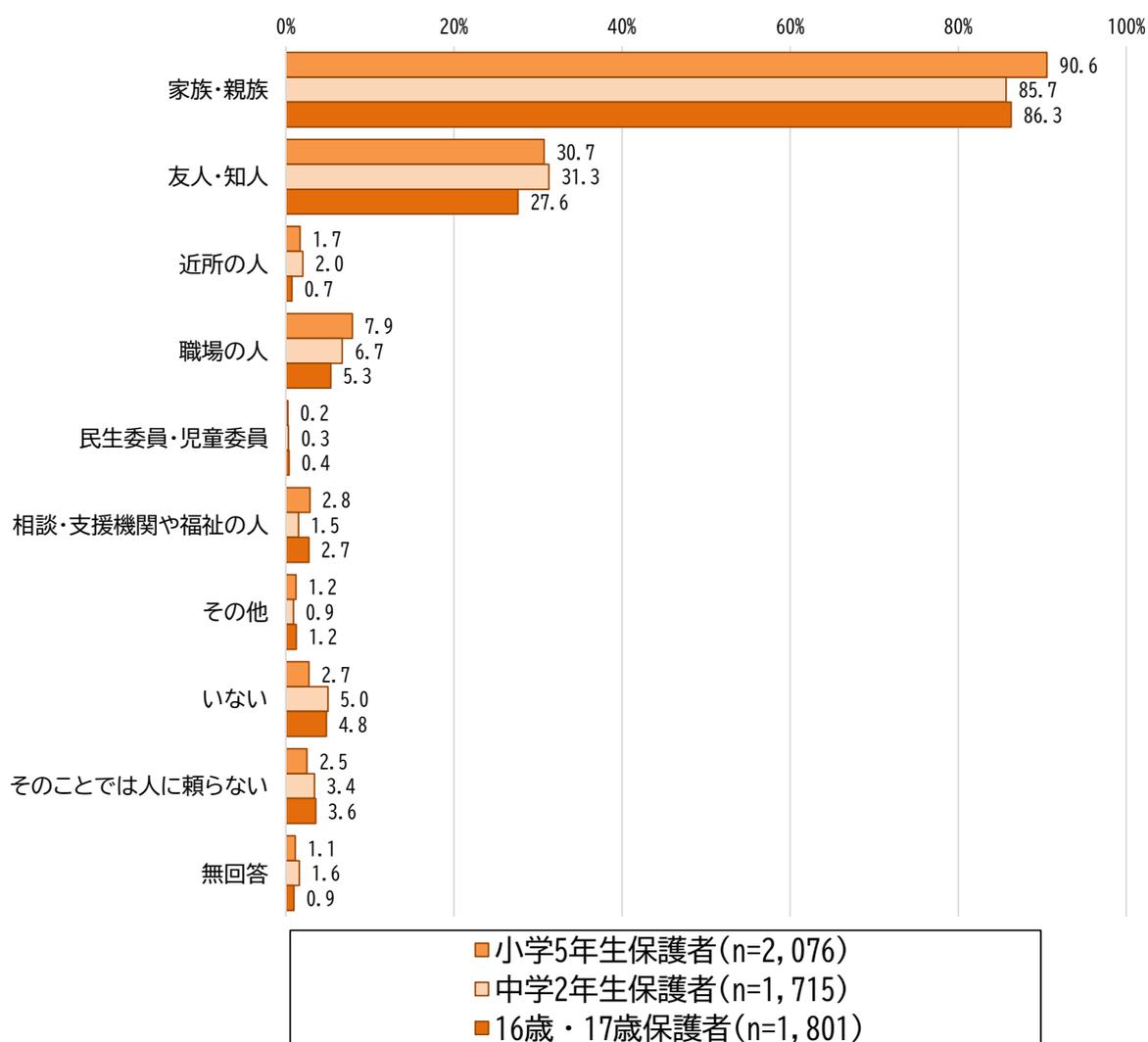
【保護者票】

あなたは次に挙げる事柄で頼れる人はいますか。

b)重要な事柄の相談(MA)

重要な事柄の相談について頼れる人がいるか、また、頼れる人がいる場合にその相手が誰であるかに関しては、いずれの調査でも頼れる人として「家族・親族」の回答割合が最も高く、次いで「友人・知人」の回答割合が高くなっている。

「いない」と回答された割合は、小学5年生保護者調査では 2.7%、中学2年生保護者調査では 5.0%、16歳・17歳保護者調査では 4.8%となっている。

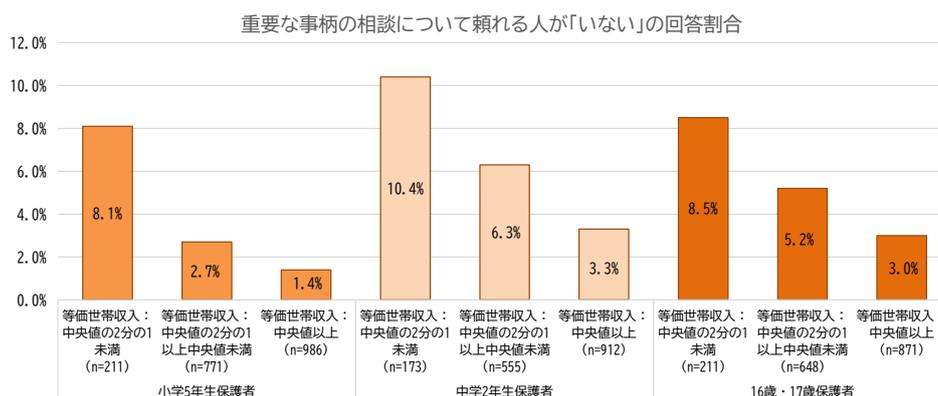


※小学5年生保護者調査と16歳・17歳保護者調査は令和6年度実施、中学2年生保護者調査は令和5年度実施。

<重要な事柄の相談相手に関するクロス集計>

重要な事柄の相談について頼れる人がいるかについて「いない」と回答された割合を等価世帯収入の水準別にみると、いずれの調査でも等価世帯収入の水準が低いほど高い傾向にある。その割合は、等価世帯収入の水準が「中央値の2分の1未満」に該当する場合には、小学5年生保護者調査では 8.1%、中学2年生保護者調査では 10.4%、16歳・17歳保護者調査では 8.5%となっている。等価世帯収入の水準が「中央値の2分の1以上中央値未満」に該当する場合には、その割合は小学5年生保護者調査で 2.7%、中学2年生保護者調査で 6.3%、16歳・17歳保護者調査では 5.2%となっている。

また、婚姻状況別にみると、重要な事柄の相談について頼れる人が「いない」と回答された割合は、いずれの調査でも「離婚」等の場合に「結婚している」の場合よりも値が高い傾向にある。



※小学5年生保護者調査と16歳・17歳保護者調査は令和6年度実施、中学2年生保護者調査は令和5年度実施。

重要な事柄の相談について頼れる人がいるか	小学5年生保護者 (令和6年度実施)		中学2年生保護者 (令和5年度実施)		16歳・17歳保護者 (令和6年度実施)	
	集計対象	該当割合	集計対象	該当割合	集計対象	該当割合
「いない」						
収入：中央値の2分の1未満	n=211	8.1%	n=173	10.4%	n=211	8.5%
収入：中央値の2分の1以上中央値未満	n=771	2.7%	n=555	6.3%	n=648	5.2%
収入：中央値以上	n=986	1.4%	n=912	3.3%	n=871	3.0%
全体	n=2,076	2.7%	n=1,715	5.0%	n=1,801	4.8%

重要な事柄の相談について頼れる人がいるか	小学5年生保護者 (令和6年度実施)		中学2年生保護者 (令和5年度実施)		16歳・17歳保護者 (令和6年度実施)	
	集計対象	該当割合	集計対象	該当割合	集計対象	該当割合
「いない」						
結婚している (再婚や事実婚を含む。)	n=1,936	2.3%	n=1,538	4.5%	n=1,572	4.0%
離婚	n=91	11.0%	n=126	9.5%	n=145	12.4%
死別	n=11	9.1%	n=14	7.1%	n=24	12.5%
未婚	n=5	20.0%	n=11	9.1%	n=18	5.6%
わからない	n=4	0.0%	n=1	100.0%	n=7	28.6%
いない	n=21	0.0%	n=22	4.5%	n=30	0.0%
全体	n=2,076	2.7%	n=1,715	5.0%	n=1,801	4.8%

(3) いざという時のお金の援助

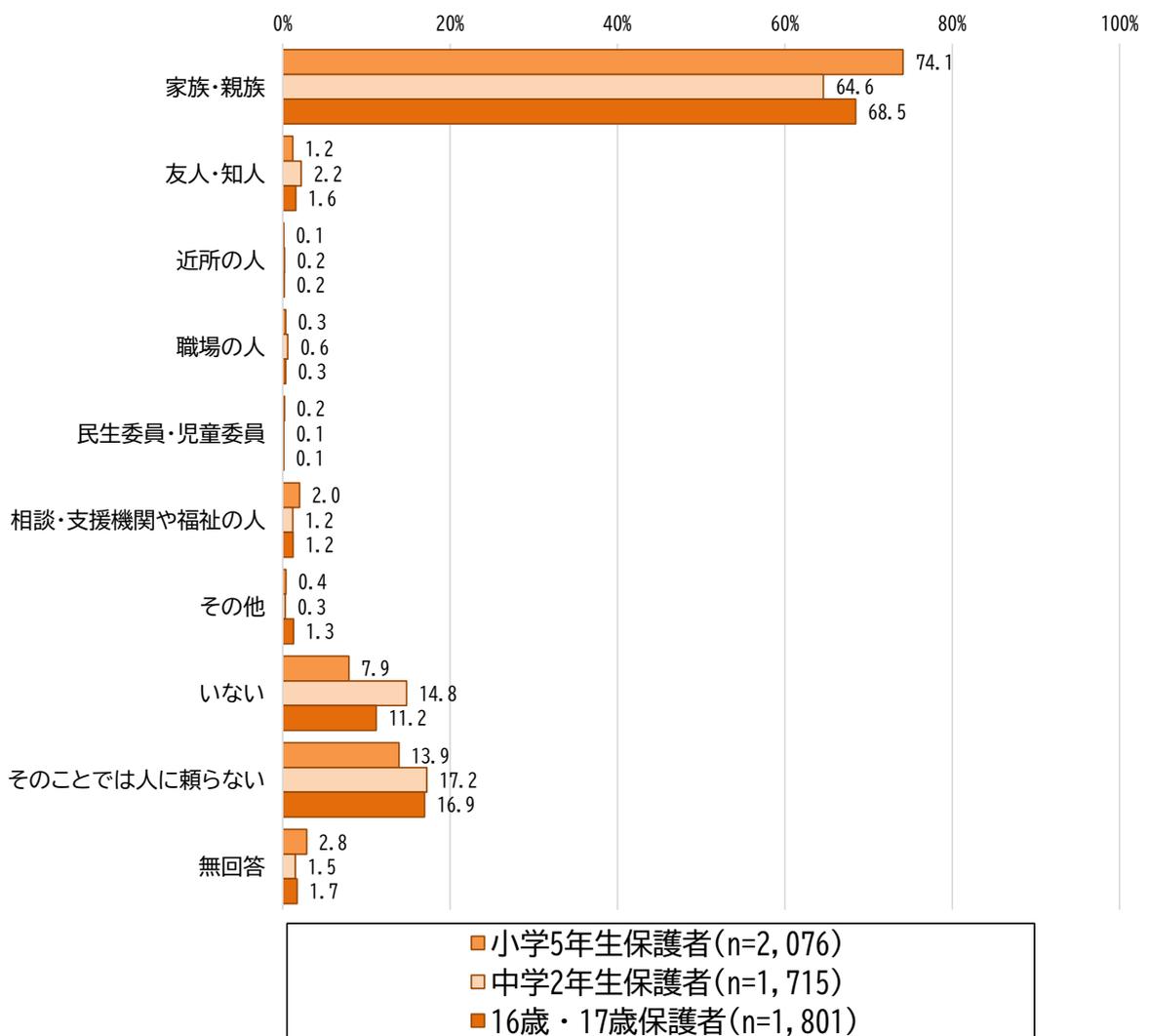
【保護者票】

あなたは次に挙げる事柄で頼れる人はいますか。

c) いざという時のお金の援助(MA)

いざという時のお金の援助について頼れる人がいるか、また、頼れる人がいる場合にその相手が誰であるかに関しては、いずれの調査でも頼れる人として「家族・親族」の回答割合が最も高く、次いで「そのことでは人に頼らない」の回答割合が高くなっている。

「いない」と回答された割合は、小学5年生保護者調査では 7.9%、中学2年生保護者調査では 14.8%、16歳・17歳保護者調査では 11.2%となっている。

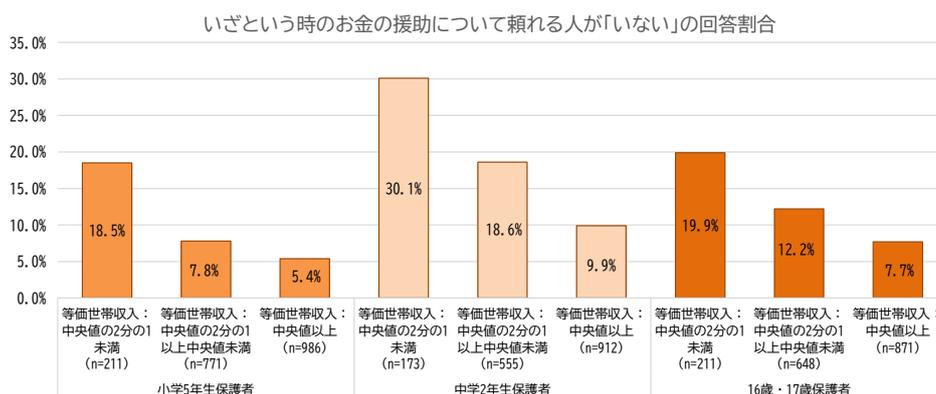


※小学5年生保護者調査と16歳・17歳保護者調査は令和6年度実施、中学2年生保護者調査は令和5年度実施。

<いざという時のお金の援助の相談相手に関するクロス集計>

いざという時のお金の援助について頼れる人がいるかについて「いない」と回答された割合を等価世帯収入の水準別にみると、いずれの調査でも等価世帯収入の水準が低いほど値が高い傾向にある。その割合は、等価世帯収入の水準が「中央値の2分の1未満」に該当する場合には、小学5年生保護者調査では18.5%、中学2年生保護者調査では30.1%、16歳・17歳保護者調査では19.9%となっている。等価世帯収入の水準が「中央値の2分の1以上中央値未満」に該当する場合には、その割合は小学5年生保護者調査で7.8%、中学2年生保護者調査で18.6%、16歳・17歳保護者調査では12.2%となっている。

また、婚姻状況別にみると、いざという時のお金の援助について頼れる人が「いない」と回答された割合は、いずれの調査でも「離婚」等の場合に「結婚している」の場合よりも値が高い傾向にある。



※小学5年生保護者調査と16歳・17歳保護者調査は令和6年度実施、中学2年生保護者調査は令和5年度実施。

お金の援助について頼れる人がいるか	小学5年生保護者 (令和6年度実施)		中学2年生保護者 (令和5年度実施)		16歳・17歳保護者 (令和6年度実施)	
	集計対象	該当割合	集計対象	該当割合	集計対象	該当割合
「いない」						
収入:中央値の2分の1未満	n=211	18.5%	n=173	30.1%	n=211	19.9%
収入:中央値の2分の1以上中央値未満	n=771	7.8%	n=555	18.6%	n=648	12.2%
収入:中央値以上	n=986	5.4%	n=912	9.9%	n=871	7.7%
全体	n=2,076	7.9%	n=1,715	14.8%	n=1,801	11.2%

お金の援助について頼れる人がいるか	小学5年生保護者 (令和6年度実施)		中学2年生保護者 (令和5年度実施)		16歳・17歳保護者 (令和6年度実施)	
	集計対象	該当割合	集計対象	該当割合	集計対象	該当割合
「いない」						
結婚している (再婚や事実婚を含む。)	n=1,936	7.1%	n=1,538	13.7%	n=1,572	10.1%
離婚	n=91	18.7%	n=126	23.8%	n=145	20.0%
死別	n=11	18.2%	n=14	21.4%	n=24	20.8%
未婚	n=5	40.0%	n=11	45.5%	n=18	16.7%
わからない	n=4	25.0%	n=1	0.0%	n=7	42.9%
いない	n=21	9.5%	n=22	13.6%	n=30	6.7%
全体	n=2,076	7.9%	n=1,715	14.8%	n=1,801	11.2%

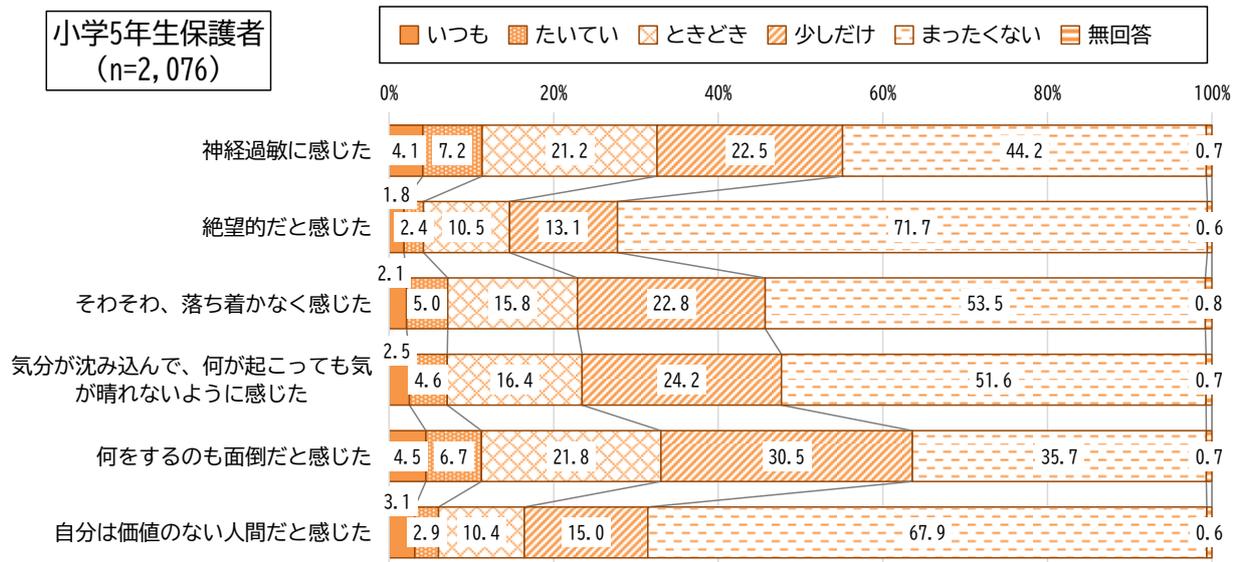
1-8. 保護者の心理的な状態

【保護者票】

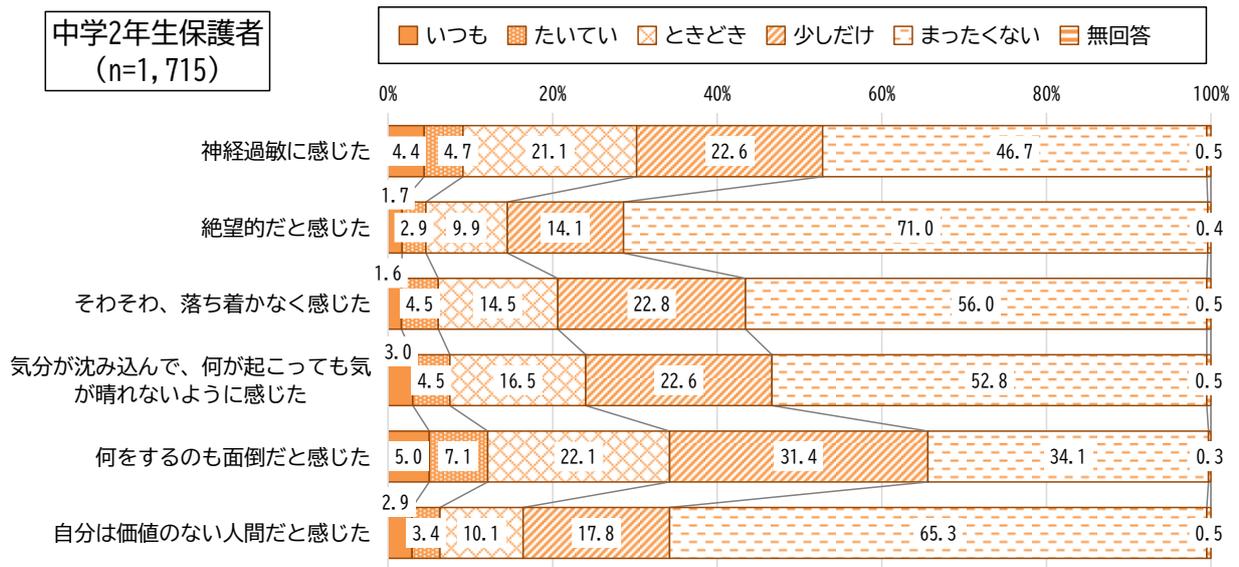
次の a)~f)の質問について、この1か月のあなたの気持ちはどのようでしたか。(SA)

- a) 神経過敏に感じた
- b) 絶望的だと感じた
- c) そわそわ、落ち着かなく感じた
- d) 気分が沈み込んで、何が起ころしても気が晴れないように感じた
- e) 何をするのも面倒だと感じた
- f) 自分は価値のない人間だと感じた

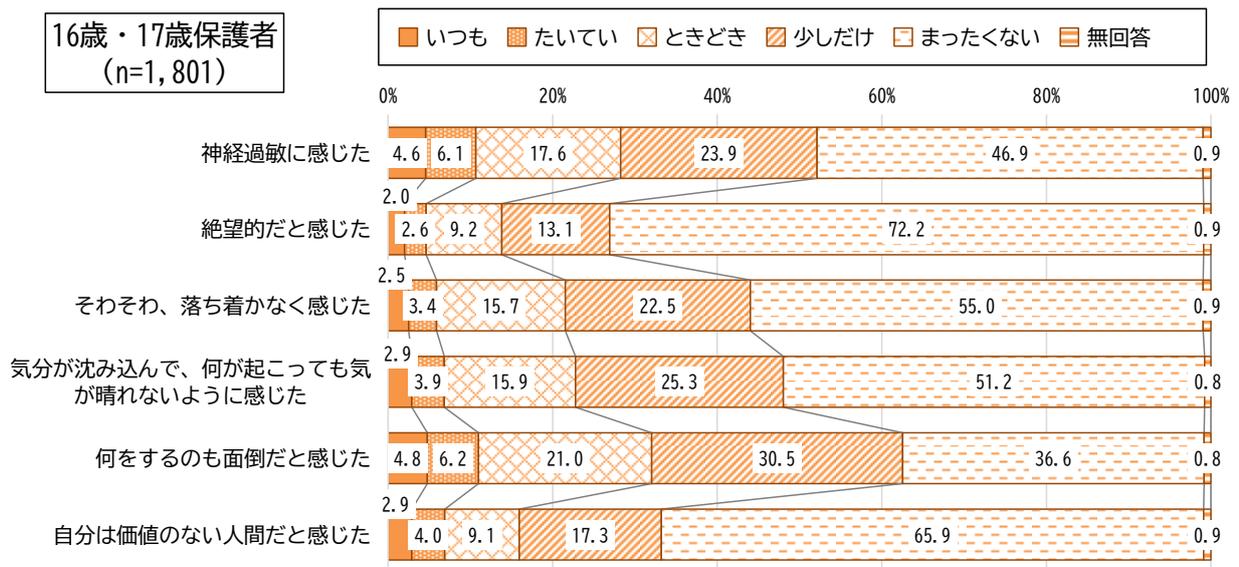
保護者の心理的な状態を6項目により把握した。各項目について「いつも」、「たいてい」、「ときどき」を合わせた回答割合は、いずれの調査でも、「何をするのも面倒だと感じた」について最も値が高く、次いで「神経過敏に感じた」に関して値が高くなっている。



中学2年生保護者
(n=1,715)



16歳・17歳保護者
(n=1,801)



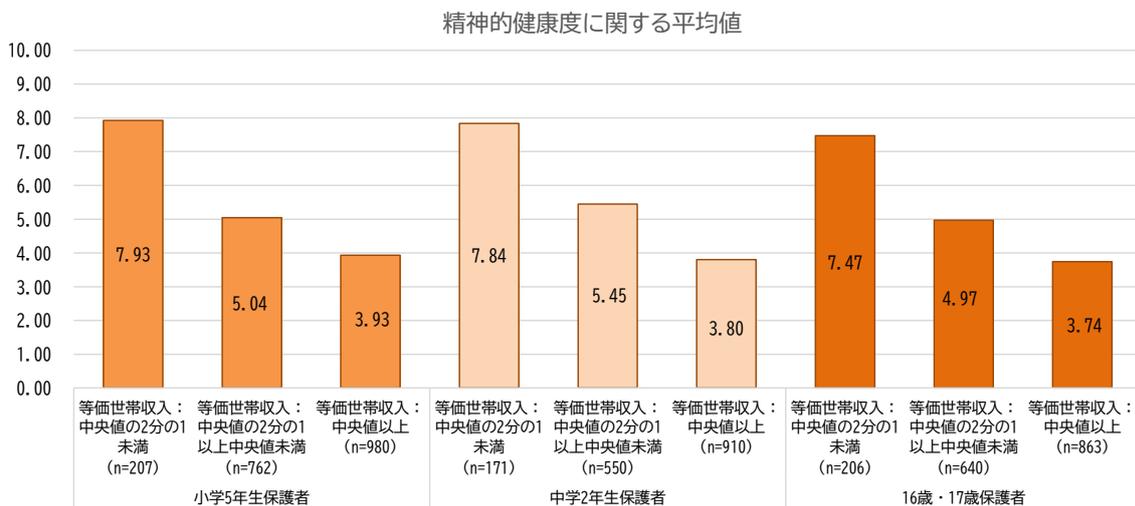
※小学5年生保護者調査と16歳・17歳保護者調査は令和6年度実施、中学2年生保護者調査は令和5年度実施。

<保護者の心理的な状態に関するクロス集計(平均値の比較)>

心理的な状態に関する6項目の回答を足し合わせて、精神的健康度を 0 点～24 点の尺度で把握した(点数が高いほど精神的健康度の度合いが悪い傾向)。

精神的健康度に関する平均値を等価世帯収入の水準別にみると、いずれの調査でも等価世帯収入の水準が低いほど値が高い傾向にある。

また、婚姻状況別にみると、精神的健康度に関する平均値は、いずれの調査でも「離婚」等の場合に「結婚している」の場合よりも値が高い傾向にある。



※小学5年生保護者調査と16歳・17歳保護者調査は令和6年度実施、中学2年生保護者調査は令和5年度実施。

精神的健康度	小学5年生保護者 (令和6年度実施)		中学2年生保護者 (令和5年度実施)		16歳・17歳保護者 (令和6年度実施)	
	集計対象	平均値	集計対象	平均値	集計対象	平均値
0点～24点の尺度の平均値						
収入:中央値の2分の1未満	n=207	7.93	n=171	7.84	n=206	7.47
収入:中央値の2分の1以上中央値未満	n=762	5.04	n=550	5.45	n=640	4.97
収入:中央値以上	n=980	3.93	n=910	3.80	n=863	3.74
全体	n=2,051	4.83	n=1,702	4.78	n=1,773	4.70

精神的健康度	小学5年生保護者 (令和6年度実施)		中学2年生保護者 (令和5年度実施)		16歳・17歳保護者 (令和6年度実施)	
	集計対象	平均値	集計対象	平均値	集計対象	平均値
0点～24点の尺度の平均値						
結婚している (再婚や事実婚を含む。)	n=1,916	4.68	n=1,527	4.55	n=1,551	4.44
離婚	n=88	7.92	n=126	7.14	n=142	7.08
死別	n=11	6.82	n=14	6.50	n=24	6.00
未婚	n=5	5.40	n=10	5.40	n=17	7.00
わからない	n=4	4.75	n=1	24.00	n=7	7.86
いない	n=21	5.33	n=22	3.45	n=30	4.53
全体	n=2,051	4.83	n=1,702	4.78	n=1,773	4.70

2. 子どもの生活状況、「貧困の連鎖」リスクの発生状況

2-1. 学習の状況

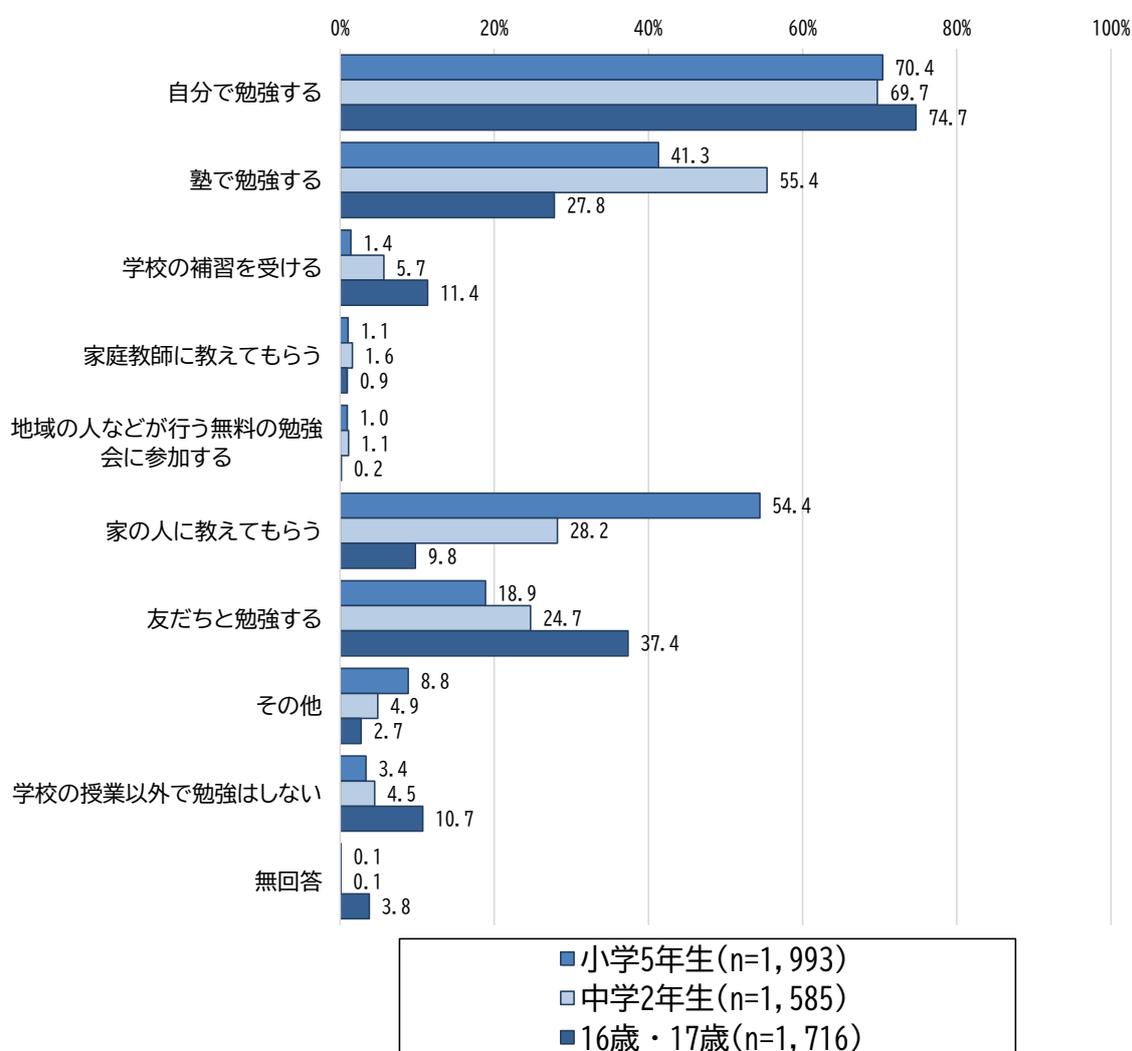
(1) ふだんの勉強の仕方

【子ども票】

あなたは、ふだん学校の授業以外で、どのように勉強をしていますか。(MA)

※勉強には学校の宿題もふくみます。

ふだん学校の授業以外でどのように勉強をしているかについては、いずれの調査でも「自分で勉強する」の回答割合が最も高くなっている。次いで回答割合が高いのは、小学5年生調査では「家の人に教えてもらう」、中学2年生調査では「塾で勉強する」、16歳・17歳調査では「友達と勉強する」となっている。



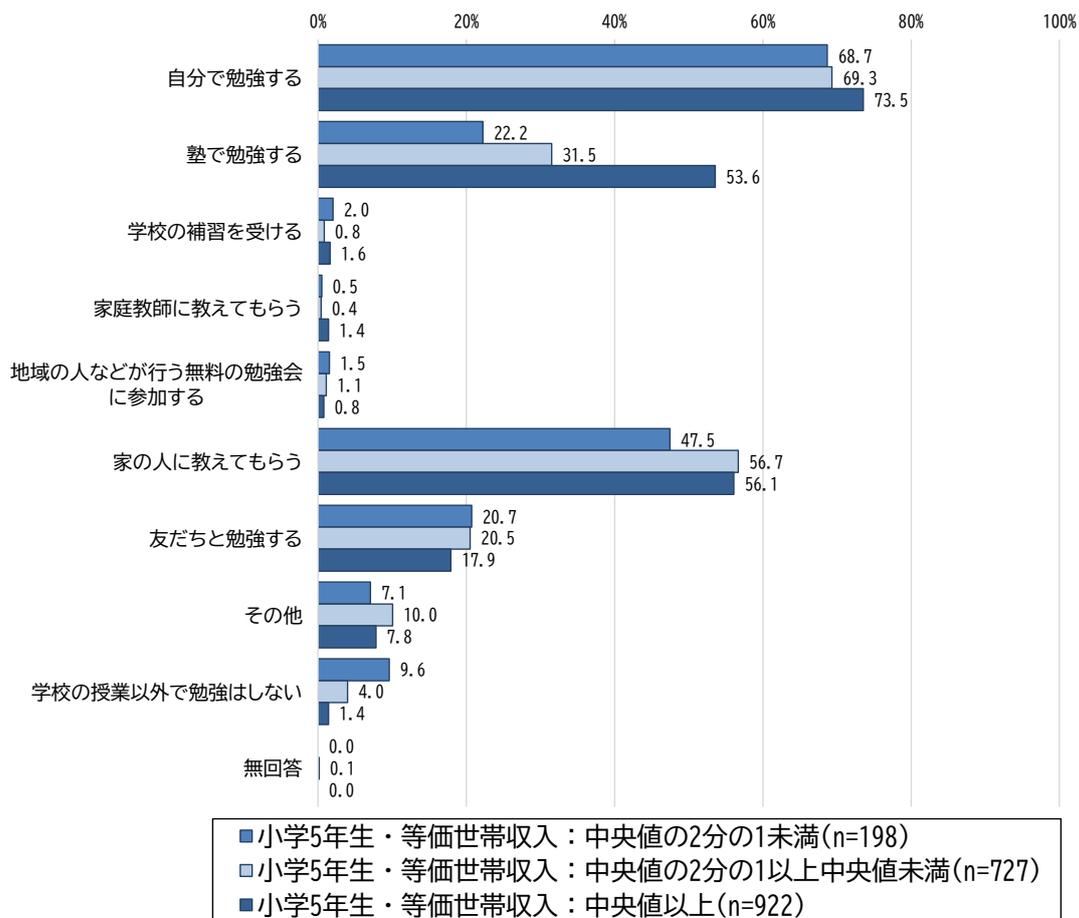
※中学2年生と16歳・17歳では「友だち」の部分は「友達」の表記で調査をしている。

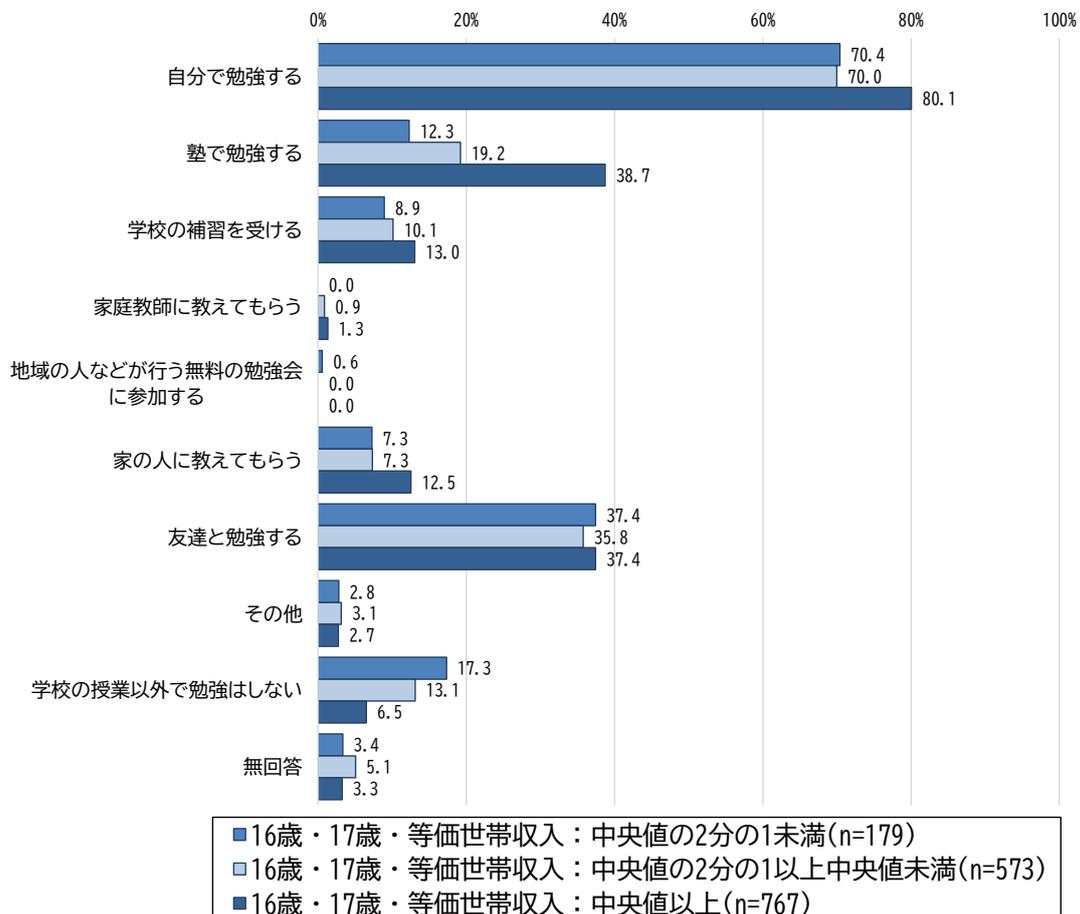
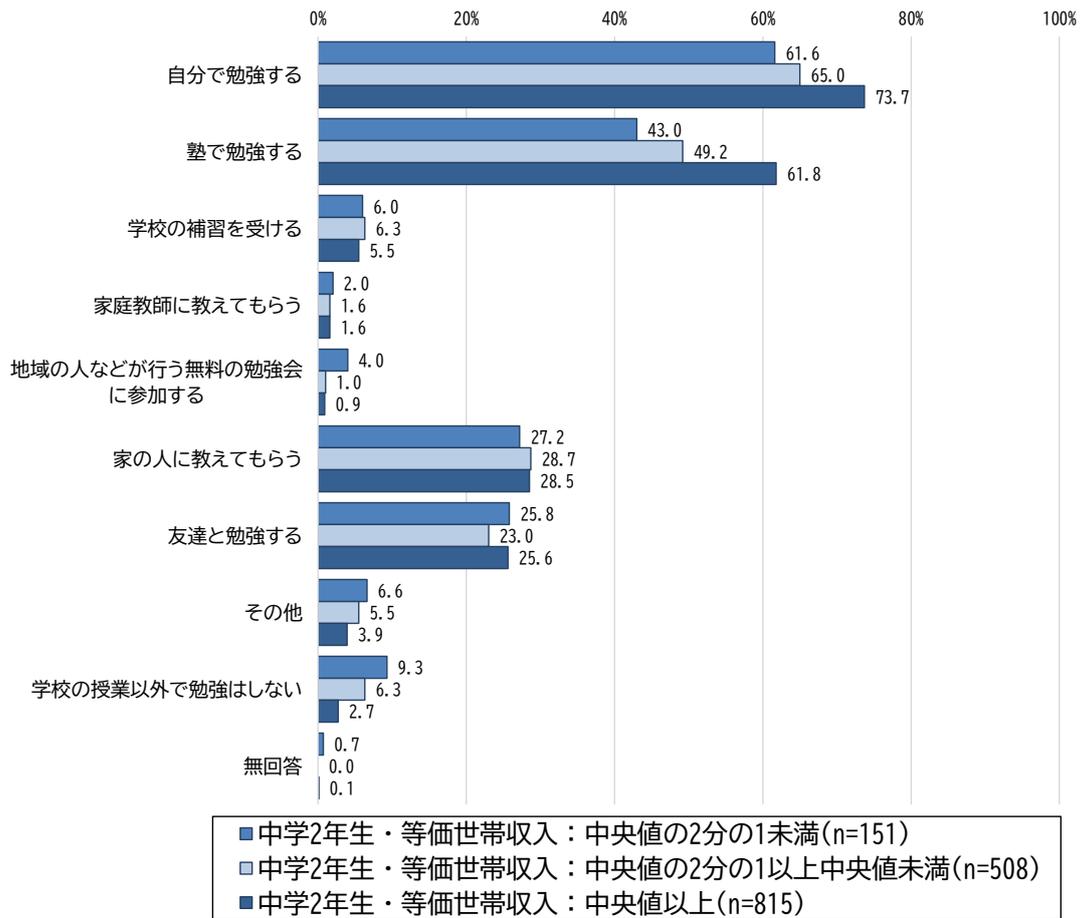
※小学5年生調査と16歳・17歳調査は令和6年度実施、中学2年生調査は令和5年度実施。

<ふだんの勉強の仕方に関するクロス集計>

ふだん学校の授業以外でどのように勉強をしているかについて等価世帯収入の水準別にみると、いずれの調査でも、「塾で勉強する」と回答された割合は、等価世帯収入の水準が低いほど値が低い傾向にある。また、「家の人に教えてもらう」と回答された割合は、小学5年生調査で等価世帯収入の水準が「中央値の2分の1未満」に該当する場合に値が低くなっている。

保護者の婚姻状況別にみると、「塾で勉強する」や「家の人に教えてもらう」と回答された割合は、いずれの調査でも「離婚」等の場合に「結婚している」の場合よりも値が低い傾向にある。





学校の授業以外での勉強の仕方 「塾で勉強する」	小学5年生 (令和6年度実施)		中学2年生 (令和5年度実施)		16歳・17歳 (令和6年度実施)	
	集計対象	該当割合	集計対象	該当割合	集計対象	該当割合
収入:中央値の2分の1未満	n=198	22.2%	n=151	43.0%	n=179	12.3%
収入:中央値の2分の1以上 中央値未満	n=727	31.5%	n=508	49.2%	n=573	19.2%
収入:中央値以上	n=922	53.6%	n=815	61.8%	n=767	38.7%
全体	n=1,993	41.3%	n=1,585	55.5%	n=1,716	27.9%

学校の授業以外での勉強の仕方 「家の人に教えてもらう」	小学5年生 (令和6年度実施)		中学2年生 (令和5年度実施)		16歳・17歳 (令和6年度実施)	
	集計対象	該当割合	集計対象	該当割合	集計対象	該当割合
収入:中央値の2分の1未満	n=198	47.5%	n=151	27.2%	n=179	7.3%
収入:中央値の2分の1以上 中央値未満	n=727	56.7%	n=508	28.7%	n=573	7.3%
収入:中央値以上	n=922	56.1%	n=815	28.5%	n=767	12.5%
全体	n=1,993	54.4%	n=1,585	20.2%	n=1,716	9.8%

学校の授業以外での勉強の仕方 「塾で勉強する」	小学5年生 (令和6年度実施)		中学2年生 (令和5年度実施)		16歳・17歳 (令和6年度実施)	
	集計対象	該当割合	集計対象	該当割合	集計対象	該当割合
結婚している (再婚や事実婚を含む。)	n=1,826	42.6%	n=1,388	56.8%	n=1,399	29.7%
離婚	n=80	21.3%	n=112	41.1%	n=120	11.7%
死別	n=10	40.0%	n=13	69.2%	n=20	25.0%
未婚	n=5	0.0%	n=11	45.5%	n=14	21.4%
わからない	n=4	50.0%	n=1	100.0%	n=6	0.0%
いない	n=16	43.8%	n=19	42.1%	n=22	18.2%
全体	n=1,993	41.3%	n=1,585	55.5%	n=1,716	27.9%

学校の授業以外での勉強の仕方 「家の人に教えてもらう」	小学5年生 (令和6年度実施)		中学2年生 (令和5年度実施)		16歳・17歳 (令和6年度実施)	
	集計対象	該当割合	集計対象	該当割合	集計対象	該当割合
結婚している (再婚や事実婚を含む。)	n=1,826	55.9%	n=1,388	29.0%	n=1,399	10.3%
離婚	n=80	35.0%	n=112	20.5%	n=120	4.2%
死別	n=10	40.0%	n=13	7.7%	n=20	20.0%
未婚	n=5	60.0%	n=11	27.3%	n=14	7.1%
わからない	n=4	25.0%	n=1	0.0%	n=6	0.0%
いない	n=16	56.3%	n=19	26.3%	n=22	9.1%
全体	n=1,993	54.4%	n=1,585	20.2%	n=1,716	9.8%

(2) 1日あたりの勉強時間

【子ども票(小学5年生票、中学2年生票)】

あなたは、ふだん学校の授業以外に、1日あたりどれくらいの時間勉強をしますか。(SA)

※学校の宿題をする時間や、塾などでの勉強時間もふくみます。

※夏休みなどの長いお休みについては「学校がない日」と考えてください。

a)学校がある日(月～金曜日)

b)学校がない日(土・日曜日・祝日)

【子ども票(16歳・17歳票)】

あなたは、ふだん学校の授業以外に、1日あたりどれくらいの時間勉強をしますか。(SA)

※学校の宿題をする時間や、塾などでの勉強時間もふくみます。

※夏休みなどの長いお休みについては「学校がない日」と考えてください。

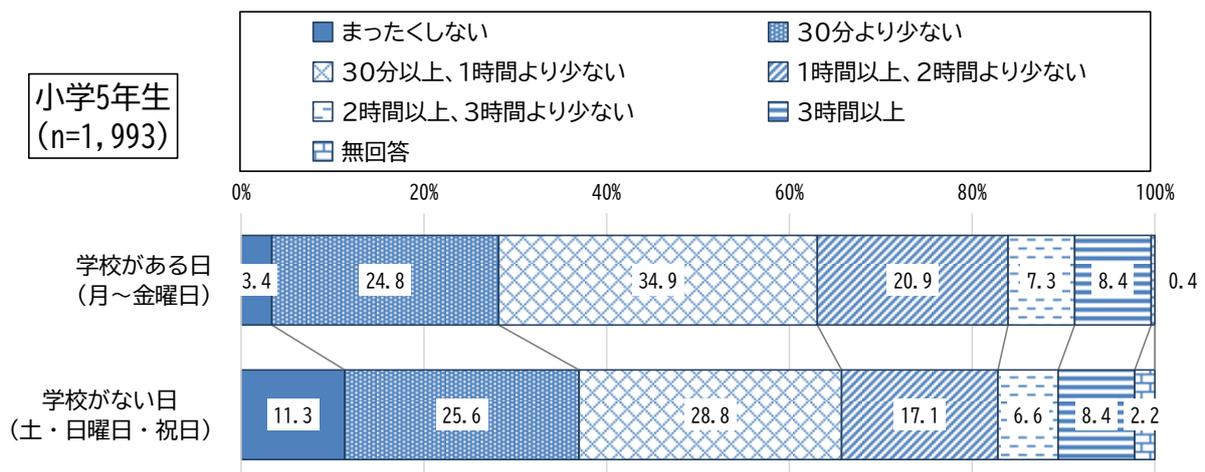
a)学校がある日

b)学校がない日

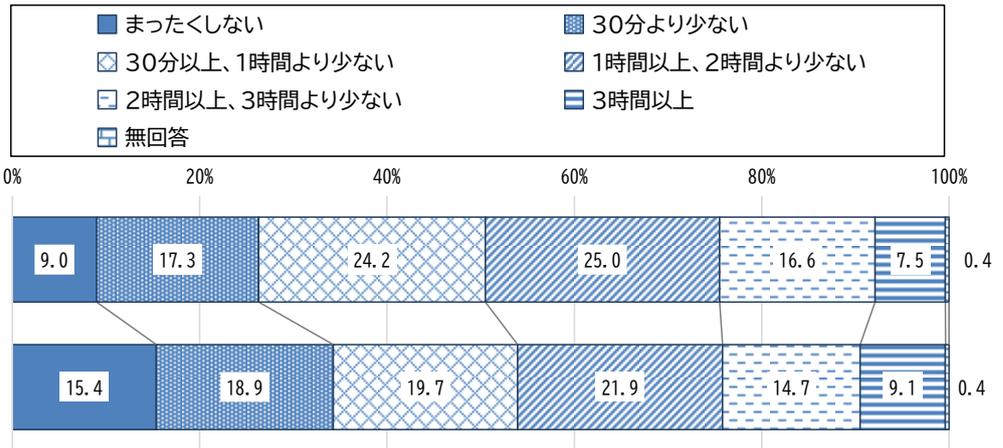
1日あたりの勉強時間について、小学5年生調査では、学校がある日・ない日ともに「30分以上、1時間より少ない」の回答割合が最も高くなっている。「まったくしない」の回答割合は、学校がある日については3.4%、学校がない日については11.3%となっている。

中学2年生調査では、学校がある日・ない日ともに「1時間以上、2時間より少ない」の回答割合が最も高くなっている。「まったくしない」の回答割合は、学校がある日については9.0%、学校がない日については15.4%となっている。

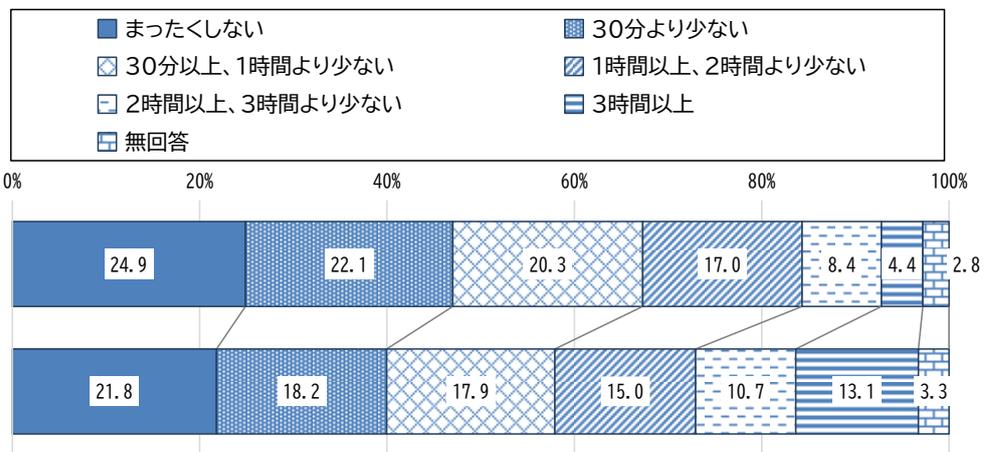
16歳・17歳調査では、学校がある日・ない日ともに「まったくしない」の回答割合が最も高く、その割合は、学校がある日は24.9%、学校がない日は21.8%となっている。



中学2年生
(n=1,585)



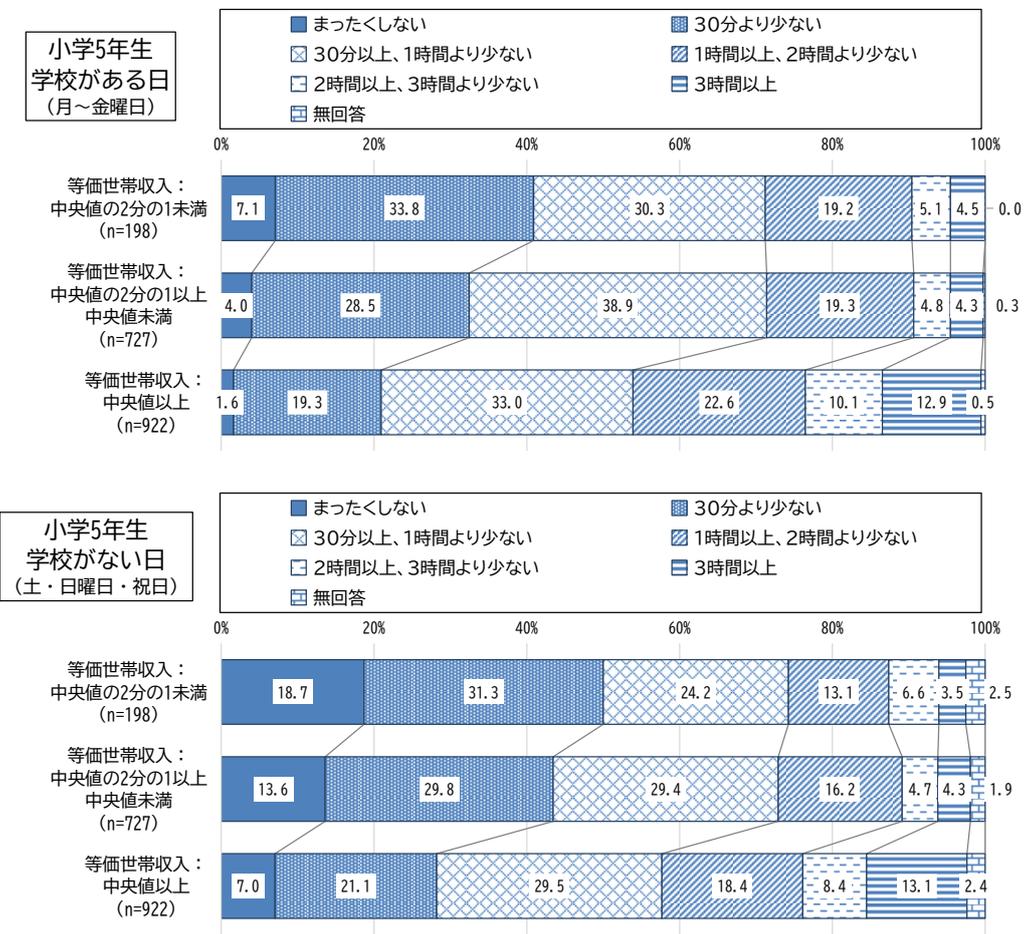
16歳・17歳
(n=1,716)



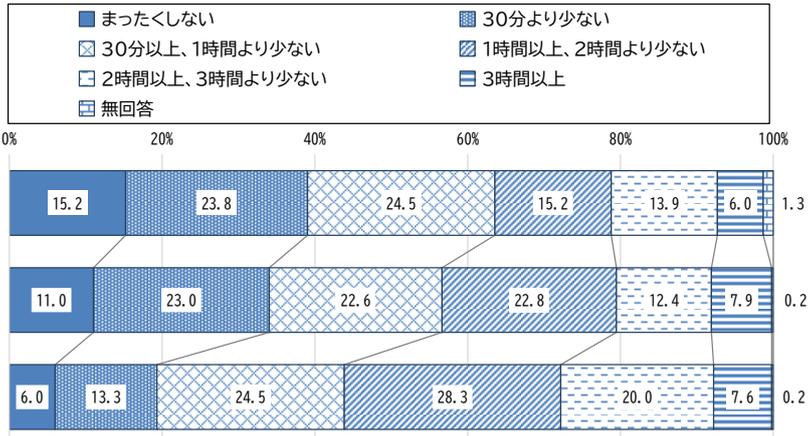
※小学5年生調査と16歳・17歳調査は令和6年度実施、中学2年生調査は令和5年度実施。

<1日あたりの勉強時間に関するクロス集計>

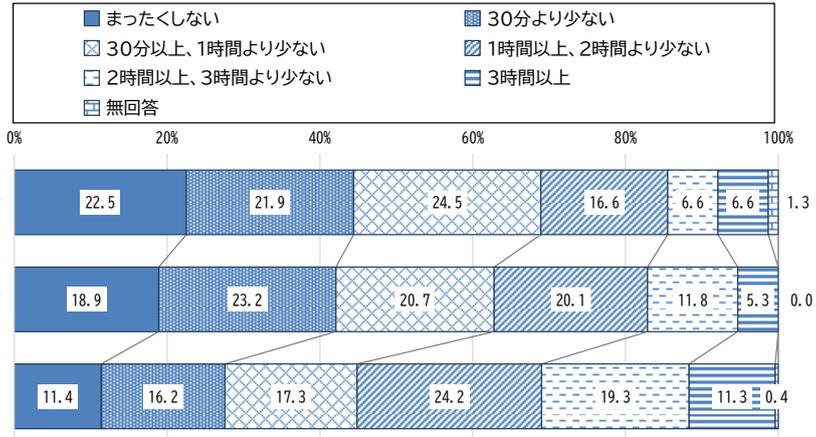
1日あたりの勉強時間について等価世帯収入の水準別にみると、いずれの調査でも、また、学校がある日・ない日ともに、等価世帯収入の水準が低いほど「まったくしない」など、勉強時間が短い回答の割合が高い傾向にある。



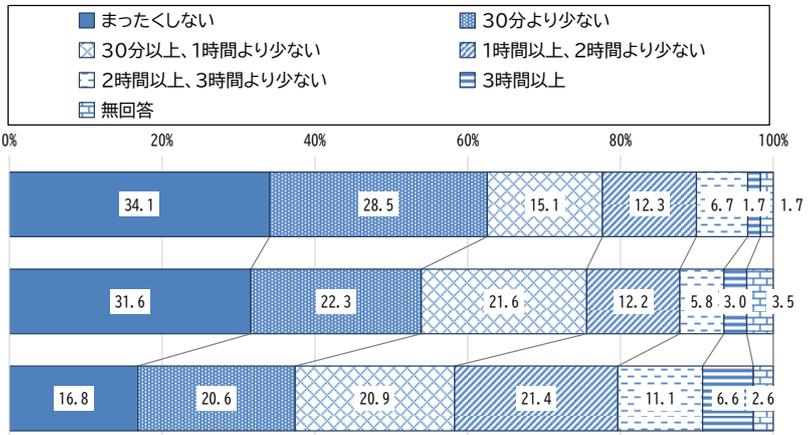
中学2年生
学校がある日
(月～金曜日)



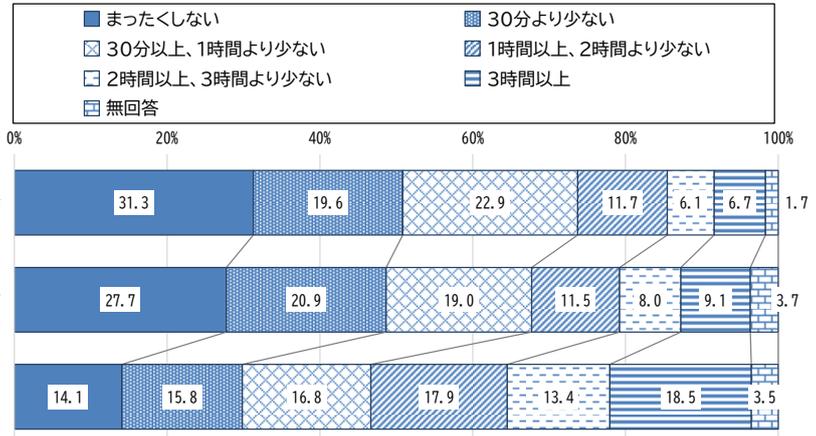
中学2年生
学校がない日
(土・日曜日・祝日)



16・17歳
学校がある日



16・17歳
学校がない日



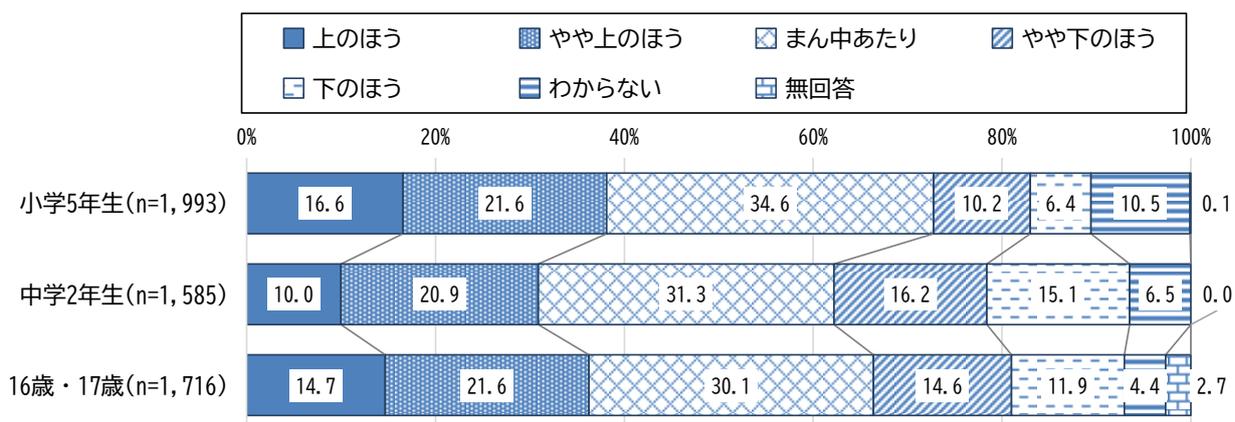
(3) クラスの中での成績

【子ども票】

あなたの成績は、クラスの中でどのくらいだと思いますか。(SA)

自身の成績がクラスの中でどのくらいだと思うかについては、いずれの調査でも「まん中あたり」の回答割合が最も高くなっている。

「下のほう」と回答された割合は、小学5年生調査では6.4%、中学2年生調査では15.1%、16歳・17歳調査では11.9%となっている。

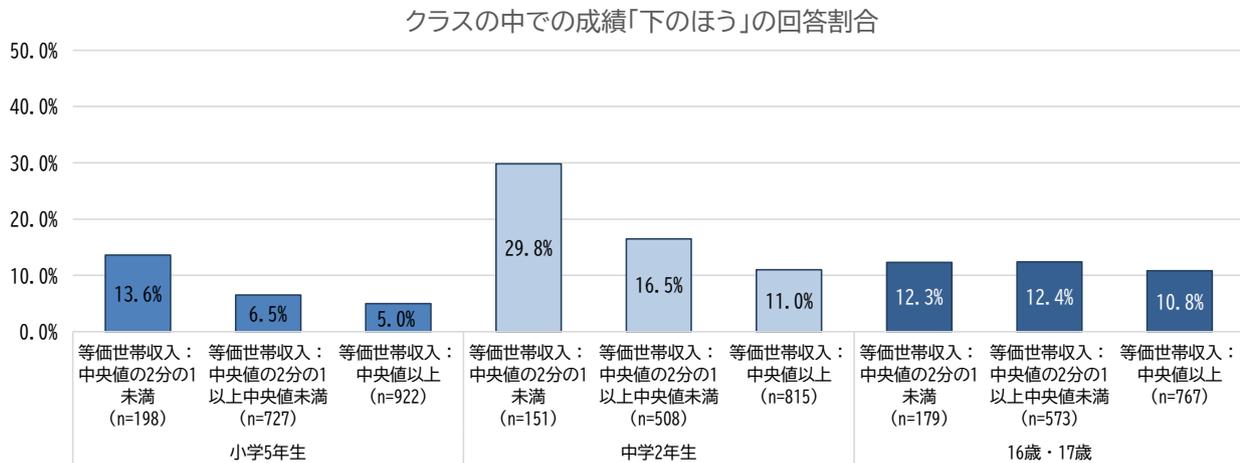


※小学5年生調査と16歳・17歳調査は令和6年度実施、中学2年生調査は令和5年度実施。

<クラスの中での成績に関するクロス集計>

クラスの中での成績について「下のほう」と回答された割合を等価世帯収入の水準別にみると、小学5年生調査と中学2年生調査では、等価世帯収入の水準が低いほど値が高い傾向にある。

また、保護者の婚姻状況別にみると、クラスの中での成績について「下のほう」と回答された割合は、いずれの調査でも「離婚」等の場合に「結婚している」の場合よりも値が高い傾向にある。



※小学5年生調査と16歳・17歳調査は令和6年度実施、中学2年生調査は令和5年度実施。

クラスの中での成績	小学5年生 (令和6年度実施)		中学2年生 (令和5年度実施)		16歳・17歳 (令和6年度実施)	
	集計対象	該当割合	集計対象	該当割合	集計対象	該当割合
「下のほう」						
収入:中央値の2分の1未満	n=198	13.6%	n=151	29.8%	n=179	12.3%
収入:中央値の2分の1以上中央値未満	n=727	6.5%	n=508	16.5%	n=573	12.4%
収入:中央値以上	n=922	5.0%	n=815	11.0%	n=767	10.8%
全体	n=1,993	6.4%	n=1,585	15.1%	n=1,716	11.9%

クラスの中での成績	小学5年生 (令和6年度実施)		中学2年生 (令和5年度実施)		16歳・17歳 (令和6年度実施)	
	集計対象	該当割合	集計対象	該当割合	集計対象	該当割合
「下のほう」						
結婚している (再婚や事実婚を含む。)	n=1,826	6.0%	n=1,388	14.0%	n=1,399	11.6%
離婚	n=80	16.3%	n=112	25.0%	n=120	17.5%
死別	n=10	10.0%	n=13	15.4%	n=20	10.0%
未婚	n=5	0.0%	n=11	36.4%	n=14	7.1%
わからない	n=4	0.0%	n=1	0.0%	n=6	16.7%
いない	n=16	12.5%	n=19	10.5%	n=22	13.6%
全体	n=1,993	6.4%	n=1,585	15.1%	n=1,716	11.9%

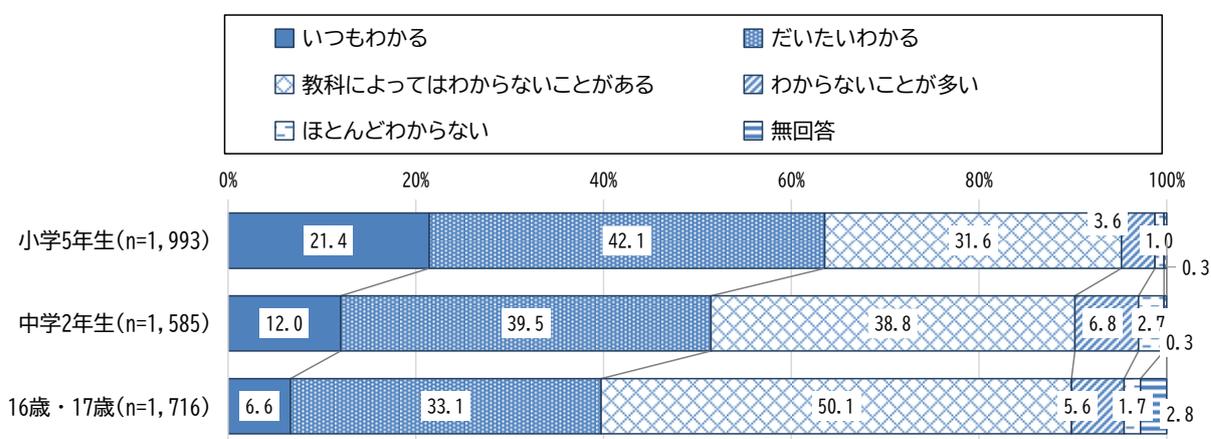
(4) 授業の理解状況

【子ども票】

あなたは、学校の授業がわからないことがありますか。(SA)

学校の授業がわからないことがあるかについて、小学5年生調査と中学2年生調査では、「だいたいわかる」の回答割合が最も高くなっている。16歳・17歳調査では、「教科によってはわからないことがある」の回答割合が最も高くなっている。

「教科によってはわからないことがある」、「わからないことが多い」、「ほとんどわからない」のいずれかに該当する割合は、小学5年生調査では 36.2%、中学2年生調査では 48.3%、16歳・17歳調査では 57.4%となっている。

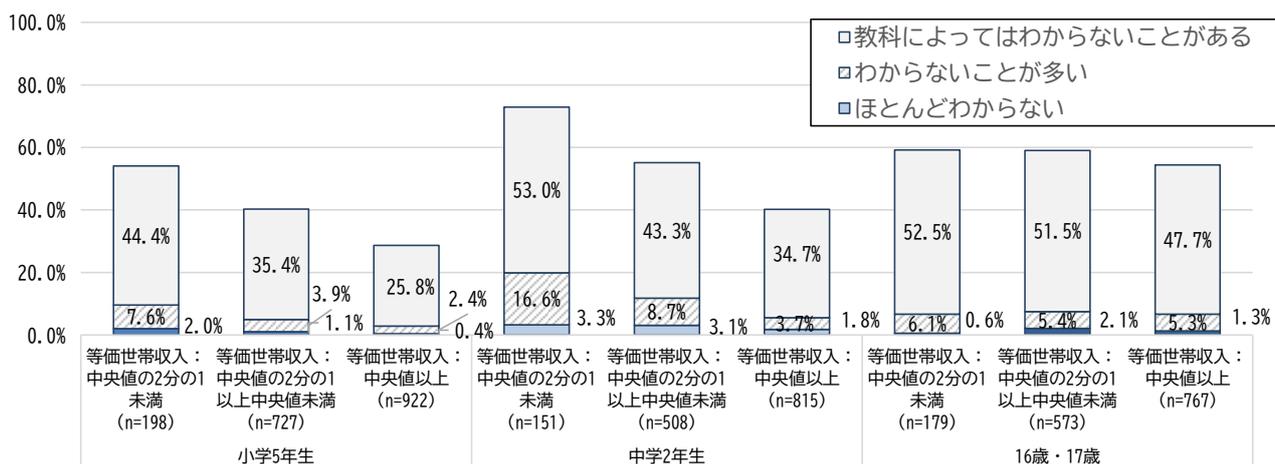


※小学5年生調査と16歳・17歳調査は令和6年度実施、中学2年生調査は令和5年度実施。

<授業の理解状況に関するクロス集計>

学校の授業がわからないことがあるかについて、「教科によってはわからないことがある」、「わからないことが多い」、「ほとんどわからない」のいずれかに該当する割合を等価世帯収入の水準別にみると、いずれの調査でも等価世帯収入の水準が低いほど値が高い傾向にある。

また、保護者の婚姻状況別にみると、学校の授業がわからないことがあるかについて「教科によってはわからないことがある」、「わからないことが多い」、「ほとんどわからない」のいずれかに該当する割合は、いずれの調査でも「離婚」等の場合に「結婚している」の場合よりも値が高い傾向にある。



※小学5年生調査と16歳・17歳調査は令和6年度実施、中学2年生調査は令和5年度実施。

学校の授業がわからないことがあるか 「教科によって」「多い」「ほとんど」	小学5年生 (令和6年度実施)		中学2年生 (令和5年度実施)		16歳・17歳 (令和6年度実施)	
	集計対象	該当割合	集計対象	該当割合	集計対象	該当割合
収入:中央値の2分の1未満	n=198	54.0%	n=151	72.9%	n=179	59.2%
収入:中央値の2分の1以上中央値未満	n=727	40.4%	n=508	55.1%	n=573	59.0%
収入:中央値以上	n=922	28.6%	n=815	40.2%	n=767	54.3%
全体	n=1,993	36.2%	n=1,585	48.3%	n=1,716	57.4%

学校の授業がわからないことがあるか 「教科によって」「多い」「ほとんど」	小学5年生 (令和6年度実施)		中学2年生 (令和5年度実施)		16歳・17歳 (令和6年度実施)	
	集計対象	該当割合	集計対象	該当割合	集計対象	該当割合
結婚している (再婚や事実婚を含む。)	n=1,826	34.6%	n=1,388	46.2%	n=1,399	56.8%
離婚	n=80	57.6%	n=112	69.7%	n=120	61.7%
死別	n=10	60.0%	n=13	38.5%	n=20	45.0%
未婚	n=5	80.0%	n=11	63.6%	n=14	42.9%
わからない	n=4	50.0%	n=1	0.0%	n=6	66.7%
いない	n=16	43.8%	n=19	52.7%	n=22	63.6%
全体	n=1,993	36.2%	n=1,585	48.3%	n=1,716	57.4%

(5) 勉強がわからなくなった時期

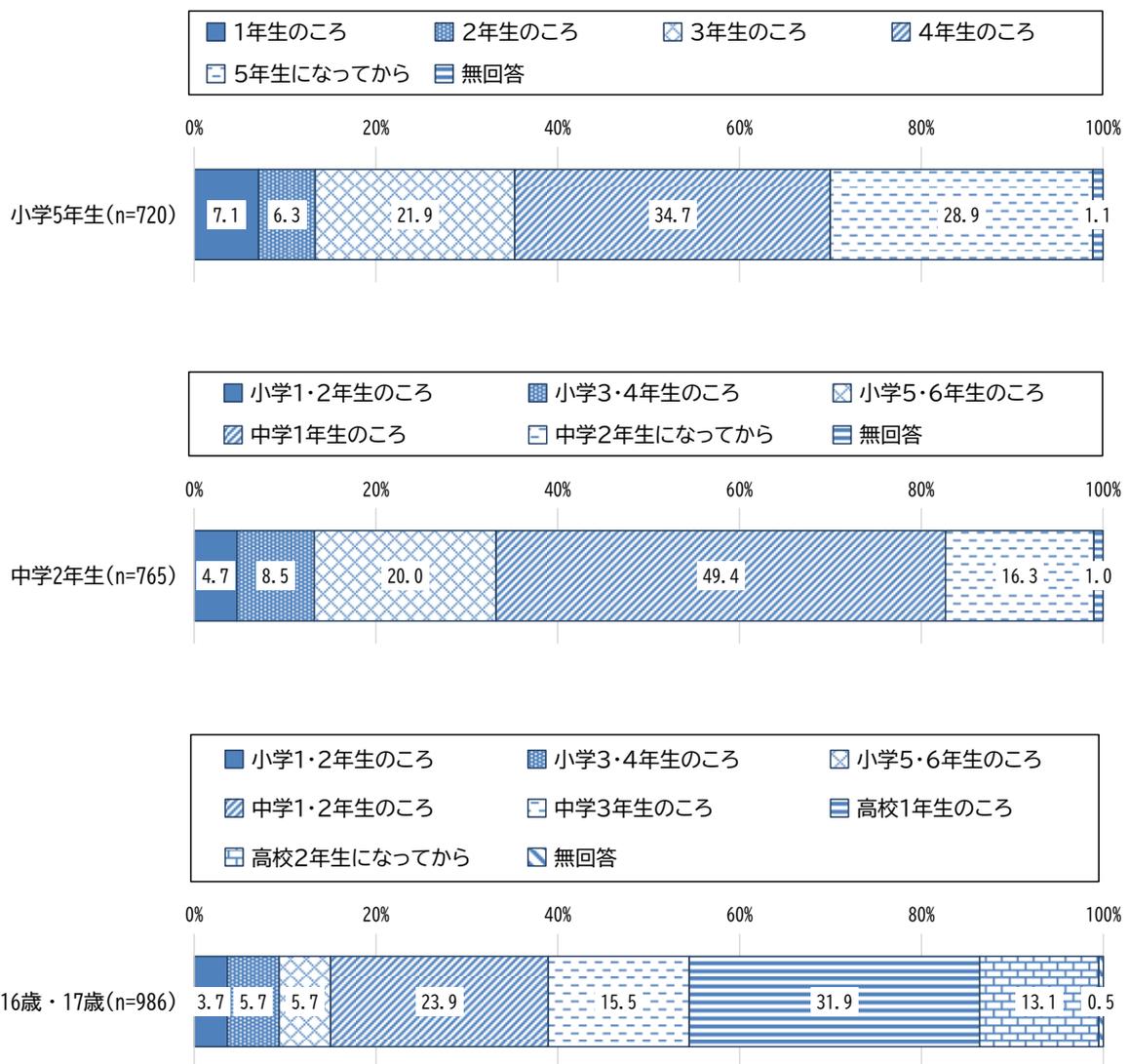
【子ども票】

(「教科によってはわからないことがある」、「わからないことが多い」、「ほとんどわからない」のいずれかに該当する場合)いつごろから、授業がわからないことがあるようになりましたか。(SA)

学校の授業がわからないことがある場合に、いつごろからわからないことがあるようになったかについては、小学5年生調査では「4年生のころ」の回答割合が最も高く、次いで「5年生になってから」の回答割合が高くなっている。

中学2年生調査では「中学1年生のころ」の回答割合が最も高く、次いで「小学5・6年生のころ」の回答割合が高くなっている。

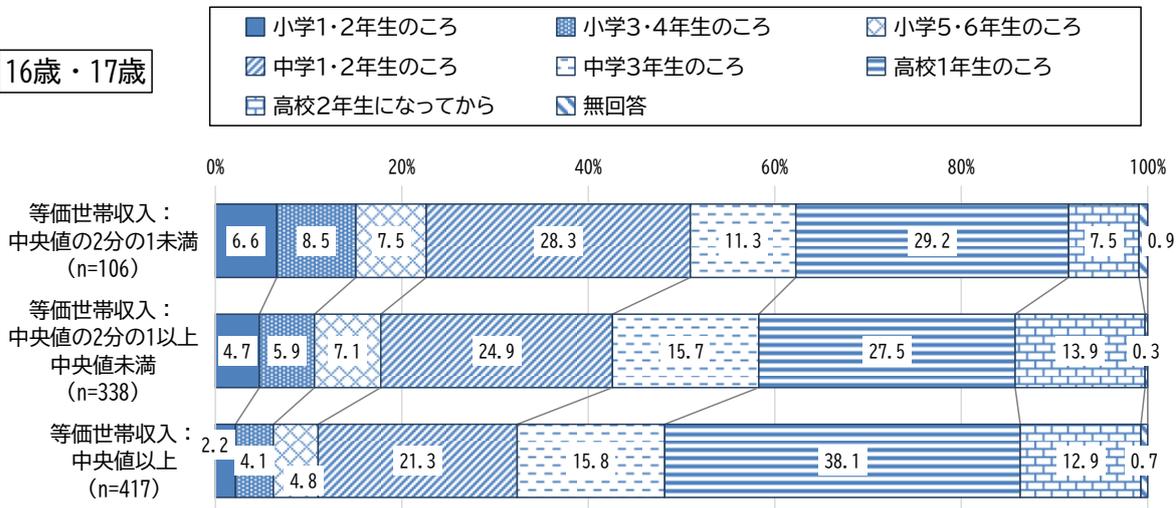
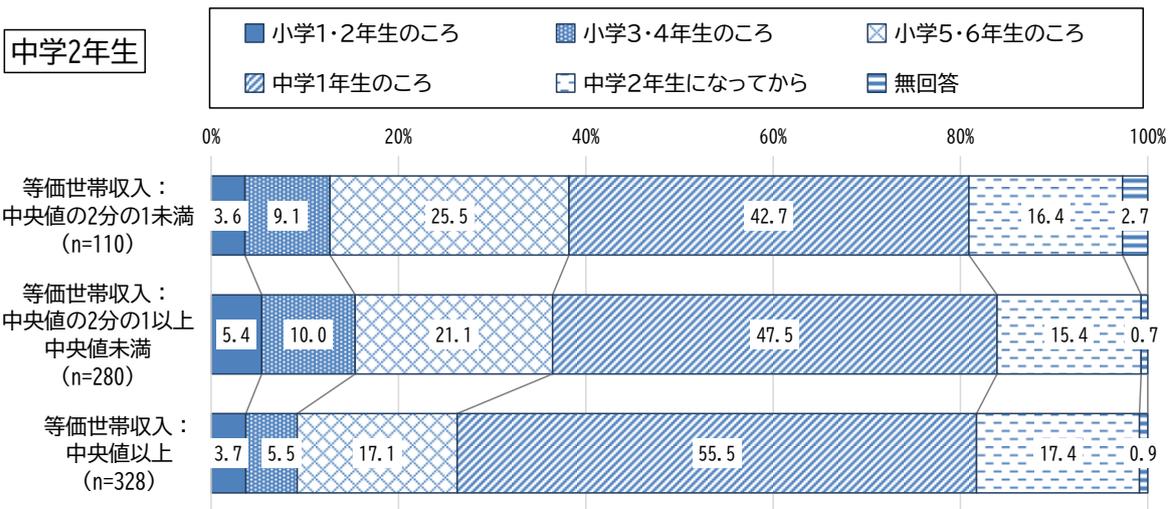
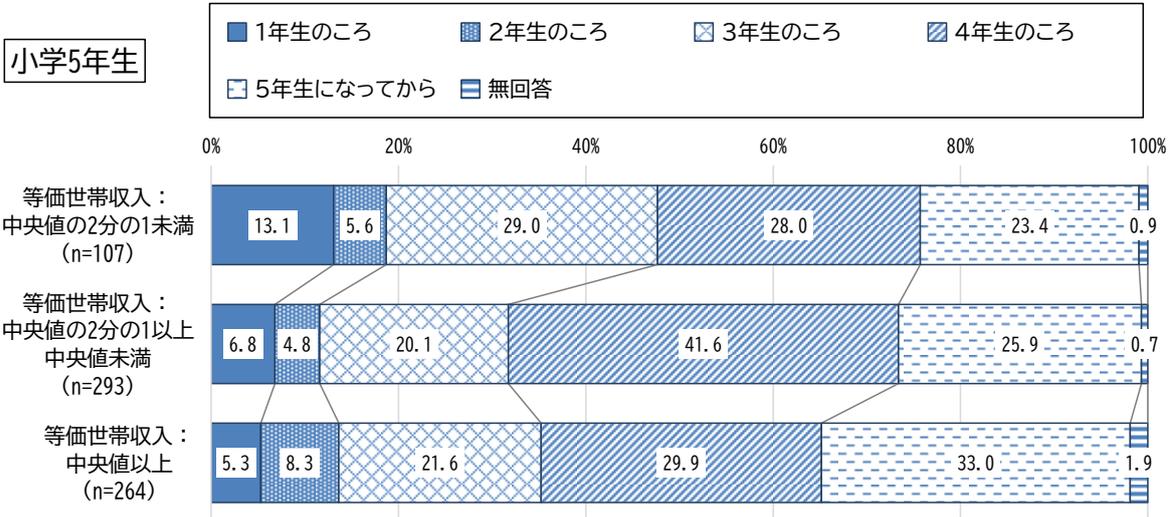
16歳・17歳調査では「高校1年生のころ」の回答割合が最も高く、次いで「中学1・2年生のころ」の回答割合が高くなっている。



※小学5年生調査と16歳・17歳調査は令和6年度実施、中学2年生調査は令和5年度実施。

<勉強がわからなくなった時期に関するクロス集計>

勉強がわからなくなった時期について等価世帯収入の水準別にみると、いずれの調査でも、等価世帯収入の水準が「中央値の2分の1未満」に該当する場合には、より低学年での回答割合が高い傾向にある。



2-2. 進学希望

(1) 進学したいと思う教育段階

【子ども票(小学5年生票)】

あなたが社会人になるまでに希望する進路を教えてください。(SA)

【子ども票(中学2年生票)】

あなたは、将来、どの学校に進学したいですか。(SA)

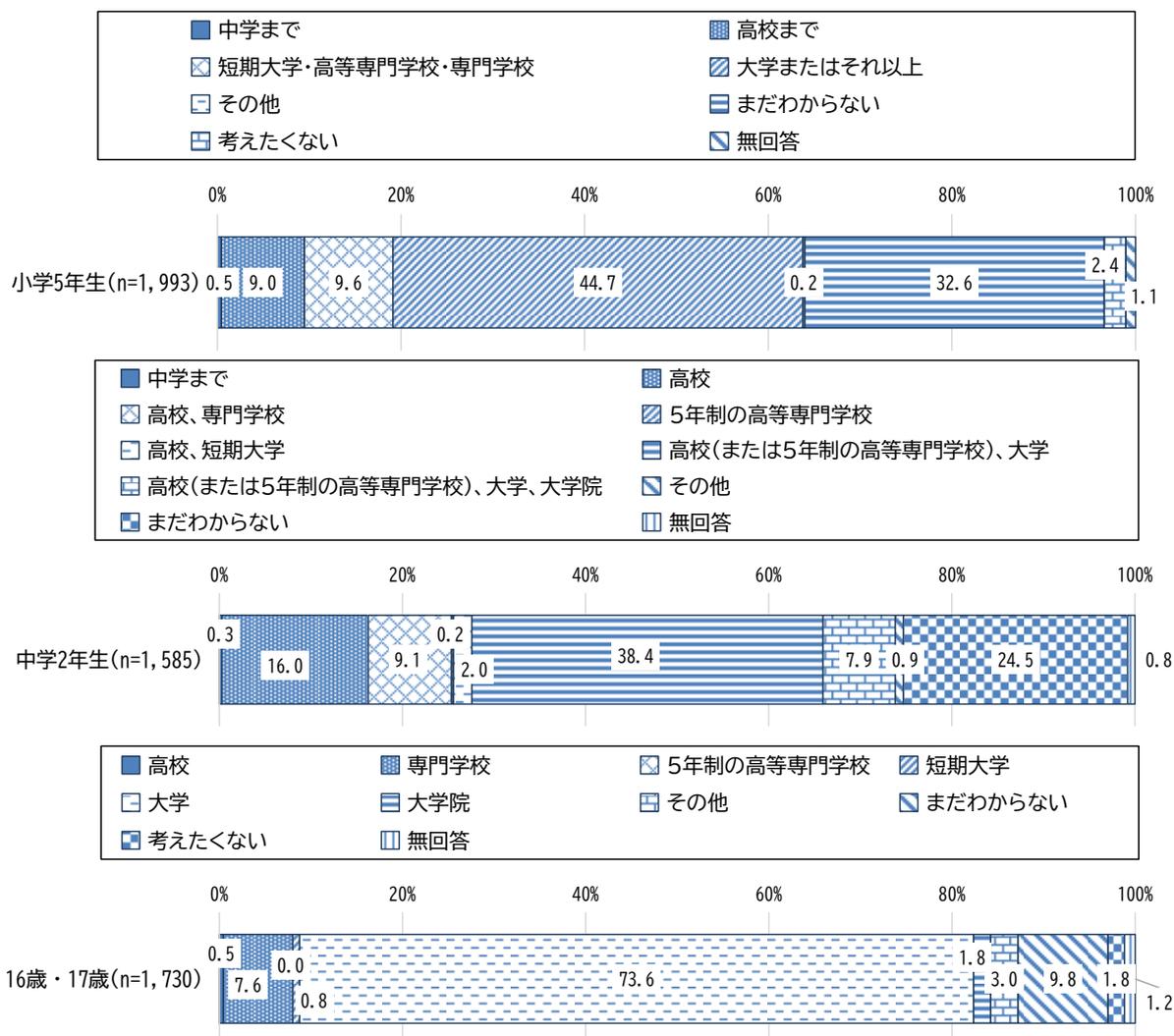
【子ども票(16歳・17歳票)】

あなたの希望する進路を教えてください。(SA)

進学したいと思う教育段階について、小学5年生調査では「大学またはそれ以上」の回答割合が最も高く、次いで「まだわからない」の回答割合が高くなっている。

中学2年生調査では、「高校(または5年制の高等専門学校)、大学」の回答割合が最も高く、次いで「まだわからない」の回答割合が高くなっている。

16歳・17歳調査では「大学」の回答割合が最も高く、次いで「まだわからない」の回答割合が高くなっている。

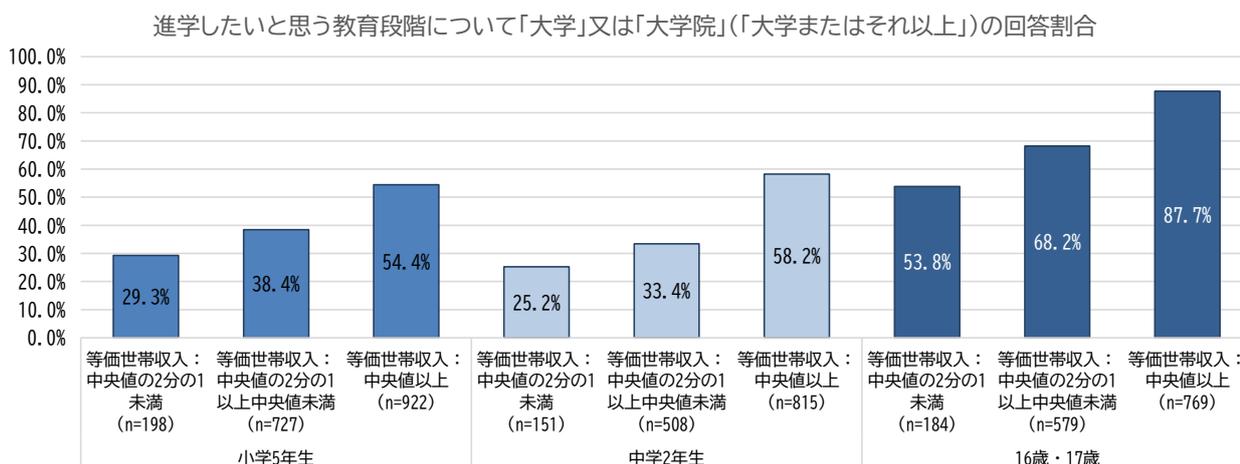


※小学5年生調査と16歳・17歳調査は令和6年度実施、中学2年生調査は令和5年度実施。

<進学したいと思う教育段階に関するクロス集計>

進学したいと思う教育段階について、「大学」又は「大学院」(「大学またはそれ以上」と回答された割合を等価世帯収入の水準別にみると、いずれの調査でも、等価世帯収入の水準が低いほど値が低い傾向にある。

また、保護者の婚姻状況別にみると、進学したいと思う教育段階について「大学」又は「大学院」(「大学またはそれ以上」と回答された割合は、いずれの調査でも「離婚」等の場合に「結婚している」の場合よりも値が低い傾向にある。



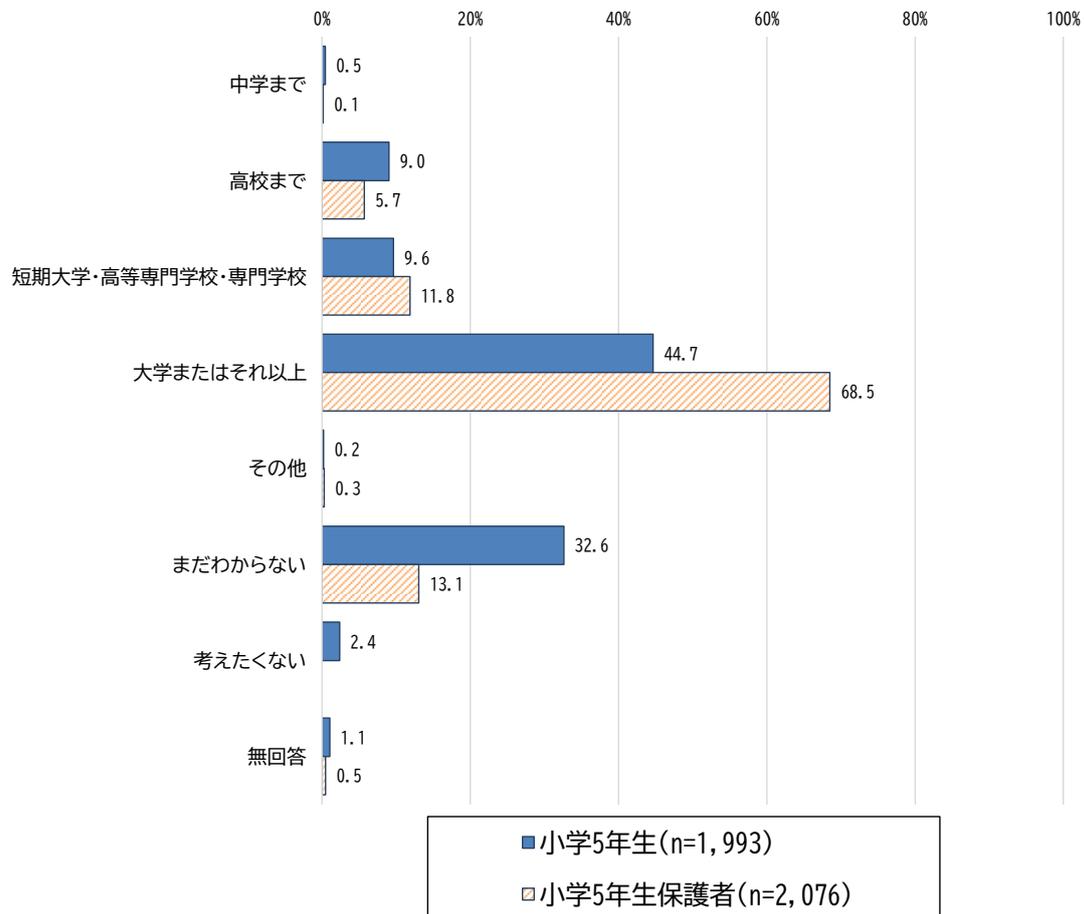
※小学5年生調査と16歳・17歳調査は令和6年度実施、中学2年生調査は令和5年度実施。

進学したいと思う教育段階	小学5年生 (令和6年度実施)		中学2年生 (令和5年度実施)		16歳・17歳 (令和6年度実施)	
	集計対象	該当割合	集計対象	該当割合	集計対象	該当割合
「大学」 「大学院」 (「大学またはそれ以上」)						
収入:中央値の2分の1未満	n=198	29.3%	n=151	25.2%	n=184	53.8%
収入:中央値の2分の1以上中央値未満	n=727	38.4%	n=508	33.4%	n=579	68.2%
収入:中央値以上	n=922	54.4%	n=815	58.2%	n=769	87.7%
全体	n=1,993	44.7%	n=1,585	46.3%	n=1,730	75.4%

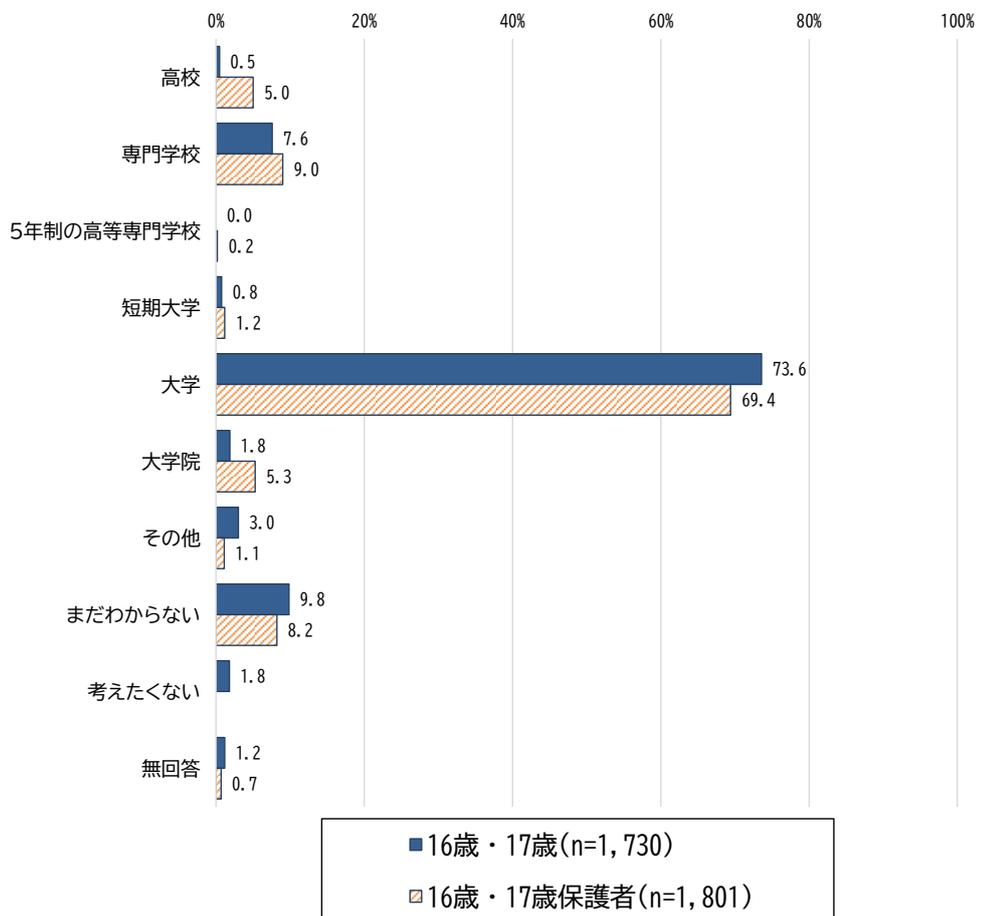
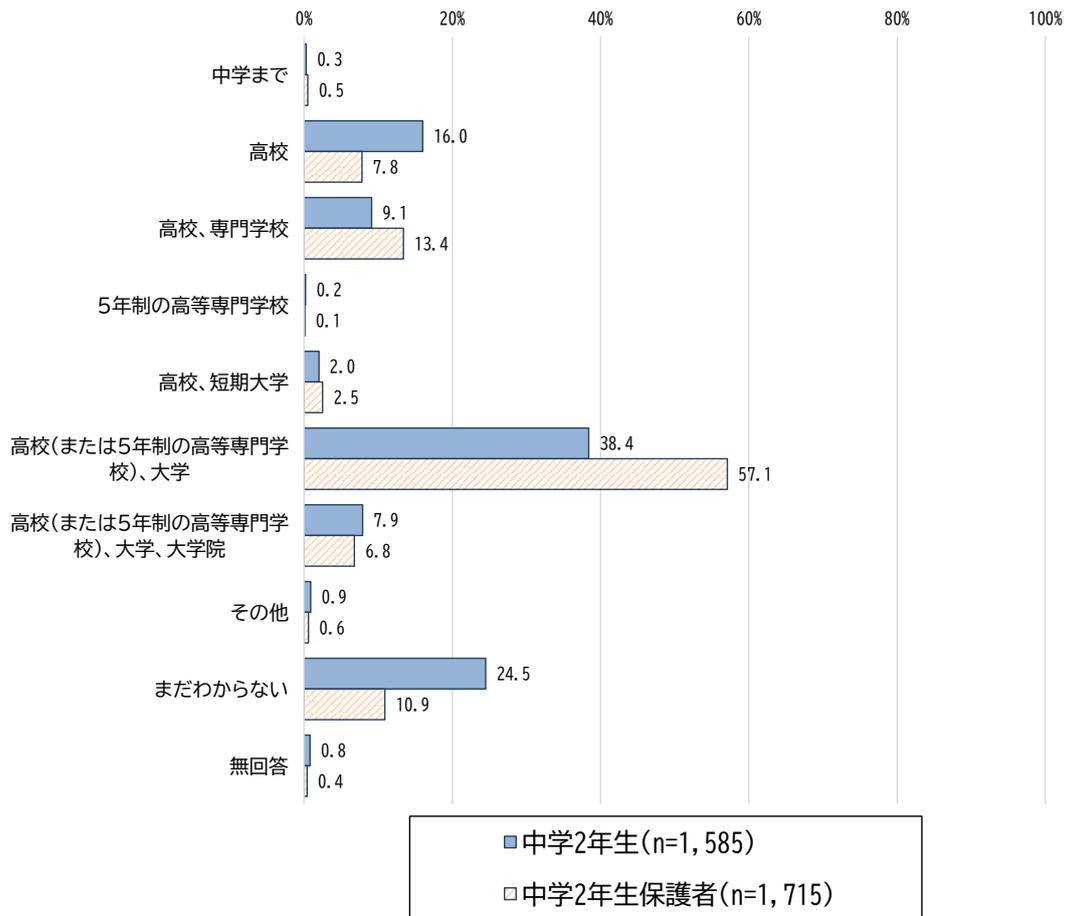
進学したいと思う教育段階	小学5年生 (令和6年度実施)		中学2年生 (令和5年度実施)		16歳・17歳 (令和6年度実施)	
	集計対象	該当割合	集計対象	該当割合	集計対象	該当割合
「大学」 「大学院」 (「大学またはそれ以上」)						
結婚している (再婚や事実婚を含む。)	n=1,826	45.8%	n=1,388	47.8%	n=1,410	77.8%
離婚	n=80	31.3%	n=112	29.5%	n=122	52.4%
死別	n=10	40.0%	n=13	71.6%	n=20	80.0%
未婚	n=5	40.0%	n=11	27.3%	n=15	53.3%
わからない	n=4	25.0%	n=1	0.0%	n=6	83.3%
いない	n=16	37.5%	n=19	31.6%	n=22	72.7%
全体	n=1,993	44.7%	n=1,585	46.3%	n=1,730	75.4%

(2) 進学希望・展望について子どもと保護者の考えの対比

進学希望・展望の教育段階について、保護者の回答と子どもの回答を対比させてみると、小学5年生調査と中学2年生調査では子ども本人の回答のほうが「高校」や「まだわからない」の回答割合が高くなっている。16歳・17歳調査では、子どもと保護者の回答の分布がより近い形になっている。



※小学5年生調査と小学5年生保護者調査では、選択肢の分類・文言が異なる形で調査をしていたが、小学5年生調査で設定した選択肢の分類・文言に合わせる形で集計した。



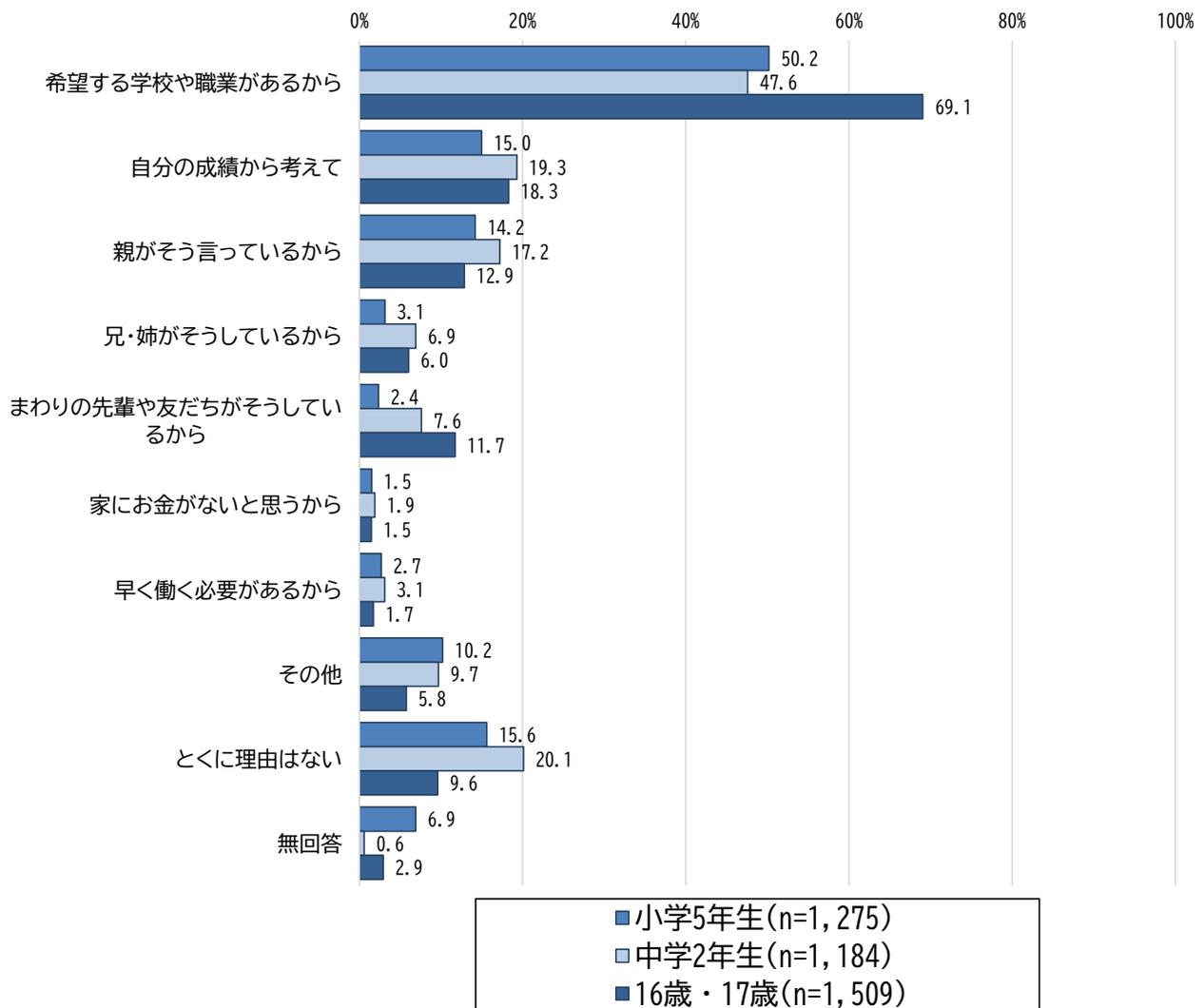
(3) 進学希望の教育段階についてそう考える理由

【子ども票】

(進学希望の教育段階について)その理由を教えてください。

進学したいと思う教育段階について回答があった場合に、その理由としては、いずれの調査でも「希望する学校や職業があるから」の回答割合が最も高くなっている。次いで回答割合が高いのは、小学5年生調査・中学2年生調査では「とくに理由はない」、16歳・17歳調査では「自分の成績から考えて」となっている。

「家にお金がないと思うから」と回答された割合は、小学5年生調査では 1.5%、中学2年生調査では 1.9%、16歳・17歳調査では 1.5%となっている。また、「早く働く必要があるから」と回答された割合は、小学5年生調査では 2.7%、中学2年生調査では 3.1%、16歳・17歳調査では 1.7%となっている。



※中学2年生と16歳・17歳では「友だち」の部分は「友達」の表記で調査をしている。

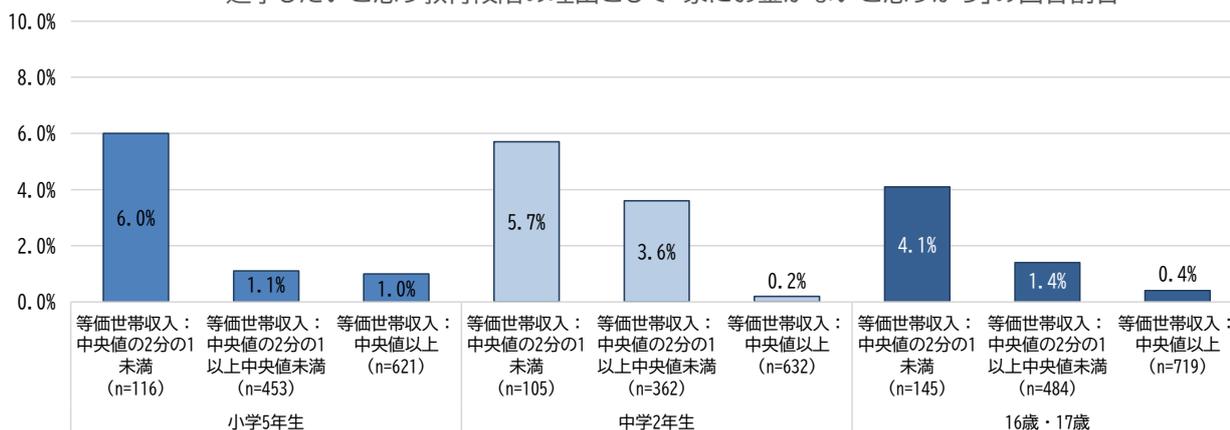
※小学5年生調査と16歳・17歳調査は令和6年度実施、中学2年生調査は令和5年度実施。

<進学希望の教育段階の理由に関するクロス集計>

進学したいと思う教育段階の理由として「家にお金がないと思うから」と回答された割合を等価世帯収入の水準別にみると、いずれの調査でも、等価世帯収入の水準が低いほど値が高い傾向にある。

また、保護者の婚姻状況別にみると、進学したいと思う教育段階の理由として「家にお金がないと思うから」と回答された割合は、いずれの調査でも「離婚」等の場合に「結婚している」の場合よりも値が高い傾向にある。

進学したいと思う教育段階の理由として「家にお金がないと思うから」の回答割合



※小学5年生調査と16歳・17歳調査は令和6年度実施、中学2年生調査は令和5年度実施。

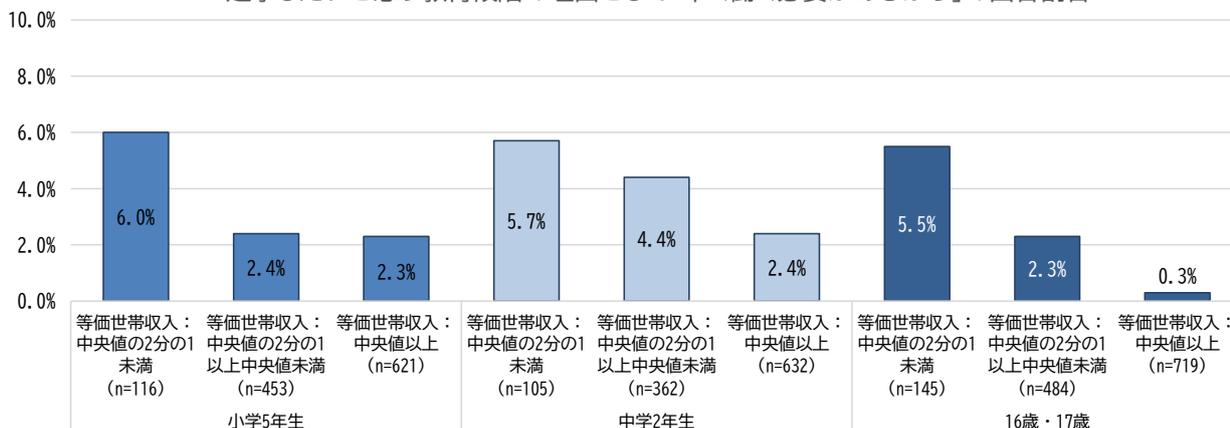
進学希望の教育段階の理由	小学5年生 (令和6年度実施)		中学2年生 (令和5年度実施)		16歳・17歳 (令和6年度実施)	
	集計対象	該当割合	集計対象	該当割合	集計対象	該当割合
「家にお金がないと思うから」						
収入:中央値の2分の1未満	n=116	6.0%	n=105	5.7%	n=145	4.1%
収入:中央値の2分の1以上中央値未満	n=453	1.1%	n=362	3.6%	n=484	1.4%
収入:中央値以上	n=621	1.0%	n=632	0.2%	n=719	0.4%
全体	n=1,275	1.5%	n=1,184	1.9%	n=1,509	1.5%

進学希望の教育段階の理由	小学5年生 (令和6年度実施)		中学2年生 (令和5年度実施)		16歳・17歳 (令和6年度実施)	
	集計対象	該当割合	集計対象	該当割合	集計対象	該当割合
「家にお金がないと思うから」						
結婚している (再婚や事実婚を含む。)	n=1,178	1.1%	n=1,035	1.4%	n=1,248	1.0%
離婚	n=49	10.2%	n=85	4.7%	n=92	3.3%
死別	n=7	0.0%	n=9	0.0%	n=17	0.0%
未婚	n=3	33.3%	n=7	28.6%	n=12	8.3%
わからない	n=2	0.0%	n=0	—	n=5	0.0%
いない	n=11	0.0%	n=13	7.7%	n=19	0.0%
全体	n=1,275	1.5%	n=1,184	1.9%	n=1,509	1.5%

進学したいと思う教育段階の理由として「早く働く必要があるから」と回答された割合を等価世帯収入の水準別にみると、いずれの調査でも等価世帯収入の水準が低いほど値が高い傾向にある。

また、保護者の婚姻状況別にみると、進学したいと思う教育段階の理由として「早く働く必要があるから」と回答された割合は、いずれの調査でも「離婚」等の場合に「結婚している」の場合よりも値が高い傾向にある。

進学したいと思う教育段階の理由として「早く働く必要があるから」の回答割合



※小学5年生調査と16歳・17歳調査は令和6年度実施、中学2年生調査は令和5年度実施。

進学希望の教育段階の理由	小学5年生 (令和6年度実施)		中学2年生 (令和5年度実施)		16歳・17歳 (令和6年度実施)	
	集計対象	該当割合	集計対象	該当割合	集計対象	該当割合
「早く働く必要があるから」						
収入:中央値の2分の1未満	n=116	6.0%	n=105	5.7%	n=145	5.5%
収入:中央値の2分の1以上中央値未満	n=453	2.4%	n=362	4.4%	n=484	2.3%
収入:中央値以上	n=621	2.3%	n=632	2.4%	n=719	0.3%
全体	n=1,275	2.7%	n=1,184	3.1%	n=1,509	1.7%

進学希望の教育段階の理由	小学5年生 (令和6年度実施)		中学2年生 (令和5年度実施)		16歳・17歳 (令和6年度実施)	
	集計対象	該当割合	集計対象	該当割合	集計対象	該当割合
「早く働く必要があるから」						
結婚している (再婚や事実婚を含む。)	n=1,178	2.5%	n=1,035	3.1%	n=1,248	0.9%
離婚	n=49	6.1%	n=85	5.9%	n=92	9.8%
死別	n=7	0.0%	n=9	0.0%	n=17	0.0%
未婚	n=3	33.3%	n=7	0.0%	n=12	0.0%
わからない	n=2	0.0%	n=0	—	n=5	0.0%
いない	n=11	0.0%	n=13	0.0%	n=19	5.3%
全体	n=1,275	2.7%	n=1,184	3.1%	n=1,509	1.7%

2-3. 部活動等への参加状況、アルバイト等の状況

(1) 部活動等への参加状況

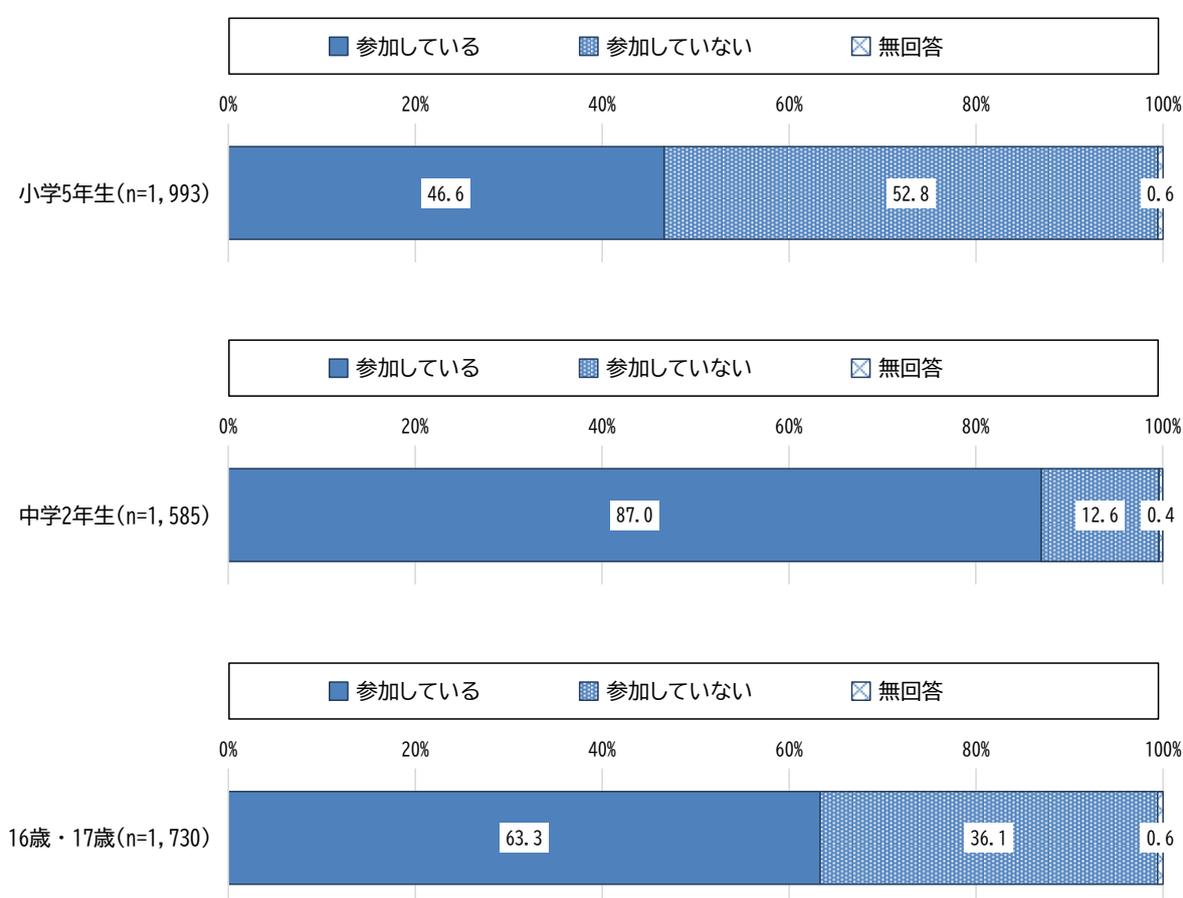
【子ども票(小学5年生票)】

あなたは、地域のスポーツクラブや文化クラブに参加していますか。(SA)

【子ども票(中学2年生票、16歳・17歳票)】

あなたは、地域のスポーツクラブや文化クラブ、学校の部活動に参加していますか。(SA)

地域のスポーツクラブや文化クラブ、学校の部活動の参加の状況について、「参加している」の回答割合は、小学5年生調査では46.6%、中学2年生調査では87.0%、16歳・17歳調査では63.3%となっている。

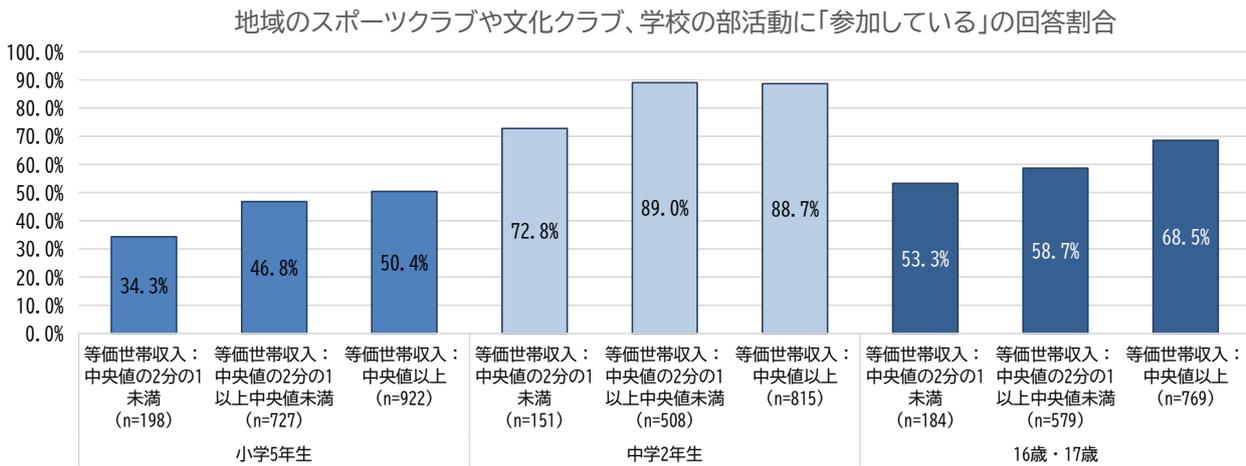


※小学5年生調査と16歳・17歳調査は令和6年度実施、中学2年生調査は令和5年度実施。

<部活動等への参加状況に関するクロス集計>

地域のスポーツクラブや文化クラブ、学校の部活動に「参加している」と回答された割合を等価世帯収入の水準別にみると、いずれの調査でも、等価世帯収入の水準が「中央値の2分の1未満」に該当する場合に値が低い傾向にある。

また、保護者の婚姻状況別にみると、地域のスポーツクラブや文化クラブ、学校の部活動に「参加している」と回答された割合は、いずれの調査でも「離婚」等の場合に「結婚している」の場合よりも値が低い傾向にある。



※小学5年生調査と16歳・17歳調査は令和6年度実施、中学2年生調査は令和5年度実施。

部活動等への参加状況	小学5年生 (令和6年度実施)		中学2年生 (令和5年度実施)		16歳・17歳 (令和6年度実施)	
	集計対象	該当割合	集計対象	該当割合	集計対象	該当割合
「参加している」						
収入:中央値の2分の1未満	n=198	34.3%	n=151	72.8%	n=184	53.3%
収入:中央値の2分の1以上中央値未満	n=727	46.8%	n=508	89.0%	n=579	58.7%
収入:中央値以上	n=922	50.4%	n=815	88.7%	n=769	68.5%
全体	n=1,993	46.6%	n=1,585	87.0%	n=1,730	63.3%

部活動等への参加状況	小学5年生 (令和6年度実施)		中学2年生 (令和5年度実施)		16歳・17歳 (令和6年度実施)	
	集計対象	該当割合	集計対象	該当割合	集計対象	該当割合
「参加している」						
結婚している (再婚や事実婚を含む。)	n=1,826	47.5%	n=1,388	88.2%	n=1,410	64.8%
離婚	n=80	31.3%	n=112	72.3%	n=122	46.7%
死別	n=10	60.0%	n=13	100.0%	n=20	50.0%
未婚	n=5	20.0%	n=11	90.9%	n=15	66.7%
わからない	n=4	0.0%	n=1	0.0%	n=6	50.0%
いない	n=16	43.8%	n=19	84.2%	n=22	50.0%
全体	n=1,993	46.6%	n=1,585	87.0%	n=1,730	63.3%

(2) 部活動等に参加していない理由

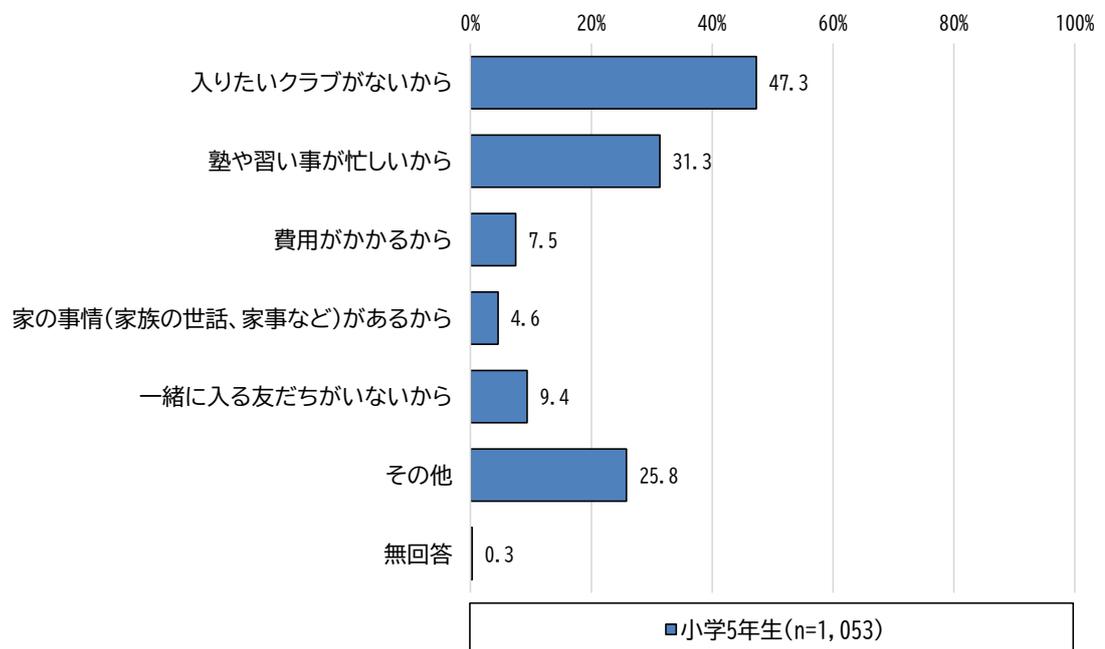
【子ども票】

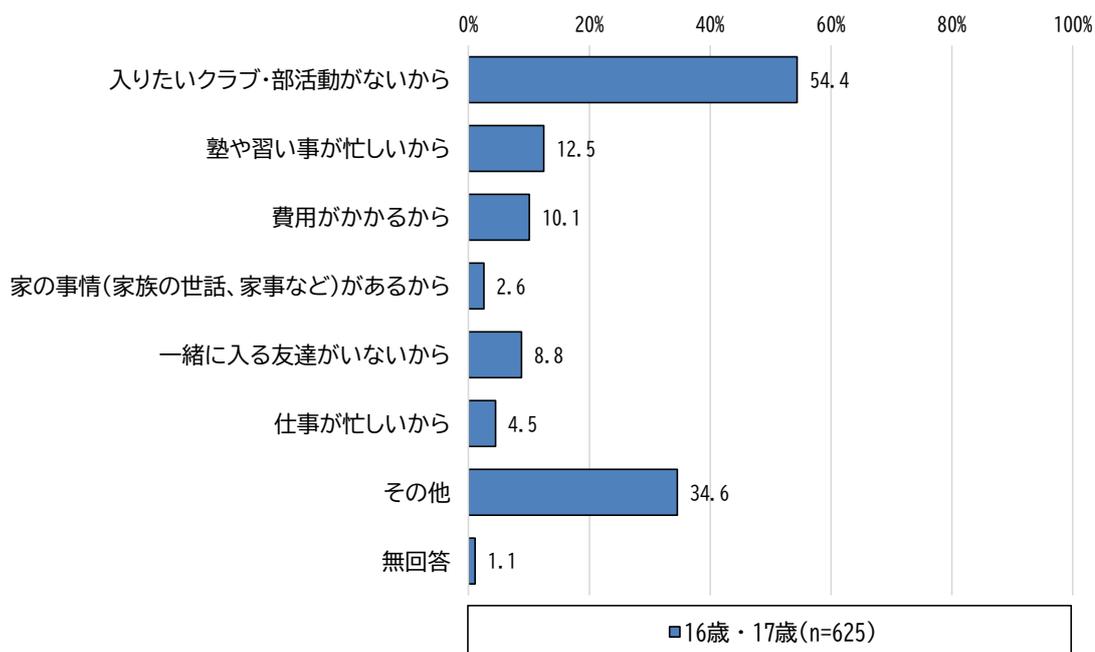
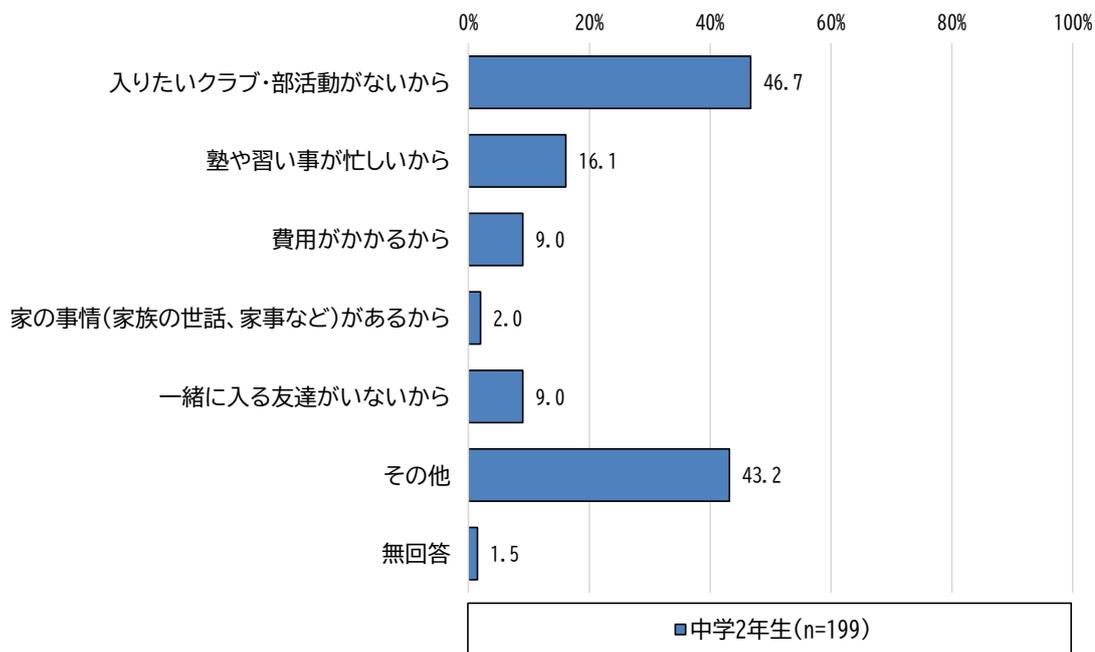
(クラブ活動や部活動に参加していない場合)参加していない理由は何ですか。(MA)

クラブ活動や部活動に参加していない場合に、その理由としては、小学5年生調査では「入りたいクラブがないから」の回答割合が最も高く、次いで「塾や習い事が忙しいから」の回答割合が高くなっている。

中学2年生調査と16歳・17歳調査では「入りたいクラブ・部活動がないから」の回答割合が最も高く、次いで「その他」の回答割合が高くなっている。

「費用がかかるから」と回答された割合は、小学5年生調査では 7.5%、中学2年生調査では 9.0%、16歳・17歳調査では 10.1%となっている。

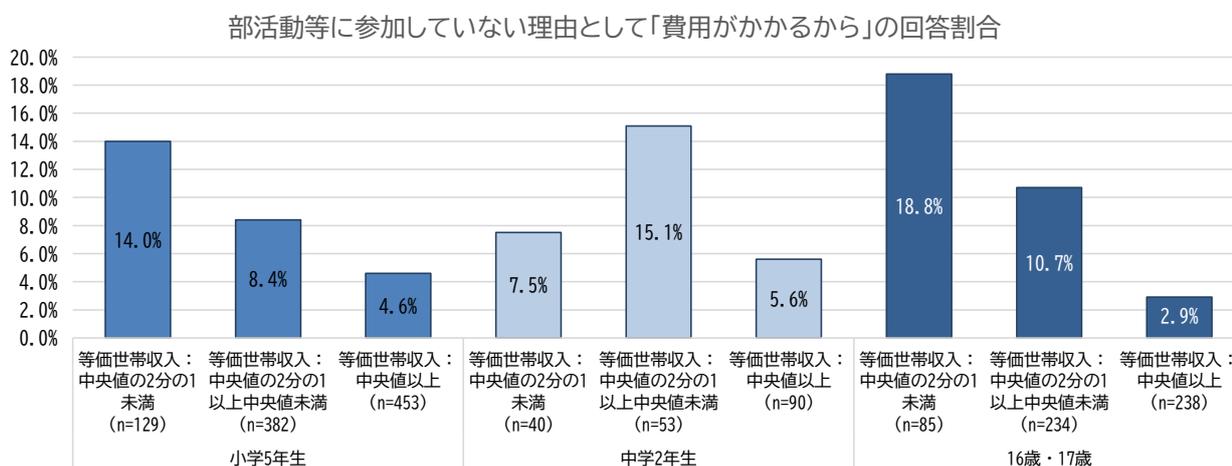




※小学5年生調査と16歳・17歳調査は令和6年度実施、中学2年生調査は令和5年度実施。

<部活動等に参加していない理由に関するクロス集計>

部活動等に参加していない理由として「費用がかかるから」と回答された割合を等価世帯収入の水準別にみると、小学5年生調査と16歳・17歳調査では、等価世帯収入の水準が低いほど値が高い傾向にある。また、保護者の婚姻状況別にみると、部活動等に参加していない理由として「費用がかかるから」と回答された割合は、いずれの調査でも「離婚」等の場合に「結婚している」の場合よりも値が高い傾向にある。



※小学5年生調査と16歳・17歳調査は令和6年度実施、中学2年生調査は令和5年度実施。

部活動等に参加していない理由	小学5年生 (令和6年度実施)		中学2年生 (令和5年度実施)		16歳・17歳 (令和6年度実施)	
	集計対象	該当割合	集計対象	該当割合	集計対象	該当割合
「費用がかかるから」						
収入:中央値の2分の1未満	n=129	14.0%	n=40	7.5%	n=85	18.8%
収入:中央値の2分の1以上中央値未満	n=382	8.4%	n=53	15.1%	n=234	10.7%
収入:中央値以上	n=453	4.6%	n=90	5.6%	n=238	2.9%
全体	n=1,053	7.5%	n=199	9.0%	n=625	10.1%

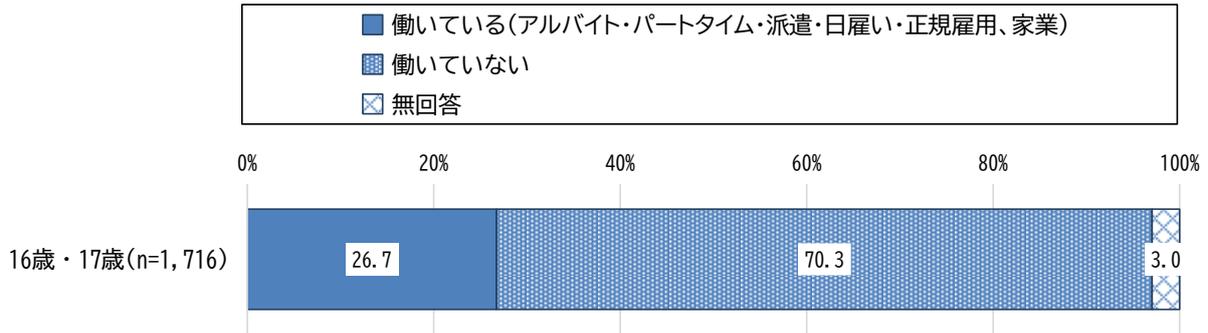
部活動等に参加していない理由	小学5年生 (令和6年度実施)		中学2年生 (令和5年度実施)		16歳・17歳 (令和6年度実施)	
	集計対象	該当割合	集計対象	該当割合	集計対象	該当割合
「費用がかかるから」						
結婚している (再婚や事実婚を含む。)	n=949	6.6%	n=158	7.6%	n=487	8.2%
離婚	n=54	18.5%	n=30	13.3%	n=64	15.6%
死別	n=4	50.0%	n=0	—	n=10	10.0%
未婚	n=4	25.0%	n=1	100.0%	n=5	0.0%
わからない	n=4	0.0%	n=1	0.0%	n=3	0.0%
いない	n=9	11.1%	n=3	0.0%	n=11	0.0%
全体	n=1,053	7.5%	n=199	9.0%	n=625	10.1%

(3) アルバイト等の状況

【子ども票(16歳・17歳票)】

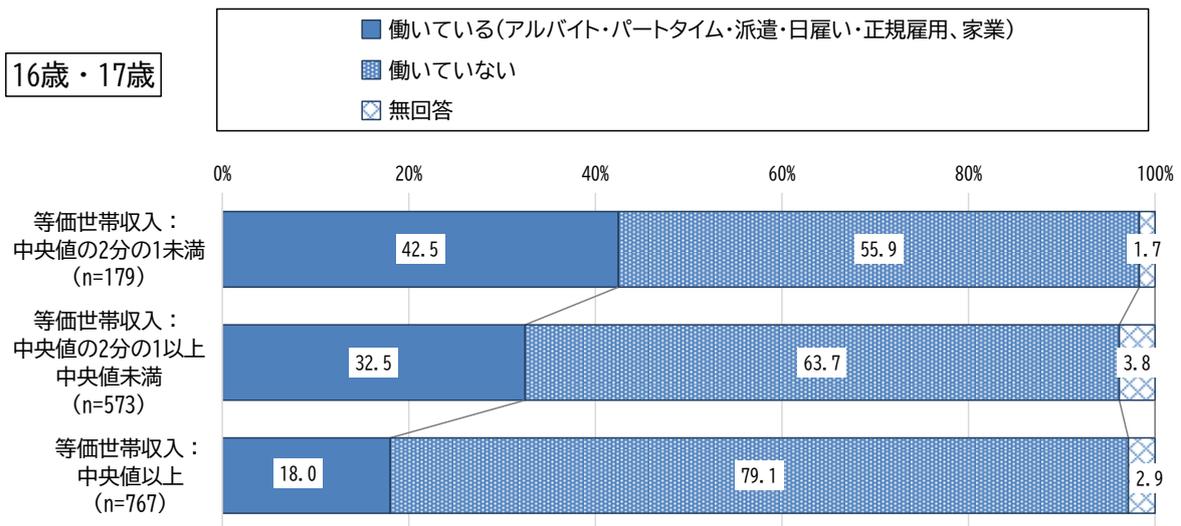
学生の方に伺います。あなたは学業と両立してアルバイトなどで働いていますか。(SA)

16歳・17歳調査に関して、学生のうち学業と両立してアルバイトなどで働いているかについて、「働いている」の回答割合は26.7%となっている。



<アルバイト等の状況に関するクロス集計>

学生のうち学業と両立してアルバイトなどで働いているかについて等価世帯収入の水準別にみると、「働いている」の回答割合は、等価世帯収入の水準が低いほど値が高い傾向にあり、等価世帯収入の水準が「中央値の2分の1未満」に該当する場合には42.5%、「中央値の2分の1以上中央値未満」に該当する場合には32.5%、「中央値以上」に該当する場合には18.0%となっている。

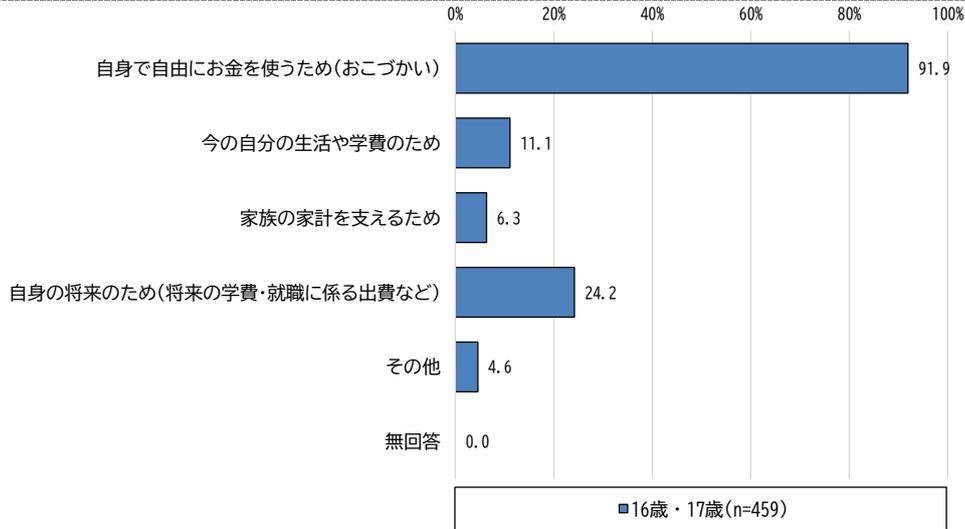


(4) アルバイト等をしている理由

【子ども票(16歳・17歳票)】

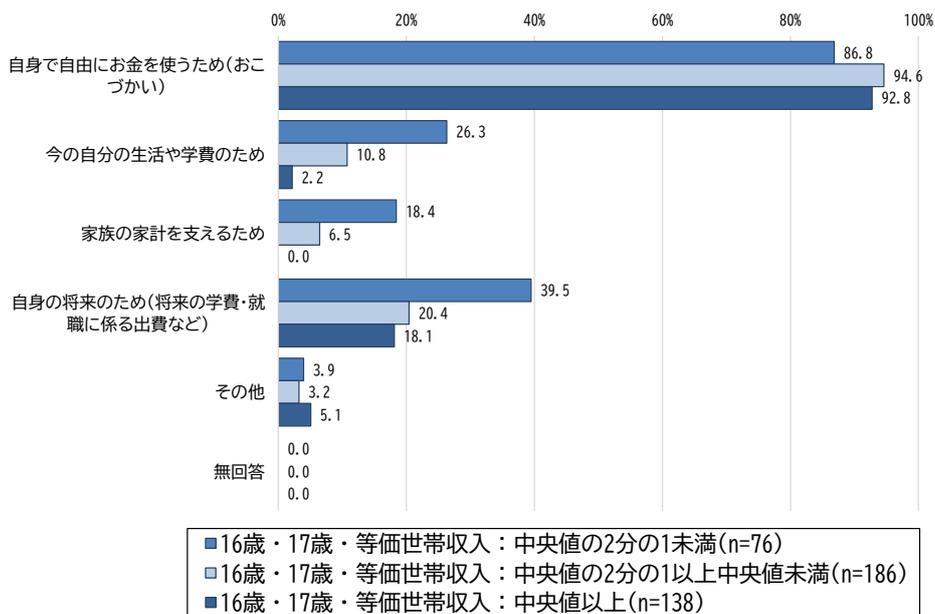
(アルバイトなどをしている場合)理由は何ですか。(MA)

16歳・17歳調査に関して、アルバイトなどをしている場合にその理由としては、「自身で自由にお金を使うため(おこづかい)」の回答割合が最も高くなっている。「今の自分の生活や学費のため」は11.1%、「家族の家計を支えるため」は6.3%、「自身の将来のため(将来の学費・就職に係る出費など)」は24.2%となっている。



<アルバイト等をしている理由に関するクロス集計>

アルバイトなどをしている場合の理由を等価世帯収入の水準別にみると、「今の自分の生活や学費のため」、「家族の家計を支えるため」、「自身の将来のため(将来の学費・就職に係る出費など)」の回答割合は、等価世帯収入の水準が低いほど値が高い傾向にある。



2-4. 日常的な生活の状況

(1) 食事の状況

【子ども票(小学5年生票、中学2年生票)】

あなたは週にどのくらい、食事をしていますか。(SA)

- a)朝食
- b)夕食
- c)夏休みや冬休みなどの期間の昼食

【子ども票(16歳・17歳票)】

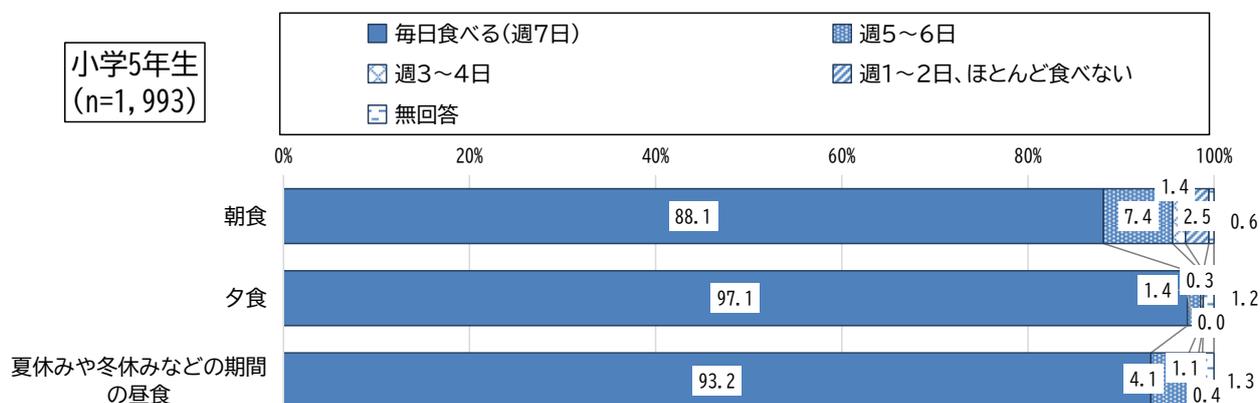
あなたは週にどのくらい、食事をしていますか。(SA)

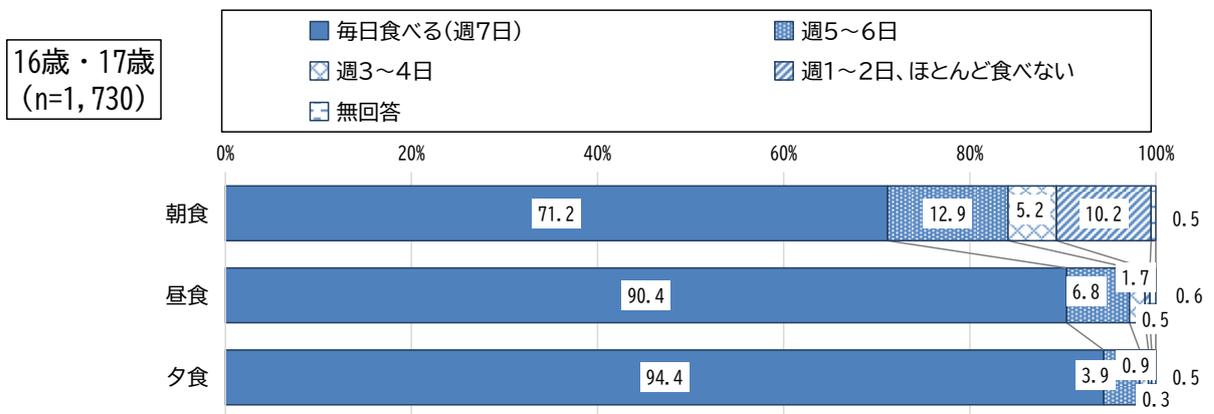
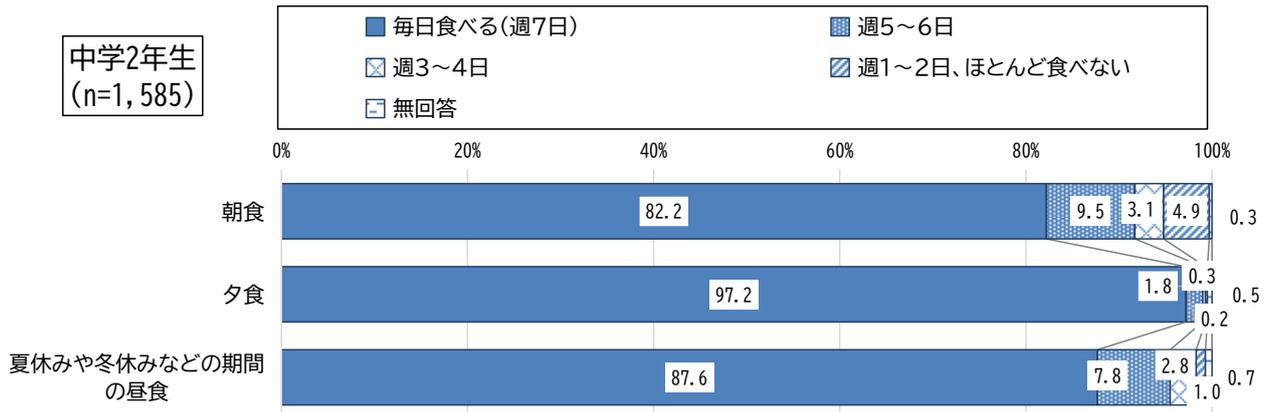
- a)朝食
- b)昼食
- c)夕食

小学5年生調査の食事の状況について、「毎日食べる(週7日)」の回答割合は、「朝食」が88.1%、「夕食」が97.1%、「夏休みや冬休みなどの期間の昼食」が93.2%となっている。

中学2年生調査では、「毎日食べる(週7日)」の回答割合は、「朝食」が82.2%、「夕食」が97.2%、「夏休みや冬休みなどの期間の昼食」が87.6%となっている。

16歳・17歳調査では、「毎日食べる(週7日)」の回答割合は、「朝食」が71.2%、「昼食」が90.4%、「夕食」が94.4%となっている。



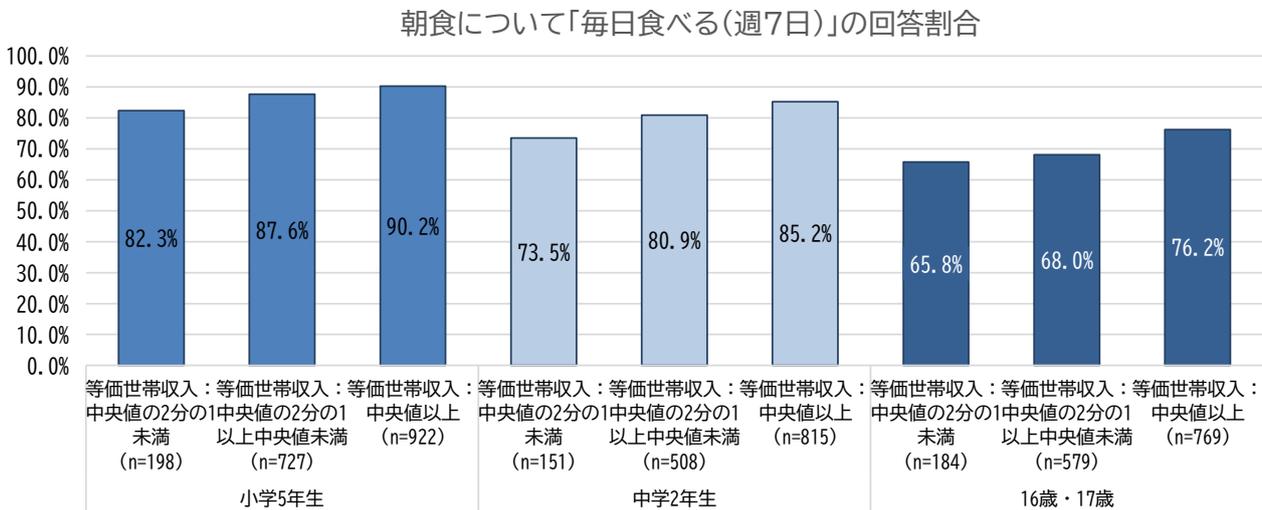


※小学5年生調査と16歳・17歳調査は令和6年度実施、中学2年生調査は令和5年度実施。

<食事の状況(朝食)に関するクロス集計>

朝食を「毎日食べる(週7日)」と回答された割合を等価世帯収入の水準別にみると、いずれの調査でも、等価世帯収入の水準が低いほど値が低い傾向にある。

また、保護者の婚姻状況別にみると、朝食を「毎日食べる(週7日)」と回答された割合は、いずれの調査でも「離婚」等の場合に「結婚している」の場合よりも値が低い傾向にある。



※小学5年生調査と16歳・17歳調査は令和6年度実施、中学2年生調査は令和5年度実施。

朝食を食べる頻度	小学5年生 (令和6年度実施)		中学2年生 (令和5年度実施)		16歳・17歳 (令和6年度実施)	
	集計対象	該当割合	集計対象	該当割合	集計対象	該当割合
「毎日食べる(週7日)」						
収入:中央値の2分の1未満	n=198	82.3%	n=151	73.5%	n=184	65.8%
収入:中央値の2分の1以上中央値未満	n=727	87.6%	n=508	80.9%	n=579	68.0%
収入:中央値以上	n=922	90.2%	n=815	85.2%	n=769	76.2%
全体	n=1,993	88.1%	n=1,585	82.2%	n=1,730	71.2%

朝食を食べる頻度	小学5年生 (令和6年度実施)		中学2年生 (令和5年度実施)		16歳・17歳 (令和6年度実施)	
	集計対象	該当割合	集計対象	該当割合	集計対象	該当割合
「毎日食べる(週7日)」						
結婚している (再婚や事実婚を含む。)	n=1,826	88.7%	n=1,388	83.4%	n=1,410	73.5%
離婚	n=80	78.8%	n=112	71.4%	n=122	55.7%
死別	n=10	80.0%	n=13	84.6%	n=20	75.0%
未婚	n=5	100.0%	n=11	54.5%	n=15	60.0%
わからない	n=4	100.0%	n=1	100.0%	n=6	50.0%
いない	n=16	87.5%	n=19	78.9%	n=22	68.2%
全体	n=1,993	88.1%	n=1,585	82.2%	n=1,730	71.2%

(2) 就寝時間

【子ども票(小学5年生票)】

あなたは、ふだん(月曜日～金曜日)、ほぼ同じ時間に寝ていますか。(SA)

※夏休みなどの長いお休みについてはふくめず、学校がある日だけを考えてください。

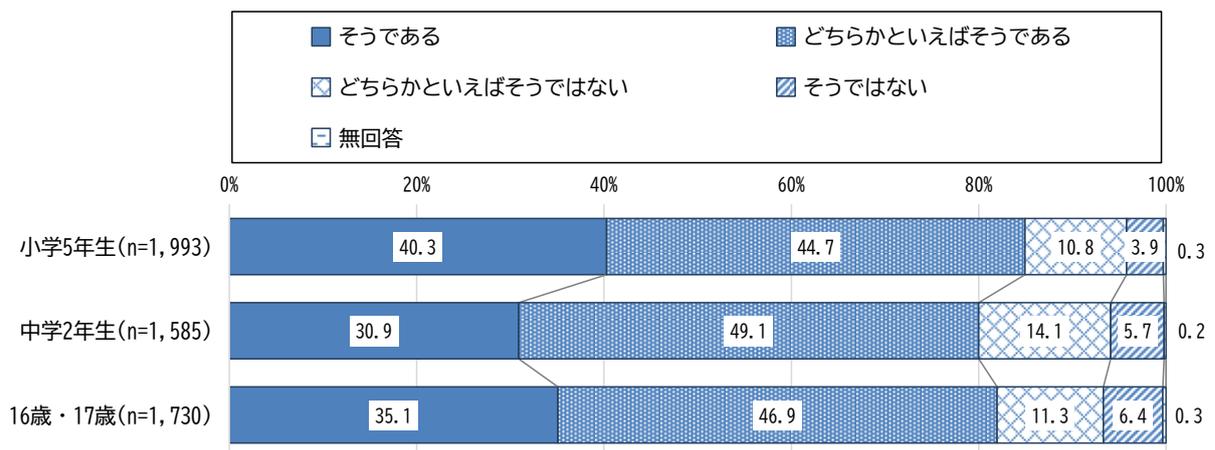
【子ども票(16歳・17歳票)】

あなたは、ふだん(月曜日～金曜日)、ほぼ同じ時間に寝ていますか。(SA)

※学校に在籍している方は、夏休みなどの長いお休みについてはふくめず、学校がある日だけを考えてください。

ふだんほぼ同じ時間に寝ているかについては、いずれの調査でも「どちらかといえばそうである」の回答割合が最も高く、次いで「そうである」の回答割合が高くなっている。

「どちらかといえばそうではない」又は「そうではない」と回答された割合は、小学5年生調査では14.7%、中学2年生調査では19.8%、16歳・17歳調査では17.7%となっている。

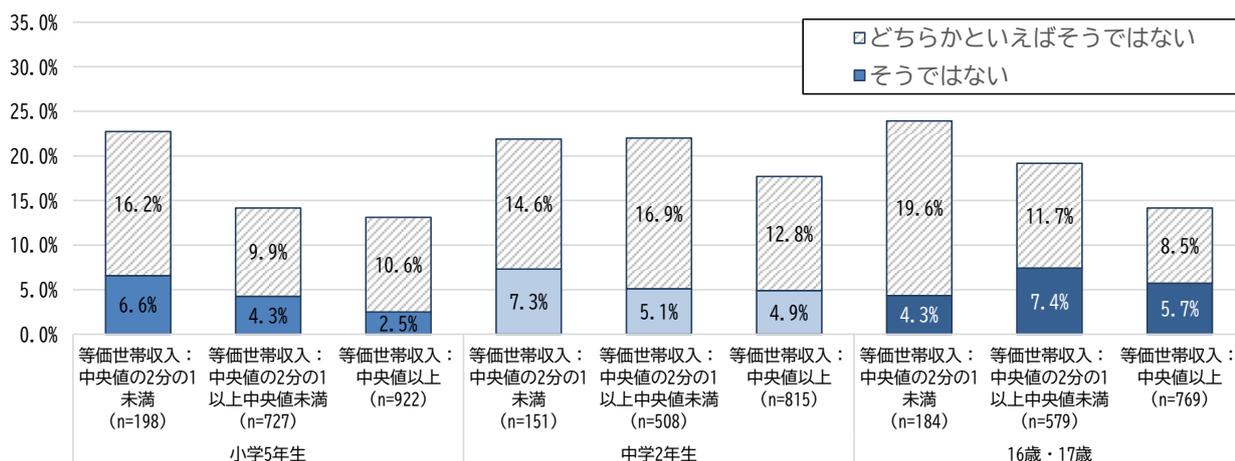


※小学5年生調査と16歳・17歳調査は令和6年度実施、中学2年生調査は令和5年度実施。

<ほぼ同じ時間に寝ているかに関するクロス集計>

ふだんほぼ同じ時間に寝ているかについて「どちらかといえばそうではない」又は「そうではない」と回答された割合を等価世帯収入の水準別にみると、いずれの調査でも、等価世帯収入の水準が「中央値以上」に該当する場合には値が低い傾向にある。

また、保護者の婚姻状況別にみると、ふだんほぼ同じ時間に寝ているかについて「どちらかといえばそうではない」又は「そうではない」と回答された割合は、いずれの調査でも「離婚」等の場合に「結婚している」の場合よりも値が高い傾向にある。



※小学5年生調査と16歳・17歳調査は令和6年度実施、中学2年生調査は令和5年度実施。

ほぼ同じ時間に寝ているか 「どちらかといえばそうではない」「そうではない」	小学5年生 (令和6年度実施)		中学2年生 (令和5年度実施)		16歳・17歳 (令和6年度実施)	
	集計対象	該当割合	集計対象	該当割合	集計対象	該当割合
収入:中央値の2分の1未満	n=198	22.8%	n=151	21.9%	n=184	23.9%
収入:中央値の2分の1以上中央値未満	n=727	14.2%	n=508	22.0%	n=579	19.1%
収入:中央値以上	n=922	13.1%	n=815	17.7%	n=769	14.2%
全体	n=1,993	14.7%	n=1,585	19.8%	n=1,730	17.7%

ほぼ同じ時間に寝ているか 「どちらかといえばそうではない」「そうではない」	小学5年生 (令和6年度実施)		中学2年生 (令和5年度実施)		16歳・17歳 (令和6年度実施)	
	集計対象	該当割合	集計対象	該当割合	集計対象	該当割合
結婚している (再婚や事実婚を含む。)	n=1,826	14.6%	n=1,388	19.3%	n=1,410	16.4%
離婚	n=80	16.3%	n=112	25.9%	n=122	25.5%
死別	n=10	20.0%	n=13	30.8%	n=20	20.0%
未婚	n=5	20.0%	n=11	18.2%	n=15	33.3%
わからない	n=4	25.0%	n=1	0.0%	n=6	50.0%
いない	n=16	12.5%	n=19	5.3%	n=22	13.6%
全体	n=1,993	14.7%	n=1,585	19.8%	n=1,730	17.7%

(3) 相談できると思う相手

【子ども票】

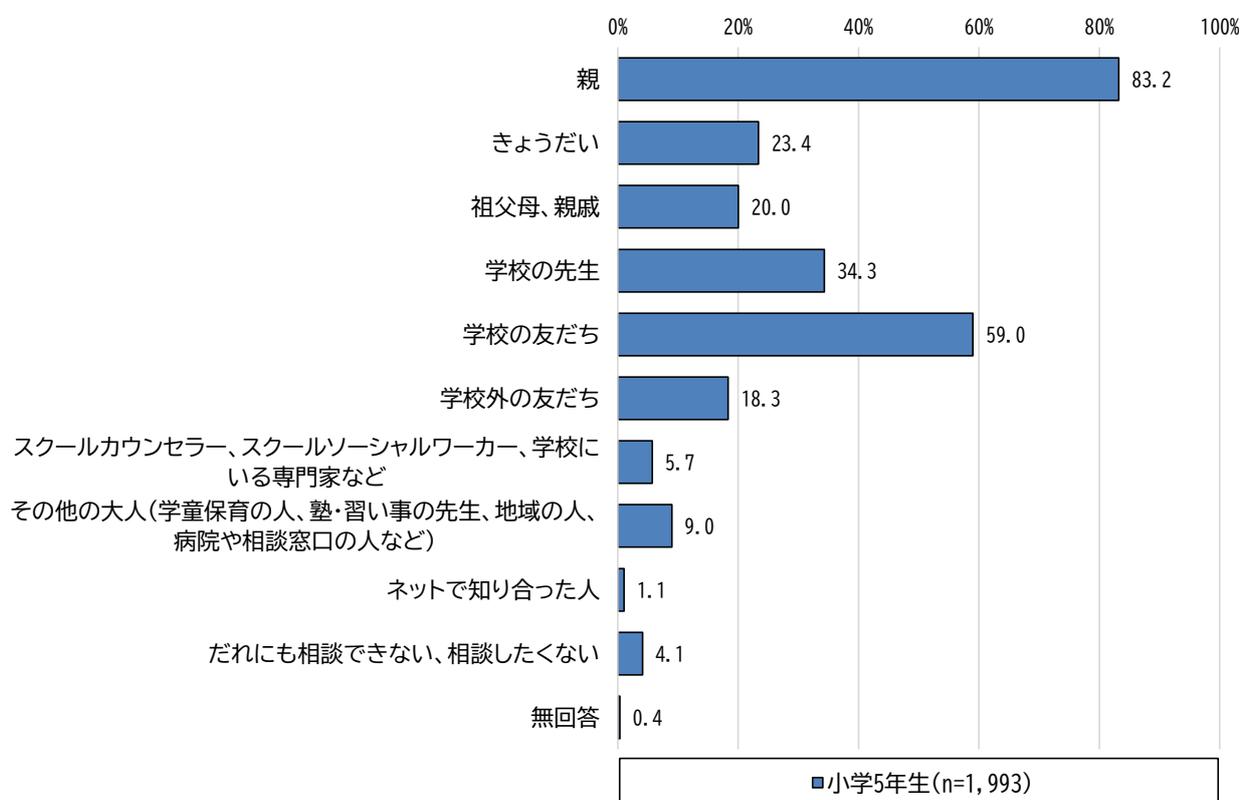
あなたに困っていることや悩みごとがあるとき、あなたが相談できると思う人はだれですか。(MA)

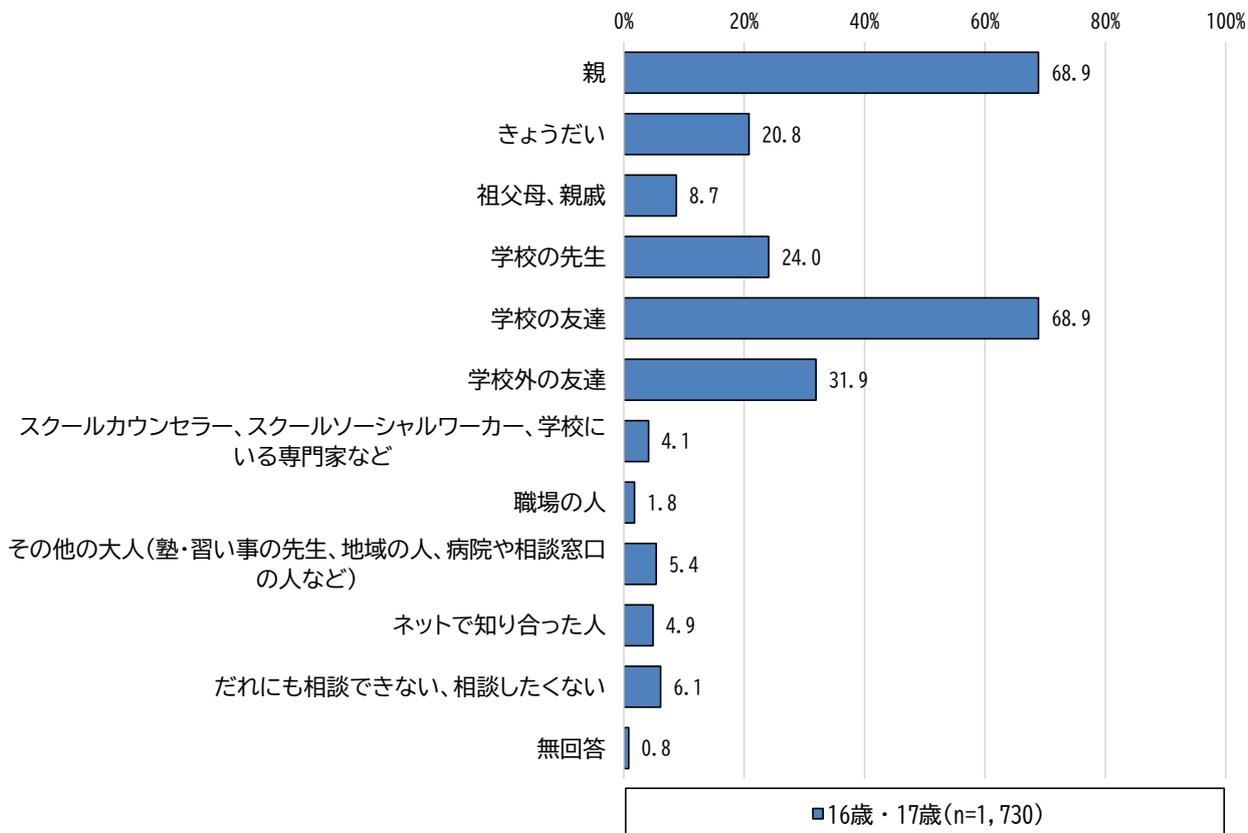
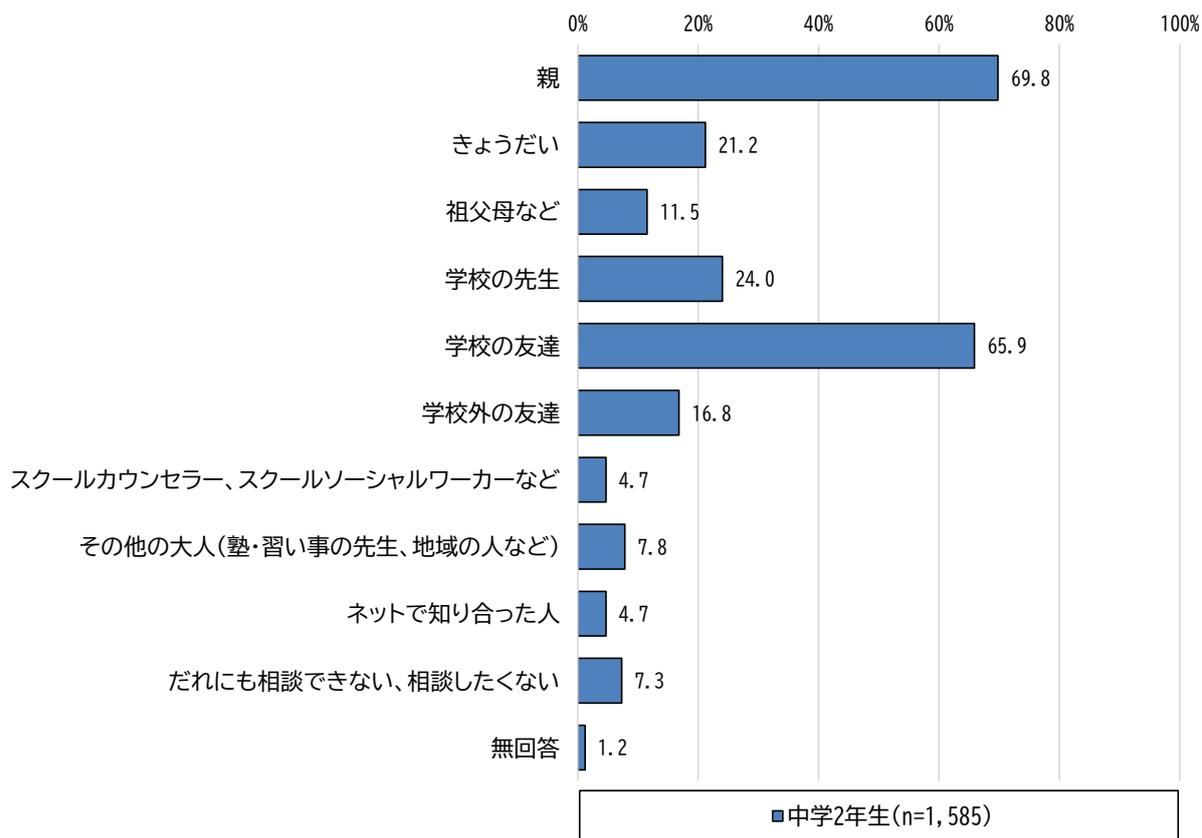
困っていることや悩みごとがあるとき、相談できると思う人について、小学5年生調査では「親」の回答割合が最も高く、次いで「学校の友だち」、「学校の先生」の回答割合が高くなっている。

中学2年生調査についても、「親」の回答割合が最も高く、次いで「学校の友達」、「学校の先生」の順に回答割合が高くなっている。

16歳・17歳調査では「親」と「学校の友達」が同一の回答割合で最も高く、次いで「学校外の友達」の回答割合が高くなっている。

「だれにも相談できない、相談したくない」と回答された割合は、小学5年生調査では 4.1%、中学2年生調査では 7.3%、16歳・17歳調査では 6.1%となっている。





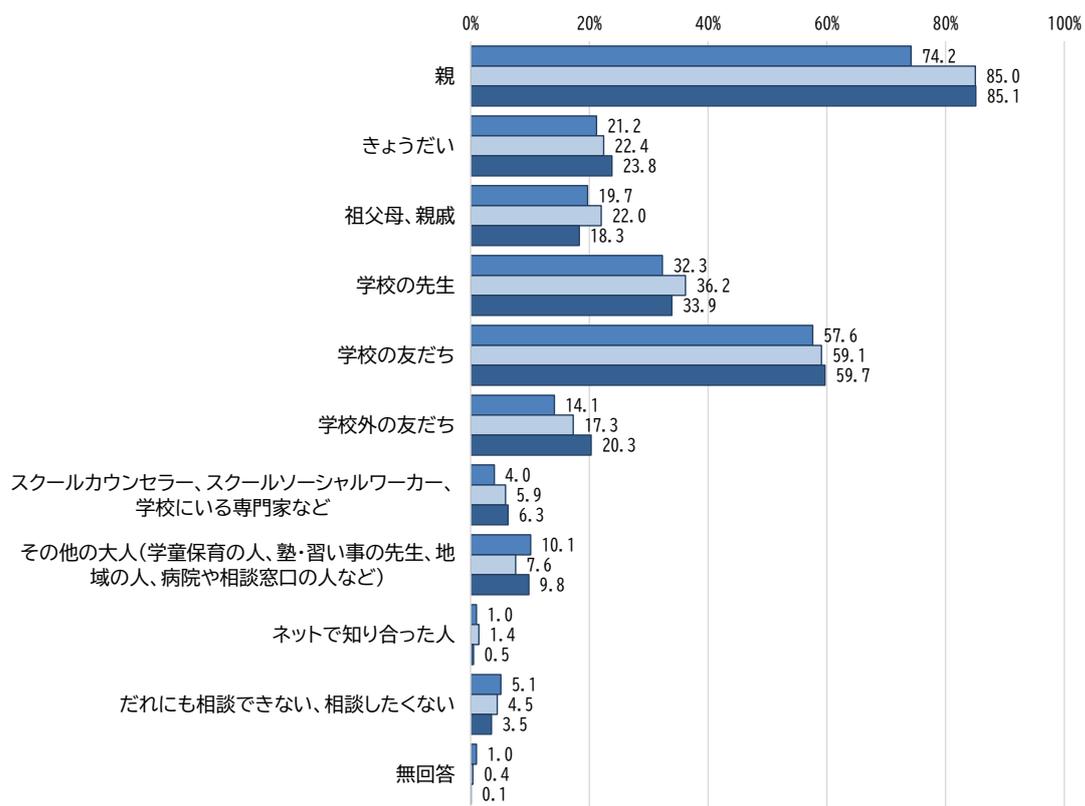
※小学5年生調査と16歳・17歳調査は令和6年度実施、中学2年生調査は令和5年度実施。

<相談できると思う相手に関するクロス集計>

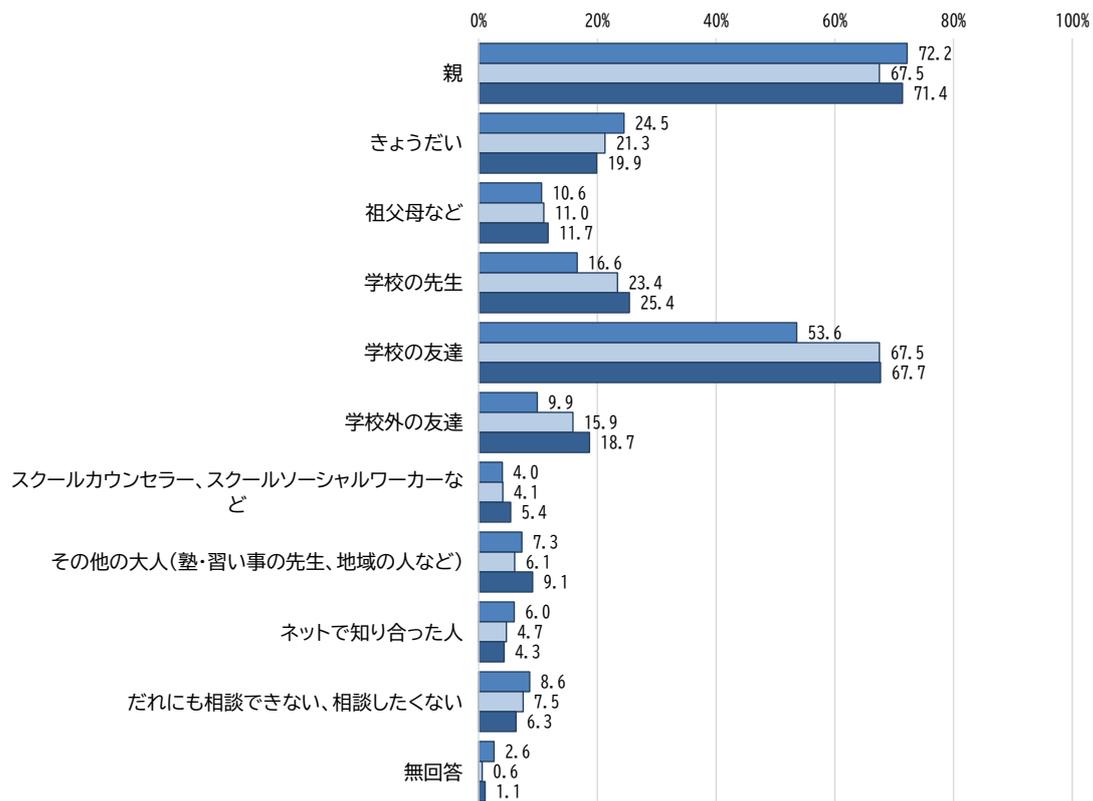
困っていることや悩みごとがあるときに相談できると思う人について等価世帯収入の水準別にみると、小学5年生調査では「親」や「学校の友だち」、「学校外の友だち」などについて、等価世帯収入の水準が「中央値の2分の1未満」に該当する場合に回答割合が低い傾向にある。

中学2年生調査では「学校の先生」、「学校の友達」、「学校外の友達」などについて、等価世帯収入の水準が「中央値の2分の1未満」に該当する場合に回答割合が低い傾向にある。

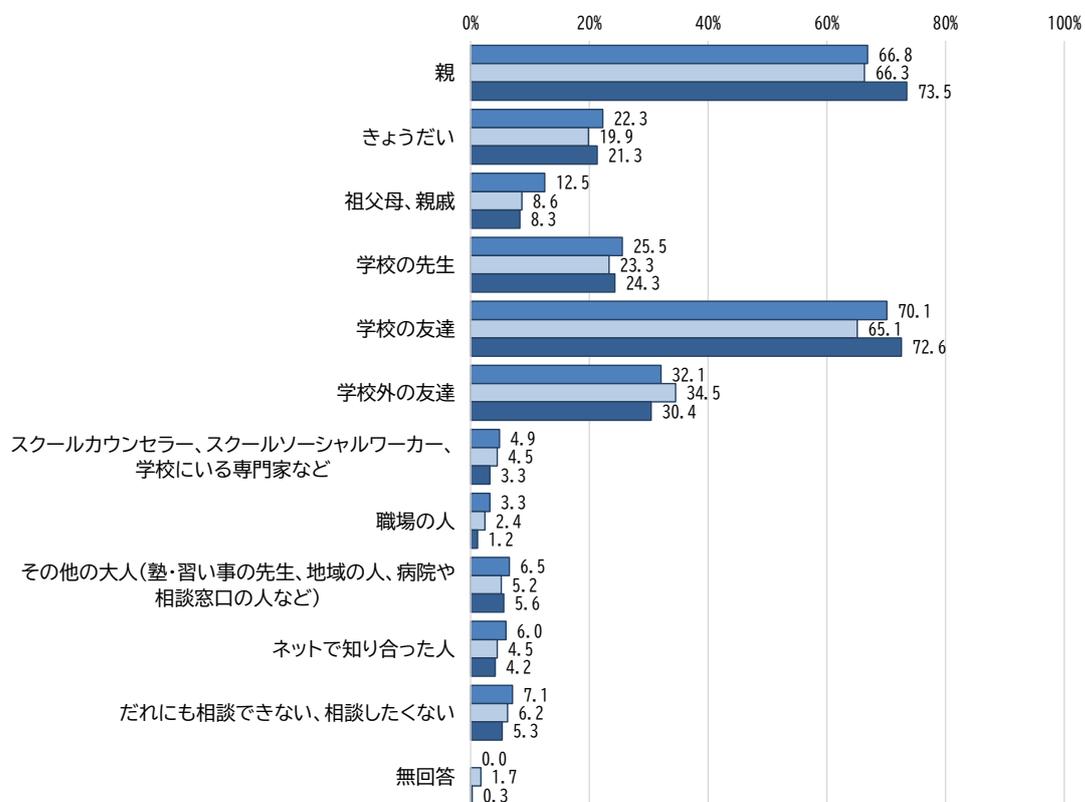
「だれにも相談できない、相談したくない」と回答された割合は、いずれの調査でも等価世帯収入の水準が低いほど値が高い傾向にある。



■小学5年生・等価世帯収入：中央値の2分の1未満 (n=198)
 □小学5年生・等価世帯収入：中央値の2分の1以上中央値未満 (n=727)
 ■小学5年生・等価世帯収入：中央値以上 (n=922)



■ 中学2年生・等価世帯収入：中央値の2分の1未満(n=151)
 □ 中学2年生・等価世帯収入：中央値の2分の1以上中央値未満(n=508)
 ■ 中学2年生・等価世帯収入：中央値以上(n=815)



■ 16歳・17歳・等価世帯収入：中央値の2分の1未満(n=184)
 □ 16歳・17歳・等価世帯収入：中央値の2分の1以上中央値未満(n=579)
 ■ 16歳・17歳・等価世帯収入：中央値以上(n=769)

(4) 生活満足度

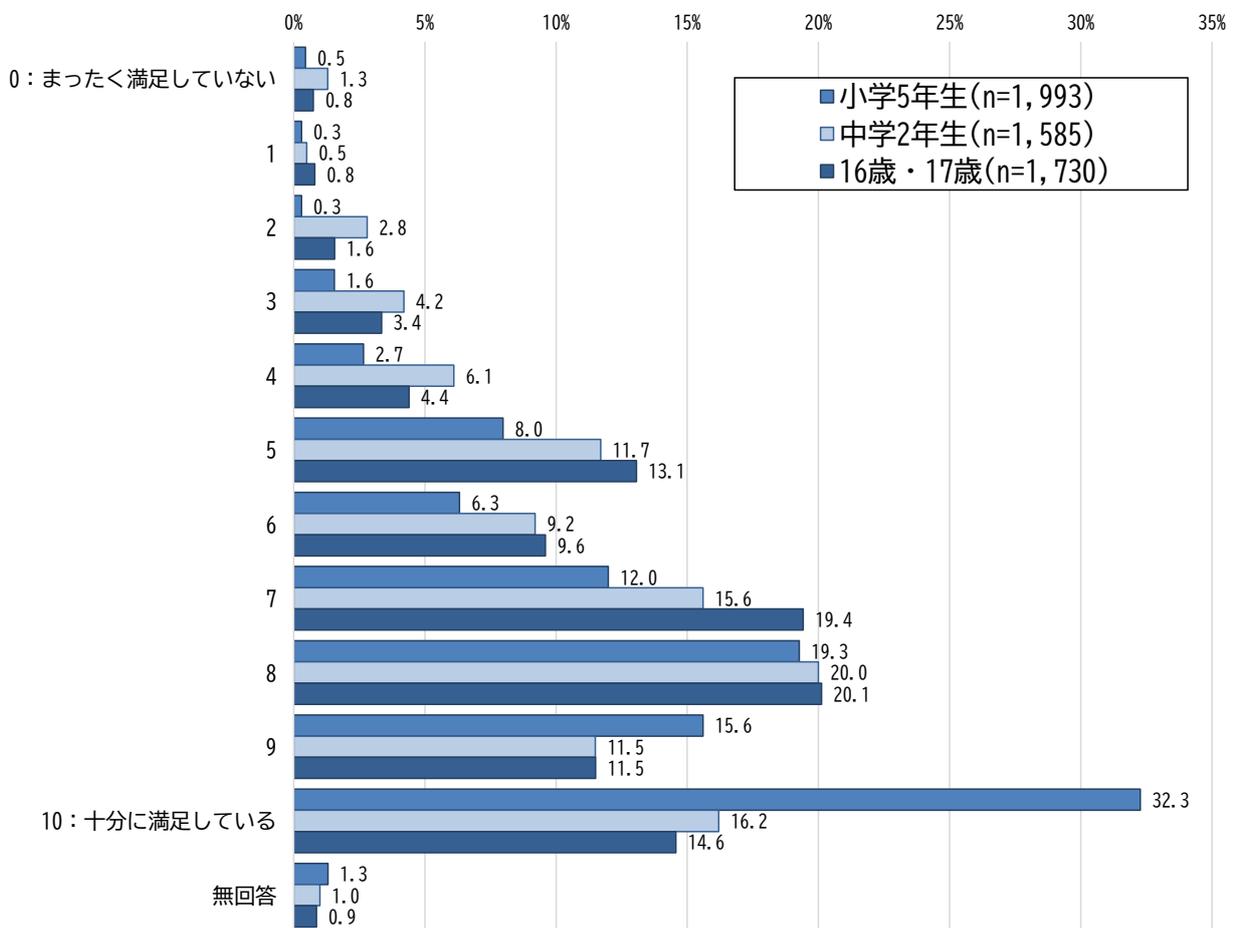
【子ども票】

全体として、あなたは最近の生活に、どのくらい満足していますか。「0」(まったく満足していない)から「10」(十分に満足している)の数字で教えてください。(SA)

生活満足度について、「0」(まったく満足していない)から「10」(十分に満足している)の11段階による回答においては、小学5年生調査では「10」の回答割合が最も高く、次いで「8」の回答割合が高くなっている。

中学2年生調査では「8」の回答割合が最も高く、次いで「10」の回答割合が高くなっている。

16歳・17歳調査では「8」の回答割合が最も高く、次いで「7」の回答割合が高くなっている。

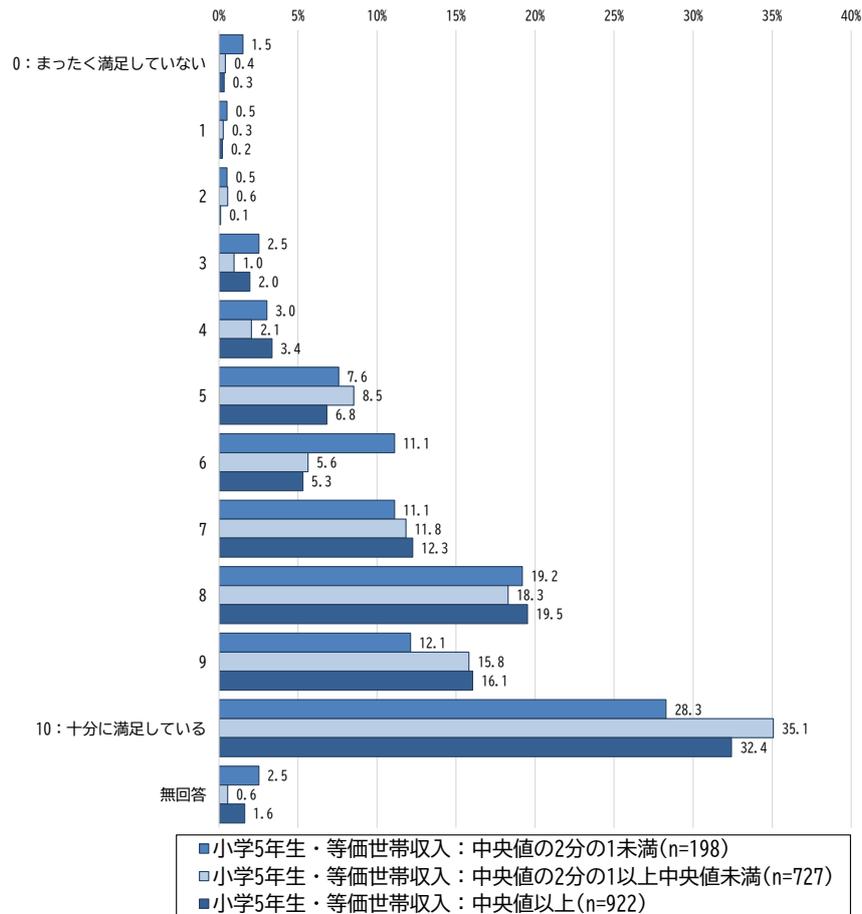


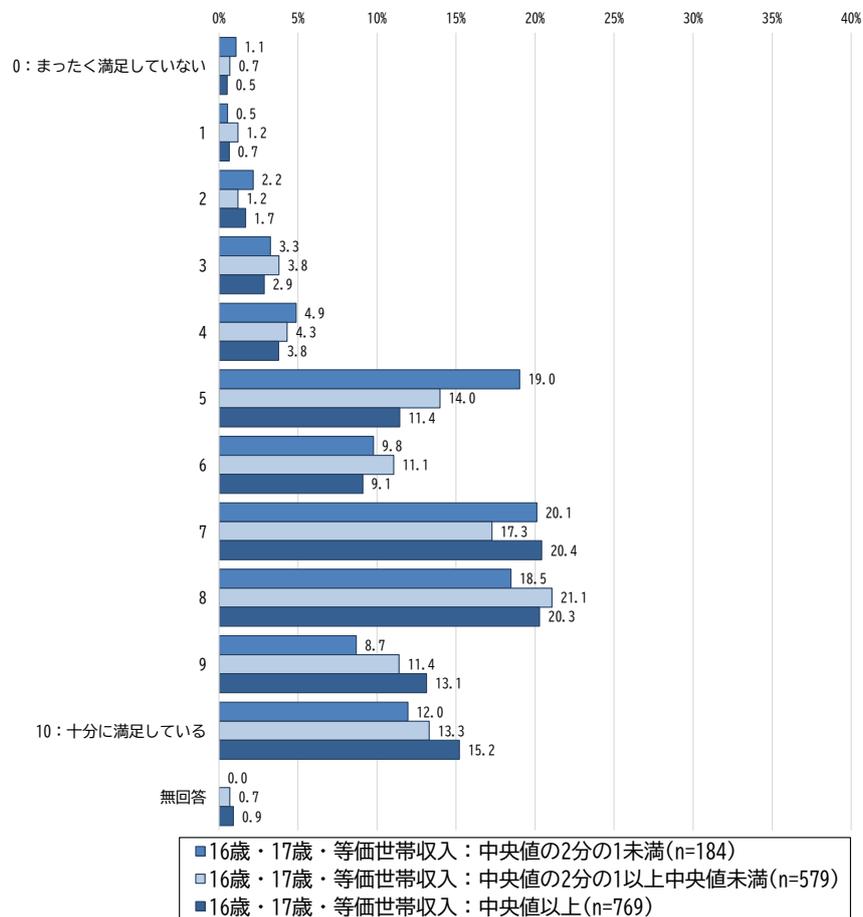
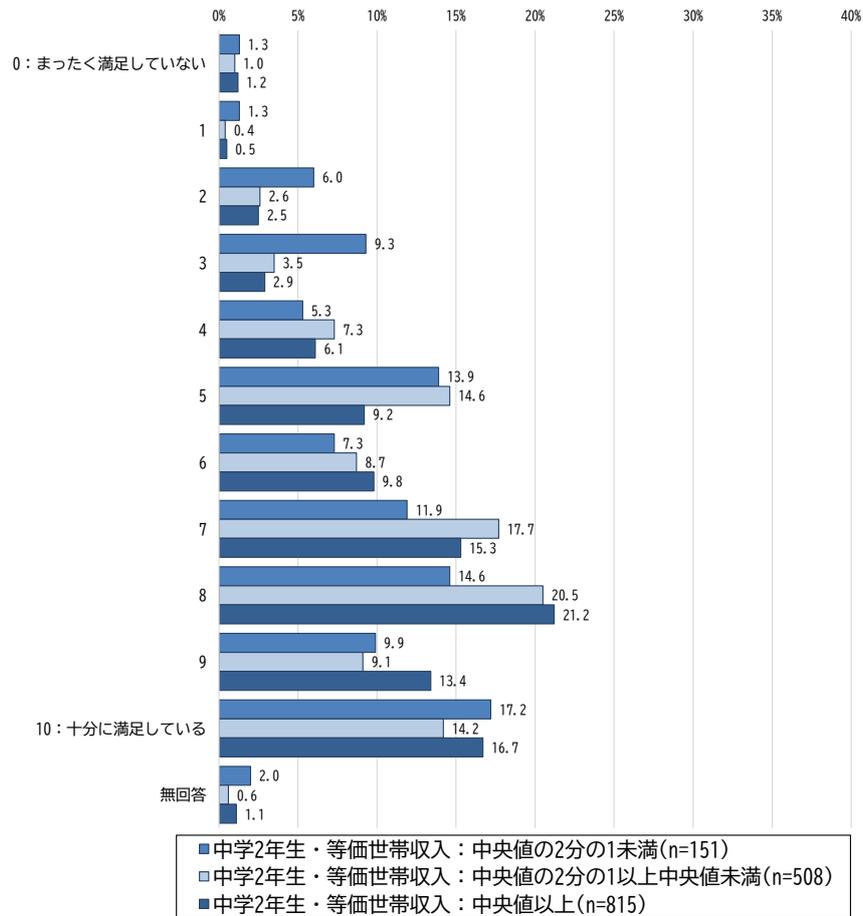
※小学5年生調査と16歳・17歳調査は令和6年度実施、中学2年生調査は令和5年度実施。

<生活満足度に関するクロス集計>

生活満足度について等価世帯収入の水準別にみると、いずれの調査でも「中央値の2分の1未満」に該当する場合には生活満足度が低い傾向にある。また、生活満足度について「7」～「10」の回答を合計した割合を等価世帯収入の水準別にみると、等価世帯収入の水準が「中央値の2分の1未満」に該当する場合に値が低い傾向にある。

また、保護者の婚姻状況別にみると、生活満足度について「7」～「10」の回答を合計した割合は、いずれの調査でも「離婚」等の場合に「結婚している」の場合よりも値が低い傾向にある。





生活満足度 「7」「8」「9」「10」	小学5年生 (令和6年度実施)		中学2年生 (令和5年度実施)		16歳・17歳 (令和6年度実施)	
	集計対象	該当割合	集計対象	該当割合	集計対象	該当割合
収入:中央値の2分の1未満	n=198	70.7%	n=151	53.6%	n=184	59.3%
収入:中央値の2分の1以上 中央値未満	n=727	81.0%	n=508	61.5%	n=579	63.1%
収入:中央値以上	n=922	80.3%	n=815	66.6%	n=769	69.0%
全体	n=1,993	79.2%	n=1,585	63.3%	n=1,730	65.6%

生活満足度 「7」「8」「9」「10」	小学5年生 (令和6年度実施)		中学2年生 (令和5年度実施)		16歳・17歳 (令和6年度実施)	
	集計対象	該当割合	集計対象	該当割合	集計対象	該当割合
結婚している (再婚や事実婚を含む。)	n=1,826	80.2%	n=1,388	64.0%	n=1,410	65.6%
離婚	n=80	71.3%	n=112	56.3%	n=122	63.1%
死別	n=10	60.0%	n=13	61.6%	n=20	70.0%
未婚	n=5	60.0%	n=11	36.4%	n=15	60.0%
わからない	n=4	50.0%	n=1	0.0%	n=6	50.1%
いない	n=16	62.6%	n=19	68.5%	n=22	68.1%
全体	n=1,993	79.2%	n=1,585	63.3%	n=1,730	65.6%

2-5. 子どもの心理的な状況

(1) 情緒の問題

【子ども票】

以下のそれぞれの質問について、「1 あてはまらない」「2 まああてはまる」「3 あてはまる」のどれかから回答してください。答えに自信がなくても、あるいは、その質問がばからしいと思えたとしても、全部の質問に答えてください。あなたのここ半年くらいのことを考えて答えてください。(SA)

b)私は、よく頭やお腹がいたくなったり、気持ちが悪くなったりする。

e)私は、心配ごとが多く、いつも不安だ。

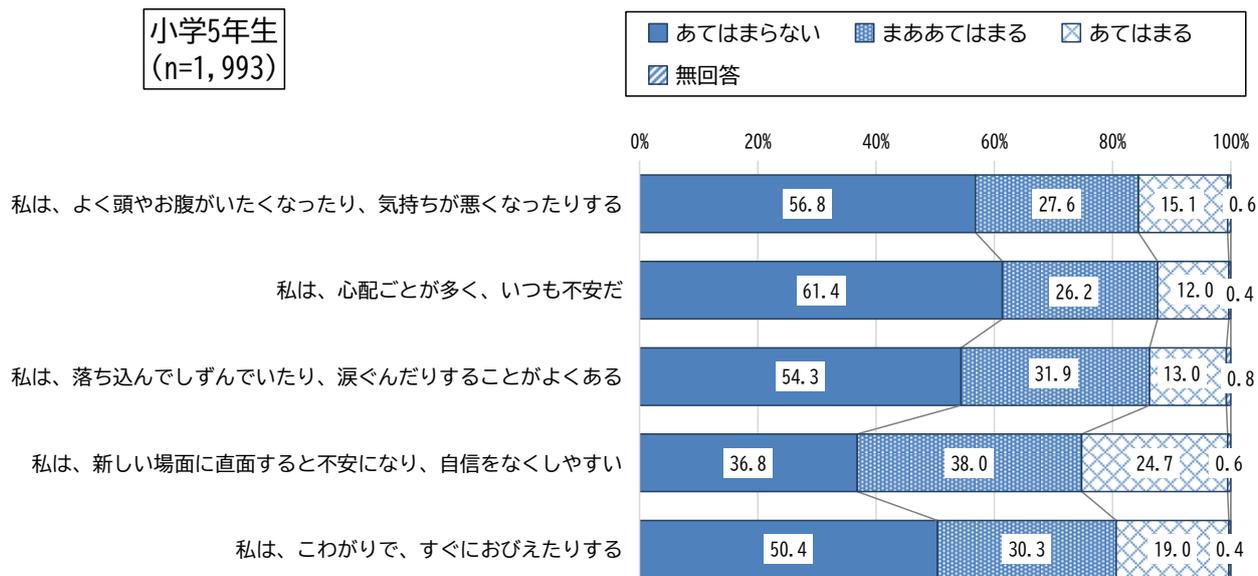
h)私は、落ち込んでしずんでいたたり、涙ぐんだりすることがよくある。

j)私は、新しい場面に直面すると不安になり、自信をなくしやすい。

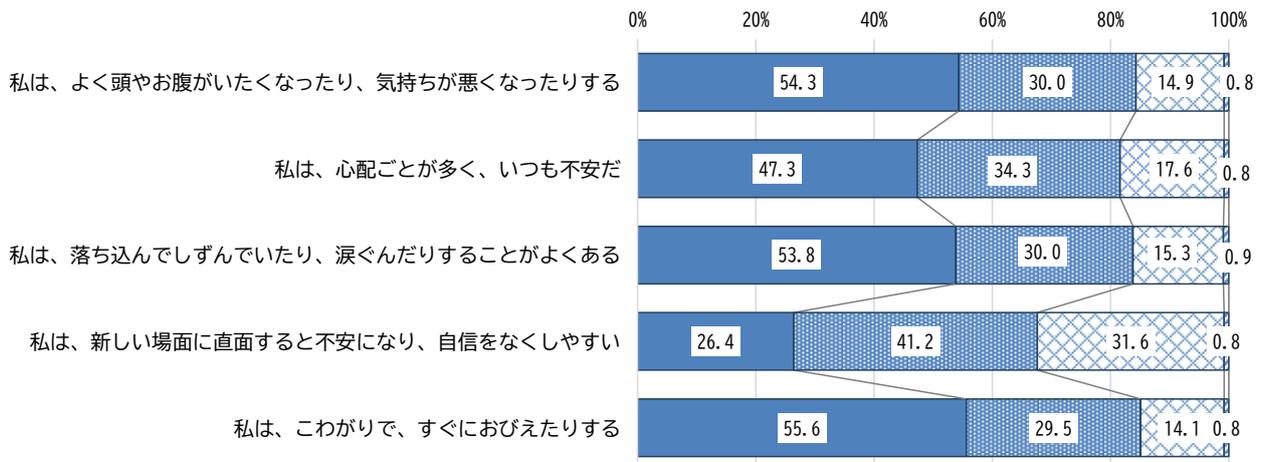
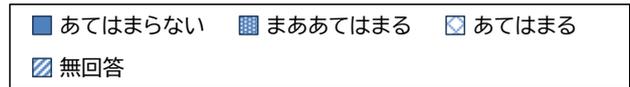
o)私は、こわがりで、すぐにおびえたりする。

「情緒の問題」に関する5つの項目について、いずれの調査でも「私は、新しい場面に直面すると不安になり、自信をなくしやすい」については、他の項目に比べて「あてはまる」の回答割合が高い傾向にある。他の項目については、「あてはまらない」の回答割合が最も高くなっている。

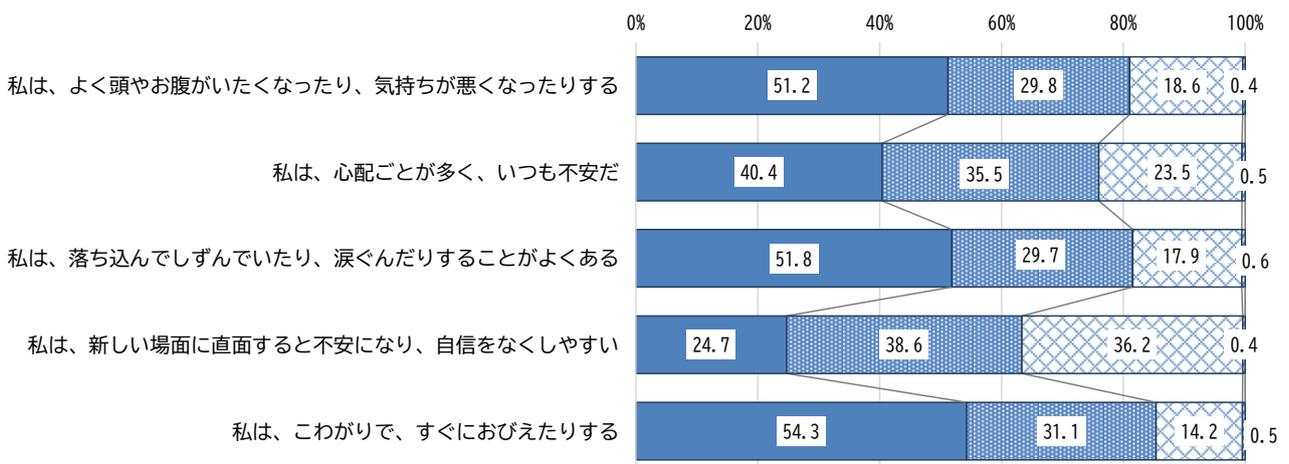
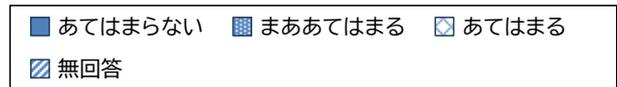
小学5年生
(n=1,993)



中学2年生
(n=1,585)



16歳・17歳
(n=1,730)

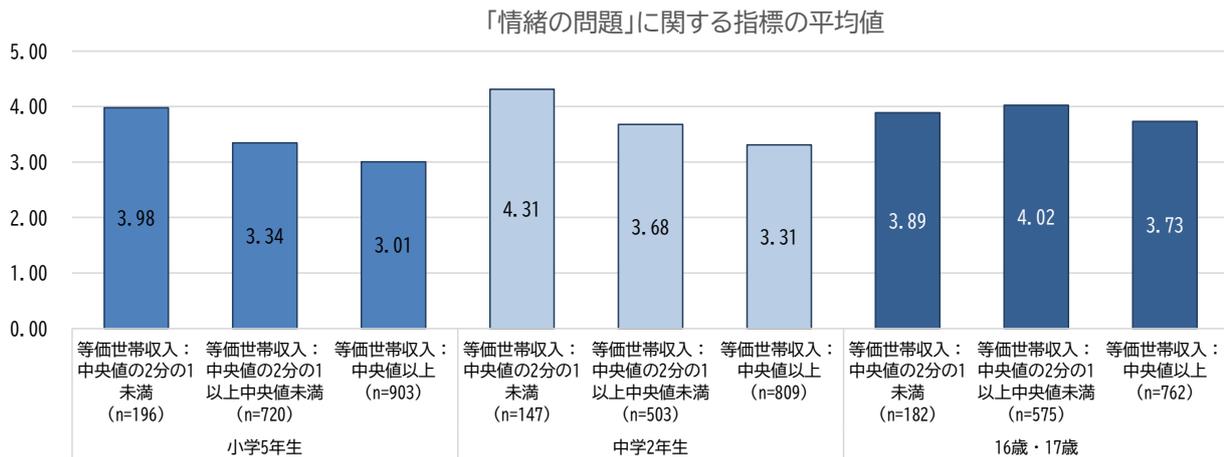


※小学5年生調査と16歳・17歳調査は令和6年度実施、中学2年生調査は令和5年度実施。

<「情緒の問題」に関するクロス集計(平均値の比較)>

「情緒の問題」に関する5つの項目の回答を足し合わせて、「情緒の問題」の度合いを 0～10 点の尺度で把握した(点数が高いほど、問題の度合いが高い傾向)。「情緒の問題」の度合いに関する尺度の平均値を等価世帯収入の水準別にみると、小学5年生調査と中学2年生調査では、等価世帯収入の水準が低いほど値が高い傾向にある。

また、保護者の婚姻状況別にみると、「情緒の問題」の度合いに関する尺度の平均値は、いずれの調査でも「離婚」等の場合に「結婚している」の場合よりも値が高い傾向にある。



※小学5年生調査と16歳・17歳調査は令和6年度実施、中学2年生調査は令和5年度実施。

「情緒の問題」の度合い	小学5年生 (令和6年度実施)		中学2年生 (令和5年度実施)		16歳・17歳 (令和6年度実施)	
	集計対象	平均値	集計対象	平均値	集計対象	平均値
0点～10点の尺度の平均値						
収入:中央値の2分の1未満	n=196	3.98	n=147	4.31	n=182	3.89
収入:中央値の2分の1以上中央値未満	n=720	3.34	n=503	3.68	n=575	4.02
収入:中央値以上	n=903	3.01	n=809	3.31	n=762	3.73
全体	n=1,962	3.23	n=1,567	3.55	n=1,715	3.88

「情緒の問題」の度合い	小学5年生 (令和6年度実施)		中学2年生 (令和5年度実施)		16歳・17歳 (令和6年度実施)	
	集計対象	平均値	集計対象	平均値	集計対象	平均値
0点～10点の尺度の平均値						
結婚している (再婚や事実婚を含む。)	n=1,797	3.20	n=1,374	3.54	n=1,399	3.81
離婚	n=80	3.83	n=109	3.81	n=120	4.18
死別	n=9	4.44	n=13	2.00	n=20	5.00
未婚	n=5	4.20	n=11	3.00	n=15	4.40
わからない	n=4	2.50	n=1	4.00	n=6	5.17
いない	n=16	3.00	n=19	2.63	n=22	3.36
全体	n=1,962	3.23	n=1,567	3.55	n=1,715	3.88

(2) 仲間関係の問題

【子ども票】

以下のそれぞれの質問について、「1 あてはまらない」「2 まああてはまる」「3 あてはまる」のどれかから回答してください。答えに自信がなくても、あるいは、その質問がばからしいと思えたとしても、全部の質問に答えてください。あなたのここ半年くらいのことを考えて答えてください。(SA)

d)私は、たいいてい一人である。だいたいいつも一人で遊ぶか、人と付き合うことを避ける。

g)私は、仲の良い友だちが少なくとも一人はいる。

i)私は、同じくらいの年齢の子供からは、だいたい好かれている。

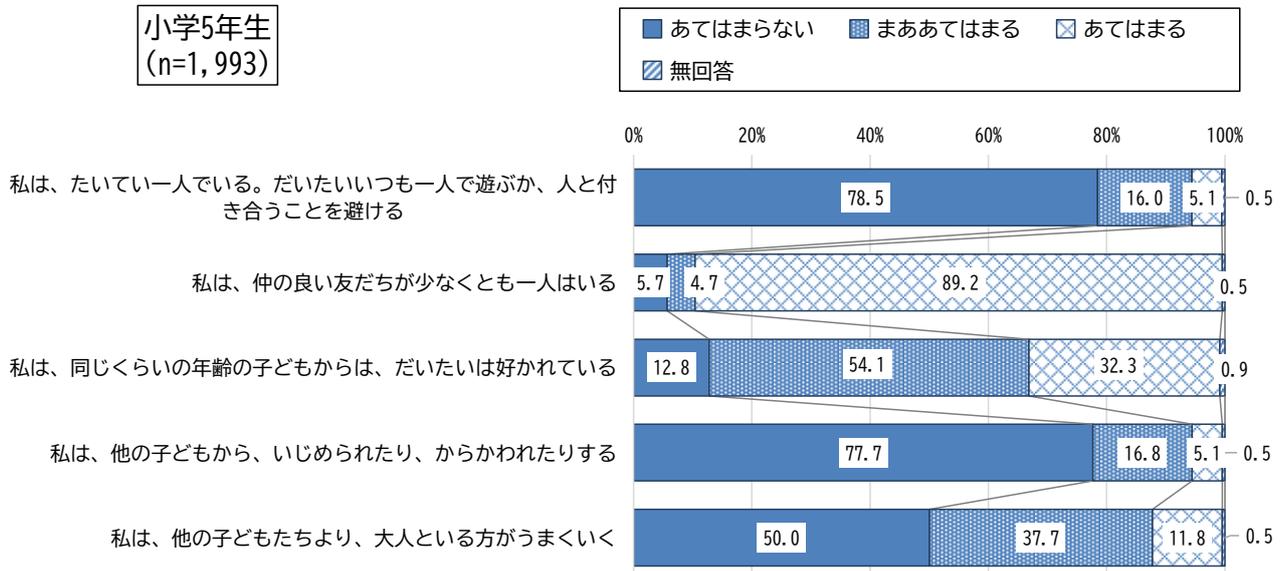
l)私は、他の子供から、いじめられたり、からかわれたりする。

n)私は、他の子供たちより、大人という方がうまくいく。

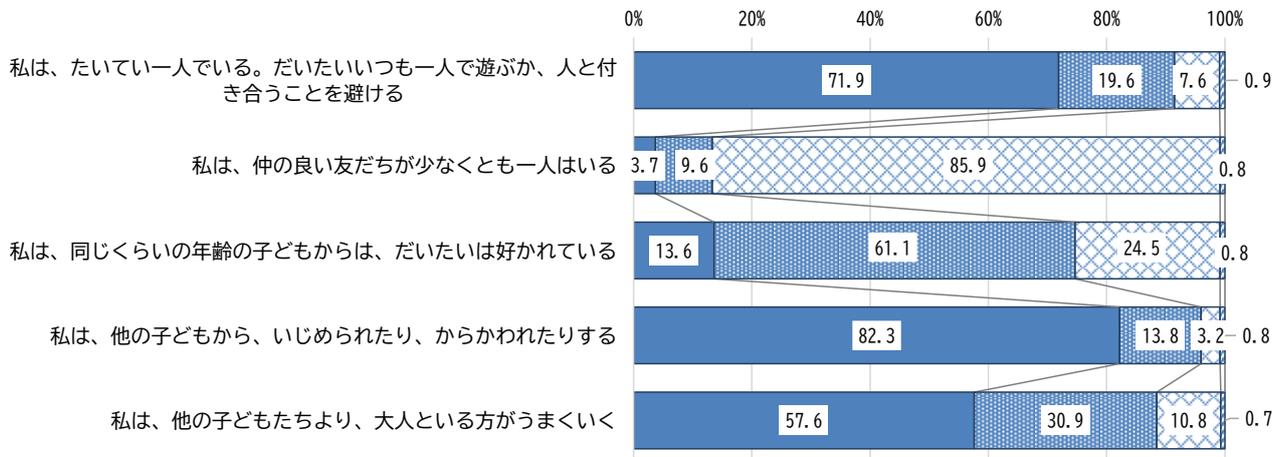
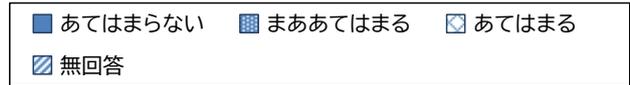
「仲間関係の問題」に関する5つの項目について、いずれの調査でも「私は、たいいてい一人である。だいたいいつも一人で遊ぶか、人と付き合うことを避ける」、「私は、他の子供から、いじめられたり、からかわれたりする」、「私は、他の子供たちより、大人という方がうまくいく」については、「あてはまらない」の回答が半数以上となっている。

いずれの調査でも、「私は、仲の良い友だちが少なくとも一人はいる」については「あてはまる」の回答割合が最も高く、「私は、同じくらいの年齢の子供からは、だいたい好かれている」については「まああてはまる」の回答割合が最も高くなっている。

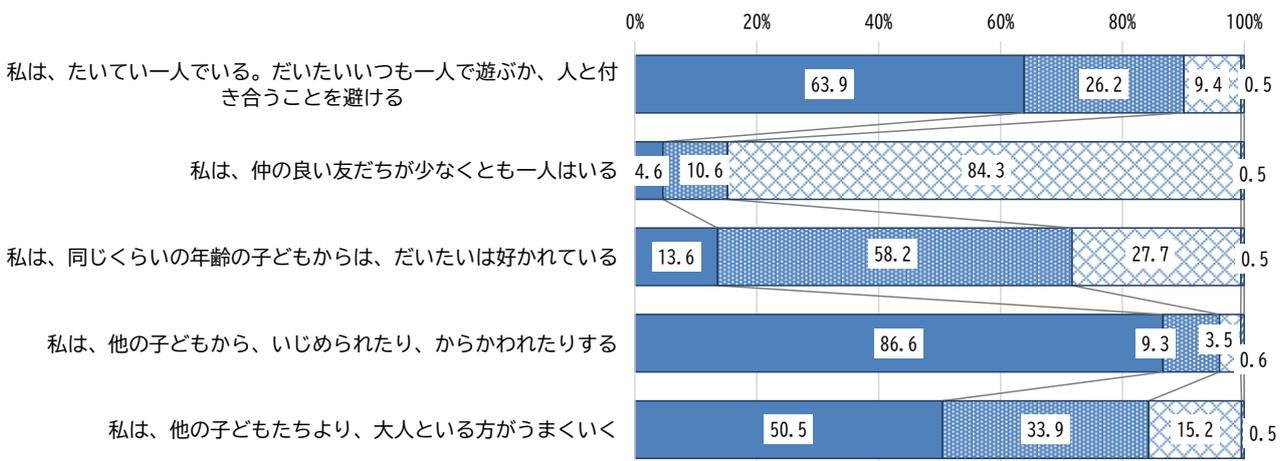
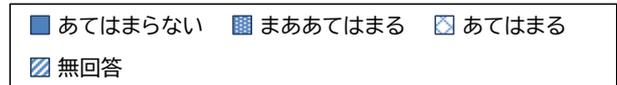
小学5年生
(n=1,993)



中学2年生
(n=1,585)



16歳・17歳
(n=1,730)

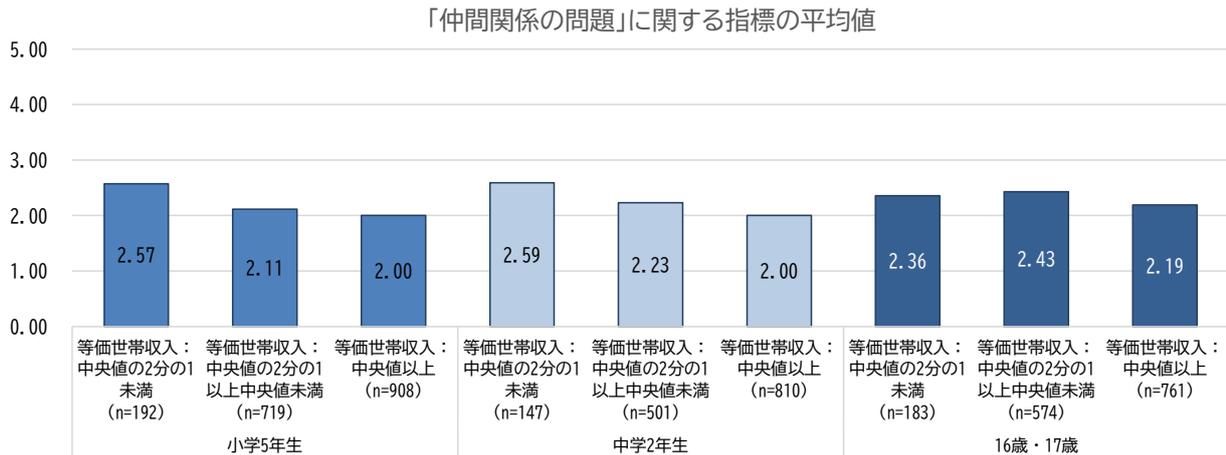


※小学5年生調査と16歳・17歳調査は令和6年度実施、中学2年生調査は令和5年度実施。

<「仲間関係の問題」に関するクロス集計(平均値の比較)>

「仲間関係の問題」に関する5つの項目の回答を足し合わせて、「仲間関係の問題」の度合いを 0～10 点の尺度で把握した(点数が高いほど、問題の度合いが高い傾向)。「仲間関係の問題」の度合いに関する尺度の平均値を等価世帯収入の水準別にみると、小学5年生調査と中学2年生調査では、等価世帯収入の水準が低いほど値が高い傾向にある。

また、保護者の婚姻状況別にみると、「情緒の問題」の度合いに関する尺度の平均値は、いずれの調査でも「離婚」等の場合に「結婚している」の場合よりも値が高い傾向にある。



※小学5年生調査と16歳・17歳調査は令和6年度実施、中学2年生調査は令和5年度実施。

「仲間関係の問題」の度合い	小学5年生 (令和6年度実施)		中学2年生 (令和5年度実施)		16歳・17歳 (令和6年度実施)	
	集計対象	平均値	集計対象	平均値	集計対象	平均値
0点～10点の尺度の平均値						
収入:中央値の2分の1未満	n=192	2.57	n=147	2.59	n=183	2.36
収入:中央値の2分の1以上中央値未満	n=719	2.11	n=501	2.23	n=574	2.43
収入:中央値以上	n=908	2.00	n=810	2.00	n=761	2.19
全体	n=1,962	2.11	n=1,568	2.14	n=1,713	2.32

「仲間関係の問題」の度合い	小学5年生 (令和6年度実施)		中学2年生 (令和5年度実施)		16歳・17歳 (令和6年度実施)	
	集計対象	平均値	集計対象	平均値	集計対象	平均値
0点～10点の尺度の平均値						
結婚している (再婚や事実婚を含む。)	n=1,800	2.08	n=1,374	2.12	n=1,396	2.30
離婚	n=77	2.58	n=109	2.39	n=120	2.37
死別	n=10	3.00	n=13	2.31	n=20	2.60
未婚	n=5	2.20	n=11	2.45	n=15	2.47
わからない	n=4	2.75	n=1	1.00	n=6	2.36
いない	n=16	1.88	n=19	1.47	n=22	2.31
全体	n=1,962	2.11	n=1,568	2.14	n=1,713	2.32

(3) 向社会性

【子ども票】

以下のそれぞれの質問について、「1 あてはまらない」「2 まああてはまる」「3 あてはまる」のどれかから回答してください。答えに自信がなくても、あるいは、その質問がばからしいと思えたとしても、全部の質問に答えてください。あなたのここ半年くらいのことを考えて答えてください。(SA)

a)私は、他人に対して親切にするようにしている。私は、他人の気持ちをよく考える。

c)私は、他の子どもたちと、よく分け合う(食べ物、ゲーム・ペンなど)。

f)私は、誰かが心を痛めていたり、落ち込んでいたり、嫌な思いをしているときなど、すすんで助ける。

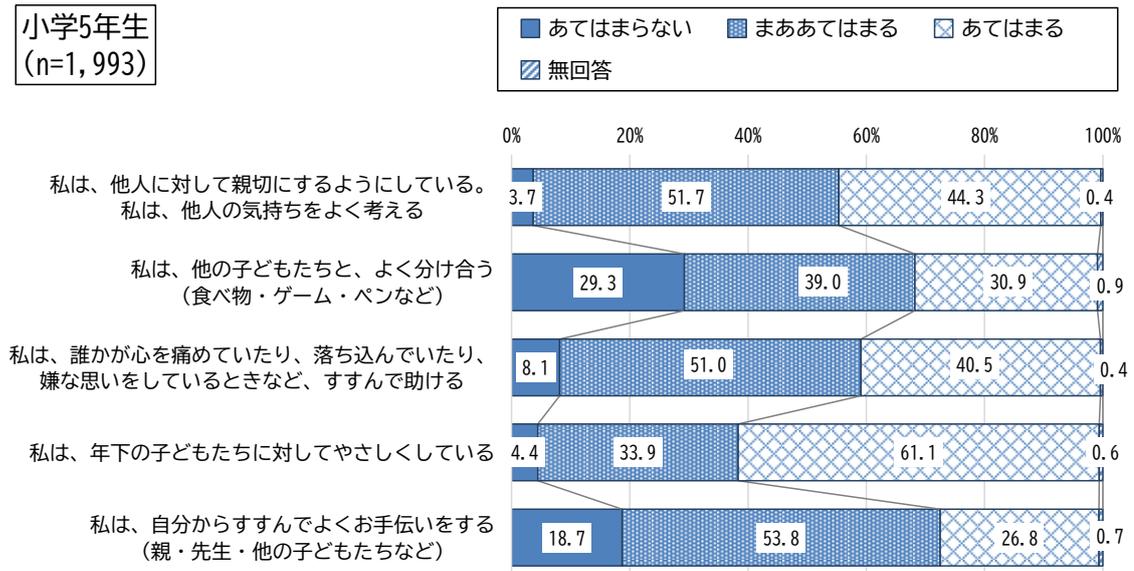
k)私は、年下の子どもたちに対してやさしくしている。

m)私は、自分からすすんでよくお手伝いをする(親・先生・他の子どもたちなど)。

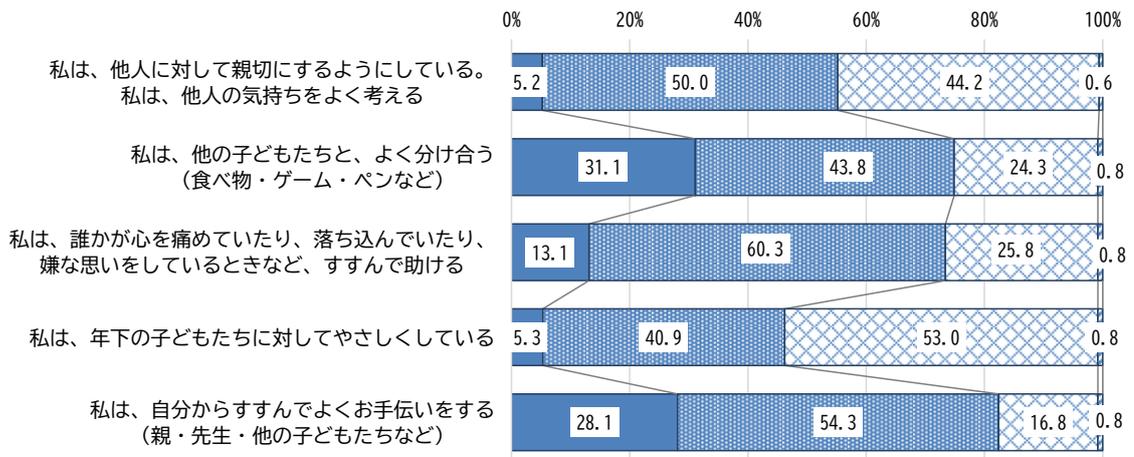
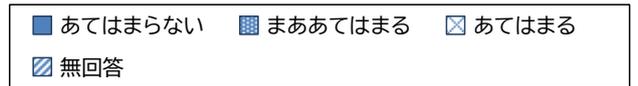
「向社会性」に関する5つの項目について、いずれの調査でも「私は、年下の子どもたちに対してやさしくしている」については、「あてはまる」の回答が半数以上となっている。また、16歳・17歳の調査では「私は、他人に対して親切にするようにしている。私は、他人の気持ちをよく考える」について、「あてはまる」の回答が半数以上になっている。

その他の項目については、「まああてはまる」の回答割合が最も高くなっている。

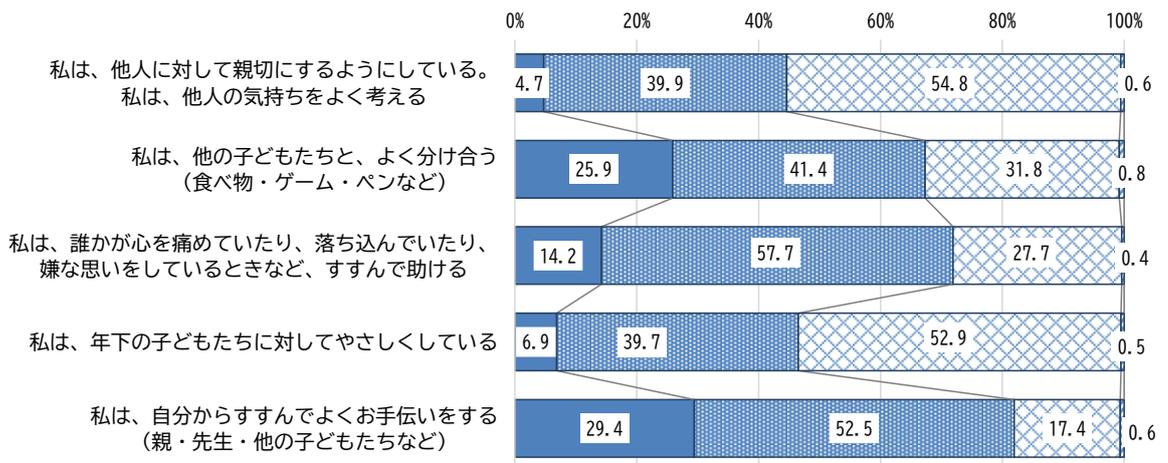
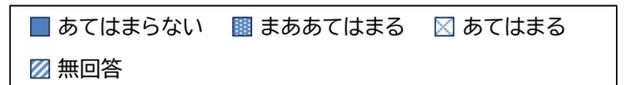
小学5年生
(n=1,993)



中学2年生
(n=1,585)



16歳・17歳
(n=1,730)

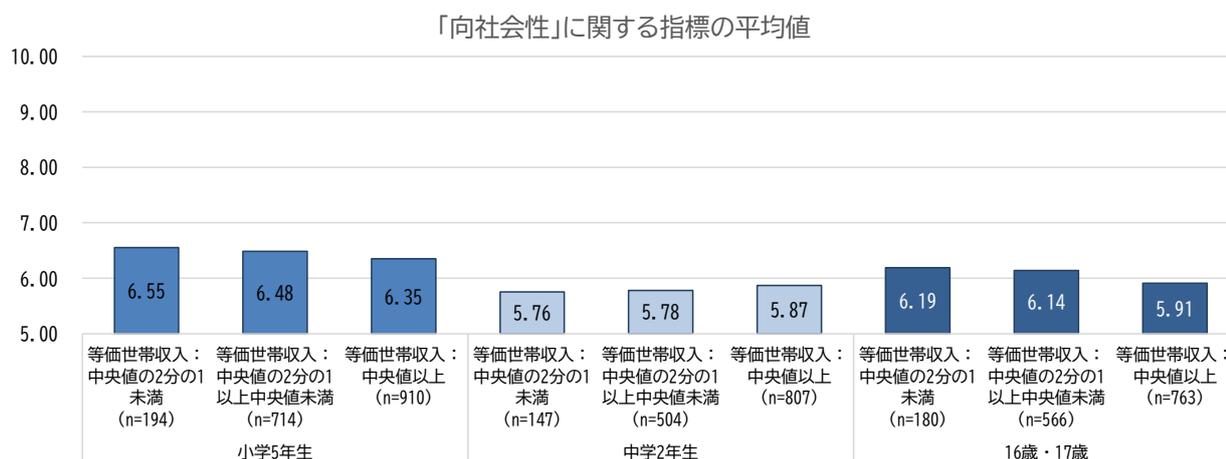


※小学5年生調査と16歳・17歳調査は令和6年度実施、中学2年生調査は令和5年度実施。

<「向社会性」に関するクロス集計(平均値の比較)>

「向社会性」に関する5つの項目の回答を足し合わせて、「向社会性」の度合いを0～10点の尺度で把握した(点数が高いほど、社会性の度合いが高い傾向)。「向社会性」の度合いに関する尺度の平均値を等価世帯収入の水準別にみると、小学5年生調査と16歳・17歳調査では、等価世帯収入の水準が低いほど値が高い傾向にある。他方で、中学2年生調査では、等価世帯収入の水準が低いほど値が低い傾向にある。

また、保護者の婚姻状況別にみると、「向社会性」の度合いに関する尺度の平均値は、小学5年生調査と中学2年生調査では「離婚」等の場合に「結婚している」の場合よりも値が低い傾向にある。



※小学5年生調査と16歳・17歳調査は令和6年度実施、中学2年生調査は令和5年度実施。

「向社会性」の度合い 0点～10点の尺度の平均値	小学5年生 (令和6年度実施)		中学2年生 (令和5年度実施)		16歳・17歳 (令和6年度実施)	
	集計対象	平均値	集計対象	平均値	集計対象	平均値
収入:中央値の2分の1未満	n=194	6.55	n=147	5.76	n=180	6.19
収入:中央値の2分の1以上中央値未満	n=714	6.48	n=504	5.78	n=566	6.14
収入:中央値以上	n=910	6.35	n=807	5.87	n=763	5.91
全体	n=1,960	6.41	n=1,568	5.82	n=1,703	6.05

「向社会性」の度合い 0点～10点の尺度の平均値	小学5年生 (令和6年度実施)		中学2年生 (令和5年度実施)		16歳・17歳 (令和6年度実施)	
	集計対象	平均値	集計対象	平均値	集計対象	平均値
結婚している (再婚や事実婚を含む。)	n=1,798	6.41	n=1,373	5.84	n=1,391	5.97
離婚	n=78	6.21	n=110	5.72	n=119	6.29
死別	n=9	6.00	n=13	5.62	n=19	7.00
未婚	n=5	6.80	n=11	5.27	n=15	6.60
わからない	n=4	6.75	n=1	9.00	n=6	6.00
いない	n=16	7.06	n=19	5.74	n=20	6.55
全体	n=1,960	6.41	n=1,568	5.82	n=1,703	6.05

2-6. 逆境体験、ケアラーの状況

(1) 保護者の状況と逆境体験

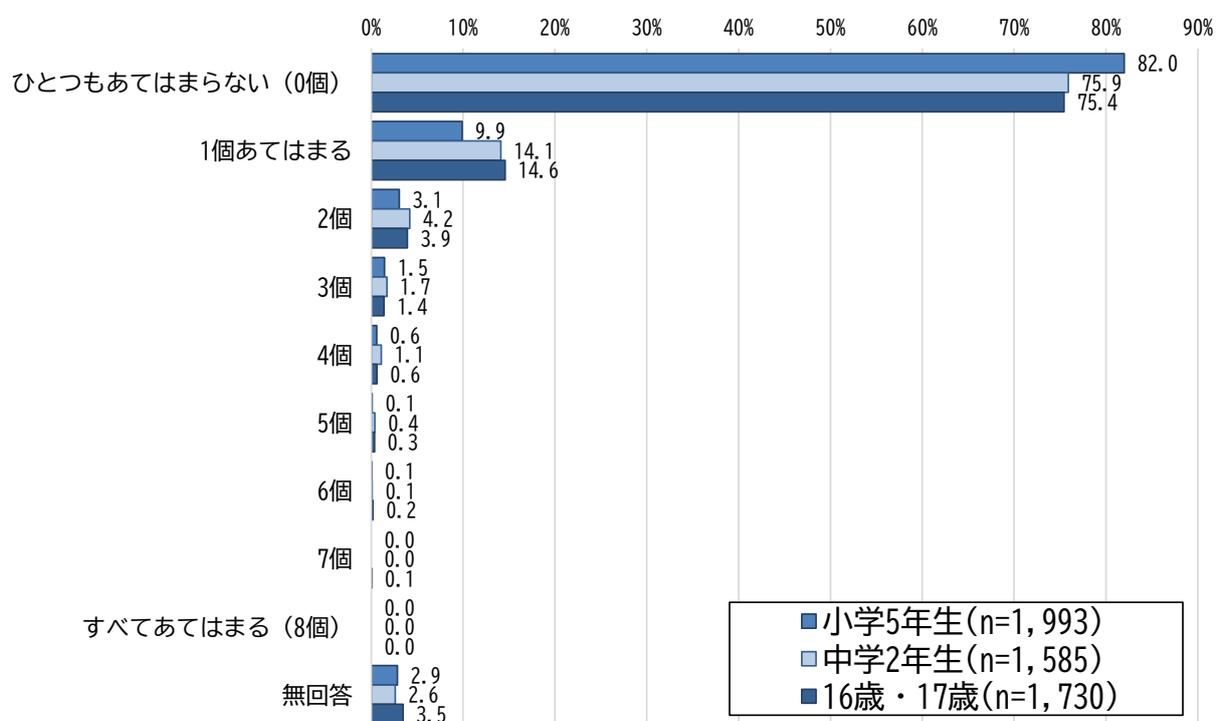
【子ども票】

あなたは今までに、以下a~hのようなことがありましたか。あてはまる個数を教えてください。(SA)

- a.一緒に住んでいる大人から、あなたの悪口を言い立てられる、けなされる、恥をかかされる、または、身体を傷つけられる危険を感じるようなふるまいをされることがよくある
- b.一緒に住んでいる大人から、押される、つかまれる、たたかれる、物を投げつけられるといったことがよくある。または、けがをするほど強くなぐられたことが一度でもある
- c.家族のだれからも愛されていない、大切にされていない、支えてもらえていないと感じることがある
- d.必要な食事や衣服を与えられなかったり、自分を守ってくれる人はだれもないと感じることがある
- e.両親が、別居または離婚をしたことが一度でもある
- f.一緒に住んでいる家族が、だれかに押されたり、つかまれたり、けられたりしたことがよくある、または、くり返しなぐられたり、刃物などでおどされたことが一度でもある
- g.一緒に住んでいる人に、お酒を飲んだり麻薬などで自身の生活や人間関係を損なうようなふるまいをした人がいる
- h.一緒に住んでいる人に、うつ病やその他の心の病気の人、または自殺しようとしたひとがいる

保護者の状況と逆境体験に関して、8つの項目のうち該当する項目数については、いずれの調査でも「ひとつもあてはまらない(0個)」の回答割合が最も高くなっている。

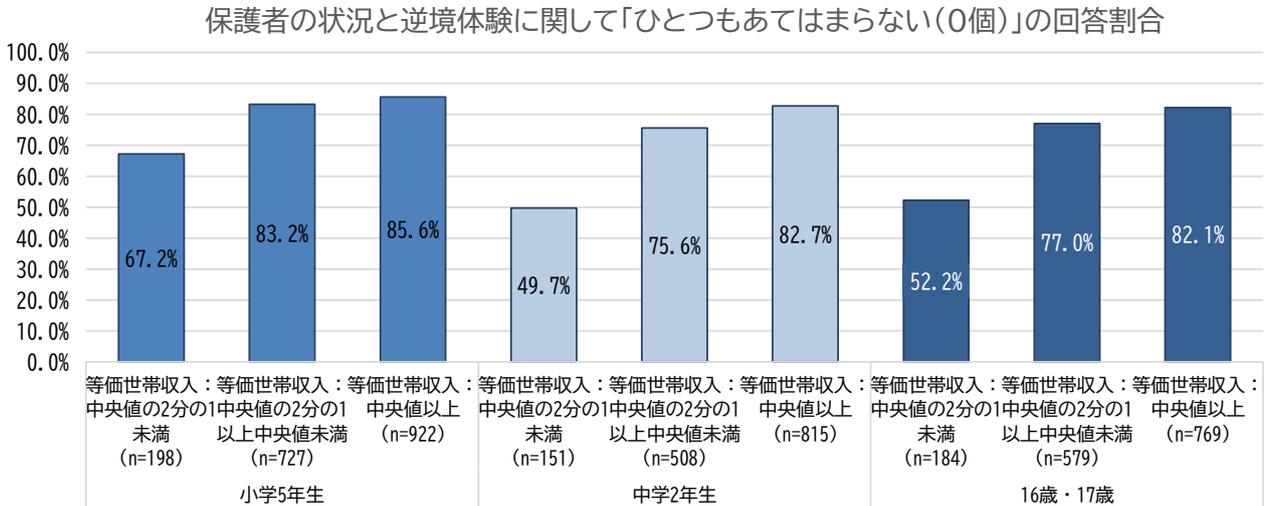
その割合は、小学5年生調査では82.0%、中学2年生調査では75.9%、16歳・17歳調査では75.4%となっている。



※小学5年生調査と16歳・17歳調査は令和6年度実施、中学2年生調査は令和5年度実施。

<保護者の状況と逆境体験に関するクロス集計>

保護者の状況と逆境体験に関して、「ひとつもあてはまらない(0個)」の回答割合を等価世帯収入の水準別にみると、いずれの調査でも等価世帯収入の水準が低いほど値が低い傾向にある。



※小学5年生調査と16歳・17歳調査は令和6年度実施、中学2年生調査は令和5年度実施。

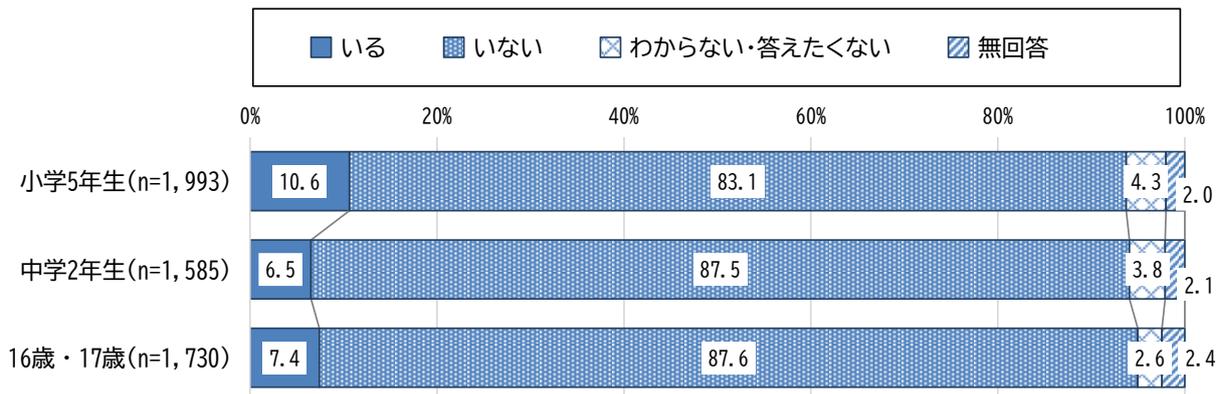
逆境体験の該当個数	小学5年生 (令和6年度実施)		中学2年生 (令和5年度実施)		16歳・17歳 (令和6年度実施)	
	集計対象	該当割合	集計対象	該当割合	集計対象	該当割合
「ひとつもあてはまらない(0個)」						
収入:中央値の2分の1未満	n=198	67.2%	n=151	49.7%	n=184	52.2%
収入:中央値の2分の1以上中央値未満	n=727	83.2%	n=508	75.6%	n=579	77.0%
収入:中央値以上	n=922	85.6%	n=815	82.7%	n=769	82.1%
全体	n=1,993	82.0%	n=1,585	75.9%	n=1,730	75.4%

(2) ケアラーの状況

【子ども票】

家族の中にあなたがお世話している人はいますか。(SA)

家族の中にお世話をしている人がいるかについて、「いる」と回答された割合は、小学5年生調査では10.6%、中学2年生調査では6.5%、16歳・17歳調査では7.4%となっている。



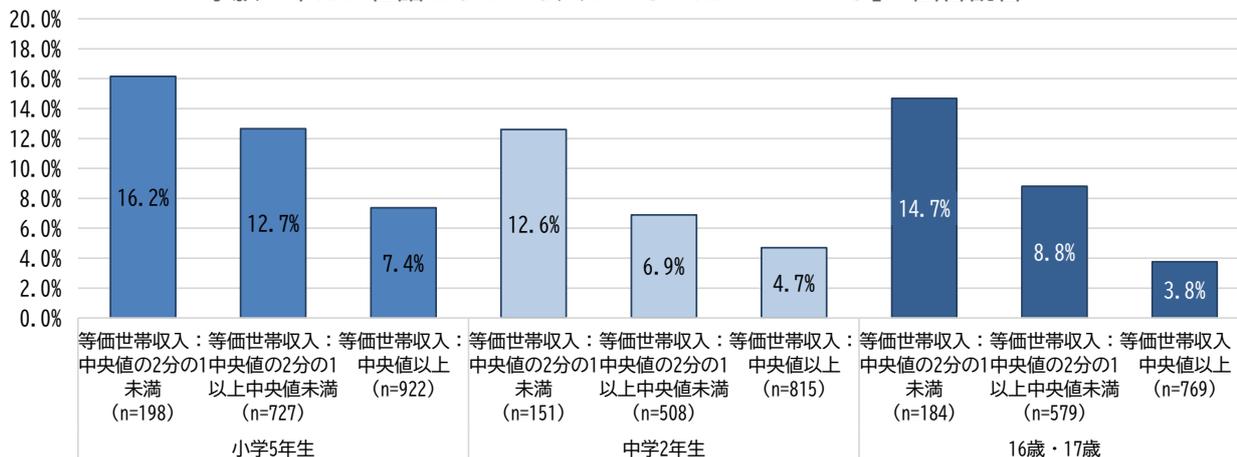
※小学5年生調査と16歳・17歳調査は令和6年度実施、中学2年生調査は令和5年度実施。

<ケアラーの状況に関するクロス集計(ケアラーに関連する要因等)>

家族の中にお世話をしている人がいるかについて、「いる」と回答された割合を等価世帯収入の水準別にみると、いずれの調査でも、等価世帯収入の水準が低いほど値が高い傾向にある。

また、保護者の婚姻状況別にみると、家族の中にお世話をしている人がいるかについて「いる」と回答された割合は、いずれの調査でも「離婚」等の場合に「結婚している」の場合よりも値が高い傾向にある。

家族の中にお世話をしている人がいるかについて「いる」の回答割合



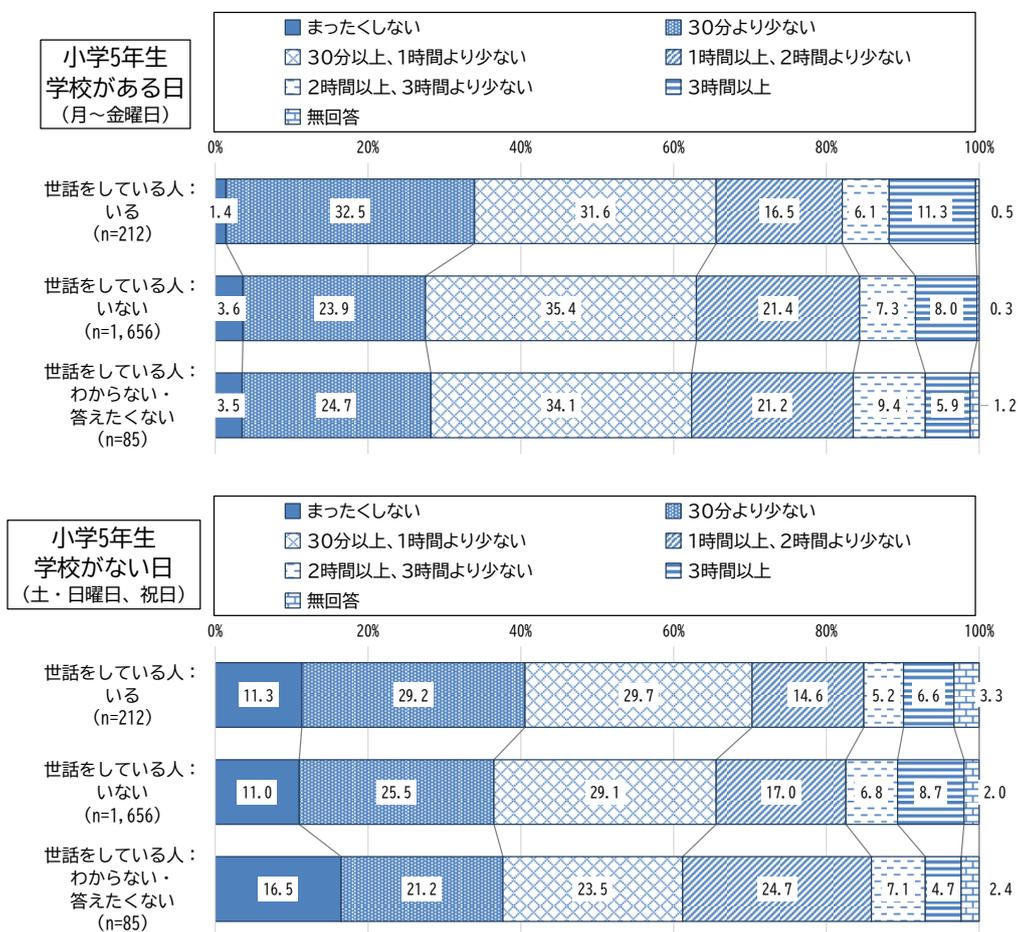
※小学5年生調査と16歳・17歳調査は令和6年度実施、中学2年生調査は令和5年度実施。

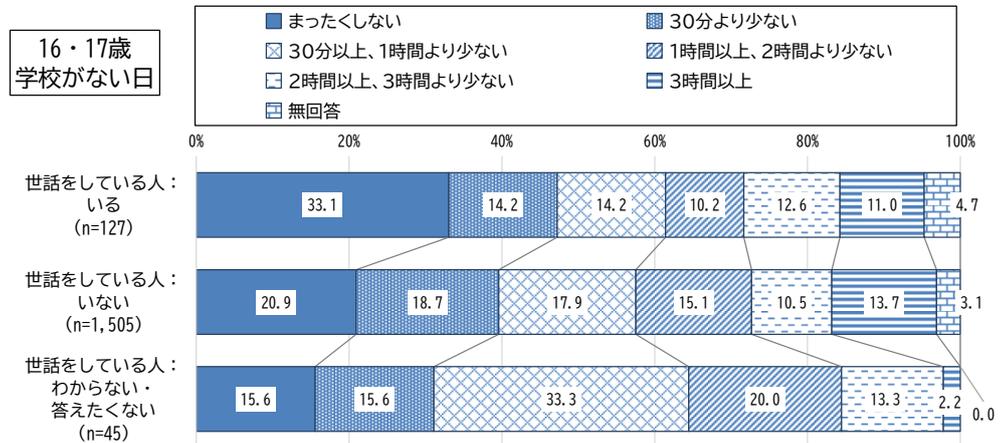
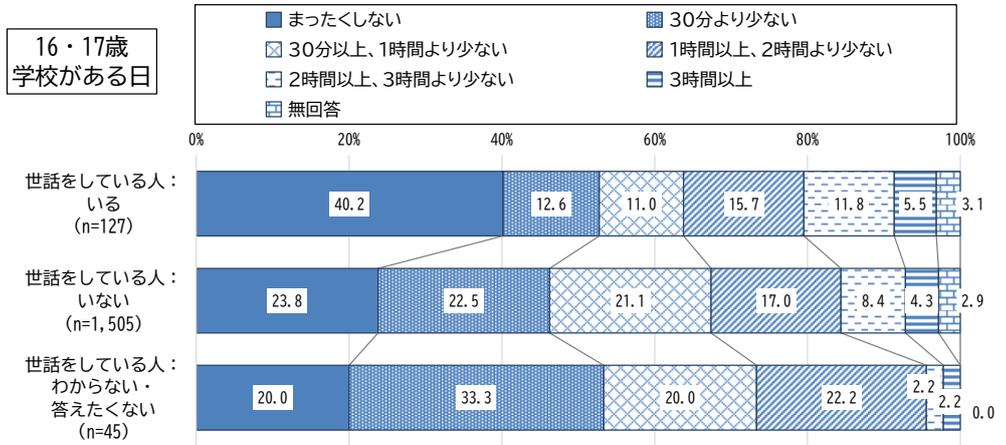
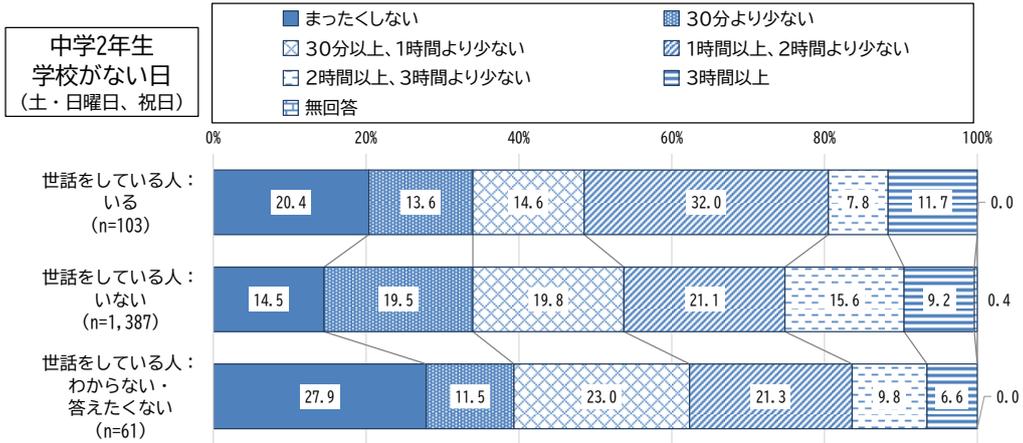
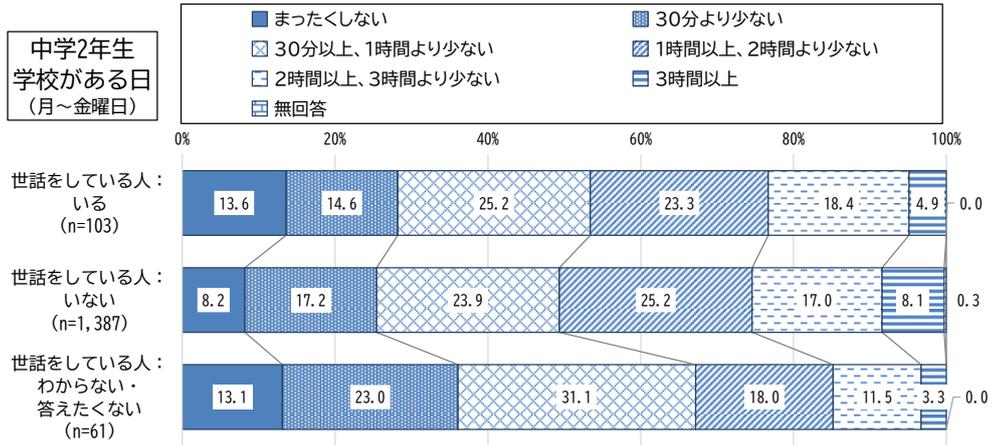
お世話をしている人がいるか	小学5年生 (令和6年度実施)		中学2年生 (令和5年度実施)		16歳・17歳 (令和6年度実施)	
	集計対象	該当割合	集計対象	該当割合	集計対象	該当割合
「いる」						
収入:中央値の2分の1未満	n=198	16.2%	n=151	12.6%	n=184	14.7%
収入:中央値の2分の1以上中央値未満	n=727	12.7%	n=508	6.9%	n=579	8.8%
収入:中央値以上	n=922	7.4%	n=815	4.7%	n=769	3.8%
全体	n=1,993	10.6%	n=1,585	6.5%	n=1,730	7.4%

お世話をしている人がいるか	小学5年生 (令和6年度実施)		中学2年生 (令和5年度実施)		16歳・17歳 (令和6年度実施)	
	集計対象	該当割合	集計対象	該当割合	集計対象	該当割合
「いる」						
結婚している (再婚や事実婚を含む。)	n=1,826	10.5%	n=1,388	5.9%	n=1,410	6.2%
離婚	n=80	11.3%	n=112	10.7%	n=122	13.9%
死別	n=10	30.0%	n=13	0.0%	n=20	0.0%
未婚	n=5	0.0%	n=11	0.0%	n=15	6.7%
わからない	n=4	0.0%	n=1	0.0%	n=6	0.0%
いない	n=16	6.3%	n=19	15.8%	n=22	18.2%
全体	n=1,993	10.6%	n=1,585	6.5%	n=1,730	7.4%

<ケアラーの状況に関するクロス集計(ケアラーの状況と学習時間)>

1日あたりの勉強時間について、家族の中にお世話をしている人がいるかの状況別(ケアラーの状況別)にみると、特に16歳・17歳調査について、お世話をしている人が「いる」場合に、学校がある日・ない日ともに「まったくしない」の回答割合が高い傾向となっている。

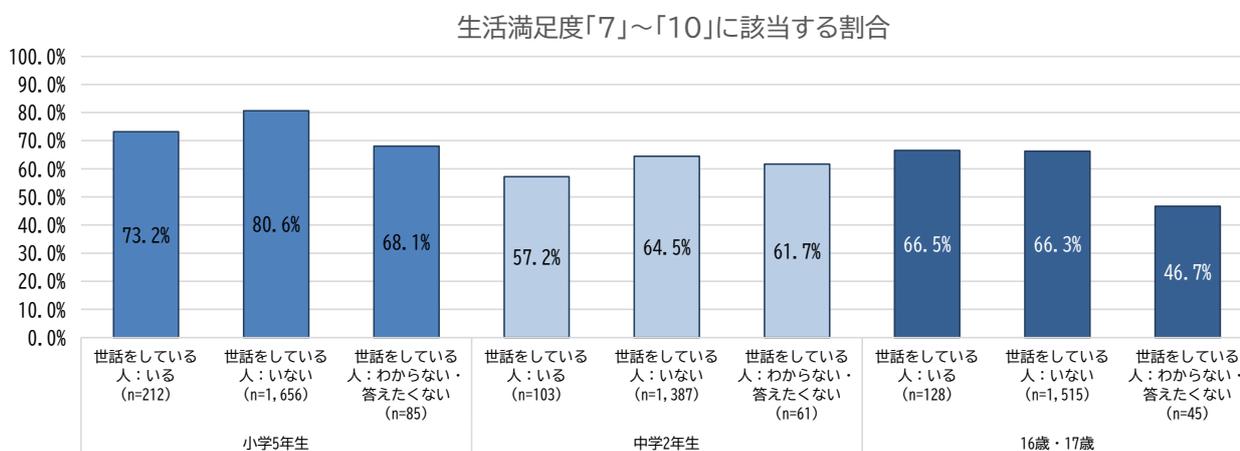




※小学5年生調査と16歳・17歳調査は令和6年度実施、中学2年生調査は令和5年度実施。

<ケアラーの状況に関するクロス集計(ケアラーの状況と生活満足度)>

生活満足度について「7」～「10」の回答を合計した割合を、家族の中にお世話をしている人がいるかの状況別(ケアラーの状況別)にみると、小学5年生保護者調査と中学2年生保護者調査では、お世話をしている人が「いる」場合に、お世話をしている人が「いない」場合と比べて、値が低い傾向にある。



※小学5年生調査と16歳・17歳調査は令和6年度実施、中学2年生調査は令和5年度実施。

生活満足度 「7」「8」「9」「10」	小学5年生 (令和6年度実施)		中学2年生 (令和5年度実施)		16歳・17歳 (令和6年度実施)	
	集計対象	該当割合	集計対象	該当割合	集計対象	該当割合
世話をしている人: いる	n=212	73.2%	n=103	57.2%	n=128	66.5%
世話をしている人: いない	n=1,656	80.6%	n=1,387	64.5%	n=1,515	66.3%
世話をしている人: わからない・答えたくない	n=85	68.1%	n=61	61.7%	n=45	46.7%
全体	n=1,993	79.2%	n=1,585	63.3%	n=1,730	65.6%

3. 支援の利用状況や効果等

3-1. 保護者の状況

(1) 支援制度の利用状況、制度を利用していない理由

【保護者票】

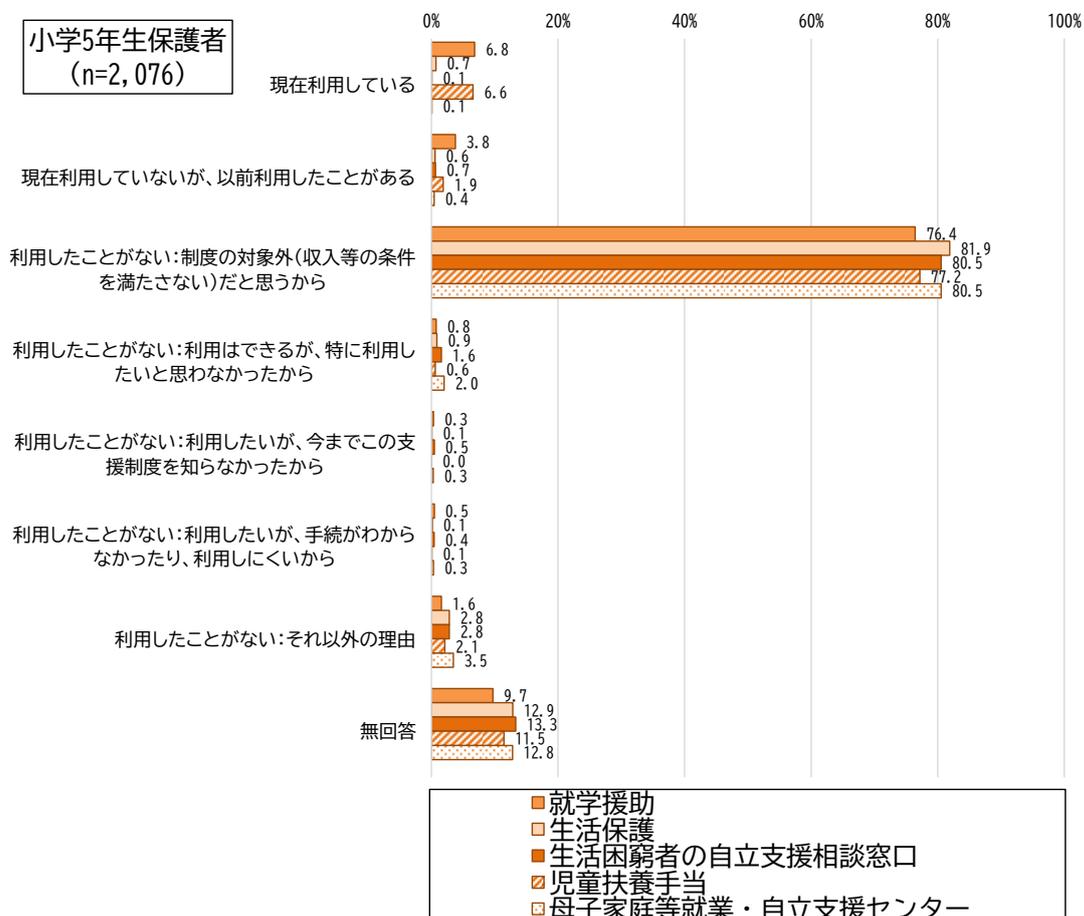
あなたのご家庭では、以下の支援制度をこれまでに利用したことがありますか。(SA)

「利用したことがない」場合、その理由は何ですか。(SA)

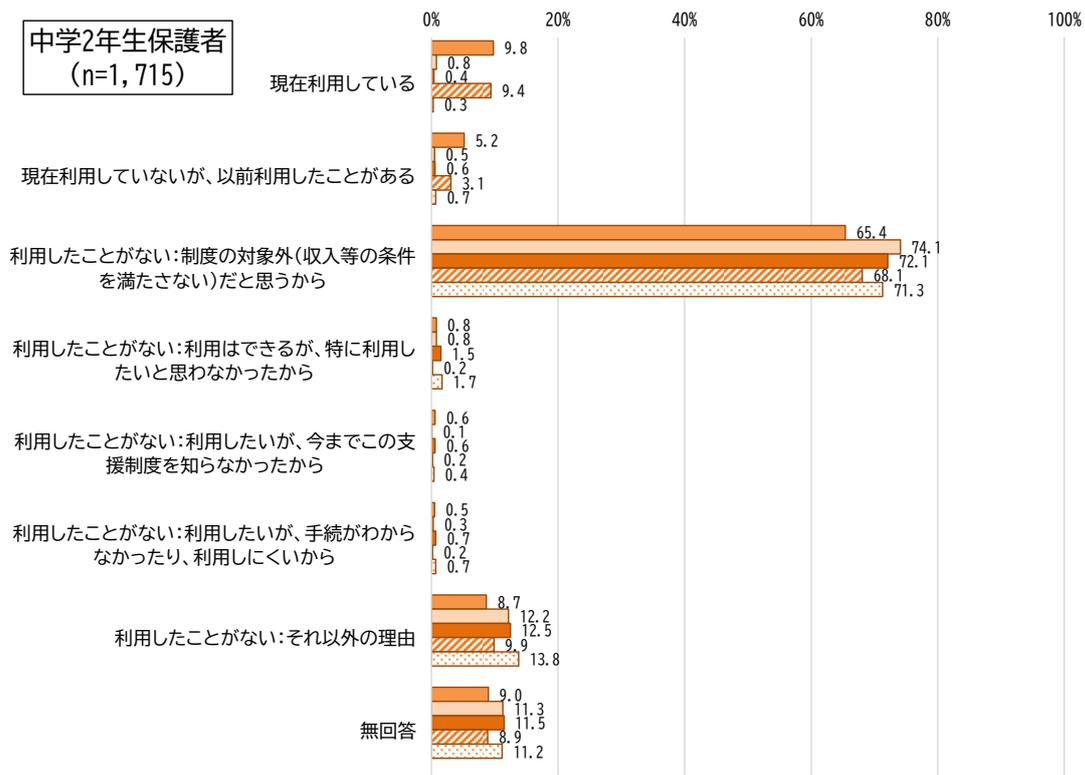
- a 就学援助
- b 生活保護
- c 生活困窮者の自立支援相談窓口
- d 児童扶養手当
- e 母子家庭等就業・自立支援センター

支援制度の利用状況、及び制度を利用していない理由について、いずれの調査・いずれの制度に関しても、「利用したことがない：制度の対象外(収入等の条件を満たさない)だと思うから」の回答割合が最も高くなっている。

「現在利用している」、あるいは「現在利用していないが、以前利用したことがある」と回答された割合は、いずれの調査でも「就学援助」について最も値が高くなっている

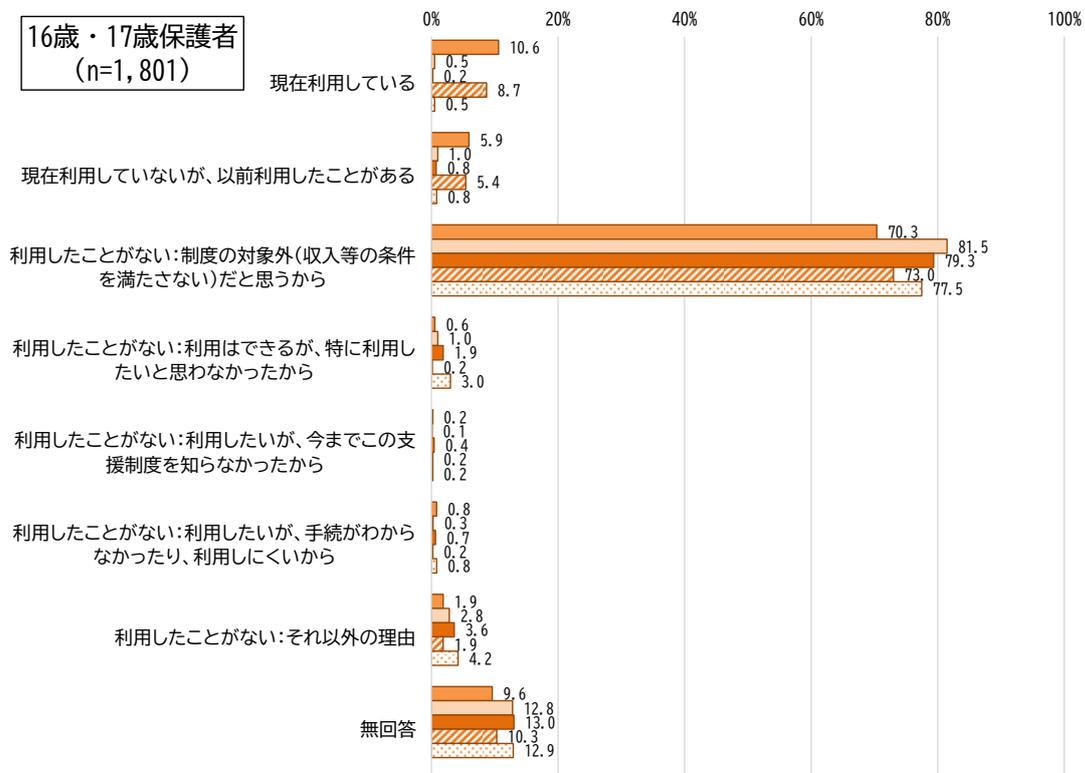


中学2年生保護者
(n=1,715)



- 就学援助
- 生活保護
- 生活困窮者の自立支援相談窓口
- ▨ 児童扶養手当
- ▨ 母子家庭等就業・自立支援センター

16歳・17歳保護者
(n=1,801)

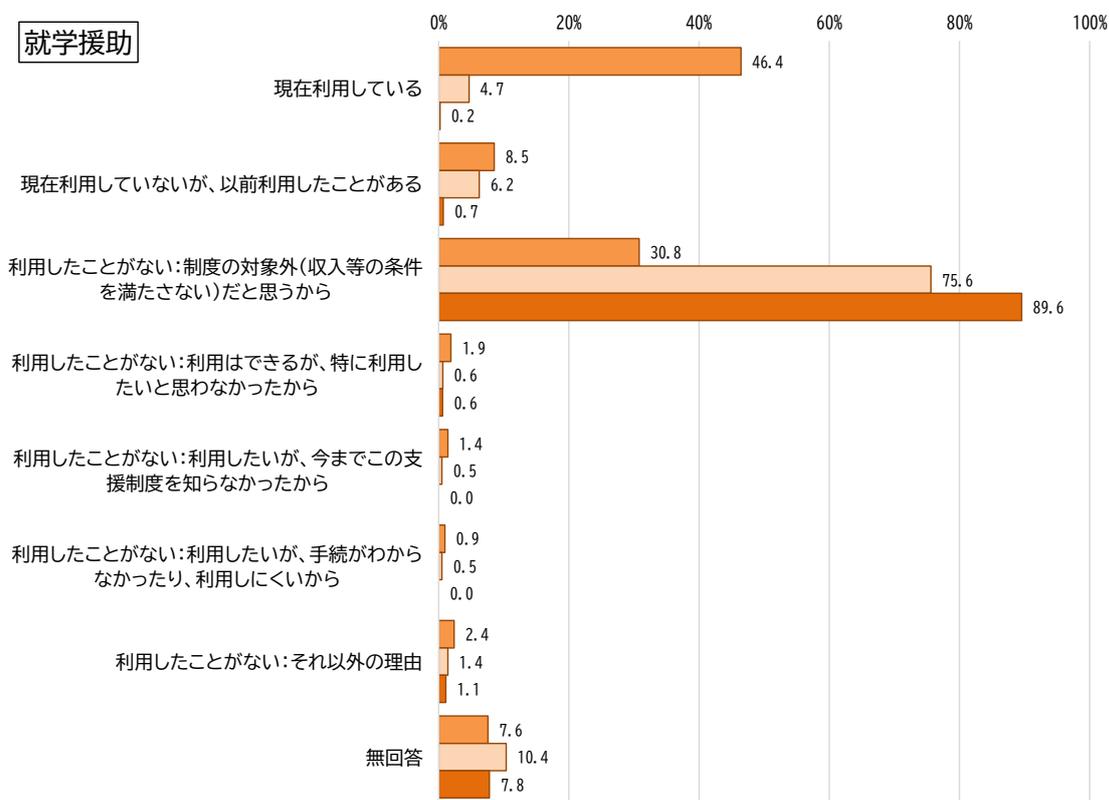


- 就学援助
- 生活保護
- 生活困窮者の自立支援相談窓口
- ▨ 児童扶養手当
- ▨ 母子家庭等就業・自立支援センター

※小学5年生保護者調査と16歳・17歳保護者調査は令和6年度実施、中学2年生保護者調査は令和5年度実施。

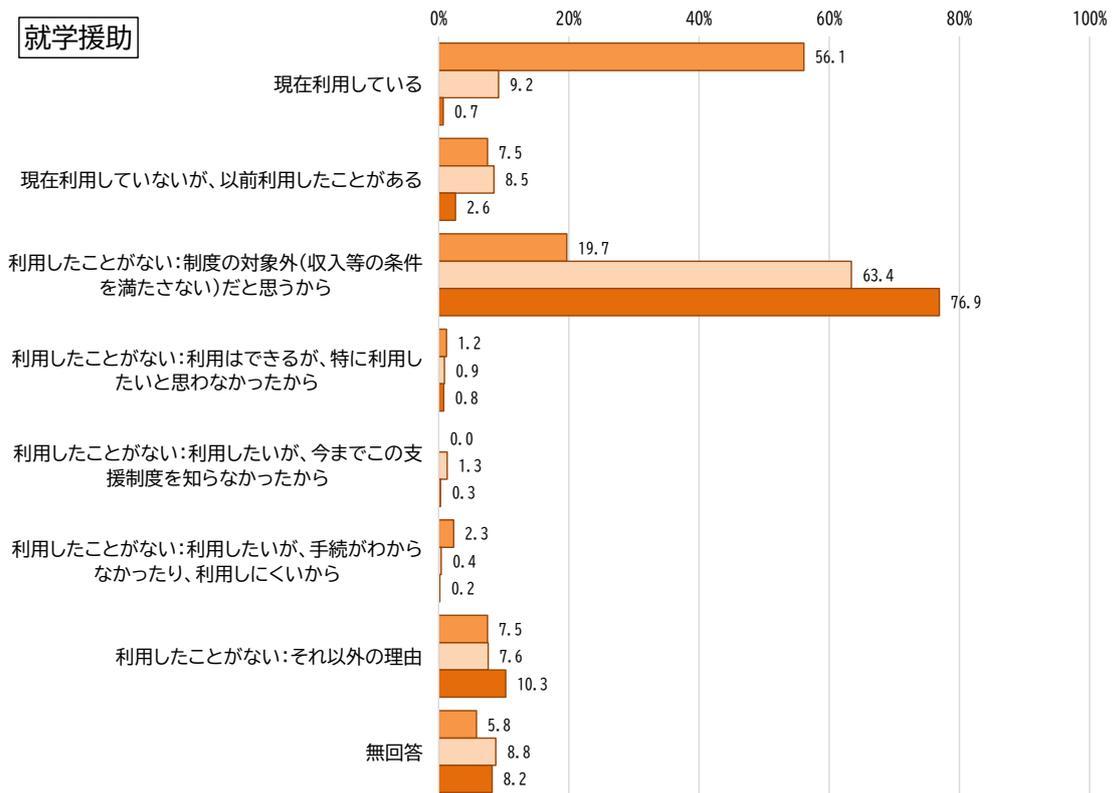
<支援制度(就学援助)の利用状況に関するクロス集計>

「就学援助」に関して、「現在利用している」、あるいは「現在利用していないが、以前利用したことがある」と回答された割合を等価世帯収入の水準別にみると、等価世帯収入の水準が「中央値の2分の1未満」に該当する場合、その割合は小学5年生保護者調査では 54.9%、中学2年生保護者調査では 63.6%、16歳・17歳保護者調査では 62.6%となっている。



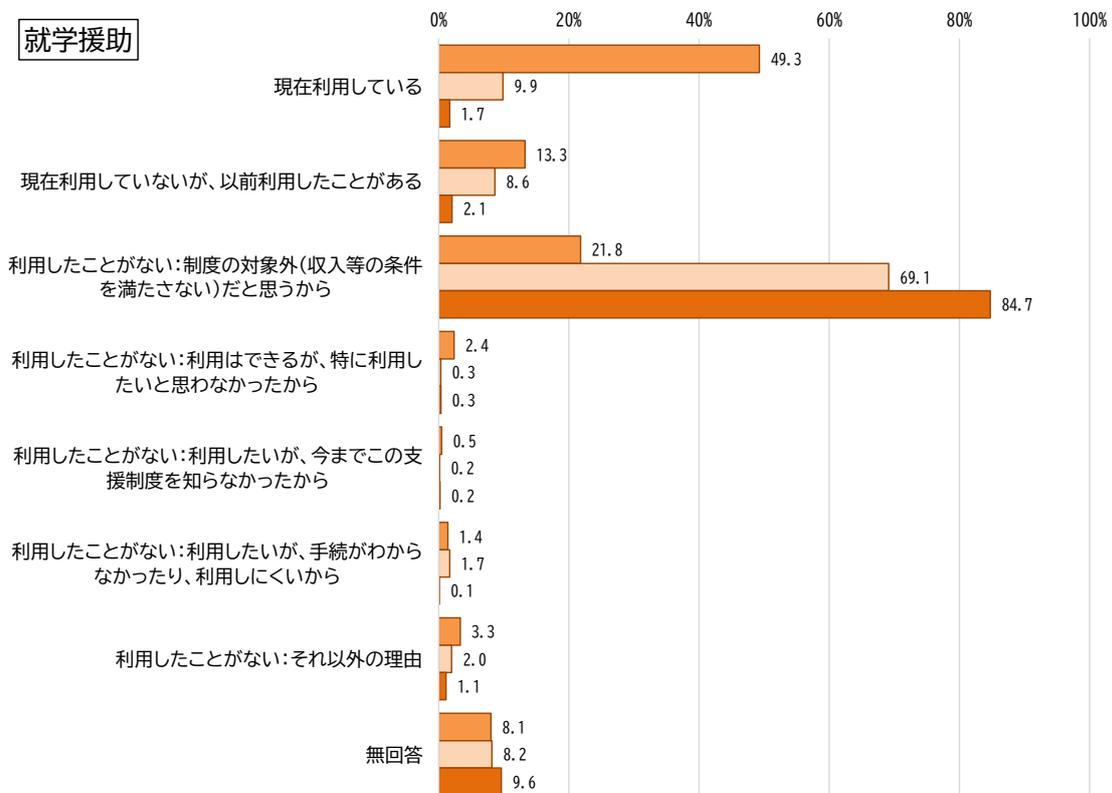
- 小学5年生保護者・等価世帯収入：中央値の2分の1未満(n=211)
- 小学5年生保護者・等価世帯収入：中央値の2分の1以上中央値未満(n=771)
- 小学5年生保護者・等価世帯収入：中央値以上(n=986)

就学援助



- 中学2年生保護者・等価世帯収入：中央値の2分の1未満 (n=173)
- 中学2年生保護者・等価世帯収入：中央値の2分の1以上中央値未満 (n=555)
- 中学2年生保護者・等価世帯収入：中央値以上 (n=912)

就学援助



- 16歳・17歳保護者・等価世帯収入：中央値の2分の1未満 (n=211)
- 16歳・17歳保護者・等価世帯収入：中央値の2分の1以上中央値未満 (n=648)
- 16歳・17歳保護者・等価世帯収入：中央値以上 (n=871)

(2) 希望する行政支援

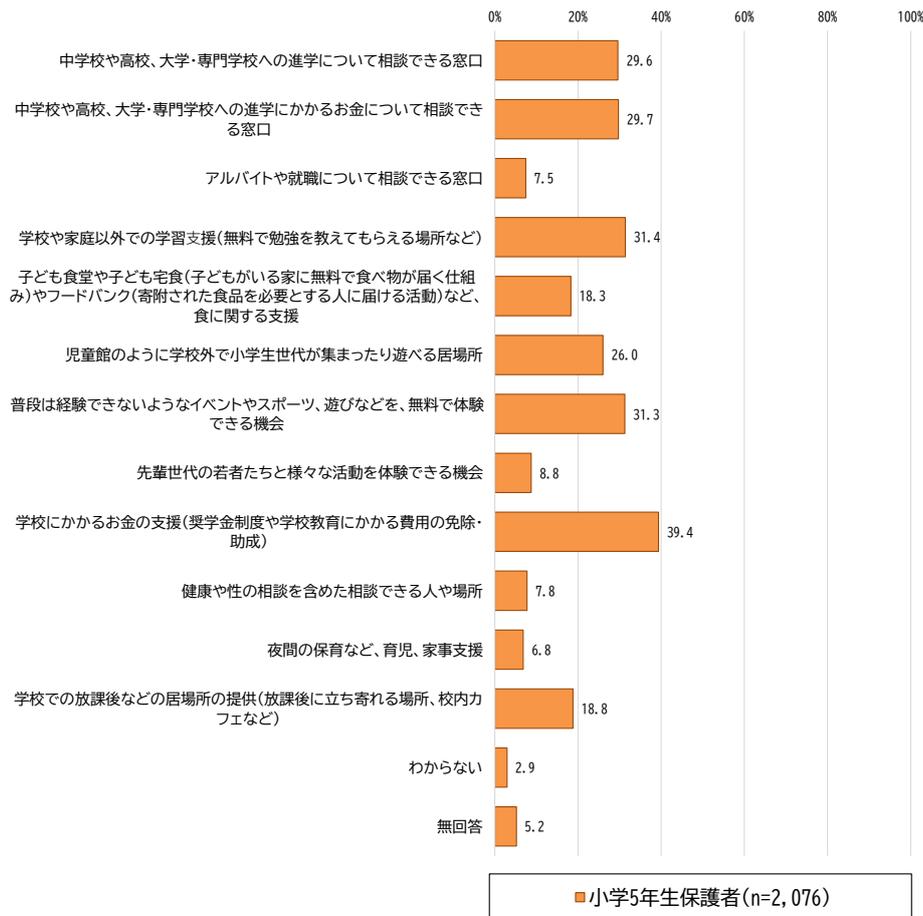
【保護者票】

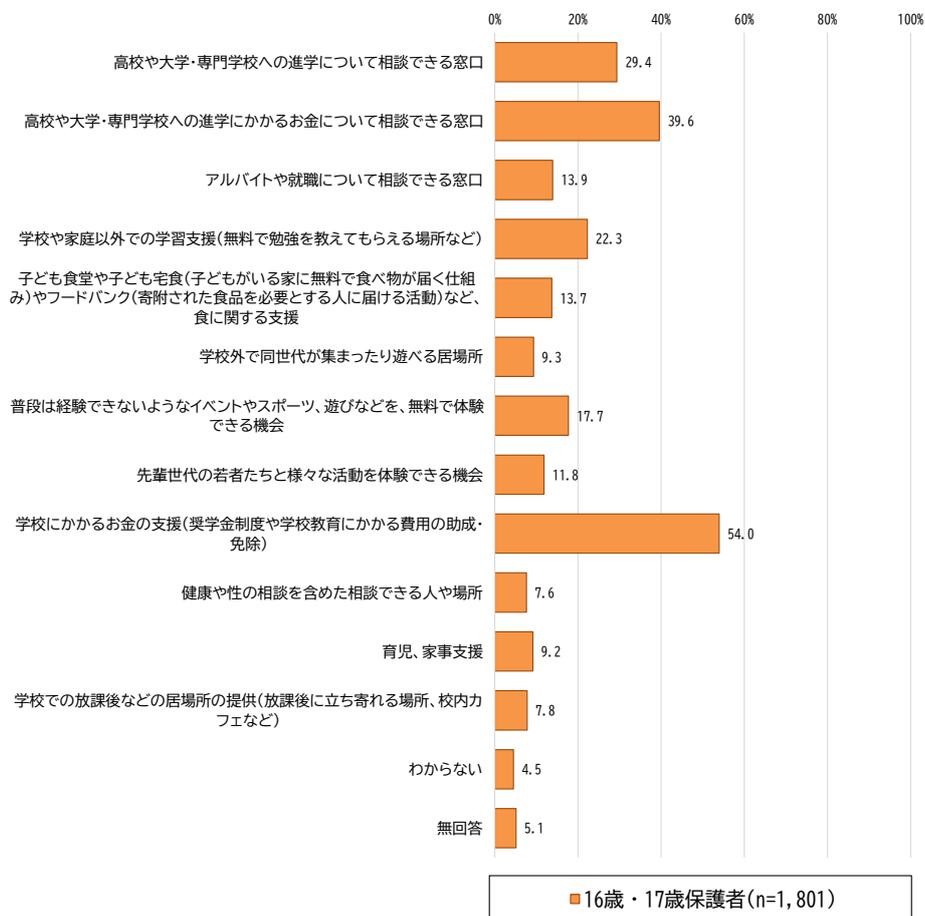
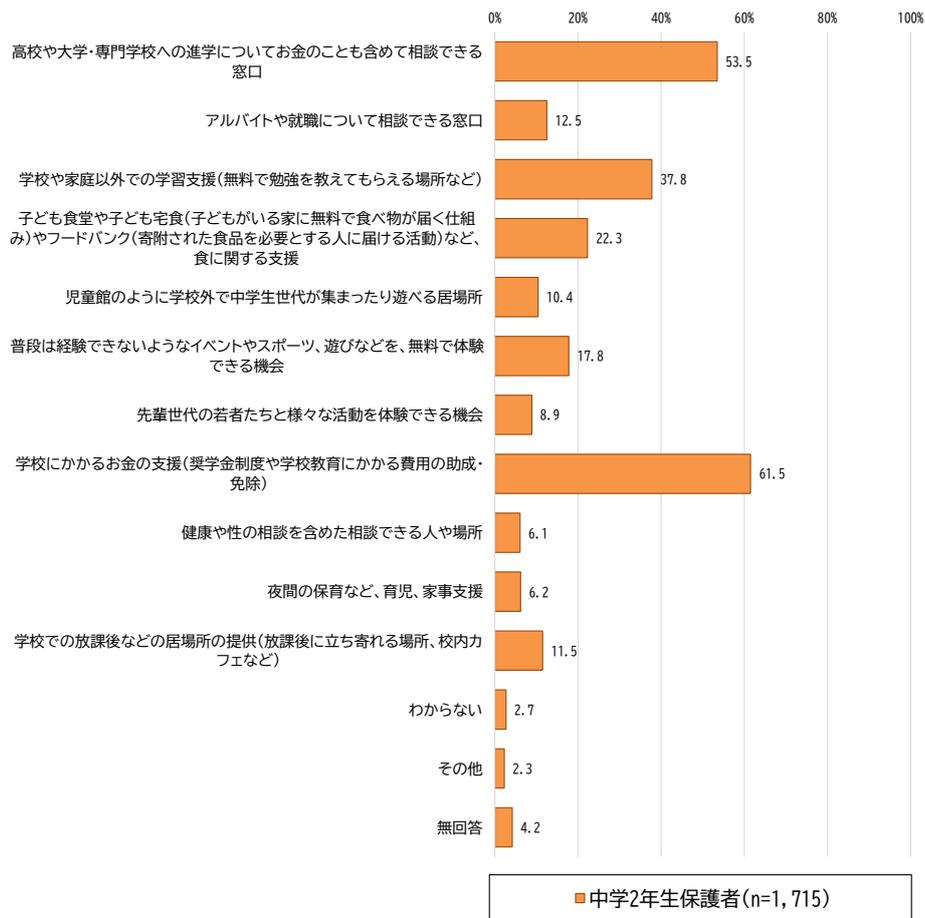
あなたやお子さんが困難な状況にあるときに、どのような支援が必要だと思いますか。(MA、3つまで)

困難な状況にあるときに、どのような支援が必要だと考えるかについて、小学5年生保護者調査では、「学校にかかるお金の支援(奨学金制度や学校教育にかかる費用の免除・助成)」の回答割合が最も高く、次いで「学校や家庭以外での学習支援(無料で勉強を教えてもらえる場所など)」、「普段は経験できないようなイベントやスポーツ、遊びなどを、無料で体験できる機会」の回答割合が高くなっている。

中学2年生保護者調査では、「学校にかかるお金の支援(奨学金制度や学校教育にかかる費用の助成・免除)」の回答割合が最も高く、次いで「高校や大学・専門学校への進学についてお金のことも含めて相談できる窓口」、「学校や家庭以外での学習支援(無料で勉強を教えてもらえる場所など)」の回答割合が高くなっている。

16歳・17歳保護者調査では、「学校にかかるお金の支援(奨学金制度や学校教育にかかる費用の免除・助成)」の回答割合が最も高く、次いで「高校、大学・専門学校への進学にかかるお金について相談できる窓口」、「高校、大学・専門学校への進学について相談できる窓口」の回答割合が高くなっている。





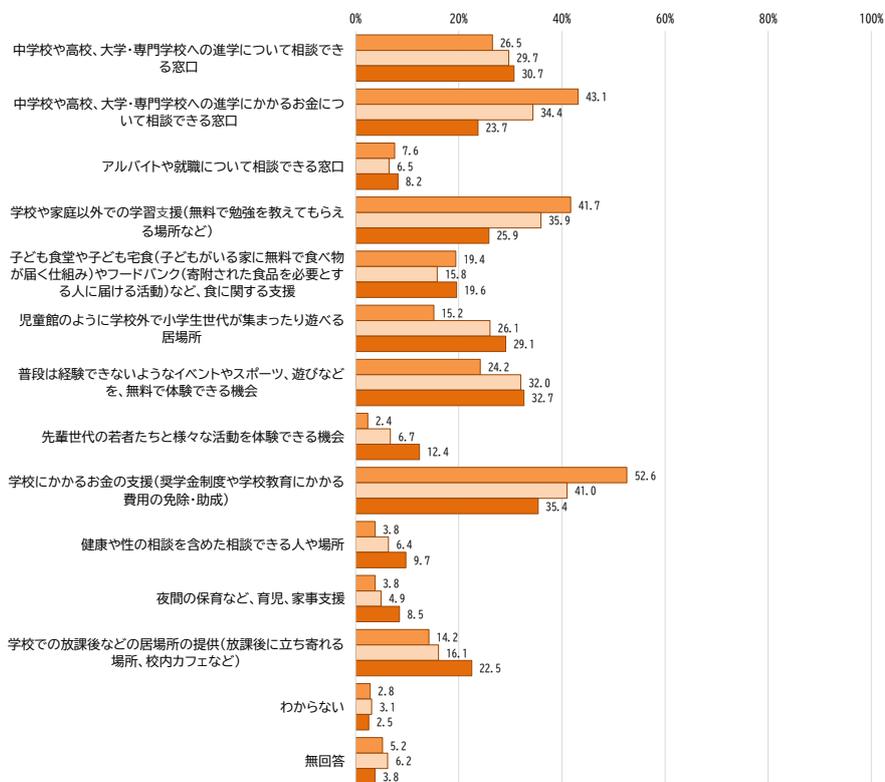
※小学5年生保護者調査と16歳・17歳保護者調査は令和6年度実施、中学2年生保護者調査は令和5年度実施。

<希望する行政支援に関するクロス集計>

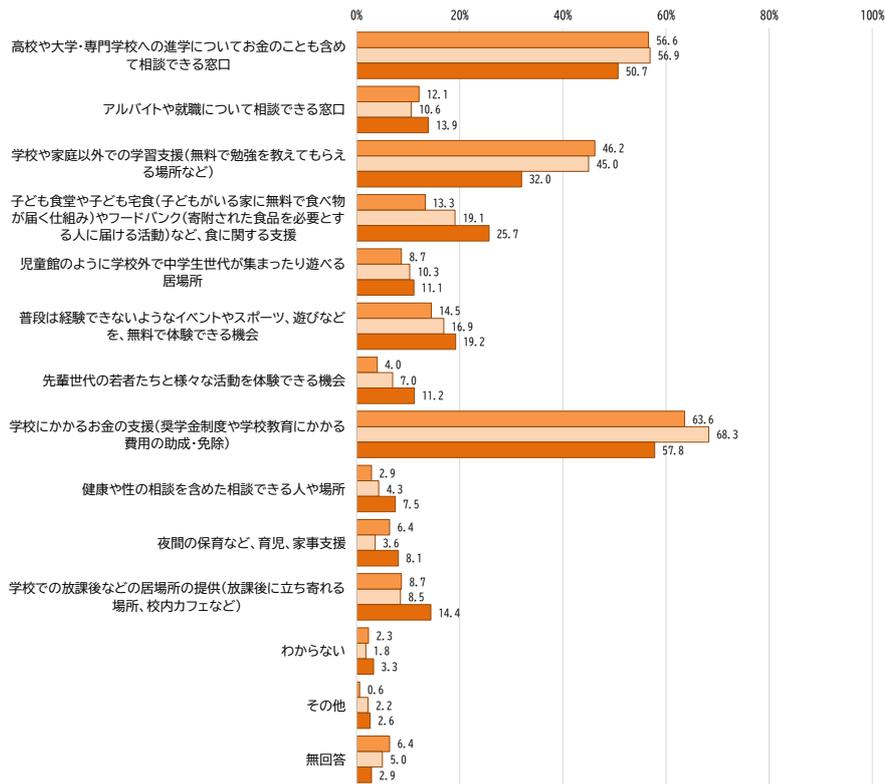
困難な状況にあるときに、どのような支援が必要だと考えるかに関する回答を等価世帯収入の水準別にみると、小学5年生保護者調査では、「中学校や高校、大学・専門学校への進学にかかるお金について相談できる窓口」、「学校や家庭以外での学習支援(無料で勉強を教えてもらえる場所など)」、「学校にかかるお金の支援(奨学金制度や学校教育にかかる費用の免除・助成)」などについて、等価世帯収入の水準が低いほど回答割合が高い傾向にある。

中学2年生保護者調査では、「学校や家庭以外での学習支援(無料で勉強を教えてもらえる場所など)」について、等価世帯収入の水準が低いほど回答割合が高い傾向にある。

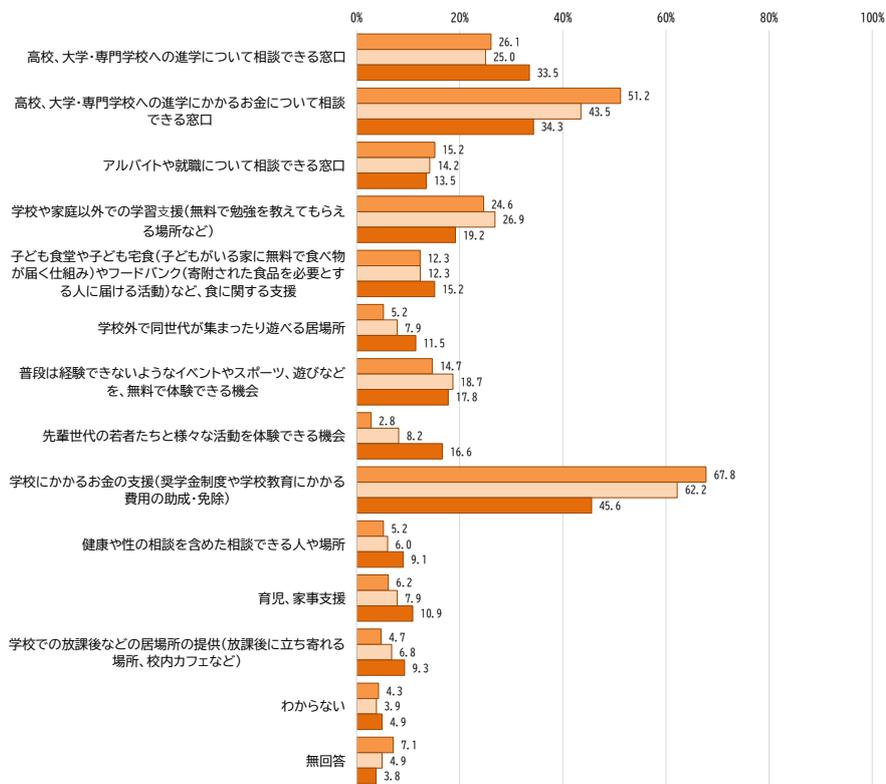
16歳・17歳保護者調査では、「高校、大学・専門学校への進学にかかるお金について相談できる窓口」、「学校にかかるお金の支援(奨学金制度や学校教育にかかる費用の免除・助成)」などについて、等価世帯収入の水準が低いほど回答割合が高い傾向にある。



- 小学5年生保護者・等価世帯収入：中央値の2分の1未満(n=211)
- 小学5年生保護者・等価世帯収入：中央値の2分の1以上中央値未満(n=771)
- 小学5年生保護者・等価世帯収入：中央値以上(n=986)



- 中学2年生保護者・等価世帯収入：中央値の2分の1未満(n=173)
- 中学2年生保護者・等価世帯収入：中央値の2分の1以上中央値未満(n=555)
- 中学2年生保護者・等価世帯収入：中央値以上(n=912)



- 16歳・17歳保護者・等価世帯収入：中央値の2分の1未満(n=211)
- 16歳・17歳保護者・等価世帯収入：中央値の2分の1以上中央値未満(n=648)
- 16歳・17歳保護者・等価世帯収入：中央値以上(n=871)

(3) 希望する行政支援(自由記述回答)

【保護者票】

あなたがあったらいいと思う支援があったら、具体的に教えてください。(自由記述)

令和6年度に実施した小学5年生保護者調査と16歳・17歳保護者調査について、希望する行政支援に関して自由記述により得られた回答を内容別に分類し、件数をカウントした(ひとりの方が複数の内容を回答している場合には、それぞれの分類でカウントした)。

小学5年生保護者調査では、「金銭的支援・無償化等」に関する内容の回答件数が最も多く、次いで「居場所」、「教育制度・学習支援」、「遊び場・体験の機会」、「相談窓口」に関する内容の回答件数が多くなっている。

16歳・17歳保護者調査では、「金銭的支援・無償化等」に関する内容の回答件数が最も多く、次いで「教育制度・学習支援」、「相談窓口」、「遊び場・体験の機会」、「発達障害等の障害への支援」に関する内容の回答件数が多くなっている。

No.	小学5年生保護者		16歳・17歳保護者	
	分類	件数	分類	件数
1	金銭的支援・無償化等	147	金銭的支援・無償化等	205
2	居場所	96	教育制度・学習支援	42
3	教育制度・学習支援	67	相談窓口	40
4	遊び場・体験の機会	55	遊び場・体験の機会	31
5	相談窓口	47	発達障害等の障害への支援	25
6	緊急時の預け先等	35	いじめ・不登校	21
7	家庭内のことへの支援	30	子どもの就職・就労	21
8	発達障害等の障害への支援	29	居場所	19
9	給食・食事に関する支援	28	家庭内のことへの支援	16
10	いじめ・不登校	19	給食・食事に関する支援	10
11	保護者の就職・就労	11	保護者の就職・就労	8
12	学用品・リサイクル	10	保護者の交流の場等	8
13	公共施設の充実	9	緊急時の預け先等	7
14	国際交流・留学に関する支援	6	公共施設の充実	7
15	スクールバス	5	国際交流・留学に関する支援	4
16	その他	78	その他	58

<自由記述内容の具体例(小学5年生保護者)> ※原則として回答があったままの表現で、一部の回答を抜粋して掲載

分類	回答内容例
金銭的支援・ 無償化等	<ul style="list-style-type: none"> ● 妊娠から大学まで無償化にして欲しい。お金がかかり過ぎる。 ● 中学給食無償化 高校教育無償化 ● 子供にかかる費用を、今後捻出できるかが大変心配です。税金免除や支援をお願いします。 ● ひとり親でも収入があると何も福祉の助けを受けられません。税金は取られる一方。低所得の人ばかり優遇されるのは納得がいきません。ひとり親の児童福祉手当は所得制限をなくすべきです。 ● 通学時の交通費の支援など
居場所	<ul style="list-style-type: none"> ● 放課後の子どもの居場所。学校を開放して子どもの居場所にしてほしい。 ● 放課後に遊べる場所が少ないので(特に暑い夏など)提供していただければありがたいです。 ● 夏休み等、長期休暇の時だけの居場所の提供。 ● スポーツセンターや図書館など、気軽に行けて安心して楽しく過ごせる場所がもっとあるといいと思います。 ● 中学生以降の発達障害児のより質の高い居場所提供や相談支援。
教育制度・ 学習支援	<ul style="list-style-type: none"> ● 教員の配置数を増やす、またはクラスの人数を減らして密に子どもの様子を見てほしい ● 学校以外の学べる場所があると良い。 ● 長期休暇(夏休み、冬休み)などの学業支援をしてほしい。 ● 色々な施設を作る前に、学校の機能を強化させて学校内で補習や学童、習い事を完結できるようにすれば移動もなくて済むし地域に根ざした活動ができると思う。 ● 習い事をしていないと1人で家で過ごすことになるので、オンラインミーティングのような形で、学習サポートや悩み相談をしてくれるシステムがあったら良いのではないかなと思う。
遊び場・体験 の機会	<ul style="list-style-type: none"> ● 屋外で、広くてボール遊びの制限がない場所があるとありがたいです。 ● 夏の暑い時は外で遊ばず、体を動かす機会が減るので冷房がきいている体育館などの屋内を放課後や夏休みなどに遊び場として使わせてもらえたらいいと思います。 ● 普段経験することが少ないスポーツやイベント。 ● 学校のクラブ活動時間が少ないので、それに変わる支援があったらいいと思います。 ● リタイヤされたお年寄りの方が昔の遊びなどを教えてくれるような機会
相談窓口	<ul style="list-style-type: none"> ● 子供の発達や将来の進路などを気軽に相談できる場所。 ● 家庭の悩み(夫との関係など)を気軽に相談できる場所が欲しい ● 分野を問わず、相談できる窓口 ● 親のメンタルケア ● 外に助けを求める第一歩を踏み出すハードルが一番高いと思うので、LINE やメール等気軽に踏み出せる手段の整備とその手段をいつでもどこでも入手できるように情報を拡散すること

分類	回答内容例
緊急時の 預け先等	<ul style="list-style-type: none"> ● 子どもが病気になっても安心して預けられる場所 ● 当日、急な用事が出来た時に、すぐ子供を預ってくれる所があると助かる。 ● 地方の地域は土曜日に預かってくれる場所がないので困っている。 ● 両親の出勤、兄弟の登校時間が、小学校の登校時間より早いため、朝の時間に小学校の校庭や体育館、図書館を開放していただくと大変助かります。
家庭内のこと への支援	<ul style="list-style-type: none"> ● 自分や子供が困難な状況になった時には、自分達だけで精一杯になると思うから、親の介護や世話 を全面的に見てくれるような支援がほしい。 ● 離婚の手続きや、その後の金銭・支援に関する相談ができる場所 モラハラに関する相談 ● 子どもの親や同居人のことで居場所を失った子供たちの逃げる場所の確保。
発達障害等 の障害への 支援	<ul style="list-style-type: none"> ● 支援級対象にならないグレーゾーン含む普通に通えていない子供たち、親への理解や支援 ● 発達障害についての知識、支援について担当の教員以外も学ぶ機会を作って欲しい。 ● 学習支援で発達障害専門の学習サポートを受けられる支援があったらうれしいです。
給食・食事 に関する支援	<ul style="list-style-type: none"> ● 共働き世帯が多いと思うので、夏休みや冬休み期間にお昼ご飯を食べられる施設などがあつたらいいと思う。 ● 家族皆遅くまで仕事をしているので、子ども達の夕飯を提供してくれる場所(有償可) ● 中学・高校の給食支援
いじめ・ 不登校	<ul style="list-style-type: none"> ● いじめの「相談」窓口ではなく、「調査」「仲裁」をしてくれる窓口があればいいなと思います。 ● 不登校になってしまった場合に相談できる窓口
保護者の 就職・就労	<ul style="list-style-type: none"> ● 夏休み等長期休暇中に仕事を期間限定に時短にできる等、柔軟な制度があるとよいなと思います。 ● 子供の状況に応じたパートがあればがんばりたいが都合が合うようなものは親族などの支援がないとない
学用品・ リサイクル	<ul style="list-style-type: none"> ● 衣服・制服、学用品などをリサイクル、リユースするような場所、お店など。 ● 学用品等の補助の支援をもっと広げて欲しい
公共施設の 充実	<ul style="list-style-type: none"> ● 住んでいる地区に、児童館がない、プール(小学校)が古く、体育でもなく、工事をして、プールが使えるようにしてほしい。 ● 図書館が近くにあれば子供達が定期的に通ったイベントに参加したりできるので図書館を整備して頂きたいです。
国際交流・留 学に関する 支援	<ul style="list-style-type: none"> ● 海外の子どもとふれあえるイベント(ホームステイ含む) ● 留学の相談
スクールバス	<ul style="list-style-type: none"> ● 学校が遠い子にスクールバスがあると安心 ● バス停ですら家から遠いし、コミュニティバスは時間や料金が需要と合わない

<自由記述内容の具体例(16歳・17歳保護者)> ※原則として回答があったままの表現で、一部の回答を抜粋して掲載

分類	回答内容例
金銭的支援・無償化等	<ul style="list-style-type: none"> ● 子供の年齢があがると、学費以外にかかる費用も大きくなります。食費、衣料費、交通費、医療費など。学費以外でも支援を望みます。 ● 子供が3人いるが、一人当たりにかかるお金の額が大きい。3人目は大学までは無償でお願いしたい。 ● 本当に教育にお金がかかってこまる 学びたいことをお金を気にせずできるシステム支援があればいいと思う。 ● 医療費(全額でなくてもいいので)の支援を、高校卒業時までしてほしいです。 ● 所得に関係なく、子を持つ人に対してお金の援助をして欲しい。
教育制度・学習支援	<ul style="list-style-type: none"> ● 朝9時ぐらいから夜9時ぐらいまで自由に勉強学習が無料でできる場所。 ● 塾に行かなくても、入試などの説明を中学・高校でもっと詳しくおしえてもらえるといい。 ● 受験勉強、全般の援助。 ● 資格取得や免許の取得など専門的な分野で活躍できる子どもたちを育てるための支援を充実して欲しい。 ● 高校まで義務教育で良いと思う。
相談窓口	<ul style="list-style-type: none"> ● 親、子の心のサポート、相談ができる所(気軽に利用できる所) ● 土日に相談可能な行政窓口 ● 相談したい案件に応じて適切な相談先を紹介してくれるコンシェルジュ的な窓口 ● ネットなどのトラブル相談窓口
遊び場・体験の機会	<ul style="list-style-type: none"> ● 子どもが安心しておもいっきり遊べる公園を家の近所に作って欲しい。 ● 子どもが参加できる様々なボランティア活動の情報提供 ● 職業体験を様々なジャンルでもっと増やしてほしい ● 貧困家庭の子供たちが、思い出を作れるような体験ができる機会があるといいと思う。(無料で)
発達障害等の障害への支援	<ul style="list-style-type: none"> ● 障がいのある子の進学・就職に関する相談等 ● 発達障害の子向けの地域のコミュニティ ● 子供が障がいがあるので、児童デイサービスを利用できている 今は、良いが、18歳以上からの成人が行けるデイサービスがなく困っています。
いじめ・不登校	<ul style="list-style-type: none"> ● 不登校になった時の学校以外の支援先 ● 病気や怪我、その他の理由による不登校児の自宅でのオンライン授業(機材も含めた)の充実 ● いじめられている子の支援はいろいろあるが、いじめている子の支援を充実させてほしい。

分類	回答内容例
子どもの 就職・就労	<ul style="list-style-type: none"> ● 職業、アルバイト体験 学校にアルバイト求人が掲示されているといい。 ● 将来の仕事を意識するような機会。色々な、職業があり、好きなこと、得意なことを見つけ進学を選べるような機会 ● コミュニケーション能力、理解能力に欠ける子ども(人)に対する就職支援。
居場所	<ul style="list-style-type: none"> ● 土日、夏休み、冬休みなど平日も、中学生・高校生が、なんとなく行ける居場所 ● 病気の子供同士で、話せる場所や機会。
家庭内のこと への支援	<ul style="list-style-type: none"> ● 生活には問題がなくても、環境(夫婦、子供)の問題があるケースも多いと思います。子供が成人になっても、支えてもらいたいです ● 離婚調停中ですが、その間も子どもの父親からきちんと養育費が振り込まれる制度。
給食・食事 に関する支援	<ul style="list-style-type: none"> ● 高校の給食制度 ● 食量支援など近場で欲しいです。
保護者の 就職・就労	<ul style="list-style-type: none"> ● 年齢が高くても転職出来る様な支援 ● 共働き家庭は多忙で、特に母親への負担が多すぎる。本当に子どもの生活を重視するならば、労働者の時間外労働の禁止、家事の外注支援が必要。
保護者の 交流の場等	<ul style="list-style-type: none"> ● 親同志で話せるコミュニティ ● ひとり親等交流や情報交換出来る場所
緊急時の 預け先等	<ul style="list-style-type: none"> ● 保育園や、学童保育の定員を増やし、希望者が入れるようにして欲しい。病児保育は、まだまだ少ない。もっと、増やして欲しい。 ● 共働きで近くに親類不在なので、こどもが小3になるまではファミサポなども利用していた。引き続きそういうシステムはあるべきと思う。
公共施設の 充実	<ul style="list-style-type: none"> ● 図書館の整備 子供達が本を読みたい、この場所に寄って勉強しようと利用したくなるような設備を整えてほしい ● 子供の健康のため、学校体育館、武道場へのエアコン設置
国際交流・留 学に関する 支援	<ul style="list-style-type: none"> ● 子供が海外に興味があるようなので、留学やホームステイの支援があったらうれしいです。 ● 留学や語学研修にかかる費用の援助

3-2. 子どもの状況

(1) 居場所等に関する子どもの利用状況

【子ども票(小学5年生票)】

あなたは、次の a~d のような場所を利用したことがありますか。また、利用したことはない場合、今後利用したいと思いますか。(SA)

- a) (自分や友人の家以外で)平日の夜や休日を過ごすことができる場所(学童保育所や児童館など)
- b) (自分や友人の家以外で)夕ごはんを無料か安く食べることができる場所(子ども食堂など)
- c) 勉強を無料でみてくれる場所
- d) (家や学校以外で)何でも相談できる場所(電話やネットの相談を含む。)

【子ども票(中学2年生票)】

あなたは、次の a~d のような場所を利用したことがありますか。また、利用したことはない場合、今後利用したいと思いますか。(SA)

- a) 児童館など(自分や友人の家以外で)平日の夜や休日を過ごすことができる場所
- b) (自分や友人の家以外で)夕ごはんを無料か安く食べることができる場所(子ども食堂など)
- c) 勉強を無料でみてくれる場所
- d) (家や学校以外で)何でも相談できる場所(電話やネットの相談を含む。)

【子ども票(16歳・17歳票)】

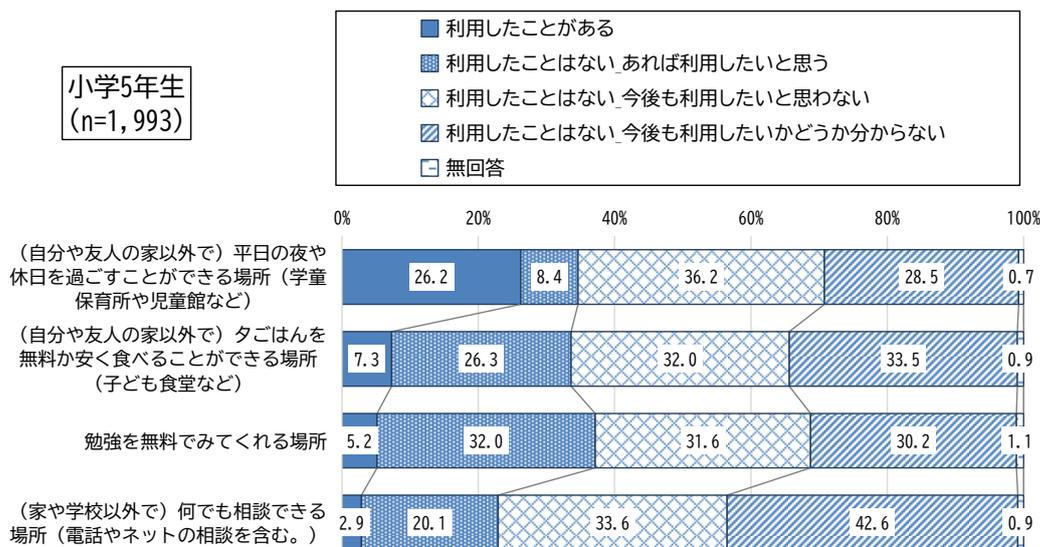
あなたは、次の a~d のような場所を利用したことがありますか。また、利用したことはない場合、今後利用したいと思いますか。(SA)

- a) 地区センターや文化センター、図書館など(自分や友人の家以外で)平日の夜や休日を過ごすことができる場所
- b) (自分や友人の家以外で)夕ごはんを無料か安く食べることができる場所(子ども食堂など)
- c) 勉強を無料でみてくれる場所
- d) (家や学校以外で)何でも相談できる場所(電話やネットの相談を含む。)

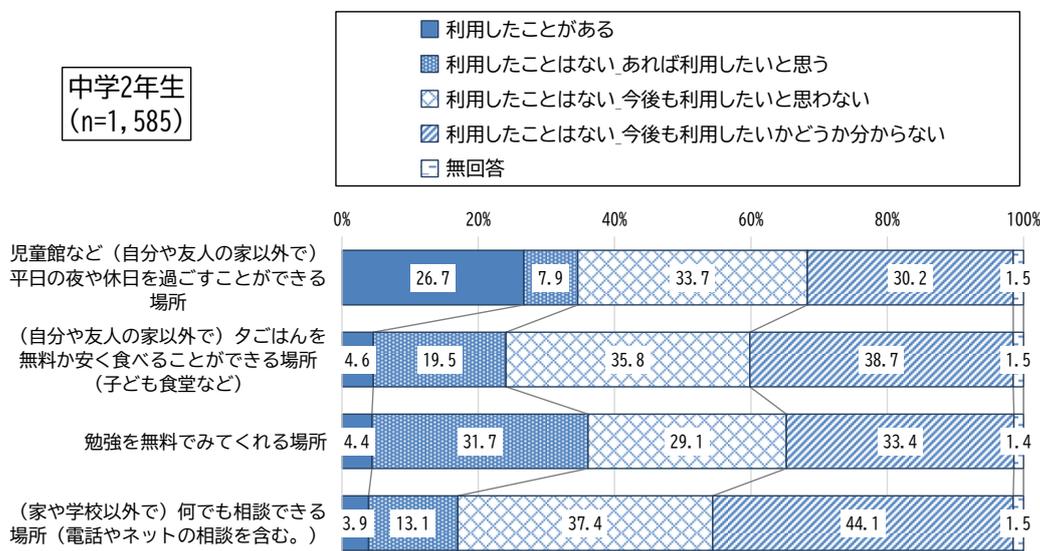
居場所等に関する子どもの利用状況について、「利用したことがある」の回答割合が最も高いのは、いずれの調査でも「平日の夜や休日を過ごすことができる場所」となっており、その割合は小学5年生調査では26.2%、中学2年生調査では26.7%、16歳・17歳調査では59.5%となっている。

「利用したことはない_あれば利用したいと思う」の回答割合が最も高いのは、いずれの調査でも「勉強を無料でみてくれる場所」となっており、その割合は、小学5年生調査で32.0%、中学2年生調査で31.7%、16歳・17歳調査で32.9%となっている。

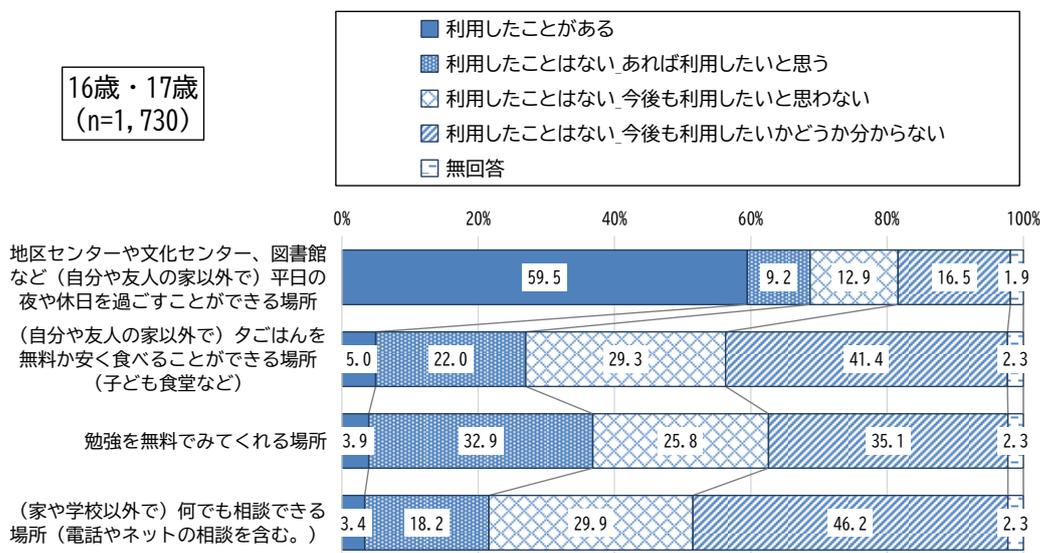
小学5年生
(n=1,993)



中学2年生
(n=1,585)



16歳・17歳
(n=1,730)

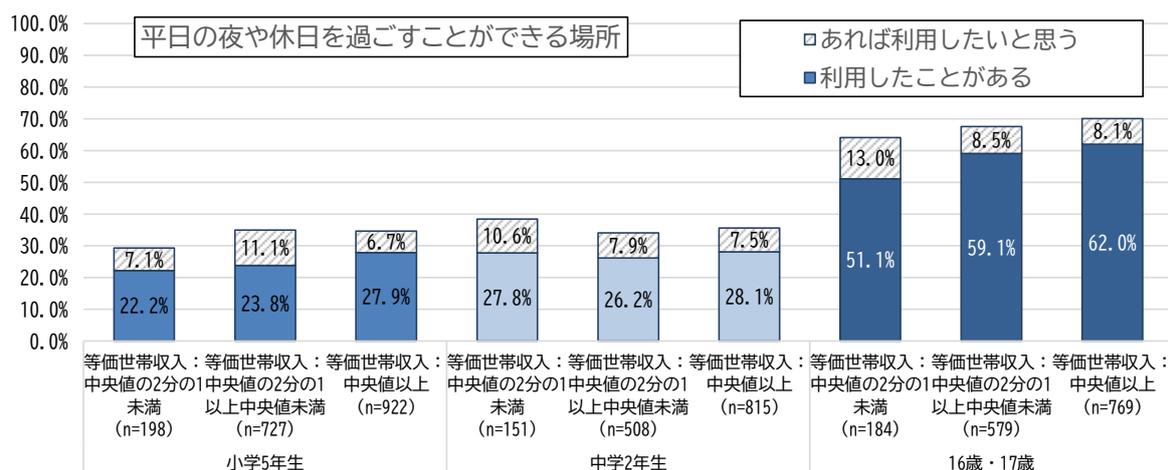


※小学5年生調査と16歳・17歳調査は令和6年度実施、中学2年生調査は令和5年度実施。

<平日の夜や休日を過ごすことができる場所の利用状況に関するクロス集計>

「平日の夜や休日を過ごすことができる場所」の利用状況について、「利用したことがある」又は「利用したことはない_あれば利用したいと思う」と回答された割合を等価世帯収入の水準別にみると、小学5年生調査と16歳・17歳調査では、等価世帯収入の水準が「中央値の2分の1未満」に該当する場合に値が低い傾向にある。

保護者の婚姻状況別にみると、「利用したことがある」又は「利用したことはない_あれば利用したいと思う」と回答された割合は、小学5年生調査と中学2年生調査では、「離婚」等の場合に「結婚している」の場合に比べて値が高い傾向にある。



※小学5年生調査と16歳・17歳調査は令和6年度実施、中学2年生調査は令和5年度実施。

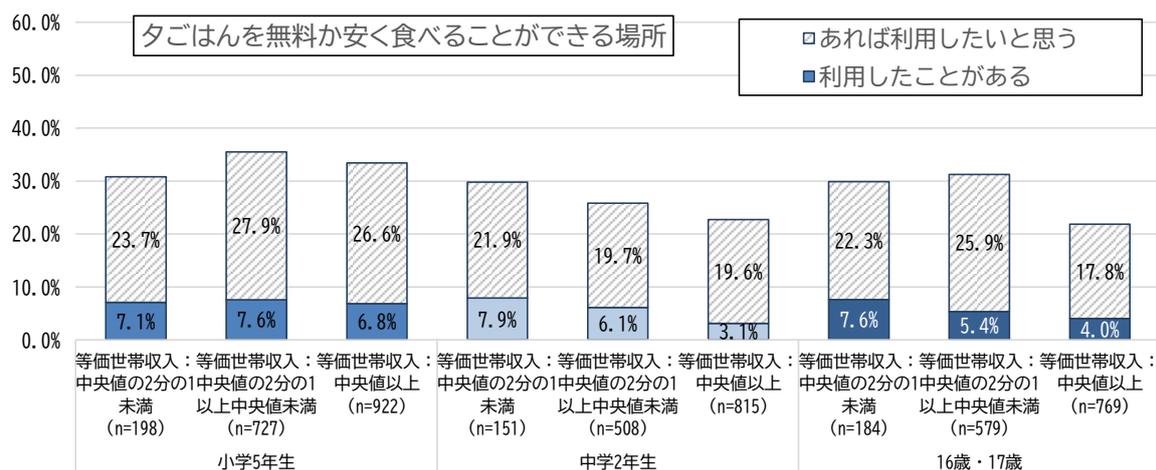
平日の夜や休日を過ごすことができる場所 「利用したことがある」「あれば利用したいと思う」	小学5年生 (令和6年度実施)		中学2年生 (令和5年度実施)		16歳・17歳 (令和6年度実施)	
	集計対象	該当割合	集計対象	該当割合	集計対象	該当割合
収入:中央値の2分の1未満	n=198	29.3%	n=151	38.4%	n=179	64.1%
収入:中央値の2分の1以上 中央値未満	n=727	34.9%	n=508	34.1%	n=573	67.6%
収入:中央値以上	n=922	34.6%	n=815	35.6%	n=767	70.1%
全体	n=1,993	34.6%	n=1,585	34.6%	n=1,730	68.7%

平日の夜や休日を過ごすことができる場所 「利用したことがある」「あれば利用したいと思う」	小学5年生 (令和6年度実施)		中学2年生 (令和5年度実施)		16歳・17歳 (令和6年度実施)	
	集計対象	該当割合	集計対象	該当割合	集計対象	該当割合
結婚している (再婚や事実婚を含む。)	n=1,826	34.0%	n=1,388	34.3%	n=1,410	69.7%
離婚	n=80	41.3%	n=112	37.5%	n=122	55.7%
死別	n=10	20.0%	n=13	46.2%	n=20	70.0%
未婚	n=5	40.0%	n=11	45.5%	n=15	60.0%
わからない	n=4	50.0%	n=1	0.0%	n=6	33.3%
いない	n=16	31.3%	n=19	36.8%	n=22	63.7%
全体	n=1,993	34.6%	n=1,585	34.6%	n=1,730	68.7%

<ごはんを無料か安く食べることができる場所の利用状況に関するクロス集計>

「ごはんを無料か安く食べることができる場所」の利用状況について、「利用したことがある」又は「利用したことはない_あれば利用したいと思う」と回答された割合を等価世帯収入の水準別にみると、中学2年生調査では、等価世帯収入の水準が低いほど値が高い傾向にある。

保護者の婚姻状況別にみると、「利用したことがある」又は「利用したことはない_あれば利用したいと思う」と回答された割合は、いずれの調査でも「離婚」等の場合に「結婚している」の場合に比べて値が高い傾向にある。



※小学5年生調査と16歳・17歳調査は令和6年度実施、中学2年生調査は令和5年度実施。

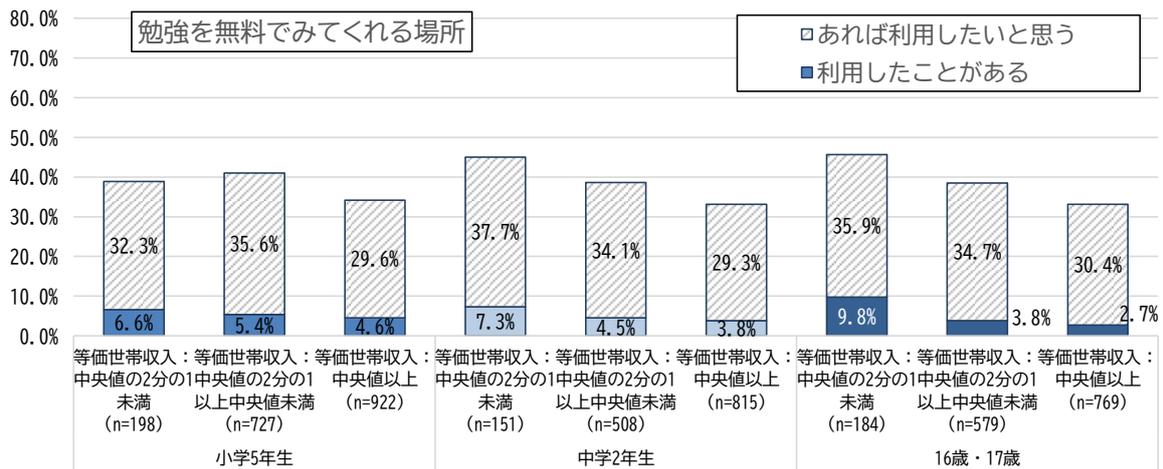
夕ごはんを無料か安く食べることができる場所 「利用したことがある」「あれば利用したいと思う」	小学5年生 (令和6年度実施)		中学2年生 (令和5年度実施)		16歳・17歳 (令和6年度実施)	
	集計対象	該当割合	集計対象	該当割合	集計対象	該当割合
収入:中央値の2分の1未満	n=198	30.8%	n=151	29.8%	n=179	29.9%
収入:中央値の2分の1以上中央値未満	n=727	35.5%	n=508	25.8%	n=573	31.3%
収入:中央値以上	n=922	33.4%	n=815	22.7%	n=767	21.8%
全体	n=1,993	33.6%	n=1,585	24.1%	n=1,730	27.0%

夕ごはんを無料か安く食べることができる場所 「利用したことがある」「あれば利用したいと思う」	小学5年生 (令和6年度実施)		中学2年生 (令和5年度実施)		16歳・17歳 (令和6年度実施)	
	集計対象	該当割合	集計対象	該当割合	集計対象	該当割合
結婚している (再婚や事実婚を含む。)	n=1,826	33.4%	n=1,388	23.9%	n=1,410	26.5%
離婚	n=80	40.0%	n=112	28.6%	n=122	29.5%
死別	n=10	30.0%	n=13	23.1%	n=20	40.0%
未婚	n=5	40.0%	n=11	36.4%	n=15	13.3%
わからない	n=4	50.0%	n=1	0.0%	n=6	33.3%
いない	n=16	37.6%	n=19	21.1%	n=22	18.1%
全体	n=1,993	33.6%	n=1,585	24.1%	n=1,730	27.0%

<勉強を無料でみてくれる場所の利用状況に関するクロス集計>

「勉強を無料でみてくれる場所」の利用状況について、「利用したことがある」又は「利用したことはない_あれば利用したいと思う」と回答された割合を等価世帯収入の水準別にみると、中学2年生調査と16歳・17歳調査では、等価世帯収入の水準が低いほど値が高い傾向にある。

保護者の婚姻状況別にみると、「利用したことがある」又は「利用したことはない_あれば利用したいと思う」と回答された割合は、いずれの調査でも「離婚」等の場合に「結婚している」の場合に比べて値が高い傾向にある。



※小学5年生調査と16歳・17歳調査は令和6年度実施、中学2年生調査は令和5年度実施。

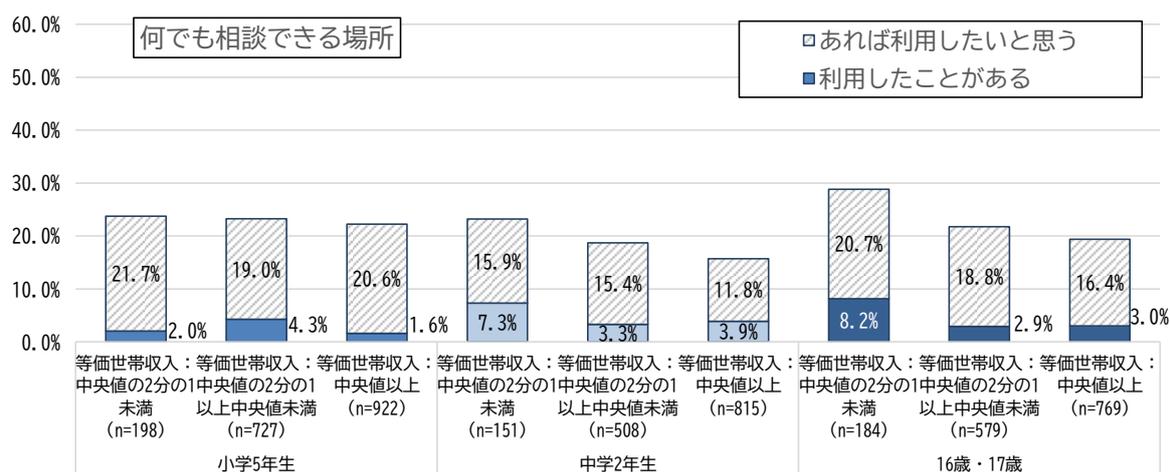
勉強を無料でみてくれる場所 「利用したことがある」「あれば利用したいと思う」	小学5年生 (令和6年度実施)		中学2年生 (令和5年度実施)		16歳・17歳 (令和6年度実施)	
	集計対象	該当割合	集計対象	該当割合	集計対象	該当割合
収入:中央値の2分の1未満	n=198	38.9%	n=151	45.0%	n=179	45.7%
収入:中央値の2分の1以上中央値未満	n=727	41.0%	n=508	38.6%	n=573	38.5%
収入:中央値以上	n=922	34.2%	n=815	33.1%	n=767	33.1%
全体	n=1,993	37.2%	n=1,585	36.1%	n=1,730	36.8%

勉強を無料でみてくれる場所 「利用したことがある」「あれば利用したいと思う」	小学5年生 (令和6年度実施)		中学2年生 (令和5年度実施)		16歳・17歳 (令和6年度実施)	
	集計対象	該当割合	集計対象	該当割合	集計対象	該当割合
結婚している (再婚や事実婚を含む。)	n=1,826	36.8%	n=1,388	35.5%	n=1,410	36.5%
離婚	n=80	48.8%	n=112	41.1%	n=122	36.9%
死別	n=10	40.0%	n=13	61.5%	n=20	65.0%
未婚	n=5	40.0%	n=11	54.6%	n=15	46.7%
わからない	n=4	50.0%	n=1	0.0%	n=6	16.7%
いない	n=16	50.1%	n=19	31.6%	n=22	22.7%
全体	n=1,993	37.2%	n=1,585	36.1%	n=1,730	36.8%

<何でも相談できる場所の利用状況に関するクロス集計>

「何でも相談できる場所」の利用状況について、「利用したことがある」又は「利用したことはない_あれば利用したいと思う」と回答された割合を等価世帯収入の水準別にみると、いずれの調査でも等価世帯収入の水準が低いほど値が高い傾向にある。

保護者の婚姻状況別にみると、「利用したことがある」又は「利用したことはない_あれば利用したいと思う」と回答された割合は、小学5年生調査と16歳・17歳調査では、「離婚」等の場合に「結婚している」の場合に比べて値が高い傾向にある。



※小学5年生調査と16歳・17歳調査は令和6年度実施、中学2年生調査は令和5年度実施。

何でも相談できる場所 「利用したことがある」「あれば利用したいと思う」	小学5年生 (令和6年度実施)		中学2年生 (令和5年度実施)		16歳・17歳 (令和6年度実施)	
	集計対象	該当割合	集計対象	該当割合	集計対象	該当割合
収入:中央値の2分の1未満	n=198	23.7%	n=151	23.2%	n=179	28.9%
収入:中央値の2分の1以上中央値未満	n=727	23.3%	n=508	18.7%	n=573	21.7%
収入:中央値以上	n=922	22.2%	n=815	15.7%	n=767	19.4%
全体	n=1,993	23.0%	n=1,585	17.0%	n=1,730	21.6%

何でも相談できる場所 「利用したことがある」「あれば利用したいと思う」	小学5年生 (令和6年度実施)		中学2年生 (令和5年度実施)		16歳・17歳 (令和6年度実施)	
	集計対象	該当割合	集計対象	該当割合	集計対象	該当割合
結婚している (再婚や事実婚を含む。)	n=1,826	22.6%	n=1,388	16.9%	n=1,410	21.4%
離婚	n=80	30.1%	n=112	15.1%	n=122	22.2%
死別	n=10	40.0%	n=13	46.2%	n=20	40.0%
未婚	n=5	0.0%	n=11	18.2%	n=15	26.7%
わからない	n=4	25.0%	n=1	100.0%	n=6	0.0%
いない	n=16	31.3%	n=19	10.5%	n=22	13.6%
全体	n=1,993	23.0%	n=1,585	17.0%	n=1,730	21.6%

(2) 居場所等の利用による変化

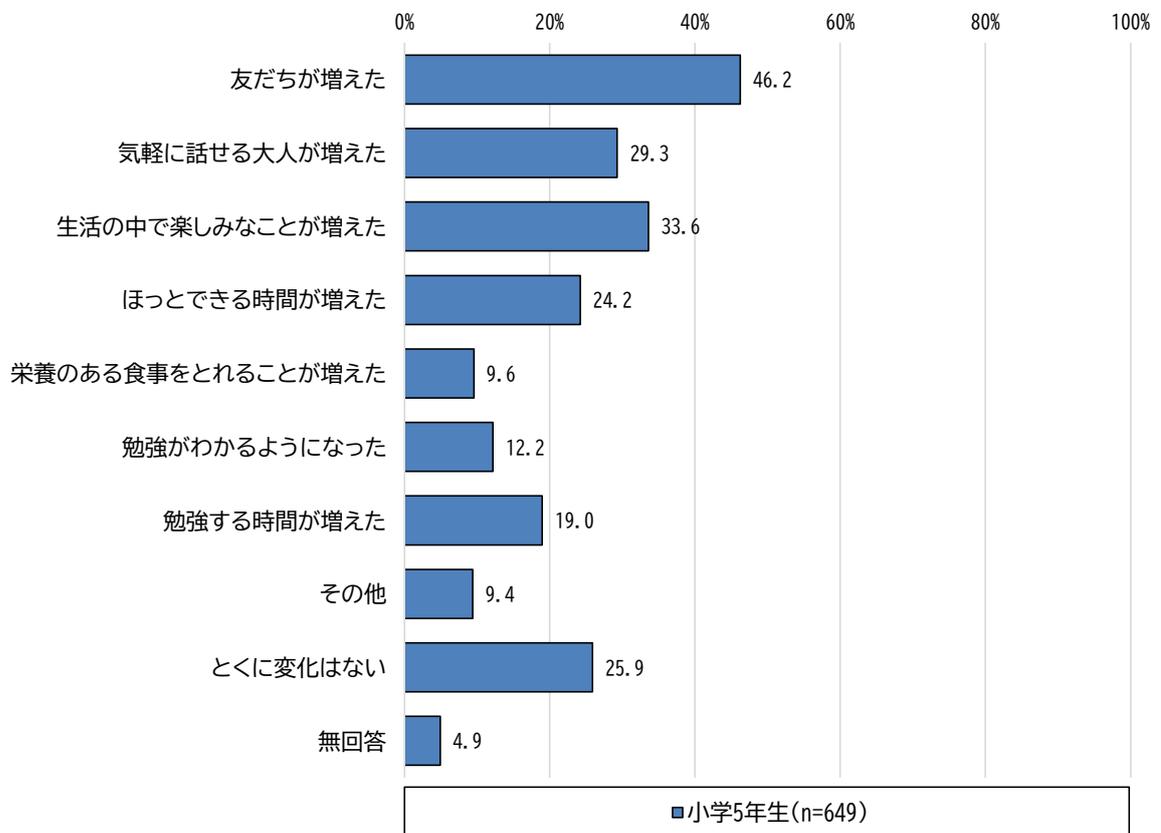
【子ども票】

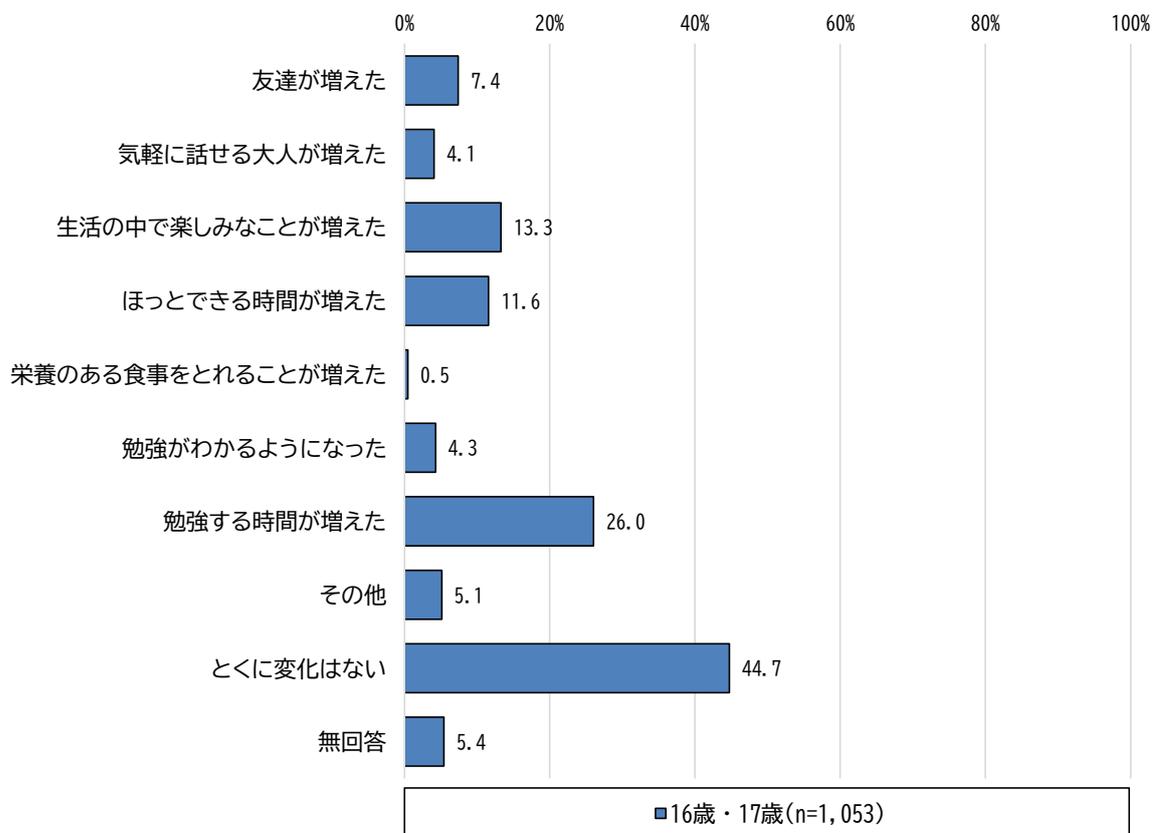
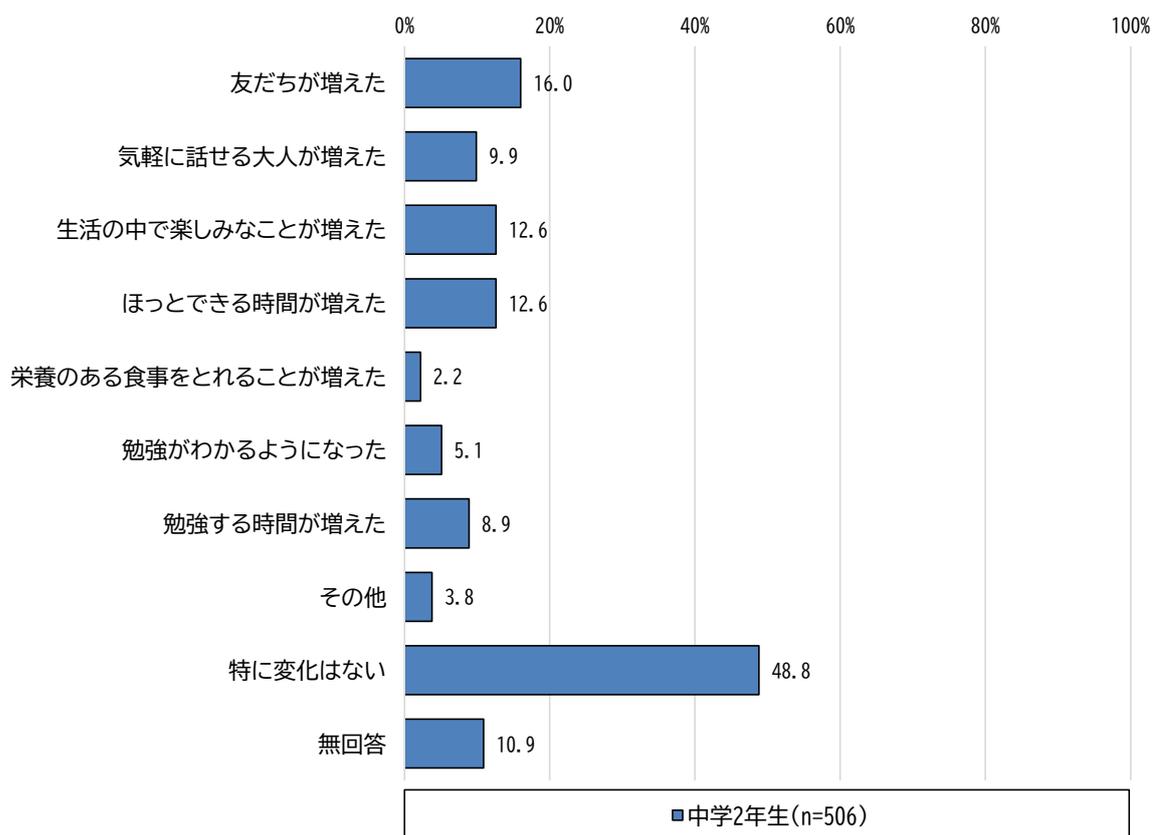
(居場所等を利用したことがある場合) そこを利用したことで、以下のような変化がありましたか。(MA)

調査項目として設定した4つの居場所等のいずれかを利用したことがある場合に、そこを利用したことでどのような変化があったかについては、小学5年生調査では「友だちが増えた」の回答割合が最も高く、次いで「生活の中で楽しみなことが増えた」の回答割合が高くなっている。

中学2年生調査では「特に変化はない」の回答割合が最も高いが、次いで「友だちが増えた」の回答割合が高くなっている。

16歳・17歳調査では「とくに変化はない」の回答割合が最も高いが、次いで「勉強する時間が増えた」の回答割合が高くなっている。





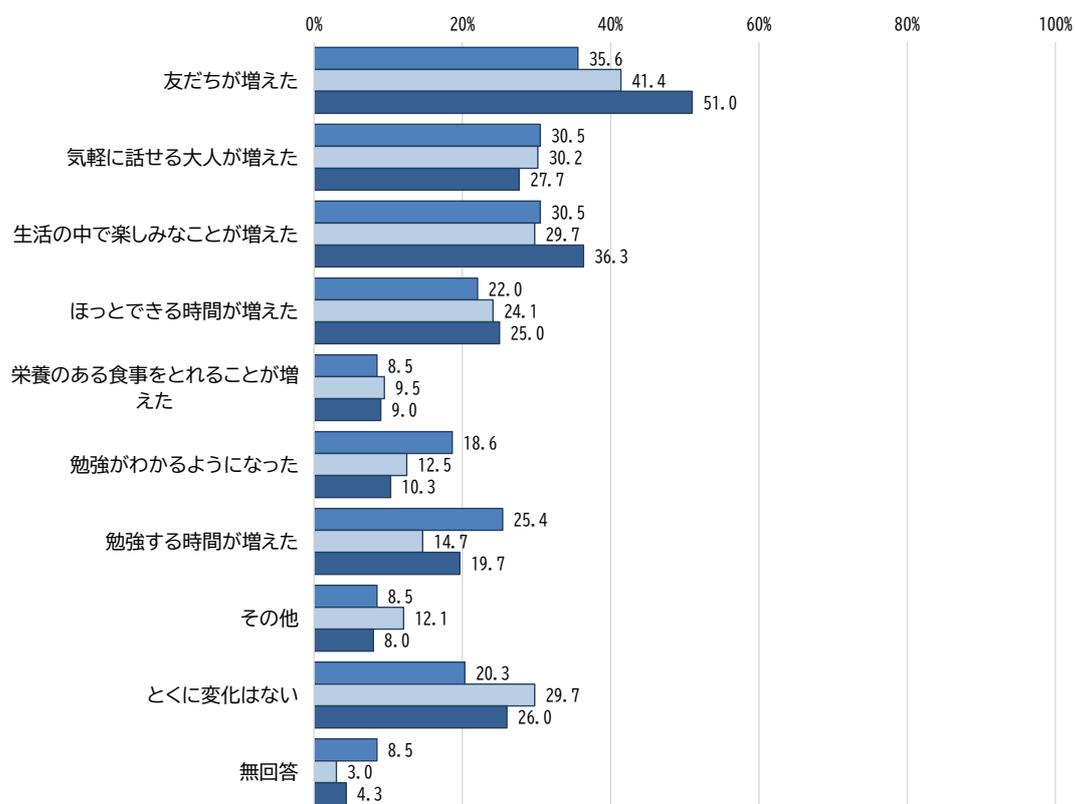
※小学5年生調査と16歳・17歳調査は令和6年度実施、中学2年生調査は令和5年度実施。

<居場所等の利用による変化に関するクロス集計>

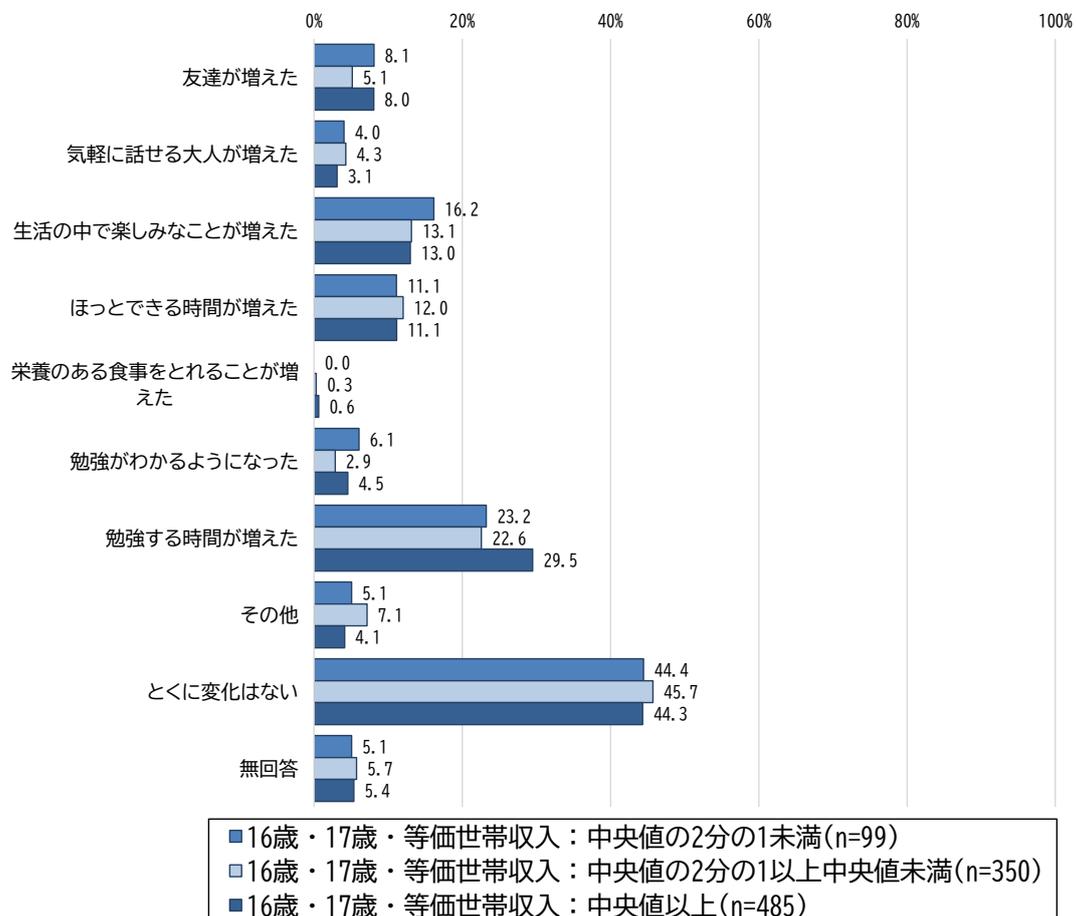
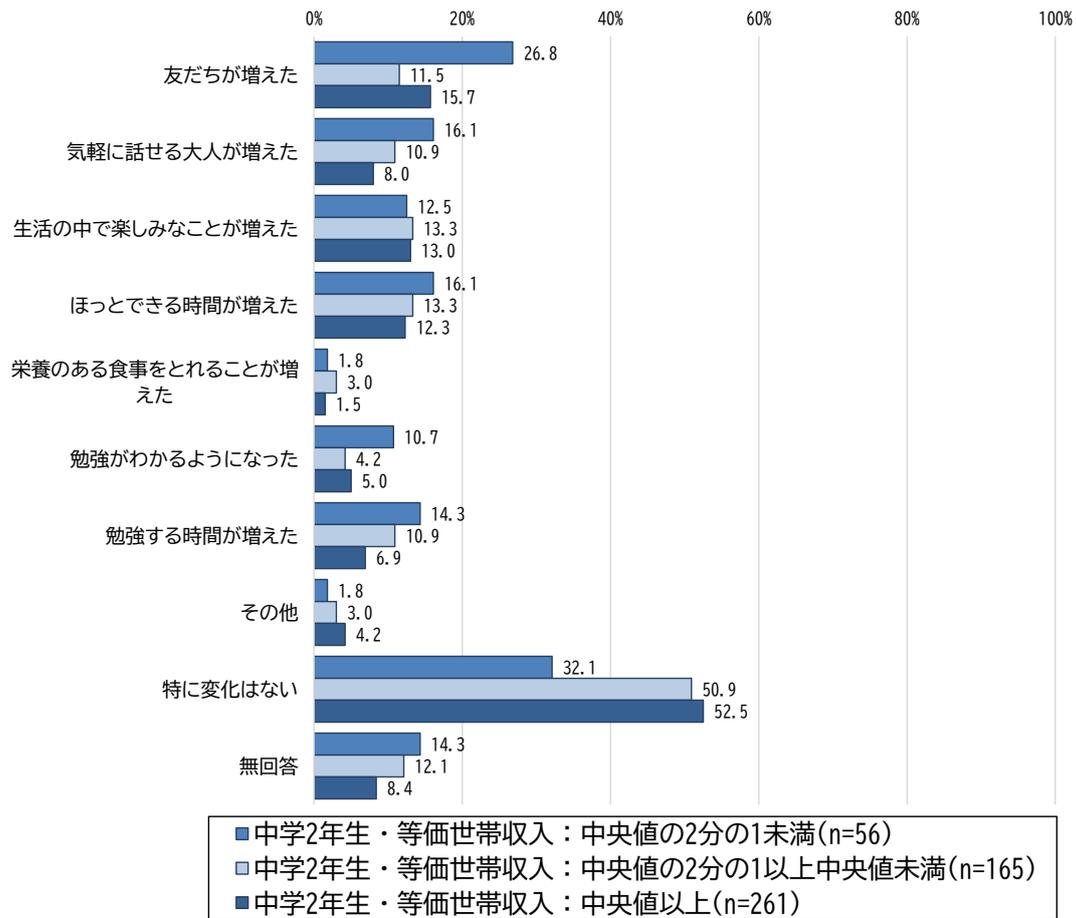
居場所等を利用したことでどのような変化があったかについて等価世帯収入の水準別にみると、小学5年生調査では「勉強がわかるようになった」や「勉強する時間が増えた」について、等価世帯収入の水準が「中央値の2分の1未満」に該当する場合に回答割合が高い傾向にある。

中学2年生調査では「友だちが増えた」や「気軽に話せる大人が増えた」、「ほっとできる時間が増えた」、「勉強がわかるようになった」、「勉強する時間が増えた」について、等価世帯収入の水準が「中央値の2分の1未満」に該当する場合に回答割合が高い傾向にある。

16歳・17歳調査では「生活の中で楽しみなことが増えた」や「勉強がわかるようになった」について、等価世帯収入の水準が「中央値の2分の1未満」に該当する場合に回答割合が高い傾向となっている。



■ 小学5年生・等価世帯収入：中央値の2分の1未満 (n=59)
 □ 小学5年生・等価世帯収入：中央値の2分の1以上中央値未満 (n=232)
 ■ 小学5年生・等価世帯収入：中央値以上 (n=300)



(3) 希望する行政支援

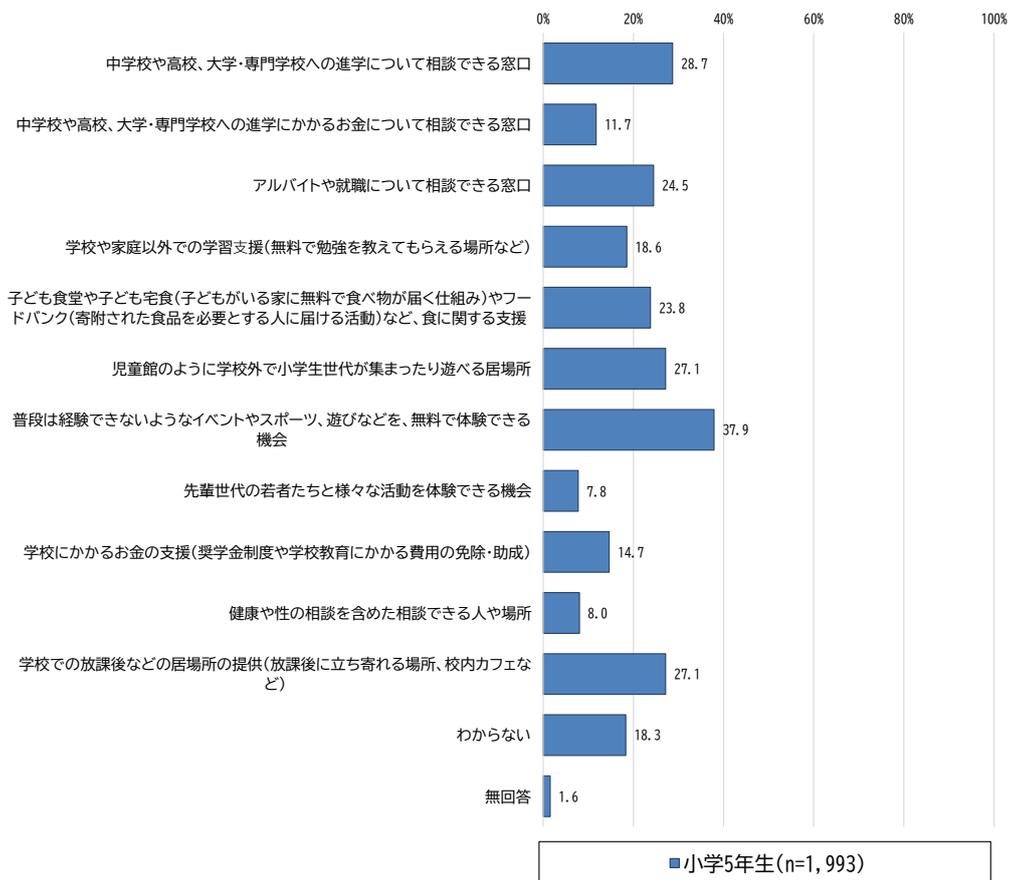
【子ども票】

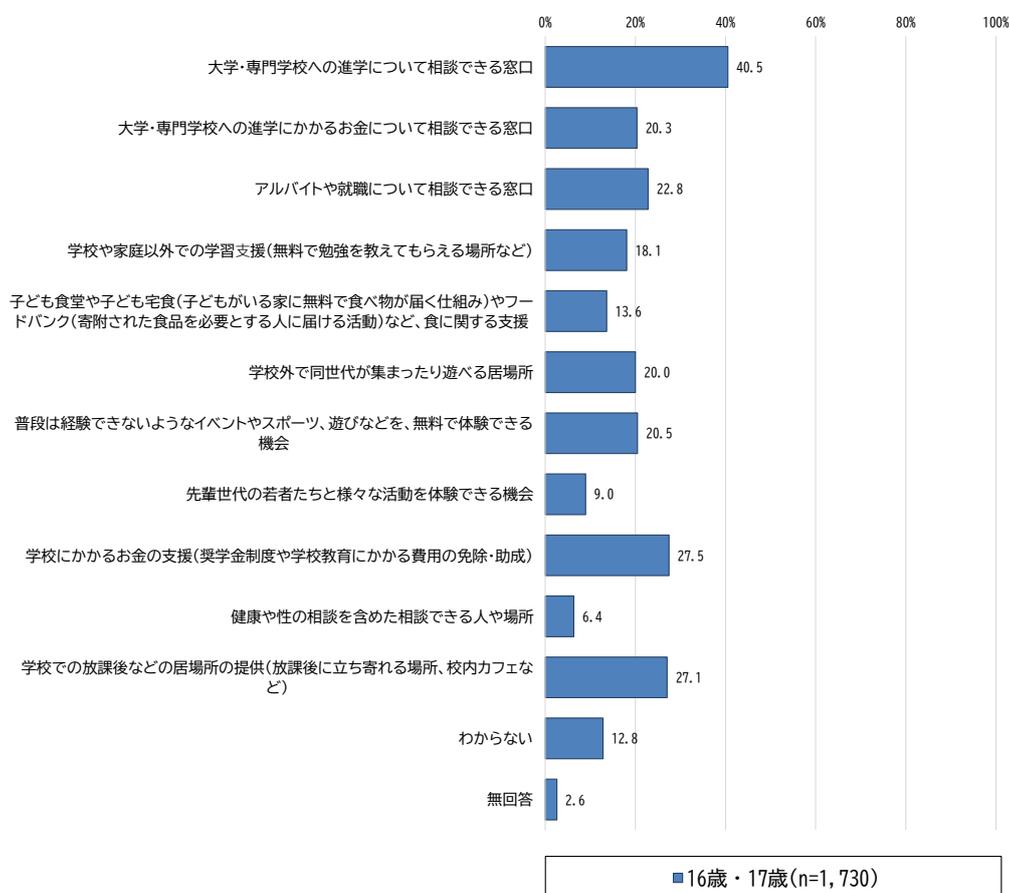
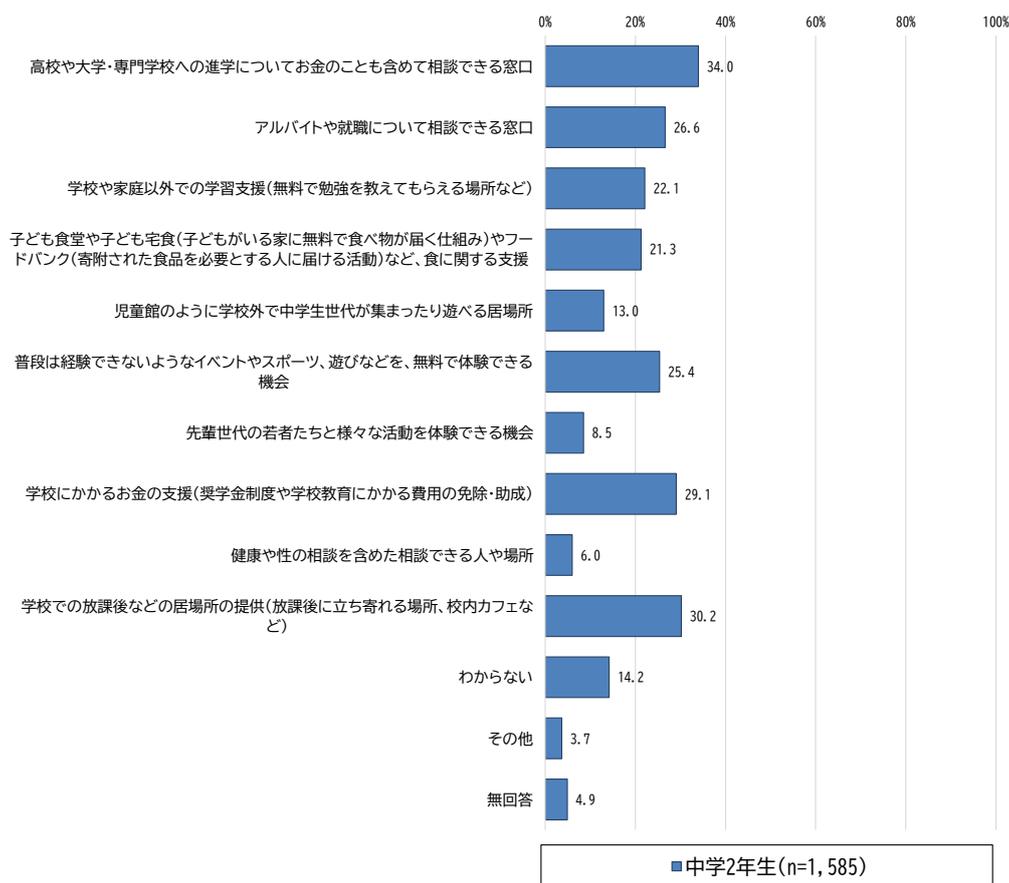
あなたが困難な状況にあるとき、どのような支援があったらいいと思いますか。(MA、3つまで)

困難な状況にあるときに、どのような支援が必要だと考えるかについて、小学5年生調査では、「普段は経験できないようなイベントやスポーツ、遊びなどを、無料で体験できる機会」の回答割合が最も高く、次いで「中学校や高校、大学・専門学校への進学について相談できる窓口」の回答割合が高くなっている。

中学2年生調査では、「高校や大学・専門学校への進学についてお金のことも含めて相談できる窓口」の回答割合が最も高く、次いで「学校での放課後などの居場所の提供(放課後に立ち寄れる場所、校内カフェなど)」の回答割合が高くなっている。

16歳・17歳調査では、「大学・専門学校への進学について相談できる窓口」の回答割合が最も高く、次いで「学校にかかるお金の支援(奨学金制度や学校教育にかかる費用の免除・助成)」の回答割合が高くなっている。





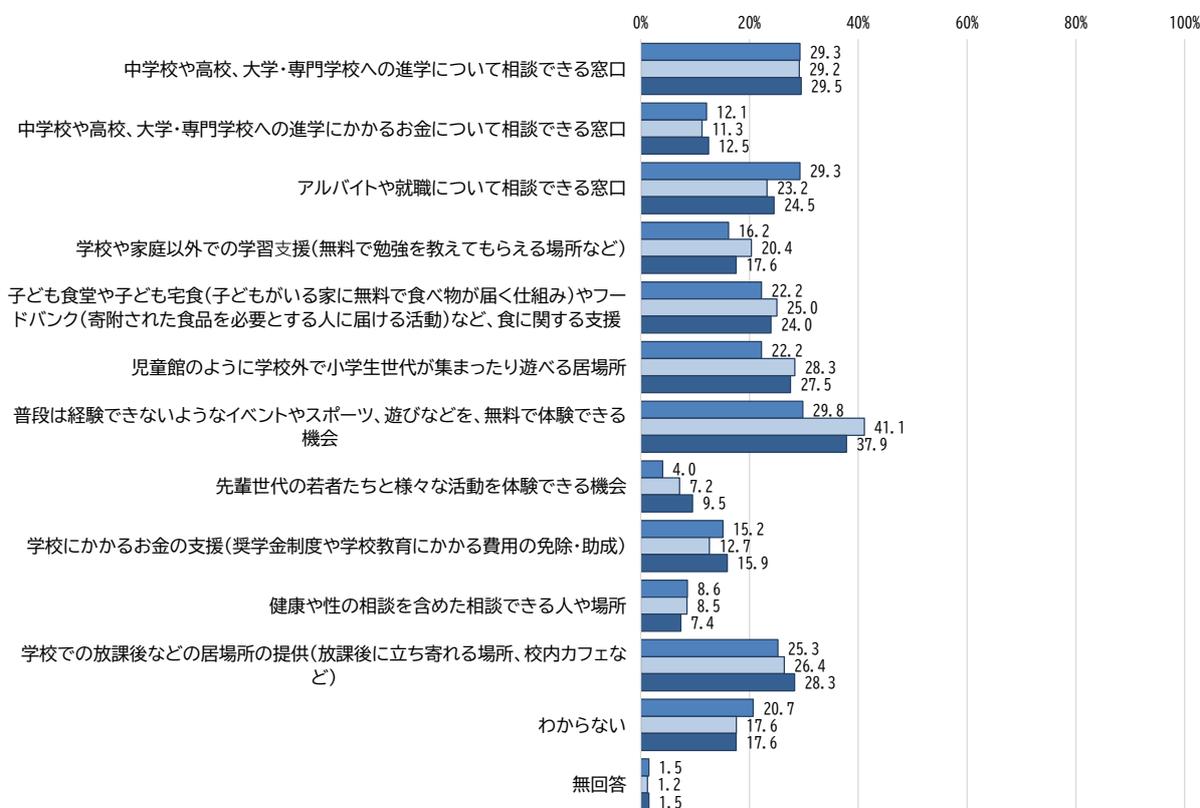
※小学5年生調査と16歳・17歳調査は令和6年度実施、中学2年生調査は令和5年度実施。

<希望する行政支援に関するクロス集計>

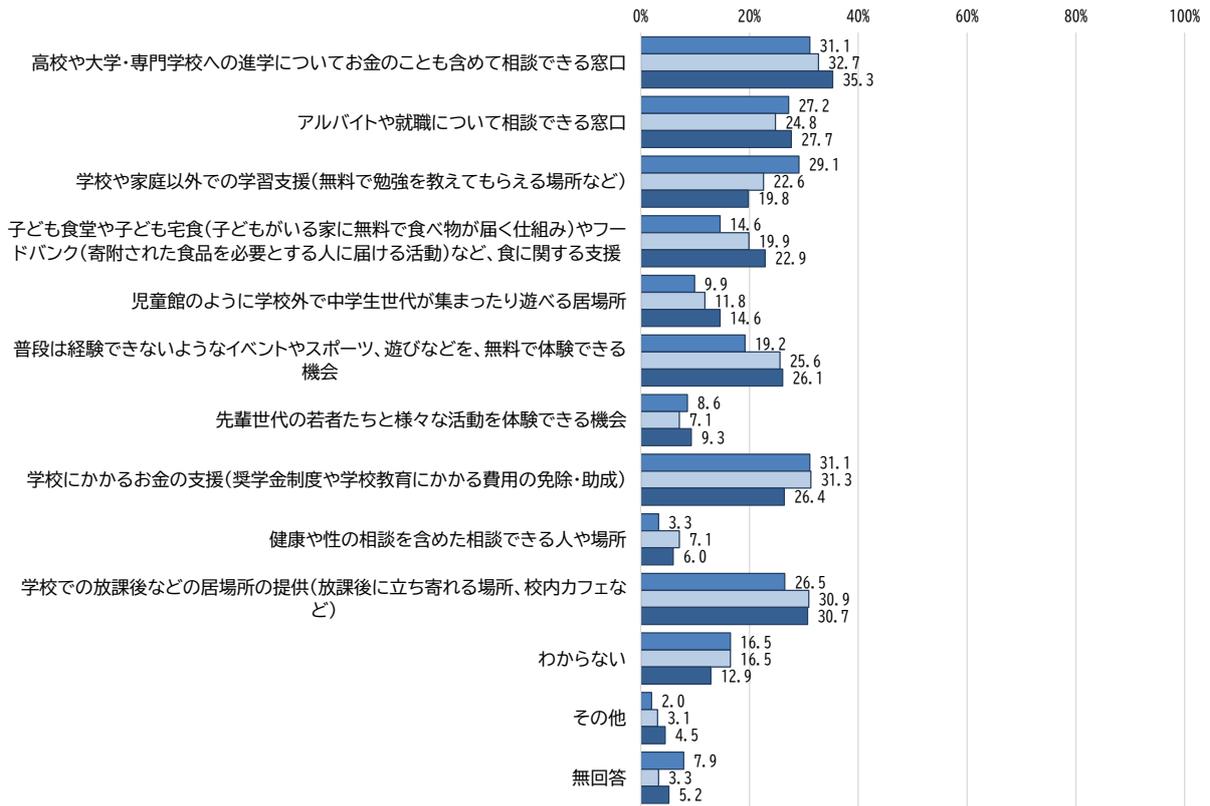
困難な状況にあるときに、どのような支援が必要だと考えるかについて等価世帯収入の水準別にみると、小学5年生調査では「アルバイトや就職について相談できる窓口」や「わからない」などについて、等価世帯収入の水準が「中央値の2分の1未満」に該当する場合に回答割合が高い傾向にある。

中学2年生調査では「学校や家庭以外での学習支援(無料で勉強を教えてもらえる場所など)」について、等価世帯収入の水準が低いほど回答割合が高い傾向にある。

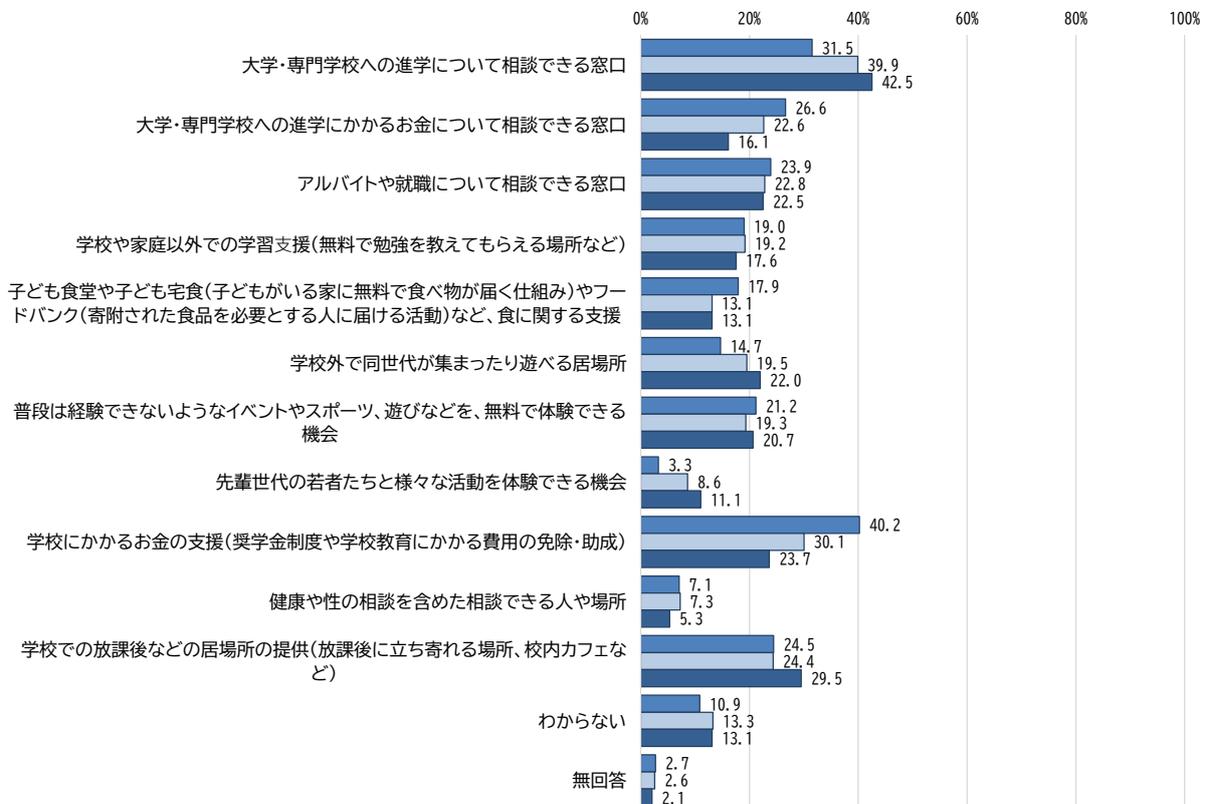
16歳・17歳調査では「大学・専門学校への進学にかかるお金について相談できる窓口」、「子ども食堂や子ども宅食(子どもがいる家に無料で食べ物が届く仕組み)やフードバンク(寄附された食品を必要とする人に届ける活動)など、食に関する支援」、「学校にかかるお金の支援(奨学金制度や学校教育にかかる費用の免除・助成)」などについて、等価世帯収入の水準が低いほど回答割合が高い傾向となっている。



- 小学5年生・等価世帯収入：中央値の2分の1未満(n=198)
- 小学5年生・等価世帯収入：中央値の2分の1以上中央値未満(n=727)
- 小学5年生・等価世帯収入：中央値以上(n=922)



- 中学2年生・等価世帯収入：中央値の2分の1未満(n=151)
- 中学2年生・等価世帯収入：中央値の2分の1以上中央値未満(n=508)
- 中学2年生・等価世帯収入：中央値以上(n=815)



- 16歳・17歳・等価世帯収入：中央値の2分の1未満(n=184)
- 16歳・17歳・等価世帯収入：中央値の2分の1以上中央値未満(n=579)
- 16歳・17歳・等価世帯収入：中央値以上(n=769)

(4) 希望する行政支援(自由記述回答)

【子ども票】

あなたがあったらいいと思う支援があったら、具体的に教えてください。(自由記述)

令和6年度に実施した小学5年生調査と16歳・17歳調査について、希望する行政支援に関して自由記述により得られた回答を内容別に分類し、件数をカウントした(ひとりの方が複数の内容を回答している場合には、それぞれの分類でカウントした)。

小学5年生調査では、「遊び場」に関する内容の回答件数が最も多く、次いで「居場所」、「相談」、「体験・経験の機会」に関する内容の回答件数が多くなっている。

16歳・17歳調査では、「金銭的支援・無償化等」に関する内容の回答件数が最も多く、次いで「相談」、「教育制度・学習支援」、「居場所」に関する内容の回答件数が多くなっている。

No.	小学5年生		16歳・17歳	
	分類	件数	分類	件数
1	遊び場	58	金銭的支援・無償化等	39
2	居場所	54	相談	20
3	相談	53	教育制度・学習支援	16
4	体験・経験の機会	33	居場所	15
5	金銭的支援・無償化等	22	遊び場	10
6	家庭内のことへの支援	22	体験・経験の機会	9
7	教育制度・学習支援	19	家庭内のことへの支援	6
8	公共施設の充実	17	公共施設の充実	4
9	いじめ・不登校	11	いじめ・不登校	3
10	募金や寄附、ボランティア活動	7	国際交流・留学に関する支援	3
11	その他	57	その他	24

<自由記述内容の具体例(小学5年生)> ※原則として回答があったままの表現で、一部の回答を抜粋して掲載

分類	回答内容例
遊び場	<ul style="list-style-type: none"> ● 公園が少ないからもっとあそび場を増やしてほしい。 ● 無料で遊べる場所 ● 日曜祝日にあそべるばしょ ● インターネットができるところ ● ゲームがいくらでもできる支援
居場所	<ul style="list-style-type: none"> ● 落ちつける場所がほしい。 ● 1人で過ごせるあんしんな場所。 ● 友達とあそべるとこ ばんきょうも ほんをよんだり ねたり しょくじも みんなのいばしょ ● 夏休み中の子ども食堂 ● つらいときにそんなことを忘れられるような楽しい場所
相談	<ul style="list-style-type: none"> ● 友達のことで悩んでいる時相談できる窓口 ● 自分が話したいことを言える窓口 ● かなしかったことやいやなことをともだちかんかくでうちあけられる ● 何でもそうだんによりそってたいしょほうなどを教えてくれる所 ● ラインで無料でそうだんできるようにしたらいいと思う。かんたんにそうだんできると思うから
体験・経験の 機会	<ul style="list-style-type: none"> ● スポーツを教えてくれる場所。 ● 習い事のたいけん。理由:新しいことにチャレンジできたり、楽しめるから。 ● 子どもがお仕事体験できる場所 ● 地域のお祭をもっと増やしてほしい。
金銭的支援・ 無償化等	<ul style="list-style-type: none"> ● 中学校や高校、大学、専門学校への進学にかかるお金が安い学校 ● 無料で、できるならいごとがあったらうれしいです。 ● 学校などで使う道具の支援
家庭内のこと への支援	<ul style="list-style-type: none"> ● 心にきずをおった子どものメンタルケアと生活をささえる活動をしてくれる場所 ● お父さん、お母さんなどいっしょにすむ人がいない人たちのしせつ ● 家族のお世話をかわりにしてくれる人。理由は、自分の時間をつくれるからです。
教育制度・ 学習支援	<ul style="list-style-type: none"> ● 学校で勉強がわからないときに利用できるところ。 ● 友達と勉強できるスペース
公共施設の 充実	<ul style="list-style-type: none"> ● ろうかをふくめた学校全体にエアコンをせっち(体育館や、こうい室) ● 図書かんをたててほしい
いじめ・ 不登校	<ul style="list-style-type: none"> ● いじめられた人などが安心していけるしせつ ● 学校に行けない子(不登校)を支援してくれる場所を、もっと増やして欲しい。
募金や寄附、 ボランティア 活動	<ul style="list-style-type: none"> ● 大きな地震があったときに、ぼ金をする ● 困っている人を支える活動。

<自由記述内容の具体例(16歳・17歳)> ※原則として回答があったままの表現で、一部の回答を抜粋して掲載

分類	回答内容例
金銭的支援・無償化等	<ul style="list-style-type: none"> ● 公立高校、大学の学費を免除、助成すること 病院の費用の無償化 通学にかかるお金の支援 ● 部活で必要な物や道具、また遠征費や合宿費の支援があると嬉しい ● 人に恵まれているので困っても何とかありますがお金だけはどうにもなりません。母親がかけもちで働いて頑張っています。何か安くするかお金の免除をお願いしたいです！ ● 高校終了後の進学にかかるお金がない為大学や専門学校は行けなさそうです。支援などの相談やできるかなどすぐ相談できる所があるといいです。
相談	<ul style="list-style-type: none"> ● 気軽にカウンセリングを受けられる場所や窓口 ● 24時間年中無休で電話やLINE、インスタDMから相談できるシステム。
教育制度・学習支援	<ul style="list-style-type: none"> ● 自習できる環境が欲しい。(自習室はあるけど行きづらい) ● 無料の勉強サポートを支援してくれるサービス。
居場所	<ul style="list-style-type: none"> ● 学校や、部活終わりに、立ち寄れるような、身体ともに安らげる場所があったら行きたいなと思います。 ● ただ何もせず1人でいられるような場所
遊び場	<ul style="list-style-type: none"> ● スポーツがおもいきりできる場所などを支援していただきたいです。 ● 友達とあそべる場所。
体験・経験の機会	<ul style="list-style-type: none"> ● 職業について学べたり、体験できるような支援 ● 社会問題について若者が深く考えられるような講演などが増えれば良いなと思います。
家庭内のことへの支援	<ul style="list-style-type: none"> ● 家庭内でのトラブルを実際に介入して解決することを子どもでも頼める制度 ● 家に帰れない、帰りたくない子供に対して食事や泊まる場所を提供する支援
公共施設の充実	<ul style="list-style-type: none"> ● 軽運動や簡単な野外スポーツができる無料の運動場。また、冷暖房が完備されている室内運動場。 ● 自習スペースのある図書館や施設がもっとあったらいいなと思います。
いじめ・不登校	<ul style="list-style-type: none"> ● いじめの相談を受け付けてくれる場所。 ● 不登校の子とその親の支援
国際交流・留学に関する支援	<ul style="list-style-type: none"> ● 海外の方と交流ができる機会を増やせたらよいと思う。 ● 留学支援制度が充実してほしいと思いました。